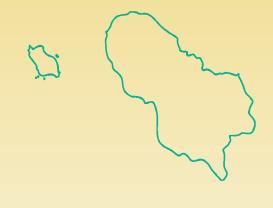


消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 八丈方言調査報告書



木部暢子[編] 2013年10月



はじめに

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」は、国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクトとして 2009 年 10 月にスタートしました。2010 年度からは毎年 1 回、共同研究者や若手研究者が 1 カ所に集まって共同で調査を行う合同調査を実施しています。これまで、4回の合同調査を行いました。それは、次のとおりです。

第1回合同調查 鹿児島県喜界島方言調査 (2010年9月)

第2回合同調查 沖縄県宮古方言調査(2011年9月)

第3回合同調查 東京都八丈方言調查 (2012年9月)

第4回合同調査 鹿児島県与論方言・沖永良部方言調査 (2012年12月)

本書は、このうち、第3回合同調査 東京都八丈方言調査の調査報告書です。

調査の折りには、たくさんの方にお世話になりました。暑いなか、また、お忙しいなか、 公民館まで足を運んでくださり、親切に八丈のことばを教えてくださった方々に深く御礼 申し上げます。みなさんのおかげで、このような報告書を作成することができました。ま た、佐藤誠教育長をはじめとして、教育委員会のみなさんには、調査の準備から、調査の 実施、調査の報告会「島ことば調査のつどい」に至るまで、大変お世話になりました。特 に、教育委員の茂手木清氏、林薫氏には、地元の方々のご紹介や日程調整などで、お世話 をおかけしました。深く感謝申し上げます。

この報告書の内容は、八丈のことば全体から見ると、ごく一部のわずかなものにすぎませんが、八丈のことばの研究や記録・保存の資料として、少しでも多くの方々に使っていただけると幸いに存じます。また、国立国語研究所ホームページの「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」のページで、本書のPDF版を公開しています。こちらもぜひ、ご覧ください。

2013年10月9日

国立国語研究所 木部 暢子

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」 八丈方言調査報告書

目 次

17 C	<i>γ</i> α)(⊂
1.	プロジェクトの概要
2.	調査の概要
3.	八丈方言の概要
	八丈方言の音韻(松浦年男) 9
	八丈方言における新たな変化と揺れをめぐって(金田章宏) 31
	八丈方言の語彙-1950年調査との比較- (木部暢子) 39
	八丈語の古さと新しさ(平子 達也・トマ ペラール) 47
4.	八丈方言の特徴
	ママをたずねて三千里―八丈方言の系統的位置について―
	(ローレンス・ウエイン) 71
	八丈町の「八丈方言」継承の取り組み(茂手木清)77
	八丈語と八丈島の歴史(林薫) 89
5.	八丈方言調査データ
	八丈方言基礎語彙データ(音声記号表記)97
	八丈方言基礎語彙データ(かな表記)126
	八丈方言文法項目データ(音声記号表記)159
	八丈方言文法項目データ (かな表記)193
	八丈方言基礎語彙 共通語索引229
	八丈方言文法項目 一覧237
6.	「八丈・島ことば調査のつどい」講演記録239
7	八丈方言調査に関する新聞報道25%

プロジェクトの概要

1 プロジェクトの目的

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」は、国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクトとして2009年にスタートした。プロジェクトの目的は以下のとおりである。

グローバル化が進む中,世界中の少数言語が消滅の危機に瀕している。2009 年 2 月のユネスコの発表によると、日本語方言の中では、沖縄県のほぼ全域の方言、鹿児島県の奄美方言、東京都の八丈方言が危険な状態にあるとされている。これらの危機方言は、他の方言ではすでに失われてしまった古代日本語の特徴や、他の方言とは異なる言語システムを有している場合が多く、一地域の方言研究だけでなく、歴史言語学、一般言語学の面でも高い価値を持っている。また、これらの方言では、小さな集落ごとに方言が違っている場合が多く、バリエーションがどのように形成されたか、という点でも注目される。

本プロジェクトでは、フィールドワークに実績を持つ全国の研究者を組織して、これら危機方言の調査を行い、その特徴を明らかにすると同時に、言語の多様性形成のプロセスや言語の一般特性の解明にあたる。また、方言を映像や音声で記録・保存し、それらを一般公開することにより、危機方言の記録・保存・普及を行う。

(国立国語研究所ホームページより)

2 研究方法

消滅危機方言の調査は緊急を要する。そのため、フィールド調査に実績を持つ国内外の研究者を組織化し、調査研究を効率的に進める必要がある。また、質の高いデータを残すために、これまで、必ずしも統一的でなかった方言(言語)の調査方法や記述方法に統一性を持たせる必要がある。さらに、将来の方言(言語)研究を担う若手研究者の育成も必要である。以上を踏まえて、本プロジェクトでは次の2種類の調査をベースとして研究を進めている。

- (1) 共同研究者が各自のフィールドで行う各地点調査研究
- (2) 共同研究者が一同に会して行う合同調査研究
- (1) はそれぞれの共同研究者がそれぞれのフィールドで行う調査研究で、共同研究者はその成果をプロジェクトの共同研究発表会で発表し、自分の調査研究を発展させるきっかけとしている(共同研究発表会では、若手研究者の研究を支援するために、共同研究者以外の若手研究者が発表を行うこともある)。
- (2) は調査地点を定め、その地点の音声・アクセント・文法・基礎語彙・談話等を総合的に記述する調査である。この調査には、共同研究者だけでなくポスドク、学振特別研究員、大学院生といった若手研究者も参加し、参加者が共同で調査・データ整理・報告書の作成を行っている。

これまで,

鹿児島県喜界島方言調査(2010年9月),沖縄県宮古方言調査(2011年9月), 東京都八丈方言調査(2012年9月),鹿児島県与論方言・沖永良部方言調査(2012年12月)の4回の調査を行った。

3 共同研究者

本プロシェクトの構成員は、以下のとおりである(2013年10月1日現在)。

研究代表者:木部暢子(国立国語研究所)

共同研究員:五十嵐陽介(広島大学大学院),井上文子(国立国語研究所),ウエイン・ローレンス(オークランド大学),上野善道(国立国語研究所客員教授),大西拓一郎(国立国語研究所),荻野千砂子(大分大学),金田章宏(千葉大学),狩俣繁久(琉球大学/国立国語研究所客員),久保智之(九州大学),窪薗晴夫(国立国語研究所),熊谷康雄(国立国語研究所),クリス・デイビス(琉球大学),小林隆(東北大学大学院),重野裕美(広島経済大学),下地賀代子(沖縄国際大学),下地理則(九州大学),田窪行則(京都大学/国立国語研究所客員教授),竹田晃子(国立国語研究所),ダニエル・ロング(首都大学東京),トマ・ペラール(フランス国立科学研究所),中島由美(一橋大学),仲原穣(琉球大学),西岡敏(沖縄国際大学),新田哲夫(金沢大学),日高水穂(関西大学),ブガエワ・アンナ(国立国語研究所),又吉里美(岡山大学),町博光(広島大学大学院),松浦年男(北星学園大学),松本泰丈(別府大学),松森晶子(日本女子大学),三井はるみ(国立国語研究所)(五十音順)

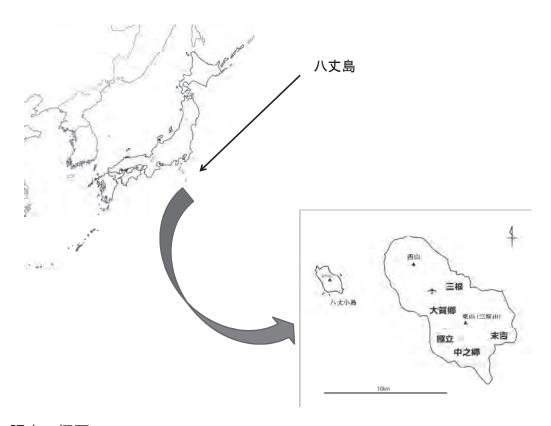
プロジェクト研究員:小川晋史(プロジェクト PD), 乙武 香里(プロジェクト PD), 三樹 陽介(プロジェクト非常勤研究員)

調査の概要

1 八丈島の概要

八丈島は、東京の南方海上287キロメートルに位置し、面積69.52平方キロメートルのひょうたん型をした島である。富士火山帯に属する火山島であり、南東部に三原山(標高700.9メートル)と北西部に八丈富士(標高854.3メートル)の2つの山がそびえている。

人口は 8,231人(平成22年現在),主な産業は農業(花、観葉植物栽培、焼酎、くさや加工),沿岸漁業、伝統的工芸品の黄八丈織、観光業などである。(八丈町ホームページ http://www.town.hachijo.tokyo.jp/gaiyo/gaiyou.html(2010年10月1日)を参照した)。



2 調査の概要

2. 1 調査日程,調査地点,調査内容,調査担当者

調査は2013年9月6日~9月8日に行った。調査地点と調査内容,調査担当者は以下のとおりである。

日時	地区名	調査内容	調査担当者
	末吉	基礎語彙 a	上野,大槻,町,仲原
午前		基礎語彙 b	ローレンス,久保薗,松浦,川瀬,
		文法 (前半)	金田、平子、ペラール、山田
		文法 (後半)	狩俣,下地,徳永,中澤
午後	中之郷	基礎語彙 a	上野,大槻,仲原,町
		基礎語彙b	川瀬,久保薗,松浦,ローレンス
		文法(前半)	金田、平子、ペラール、山田
		文法 (後半)	狩俣, 徳永, 下地, 中澤
9月7日(金)	三根	基礎語彙 a	川瀬,平子,松浦,ローレンス
午前		基礎語彙 b	中澤,ペラール,町,小川
		文法 (前半)	大槻, 金田, 狩俣, 徳永
		文法 (後半)	久保薗, 下地, 仲原, 山田, 金田, 大槻
午後	大賀郷	基礎語彙 a	川瀬,平子,ローレンス,ペラール
		基礎語彙 b	中澤,町,松浦,小川
		文法 (前半)	大槻, 金田, 狩俣, 徳永
		文法 (後半)	久保薗, 下地, 仲原, 山田, 金田, 大槻
9月8日(土)	樫立	基礎語彙 a	大槻,木部,松浦,ローレンス
午前		基礎語彙 b	仲原,中澤,平子,小川
		文法 (前半)	久保薗、町、川瀬、ペラール、金田
		文法 (後半)	狩俣, 徳永, 金田

2. 2 調査者

- 共同研究員:上野善道(国立国語研究所客員教授),金田章宏(千葉大学),狩俣繁久(琉球大学),川瀬卓(弘前大学),下地賀代子(沖縄国際大学),Thomas Pellard (フランス国立科学研究所),仲原穣(琉球大学非常勤講師),町博光(広島大学大学院),松浦年男(北星学園大学),Wayne Lawrence (Auckland大学)
- 日本学術振興会PD, 大学院生:大槻知世(東京大学大学院生), 久保薗愛(九州大学大学院生), 中澤光平(東京大学大学院生), 平子達也(京都大学大学院生), 山田真寛(京都大学・日本 学術振興会PD)
- スタッフ: 木部暢子 (代表, 国立国語研究所), 小川晋史 (国立国語研究所プロジェクト PD), 盛思超 (同非常勤研究員), 徳永晶子 (同非常勤研究員)

2. 3 話者

話者は以下の方々である(敬称略)。

末吉	浅沼幸光, 浅沼道一, 沖山國子, 沖山慶孝, 沖山尚昭, 沖山東一, 沖山みと子, 菊池すま子, 玉置邦光
中之郷	大澤ちづ子,大野鏡子,金田哲哉,川上清福,菊池吉扶,小坂武宏,福田栄子, 山下芙美子
三根	大澤幸一,大沢孝子,沖山彰,沖山操,奥山ヱキ子,金川津屋子,川上絢子, 喜田孝,佐々木逸郎,持丸のり子,吉森豊美
大賀郷	新井功明, 奥山明和, 奥山和則, 奥山日出和, 河野洋一, 菊池國仁, 菊池幸子, 菊池寛, 菊池百合子
樫立	伊勢崎富治,磯崎巧,佐々木豊茂,笹本和邦,笹本久美代,菅原安世,矢田美津,山下保孝

謝辞

お忙しい中、調査に協力してくださった話者の方々に深く感謝申し上げます。また、教育委員会関係者の方々にも大変、お世話になりました。特に、教育長の佐藤 誠氏、教育課課長の福田高峰氏、教育課生涯学習係係長の菊池 良治氏、教育委員の茂手木清氏、林薫氏には、準備段階からお世話になりました。深く感謝申し上げます。

3 60年前の八丈島の言語調査

国立国語研究所は、今から約60年前の1949(昭和24)年に八丈島の言語調査を実施している。 国立国語研究所が創設されたのが1948(昭和23)年だから、八丈島の調査は、研究所が最初に行った地域言語の調査ということになる。当時、日本語の研究は日本語史の研究が主流で、現代日本語を対象とした研究はあまり行われていなかった。そのような中、国立国語研究所は、その時々の生きた日本語の実態を科学的に解明することを目的の一つと掲げ、その実現のために、チームを組んで調査研究を行う共同研究体制をしいた。

では、なぜ、最初の調査地点として八丈島が選ばれたのだろうか。調査報告書『八丈方言の言語調査』(1950)には、次の4点があげられている。

- (i) 八丈島は、この調査のおもな目的――共通語を話す度合を決定する要因を調べること――を達するのに適した地点であると考えられる。つまり、八丈島は社会的条件が比較的単純であり、その上、島だけで独立の生活体をなしているので、この種の調査をはじめておこなうのにはきわめて扱いやすい地点であると考えられる。
- (ii)八丈島固有の言語は、共通語とかなり違った言語であるから、共通語を話す度合を見ることは比較的たやすいと考えられる。
- (iii)八丈島固有の言語は、従来の報告によると、かなり特殊な構造をもち、その系統もまだ不明として残されている。
- (iv)八丈島の言語については、幸に、江戸時代からの報告が比較的多いので、八丈島の言語を歴史的に研究することも不可能ではない。 (『八丈方言の言語調査』3頁)

次に,この時の調査の概要を簡単に紹介しておこう。詳細については,国立国語研究所(1950) 『八丈方言の言語調査』 (http://db3.ninjal.ac.jp/publication_db/item.php?id=100170001 でPDFを公開 している)を参照されたい。

調査の日程

- 1949年6月28日(火)17時,月島から八丈島へ船で向かう。
 - 6月29日(水)13時,大賀郷村八重根港に上陸。支庁,警察署,大賀郷役場へ挨拶。
 - 6月30日(木)5カ村の役場を訪問。調査の打合せ。
 - 7月 1日(金)大賀郷の調査実施。
 - 7月 2日 (土) 三根の調査実施。
 - 7月 3日 (日) 樫立, 中之郷の調査実施。
 - 7月 4日 (月) 中之郷, 末吉の調査実施。
 - 7月 5日 (火) 大賀郷, 三根の調査実施。
 - 7月 6日(水)「円翁交語」「音韻取調書」「口語取調書」を借用し、筆写する。
 - 7月 7日(木)~7月10日(日)3グループ(大賀郷三根グループ,中之郷樫立グループ, 末吉グループ)に分かれて調査。
 - 7月11日(月)支庁,警察署,大賀郷役場,南海タイムス,富士中学校,大賀郷小学校 へ挨拶廻り。18時,八重根港から出港。
 - 7月12日(火)6時,月島上陸。

調查項目

- a) 共通語を話す度合に影響を及ぼすと考えられる, 個人の社会環境
- b) 同じく, 個人の行き来の状況
- c) 他村の言語と共通語とに対する態度および意見
- d) ある場面において共通語を使うか非共通語を使うか
- e) 言語構造的特徴について、共通語で反応するか非共通語で反応するか、ならびに5か村の 言語はいかに違うか
- f) 外来者との初対面の際に話す共通語の、調査者による判定

言語調査

◇ハシ (橋) とハシ (箸) の区別、◇大根 (灰、大工)、◇来年、◇俵、◇かわら、◇あわもち、◇てぬぐい (すいか)、◇草履 (ざる)、◇うぐいす、◇先生、◇ろうそく、◇かえる、◇数字の数え方、◇苗植え、◇ていねい (命令、衛生)、◇こごえる、◇しかる、◇歩く (歩かない)、◇仲間にしてくれ (仲間にする (入れる))、◇くも (虫)、◇額、◇末っ子、◇西南風、◇そてつ、◇死んだ (人) (遊んだ (時))、◇急いで (来た)、◇遠いか、◇ (もし) 行くなら、◇ (さあ) 行こう (勧誘)、◇ (山の) 上に (ある) (場所)、◇ (山の) 上へ (行った) (方向)、◇赤いけれど、◇下駄を (はく)、◇ここへ (来い)

調査参加者

大間知篤(班長,国立国語研究所職員),柴田武(国立国語研究所職員),飯豊毅一(同), 北村甫(同),石川咲子(同),島崎稔(同),山之内るり(同),青木千代吉(長野県派遣研究生),丸山文行(統計数理研究所職員)



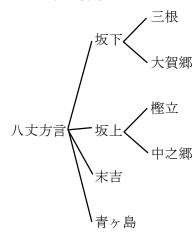
八丈方言の音韻

松浦 年男

1 はじめに

八丈方言は5つの集落(旧5ヶ村)それぞれに言語的特徴があり、特に、三根、大賀郷からなる坂下と、樫立、中之郷からなる坂上、そして末吉と青ヶ島が単独で異なるグループに属する(金田 2001)。

(1) 八丈方言の分類



本章では 2012 年 9 月に行った八丈方言の調査データに基づき、青ヶ島を除く各地域について、 その音韻、音声的特徴を概観する。特に、標準日本語との対応関係を見て行く。

用例の表記は調査票に記載された簡易音声表記を用いるが、誤解が生じないであろう範囲において改変を加えた。また、古形とされたものについても掲載している。なお、基本的にある単語に現れた語形は全て記載したが、語種による違いや極めて小さな音声的違いと判断したものなど一部は省略した。詳しくは巻末の調査データ一覧を参照されたい。

八丈方言の音韻,音声については国立国語研究所(1950),馬瀬(1961),金田(2001)をはじめ多くの研究者により検討がなされている。これらの結果との異同についても考察を加える必要はあろうが,それは別の機会に譲ることにして,本章では基本的に調査データにのみ基づいた考察を行う。

2 母音

この節ではまず短母音について概観し、母音連続や長母音に見られる方言間対応について検討する。

2.1 広母音

広母音は/a/の1種類で、平唇前舌広母音[a]である。標準日本語の/a/に対応している。

表 1:母音/a/

項目番号	H-325	H-047	H-229	H-350	H-363
単語	油	踵	田	穴	綱
三根	abura	akke:~akkei	tabara	ana	tsuna
大賀郷	abura	kakato	tabara	ana	tsuna
樫立	abura	kakato	tabara	ana	tsuna
中之郷	abura	akki:	tabara	ana~doma	tsuna
末吉	abura	akke:	tabara	ana	tsuna~na:

2.2 半狭母音

半狭母音は/e/と/o/の2種類で,平唇前舌半狭母音[e]と円唇後舌半狭母音[o]である。標準日本語の/e/、/o/に対応している。

表 2:母音/e/

項目番号	H-076	H-147	H-053	H-284	H-315
単語	枝	雄山羊	淚	着物	酒
三根	eda	jagime	menada	hebira	sake
大賀郷	eda	jagime	menada	hebera	sake
				\sim kimono	
樫立	eda	jagime	menada	hebera	sake
				\sim madara	
				\sim kimono	
中之郷	eda∼jeda	jagime	męnada	hebera	sake
末吉	eda	jagime	menada	hebira	sake

表 3:母音/o/

項目番号	H-135	H-029	H-294	H-357	H-502
単語	魚	腰	緒	井戸	一人
三根	jo	koçi	oba	ido	tori
大賀郷	jo	koçi	hanao	ido	tori
樫立	jo	koçi	hanao	ido	çitori~tori
中之郷	jə∼ijo	koçi	o~hanao	ido	çitori
末吉	jo∼sakana	koçi	hanawo~hanao	ido	çitori~çtori

2.3 狭母音

狭母音は/i/と/u/の 2 種類で,[i]は平唇前舌狭母音[i]である。一方,/u/は厳密には平唇中舌狭母

音であるが、[u]や[w]を用いている。標準日本語の f_0 / $f_$

表 4:母音/i/

項目番号	H-034	H-055	H-143	H-414	H-232
単語	肘	息	ヒトデ	網	肉
三根	çi ^d zi~çizi	iki	çįtode	ami	niku
大賀郷	çi ^d zi~çidzi	iki	çįtode	ami	niku
樫立	çizi	iki	çtode	ami	niku
中之郷	çidzi	iki	çitode	ami	niku
末吉	çizi~çidzi	iki	çitode	ami~jo:ami	niku

表 5:母音/u/

項目番号	H-283	H-297	H-015	H-038	H-052
単語	夢	裏	歯	指	ほくろ
三根	jume	ura	nukaba	jubi∼ibi	kųsube
大賀郷	jume	ura	nukaba~ha	jubi∼ibi	hokuro
樫立	jume	ura	nukaba	jubi	kwswbe
中之郷	jume	ura	nukaba∼థŭa	jubi∼ibi	hokuro
末吉	jume	ura~o¢iro	nukaba~ha	jubi	hokuro

2.4 長母音,二重母音

2.4.1 長母音

/u:/, /a:/, /i:/はいずれも短母音の持続時間が長くなったもので,標準日本語の/u:/, /a:/, /i:/にそれぞれ対応している。

表 6:/u:/, /a:/, /i:/

項目番号	H-072	H-097	H-461	H-458	H-457
単語	灸	胡瓜	夫婦	祖母	祖父
三根	k ^j u:	k ^j u:ɾi	фи:фи	ba:tçan∼bamba	dzi:tçan
大賀郷	ok ^j u:	k ^j u:ri	фи:фи	ba:t¢an	dzi:tçan
樫立	k ^j u:	k ^j u:ri	фи:фи	oba:tçan	odzi:tçan
中之郷	k ^j u:	k ^j u:ri	фи:фи	ba:tçan∼babba	dzi:tçan
末吉	ok ^j u:	k ^j u:ri	фи:фи	ba:t¢an∼bamba	dzi:t¢an

中世日本語の才段開音に対応する音は[o:]で現れるが、才段合音に対応する音は坂下では[ei]や[e:]、坂上、末吉では[i:]で現れる。

表 7:/oː/, /eː/

項目番号	H-311	H-316	H-256	H-257
単語	砂糖	麹	今日	昨日
三根	sato:	ko:dzi	kei	kinei
大賀郷	sato:	ko: z i	ke:	kine:
樫立	sato:	ko:dzi	ki:	kini:
中之郷	sato:	ko:dzi	ki:∼k ^j o:	kini:∼kine:
				~kin ^j o:
末吉	sato:	ko:dzi∼ko:zi	ki:	kini:

2.4.2 標準日本語の/ira/, /iwa/, /awa/に対応する音

標準日本語の/ira/や/iwa/という音連鎖には[ja]が対応している 1 。表 8 に挙げたものの他にも、大 賀郷において「白飯」を[çameçi]としていた。ただし、これは比較的古い語彙においてみられる 対応で、「韮」のように新しい語彙はどの集落でも[nira]となっている。

表 8:標準日本語の/ira/、/iwa/に対応する音

項目番号	H-005	H-168	H-175	Н-356
単語	白髪	虱	鶏	庭
三根	çaga	çamme	n ^j attorime	n ^j a:
大賀郷	¢aga∼¢iraga	çammɛ	n ^j attorime	n ^j a:
		\sim çamme		
樫立	¢aga	çamme	n ^j attorime	n ^j a:
中之郷	çoăga	çamme	n ^j attorime	n ^j a:
末吉	çaga∼çiraga	çamme	n ^j attorime	n ^j a:

標準日本語の/awa/には坂下では[o:]が対応するが、坂上や末吉では[a:]や[ya]が対応する。ただし、同じ/kawa/でも「川」では上記の対応を見せるものの、「皮」ではそれを見せない。

表 9:標準日本語の/awa/に対応する音

項目番号	H-361	H-425	H-195	H-051
単語	縄	俵	JII	皮
三根	no:	to:ra	kawa~ko:	kawa
大賀郷	nawa	tawara~to:ra	kawa~ko:	kawa
樫立	nawa∼n <u>v</u> a	t⊻ara~tawara	kawa	kawa
中之郷	noa∼n ^j a:	tawara~dzukku	ka:~kawa~ka:ra	kawa
末吉	na:	ta:ra	ta:da	kawa

¹ ただし、「庭」は $[n^ja:]$ という長母音になっている。「鶏」では $[n^ja:tori]$ ではなく $[n^jattori]$ と重音節になっていることから、 $[n^ja:ttori]$ という超重音節を避けたものと解釈できる。

2.4.3 標準日本語の/ae/, /ai/に対応する音

標準日本語の/ae/には坂下(三根,大賀郷)及び末吉では[e:]が,坂上(樫立,中之郷)では[ja:]が対応している。ただし,「前」は坂上において[$\mathbf{m}^{\mathbf{j}}$ a:]とはならず[\mathbf{m} ae]である。

表 10:標準日本語/ae/に対応する音

項目番号	H-164	H-162	H-485	H-083	H-243
単語	蠅	蛙	名	苗	前
三根	he:me	kaerume	na∼name:	ne:~nae	me:
		∼k¹a:rume			
大賀郷	he:me	kaerume	namae~name:	ne:	me:~mae
樫立	ça:me	kaerume	namae	n ^j a:∼nae	mae
		~k ^j a:rume			
		∼k¹a:rome			
中之郷	ça:me	k ^j a:ɾɯme	nam ^j a:	n ^j ĭa	mae
末吉	he:me	kaerume	name:	ne:~nae	me:

次に、標準日本語の/ai/も坂下(三根、大賀郷)及び末吉では[e:]が、坂上では[ja:]が対応している。標準日本語の/wai/に対応する音として、[wja]という音連鎖が出てくる点は興味深い。

表 11:標準日本語/ai/に対応する音

項目番号	H-265	H-375	H-486	H-017	H-008
単語	来年	たらい	お祝い	口蓋(あご)	額
三根	rainen	tarai~tare:	juwe:	otoge:	çįteː
				\sim otogei	
大賀郷	rainen∼de:nen	tarai~tare:	jwwe∼oiwai	otoge:	çįte:
樫立	r ^j a:nen	tar ^j a:	iwai	otog ^j a:∼ago	çtça:∼çitça:
	∼dza:neN				
	\sim raine $_{ m N}$				
中之郷	r ^j a:nen	tar ^j a:	juwja:	otogĭa'∼ago	çįtĕa [,]
	\sim d z a:ne $ ext{N}$		~juwai		
			\sim oiwai		
末吉	de:nen	tare:	juwe:∼jue:	otoge:~ago	çįte:

一方,「貝」や「櫂(船のカイ)」のように、上記の対応を見せず、どの集落も[kai]で実現したような単語もある。「貝」に関しては標準語をそのまま発話したと見るべきだろう。なぜなら、「貝殻」に対して[ke:go:]と[ka:go:]といった形式が、トコブシに対して[ka:gome]といった形式が対応し、また、貝の総称がないと答えた話者もいるからである。

表 12:標準日本語/kai/に対応する音

項目番号	H-131	H-413	(H-131)
単語	貝	カイ	貝殼類
三根	kai	kai	ke:go:
大賀郷	kai	kai	NR
樫立	kai	kai	ke:go:
			k ^j a:gome (トコ
			ブシ)
中之郷	kai	kai	k ^j a:go:
末吉	kai	kai	NR

上記の他にも、坂上、末吉では[e:]、坂下では[ja:]が対応する単語として「桑(の葉)」がある。 この語は坂上、末吉では[kabe:]、坂下では[kabⁱa:]ないしは[kabĭa]であった。

2.4.4 標準日本語の/oe/, /oi/に対応する音

標準日本語の/oe/は中之郷では[i:]が対応している。また、/oi/は坂下では[oi]が対応していたが、坂上、末吉では[ui]ないしは[i:]が対応している。ただし、「甥」の場合、どの方言でも[oi]で実現した。また、「おととい」に関してはオトツイに由来している可能性がある。この場合、標準日本語で対応する音は/oi/ではなく/ui/ということになる。2.4.5 節でも指摘しているように、標準日本語の/ui/は坂上、末吉では[i:]も見られ、これと並行的である。

表 13:標準日本語の/oe/, /oi/に対応する音

項目番号	H-054	H-258	H-465
単語	声	おととい	甥
三根	koe~koi	ototoi	oi
大賀郷	koe	ototoi~utsutse:	oi∼meijo:¢i
樫立	koe	utçitçi:~ototsui	oikko
中之郷	ki:	ut¢t¢i(:)~ototoi	oi∼meijo:¢i
末吉	koe	utçitçi:~ototoi	oi

2.4.5 標準日本語の/ui/, /uo/, /ue/, /io/に対応する音

標準日本語の/ui/は坂下では[ui]だが、坂上、末吉ではそれに加えて[i:]も見られた。標準日本語の/uo/は地域に関係なく[u:]で対応している。

表 14:標準日本語の/ui/, /uo/に対応する音

項目番号	H-306	H-424	H-299	H-139
単語	雑炊	篩 (ふるい)	手ぬぐい	鰹
三根	zousui	фисиі	tenege:	katsu:
			\sim tenugei	
大賀郷	dzo:sui	фигиі	tenege:	katsu:
			\sim tenugui	
樫立	œo:çi:∼œo:sei	NR	tenegi:	katsu:~katsuo
			\sim tenugui	
中之郷	dzo:çi:	φuɾi:∼φuɾui	tenegi:	katsu:
			\sim tenugui	
末吉	dzo:¢i:	φuɾi:∼φuɾui	tenegi:	katsw:~katswo

標準日本語の/io/に対応する音は、坂上、末吉では[jo]や[ijo]といった形で現れた。/ue/は、坂上、末吉では[ue]のほかに[we]も見られた。

表 15:標準日本語の/io/, /ue/に対応する音

項目番号	H-309	H-328	H-247
単語	塩	匂い	上
三根	çio	nioi	ue
大賀郷	çio	nioi	ue
樫立	çio~ço	nioi	ue∼we:
中之郷	çio~ço	nijoi∼nioi	ue~
			wedda~wenda
末吉	ÇO	nijoi∼nioi	ue~uwe~ve

2.4.6 /ao/, /ei/

標準日本語の/ao/や/ei/にはそのまま[ao], [ei]が対応している。

表 16:標準日本語の/ao/, /ei/に対応する音

項目番号	H-403	H-465
単語	竿	姪
三根	sao	mei
大賀郷	sao	mei~meijo:çi
樫立	sao	meikko
中之郷	sao	meikko
		~me:jo:¢i
末吉	sawo~sao	mei

2.5 対格形に関わる交替

対格形は名詞の語末の音により様々な形式で現れた。以下では調査票に記録されていた対格形を地域ごとにまとめる。なお、名詞語末の母音を網羅的にするために、一部を文法調査のデータより補い、データに#を付す。

まず、三根では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo]、/a/の場合は[o:]、/o/の場合は[ou]または[o:]、/u/の場合は[u:]になった。

表 17: 三根における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-087	籾	momi	mom ^j o
H-057	唾	tsuba	tsubo:
H-067	怪我	kega	kego:
H-076	枝	eda	edo:
H-080	草	kusa	kuso:
H-235	坂	saka	sako:
H-423		kago	#kagou
	电	Ü	#kago:
H-356	荷	nimotsu	#nimotsu:

大賀郷では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo]、/e/の場合は[e:]または[eo]、/a/の場合は[o:]または [a:]、/o/の場合は[o:]、/u/の場合は[u:]で現れた。

表 18: 大賀郷における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-233	道	mitçi	#mit¢o
H-520	これ	kore	koreo
H-521	それ	sore	sore:
H-522	あれ	ure	ure:
H-514	だれ	dare	dare:
H-067	怪我	kega	kego:
H-222	泡	awa	ao:
H-080	草	kusa	kusa:
H-515	どこ	doko	doko:
H-524	そこ	soko	soko:
H-311	砂糖	sato:	sato:
H-525	あそこ	uku	uku:
H-304	粥	okaju	oke:o ²

樫立では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo(:)]、/a/の場合は[a:]、/o/の場合は[o:]、/u/の場合は[u:]で現れた。

表 19: 樫立における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-331	ご飯	meçi	meço
H-365	荷	ni	n ^j o:
H-302	茶	tça	tça:
H-135	魚	jo	jo:
H-301	湯	ju	ju:

中之郷では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo]、/e/の場合は[i:]、/a/の場合は[e:]、/o/の場合は[o-wo]、[ou]、(u)の場合は[u:]または[uo]で現れた。

² H-304「粥」の交替については*okaju+o>*okai+o>oke:o と推測される

表 20: 中之郷における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-518	なに	ani	an ^j o
H-393	筆	фude	фudi:
H-520	これ	kore	kori:
H-521	それ	sore	sori:
H-540	真似	mame	mami:
H-522	あれ	นเล	ure:
			#kago-wo
H-423	篭	kago	#kagoʊ
			#kago:
H-193	7 k	midzu	#midzu:
п-193	/1/	muzu	#midzuo

末吉では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo]、/e/の場合は[i:]または[ja]、/a/の場合は[ajo:]、/o/の場合は[o:]、/u/の場合は[u:]で現れた。

表 21: 末吉における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-394	神	kami	kam ^j o
H-402	箒	ho:ki	ho:k ^j o
H-518	なに	ani	an ^j o
H-522	あれ	ure	uri:³
H-283	夢	jume	jumi:
H-393	筆	фude	фudzi:
H-514	だれ	dare	dari:
H-516	どれ	dore	dori:
H-520	これ	kore	kori:
H-521	それ	sore	sori:
H-540	真似	mame	mami:
H-255	傍	soba	sobajo:
H-515	どこ	doko	doko:
H-541	うそ	OSO	oso:
H-193	水	mizu	#mizu:

_

³ 別の話者で「あれ」の対格形として[ur'a]も記録されていたが、これは ure+wa に由来する可能性がある。そう考えると末吉で標準日本語の/iwa/が[ja:]に対応することと整合性がとれる。

集落による違いを表 22 にまとめる。5 つの母音のうち、集落による差が小さいのは/i/、/o/、/u/で、名詞語末が/i/の場合は[jo]、/o/の場合は[o:]、/u/の場合は[u:]で現れた。一方、名詞語末母音が/e/、/a/の場合は集落による差が大きい。名詞語末母音/e/の場合に関しては文法調査も含めてデータが揃わなかったので詳細は分からない。

表 22: 集落による対格形の違い

名詞語末母音	三根	大賀郷	樫立	中之郷	末吉	
/i/	jo	#jo	jo(:)	jo	jo	
/e/		e:(eo)		i:	i:	
/a/	O!	o:∼a:	a:	e:	ajo:	
/o/	#ou~o:	O!	O.	#o:~ou~o-wo	O.	
/u/	#u:	u:	u:	#u:∼uo	#u:	

2.6 母音体系

以上の結果をまとめる。

(2) 母音体系

- a. 短母音 [i, e, a, o, u(w)]
- b. 長母音 [i:, e:, a:, o:, u:(w:)]

標準語の母音連続と八丈方言の音対応をまとめる。

表 23:集落による標準語との対応関係(V:)

標準日本語	三根	大賀郷	樫立	中之郷	末吉
/i:/	i:	i:	iː	iː	i:
/e : /					
/a : /	a:	a:	a:	a:	a:
/oː/(開音)	O.	O:	O.	O!	o:
/oː/(合音)	ei	e:	i:	i:~e:~jo:	i:
/u:/	u:	u:	u:	u:	u:

表 24: 集落による標準語との対応関係 (VCV)

標準日本語	三根	大賀郷	樫立	中之郷	末吉
/ira/	ja	ja	ja	ja	ja
/iwa/	ja	ja	ja	ja	ja
/awa/	O:	O.	ya∼ awa	aː	a:

表 25: 集落による標準語との対応関係 (VV)

標準日本語	三根	大賀郷	樫立	中之郷	末吉
/io/	io	io	io~jo	io∼jo	jo
/ei/	ei	ei	ei	ei	ei
/ai/	e:	e:	ja	ja:	e:
/ae/	e:	e:	ja:	ja:	e:
/ao/	ao	ao	ao	ao	ao
/oi/	oi	oi	oi	oi	oi
/oe/	oe~oi	oe	oe	i:	oe
/ui/	ui	ui	i:	i:	i:
/ue/	ue	ue	ue∼we:	ue~we	ue∼uwe∼ve
/uo/	u:	u:	u:	uː	u:

3 音節頭の子音

本節では音節頭の子音について、その分布をまとめる。

3.1 破裂音

破裂音は無声,有声合わせて 6 種類あった。両唇破裂音は[p, b]の 2 種類で、標準日本語の/p, b/にほぼ対応している。[b]は分布上の制限が見られないのに対して、ほとんどの[p]は促音もしくは撥音の後ろにのみ現れる(そのため語頭に現れることはない)という制限が見られる点も共通している 4 。ただし、例外的なものとして、「囲炉裏端 5 」[dziroputci](末吉)、H-417「鋤」[purao](中之郷)がある。

表 26: 両唇破裂音

項目番号	H-075	H-326	H-038	H-057	H-140
単語	葉	天ぷら	指	唾	飛魚
三根	happa	tempura	jubi∼ibi	tsubaki∼tsuba	tobijo
大賀郷	happa	tempura	jubi∼ibi	tsubaki∼tsuba	tobijo~tobi
樫立	happa	tempura	jubi	tsubaki∼tsuba	tobi
中之郷	happa	tempura	jubi∼ibi	tsubaki∼tsuba	tobijo
末吉	happa	tempura	jubi∼ibi	tsubaki∼tsuba	tobijo

歯茎破裂音は[t, d]の2種類で、それぞれ標準日本語の/t, d/に対応している。

4 もちろんこれは調査票が和語、漢語がほとんどであったことに由来するものであろう。

5 調査項目 H-348「いろり」の関連語として出ている。

表 27: 歯茎破裂音

項目番号	H-022	H-114	H-271	H-053	H-517
単語	肩	竹	朝	涙	なぜ
三根	kata~ke:na	take	tommetei	menada	ande~adde
				\sim nameda	
大賀郷	kata~ke:na	take	tommete	menada	ande
			~asa		
樫立	kata~ke:na	take	tommete	menada	ande:
				\sim namida	
中之郷	kata	take	tommete	menada	ande
末吉	kata~ke:na	take	tommete	menada	ande
				\sim namida	

軟口蓋破裂音は[k, g]の2種類あった。それぞれ標準日本語の/k, g/に対応している。

表 28: 軟口蓋破裂音

21-01	7 () IIII 9 () ()				
項目番号	H-019	H-121	H-352	H-292	H-419
単語	毛	ミカン	クギ	下駄	鎌
三根	kebeço	mikan	kugi	geta~pukkuri	magama
	\sim kebiço				
大賀郷	ke'~kebuço	mikan	kugi	geta~bokkuri	magama
樫立	ke∼kebi¢i	mikan	kugi	geta~a¢ida	magama
中之郷	ki	mikan	kugi	geta~bokkuri	magama
末吉	ke	mikan	kugi	geta	magama

破擦音は[ts, dz]の 2 種類である。それぞれ標準日本語の/ts, z/に対応している。[ts, dz]は母音/i/の前では口蓋化した[tç, dz]で現れる。いわゆる四つ仮名の区別はなく,語中では摩擦音 [z, z]と自由変異の関係にある点も共通している 6 。

_

 $^{^6}$ Maekawa (2010)が指摘するように、標準日本語の[z]と[dz]は完全な自由変異というよりも、むしろ子音の調音への時間配分の問題である。八丈方言についても同様の分析ができる可能性は高いが、本稿ではこれ以上の分析は行わず、指摘にとどめる。

表 29:破擦音

項目番号	H-003	H-370	H-206	H-209	H-228
単語	旋毛(つむじ)	鉢	風	地震	溝
三根	tsumu <mark>z</mark> i	hatçi	ka de∼kaze	^d ziçin	mizo
	~tsumuzi				
大賀郷	tsumudzi	hatçi	kadze~kaze	dziçin	mizo
	\sim tsumu z i				
樫立	tsümuzi	hatçinamme	kaze	dziçin	mizoma
中之郷	tsumudzi	hatçi	kadze~kaze	dziçin	midzo~çida
	~tsumuzi				~mizo
	~uzu				
末吉	tswmwdzi	hatçi	kaze	ziçin∼dziçin	midzo

なお、標準日本語の和語、漢語には見られない[tse]や[tso]が一部の語彙で見られた。ただしこれらの分布は極めて限定的であり、地域も限られる。これらがどの程度規則的に見られるかは改めて検討する必要がある 7 。

表 30: [tse], [tso]

項目番号	H-172	H-258
単語	とんぼ	一昨日
三根	hettcome~hettsome	ototoi
大賀郷	tombome	utsutse:
樫立	tombome	ototsui / utçitçi:
中之郷	hett¢ome	ut¢t¢i(:)~ototoi
末吉	tombome	utçitçi:~ototoi

また、一部の歯茎破裂音で、後ろに/i、 u/が続く場合に破擦音にならず[d'a]で現れることがあった。ただしこれは通方言的な特徴というわけではなく、中之郷の話者に限られた。しかし、中之郷に有声破擦音素がないなどといった音韻体系の問題ではない。実際、「肘」などは中之郷でも[çiʤi]が現れることから、おそらく形態音韻論的な過程での違いを反映しているのだろう。

-

⁷ 馬瀬(1961: 112)では各地点で[tso]や[tsa]が見られるとしていたが、今回の調査データでは地域的にも限定的であった。

表 31:[d^ja]

項目番号	H-100	H-475
単語	大根	大工
三根	de:ko~dza:ko	de:ku
大賀郷	de:ko	de:ku~daiku
樫立	dza:ko	daiku
中之郷	dĭa [,] kon	d ^j a:ku∼de:ku
末吉	de:ko	de:ku~daiku

3.2 摩擦音

標準日本語のハ行に対応するものとして、 $[\phi, c, h]$ の 3 種類がある。標準日本語と同じく、以下の分布をしている。

(3) /h/の分布

/h/

 $\!\to\! [\varsigma]/_i$

 \rightarrow [ϕ]/_u

→[h]/その他

表 32: 摩擦音[**\pi**, **\c**, **h**]

項目番号	H-004	H-018	H-025	H-327	H-334
単語	雲脂(ふけ)	髭	腹	灰	昼食
三根	фųke	çige~hege	hara	her	hirumeçi
					~çoura
大賀郷	фųke	çige~hege	hara∼χara	hai~he:	ço:ra
		\sim ho:çige			
樫立	φke	çige	hara	hai∼ça:	çiruge
					\sim çirumeçi
中之郷	φųke	çige	фагŏа	ça:	ço:ra
末吉	фųke	çige	hara	he:	ço:ra

歯茎摩擦音として[s, z]の2種類があり、標準日本語の/s, z/に対応している。また、[z]は語中において破擦音[dz]と自由変異の関係にある。

表 33: 摩擦音[s, z]

項目番号	H-056	H-080	H-468	H-034
単語	咳	草	家族	肘
三根	seki	kusa~kuso	kazoku	çi ^d zi∼çizi
			~cote:	
大賀郷	seki	kusa	kazoku	çi ^d zi~çizi
樫立	seki	kusa	kadzoku	çizi
中之郷	çiki∼seki	kųsa	kazoku∼kan ^j a:	çidzi
末吉	seki	kųsa	nakama	çizi∼çidzi
			\sim kazoku	

3.3 共鳴音

鼻音は[m, n]の2種類があり、標準日本語の/m, n/に対応している。

表 34: 鼻音[m, n]

項目番号	H-006	H-007	H-050	H-319	H-365
単語	目	眉	骨	糠	荷
三根	manako	mamige~mami	hone	nuka	ni~nimotsu
大賀郷	manako	majuge~mami	hone	nuka	nimotsu
		\sim mamige			
		~me:ge			
樫立	manako	majuge	hone	nuka	ni
		\sim mamige			
中之郷	manako	maju~majuge	hone	nuka	ni:~ni
		\sim mamige			
末吉	manako	maju~majuge	hone	nuka	ni
		\sim mami			

流音は[r]の1種類があり、標準日本語の/r/に対応している。従来、/r/は語頭には立たず、/d/になるとされてきた(馬瀬1961: 114)。実際、表 11「来年」では語頭が[d]で実現している地域もあった。しかし、今回の調査データではこのような傾向はほとんど見られず、標準日本語の/r/は[r]で実現していた。

表 35:流音[r]

項目番号	H-297	H-514	H-507	H-087	H-424
単語	裏	だれ	六人	瓜	篩
三根	ura	dare~dai	rokunin	uri	φuɾui∼mi
大賀郷	ura	dare∼dai	rokunin	uri	φuɾui∼mi
樫立	ura	dai	rokunin	uri	φuɾui∼φuɾi:
中之郷	ura	dare	rokunin	uri	φuɾui∼φuɾi:
末吉	ura	dare	rokunin	uri	φuɾui∼φuɾi:

接近音は[j, w]の2種類があり、それぞれ標準日本語の/j, w/に対応している。ただし、[w]に関して一部の語彙で[e]が後続しうる点が標準日本語と異なる(表 11「お祝い」、表 15「上」参照)。

表 36:接近音[j, w]

項目番号	H-415	H-204	H-264	H-051	H-479
単語	槍	露	横	皮	私たち
三根	jari	tsuju	joko	kawa	wai¢a:~waira:
					\sim waira
大賀郷	jaɾi∼tsukimbo:	tsuju	joko	kawa	warera~waira
樫立	jari	tsuju	joko	kawa	ware:ça:~waiça:
中之郷	jari~mori	tsuju	joko	kawa	warença:
					~warentça:
末吉	jari∼mori	tsuju~jotsuju	joko	kawa	warentçe:~arentçe:
	\sim tsukimbo:				

3.4 子音体系

音節頭に現れた子音を以下にまとめる(口蓋化したものは除く)。

表 37: 子音体系

		両層	季音	歯茎	を音	硬口蓋音	軟口	蓋音	声門音
	破裂音	p	b	t	d		k	g	
阻害音	破擦音			ts	dz				
	摩擦音	Φ		S	Z	ç			h
共鳴音	鼻音	m		n					
	はじき音				ſ				
	接近音		W			j			

4 音節

調査の中で確認された音節の種類は、以下のとおりである。

- (1) C(S)V /se/ ([se] 背丈 H-49) , /ke/ ([ke] 毛 H-19) , /ha/ ([ha] 歯 H-15) /cja/ ([tea] 茶 H-302) , /cjo/ ([hetteogo] へそ H-028)
- (2) C(S)VV /sei/ ([sei] 背丈 H-49) , /'oi/ ([oi] 甥 H-465) , /sjoa/ ([soăqa] 白髪 H-005)
- (3) C(S)VQ /naQ/ ([nappa] 菜 H-99) , /baQ/ ([battame] バッタ H-173) /sjoQ/ ([coppak^ja] しょっぱい H-310) , /heQ/ ([hessogo] へそ H-028)
- (4) C(S)VN /ten/ ([tempura] 天ぷら H-326) , /nin/ ([ninniku] にんにく H-320) /mjan/ ([omʲanea:] あなたたち H-481) , /cjan/ ([to:tean] 父 H-450)
- (5) C(S)VR /seR/([se:] 背丈 H-49), /koR/([ko:dzi] 麹 H-111) /njaR/([nʲa:] 庭 H-356), /mjaR/([omʲa:wa] お前は 文法 43),
- (6) C(S)VVR /kwaR/ ([kwa:] 皮 H-51) , /soaR/ ([josoa:swrw] 相互扶助 H-490)

この他に次のような音節が予想されるが、今回の調査の中では該当単語が存在しなかった。調査語彙を増やせば、今後、これらの音節が確認される可能性がある。

- (7) C(S)VVQ 未確認
- (8) C(S)VVN 未確認
- (9) C(S)VRN 未確認

5 音節末の子音

音節末に子音が現れる例として、促音(重子音)と撥音を採り上げる。

5.1 促音

5.1.1 音韻分布

無声促音として[pp, tt, kk, tts]がある。

表 38:無声促音

項目番号	H-099	H-173	H-341	H-028	H-494
単語	菜	バッタ	台所	臍 (へそ)	三つ
三根	nappa	battame	kokkuba	hettçogo	mittsu
大賀郷	nappa	battame	kokkuba	heso	mittsu
			\sim okatte		
樫立	nappa	battame	kokkuba	hettçogo	mittsu
			\sim otema		
			\sim daidokoro		
中之郷	nappa	battame	kokkuba	hett¢ogo	mittsu
末吉	nappa	battame	kokkuba	hessogo~heso	mittsu
			~kokuba		

地域によって有声促音が見られた。有声促音は[bb, dd]の2種類で,[gg]は末吉の[çiggeta]の1 例のみであった。また,有声促音が他の地域や話者においては [mb]や[nd]に対応するなどの特徴が見られた。

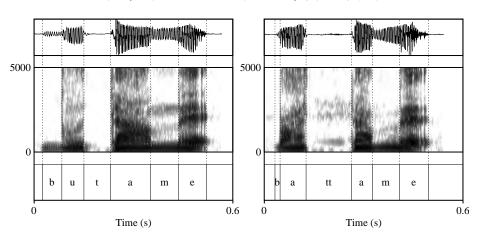
表 39: 有声促音

項目番号	H-030	H-274	H-458	H-517	H-059
単語	尻	夜	祖母	なぜ	涎
三根	çimbeta	joru	baːtçaŋ	ande∼adde	jondare
			\sim bamba		
大賀郷	çimbeta	joru∼jombe	babba	ande \sim adde	jondare
			~oba:san		
樫立	çirippeta	jobbe	oba:tçaŋ	ande:	joddare
	\sim çibbeta				\sim jodare
中之郷	çibbeta	jobbe	(o)ba:tçan	ande	jodare
	_	_	\sim babba		\sim joddare
末吉	çiggeta~çiri	joru~jobbe	ba:tçan	ande	jondare
		\sim jombe	\sim bamba		~jodare
			\sim umma		

5.1.2 音声実現

日本語の促音の音響的特徴としては、持続時間を第一に挙げることができる。八丈方言においても同じで、促音(重子音)の狭窄部分の持続時間は非促音(単子音)の狭窄部分に比べ長く実現していた。たとえば、図1の/t/と/tt/の持続時間はそれぞれ80msec.と135msec.であった。

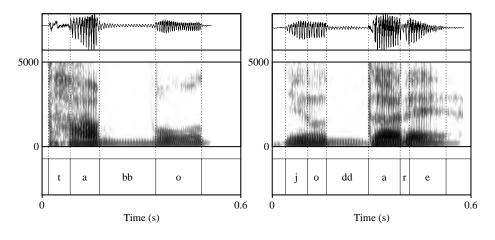
図 1:/butame/(豚;左)と/battame/(バッタ;右)の音声波形とスペクトログラム



次に有声促音の音声実現について検討する。日本語東京方言では、有声促音は外来語に限られ、音声的にも半無声(half-devoicing)になる(Kawahara 2006)。一方、天草本渡方言では有声促音は完全有声で実現する(松浦 2012)。

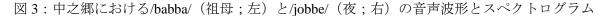
八丈方言では集落間でも個人間でも差が見られた。まず、樫立では有声促音は完全有声で実現 した。

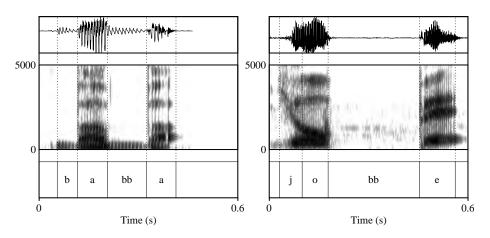
図 2: 樫立における/tabbo/(手;左)と/joddare/(よだれ;右)の音声波形とスペクトログラム



一方、中之郷では個人間で差が見られた。ある話者は樫立と同様、狭窄部分も完全有声で実現している(図3左)。ところが別の話者では、狭窄部分はほぼ無声となって実現している(図3

右) 8





5.2 撥音

音節末の鼻音 (撥音) として $[m, n, \eta]$ などが見られた。語末 (発話末) では[n]や $[\eta]$ で現れた。

表 40: 撥音の分布

項目番号	H-326	H-342	H-064	H-320	H-095
単語	天ぷら	天井	たんこぶ	にんにく	さつまいも
三根	tempura	tendzo:~ama	taŋkobu	ninniku	kammo
大賀郷	tempura	tendzo:∼ama	taŋkobu	ninniku	kammo
樫立	tempura	tendzo:~ama	taŋkobu	ninniku	kammo
					\sim satsuma
中之郷	tempura	tendzo:∼ama	taŋkobu	ninniku	kammo
					~kanço~dziki:
末吉	tempura	tendzo:∼ama	taŋkobu	ninniku	satsuma
					~kanço:

6 アクセント

馬瀬(1961)などで指摘されているように、八丈方言では弁別的なアクセントを確認することはできない。調査データを見る限り、単独でのピッチパターンは第1モーラが高、第2モーラ以降が低となるものが多く見られた。

参考文献

金田 章宏 (2001)『八丈方言動詞の基礎研究』笠間書院.

⁸ 無声となる話者は/bb/の閉鎖部分がかなり長いということも影響しているかもしれないが、九州方言での研究では長さと声帯振動に関係性が見られなかったことから慎重を期すべきである。

- Kawahara, Shigeto (2006) "A faithfulness ranking projected from a perceptibility scale: The case of [+voice] in Japanese." *Language*, 82, 536–574.
- 国立国語研究所 (1950)『八丈島の言語調査』
- Maekawa, Kikuo (2010) "Coarticulatory reinterpretation of allophonic variation: Corpus-based analysis of /z/ in spontaneous Japanese." *Journal of Phonetics*, 38(3), 360-374.
- 馬瀬 良雄 (1961)「八丈島方言の音韻分析」『国語学』43 (『日本列島方言叢書』7に再録。引用 もこれより行う).
- 松浦 年男 (2012)「有声阻害重子音の音声実現における地域差に関する予備的分析」『日本音声 学会第26回全国大会』

八丈方言における新たな変化と揺れをめぐって

金田 章宏

はじめに

2012年9月6日~9日の4日間にわたり、国立国語研究所「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」プロジェクト(プロジェクトリーダー; 木部暢子)による八丈方言調査が東京都八丈町でおこなわれた。この調査は、2010年の奄美喜界島方言調査、2011年の宮古方言調査につづくもので、八丈方言調査につづいて2012年の12月はじめには奄美の与論島方言と沖永良部島方言の調査が実施された。

今回の八丈方言調査では基礎語彙調査と文法調査がおこなわれたが、本発表ではそのうちの文 法調査¹の結果から、この方言における新たな変化やさまざまな揺れを中心にとりあげる。

なお、以下の説明のなかの方言表記は例文の一部もふくめて簡易音声表記とするが、例文自体の表記は調査票のままとする。(調査者の提出した調査票を第三者が入力したものをそのまま使用した。したがって、調査者の記入ミス、および入力者の入力ミスが存在する可能性はある。)例文の頭の数字は調査票の例文番号、末尾は地区名と調査者 2~4 名の頭文字である。また、地区名のあとに該当箇所の伝統方言形をイタリック体(斜体)でしめした。

本稿では、「標準語」を話しことばに対する規範的な書きことばと位置づけ、話しことばのなかでより規範的なものとして「共通語」を使用する。単に共通語といえば標準語に近似した日本共通語であり、そこまでの規範性はないにしても、たとえば沖縄県内でおおよそ理解可能な沖縄共通語(首里・那覇方言)があり、その下層には、さらに規範性は希薄になるが八重山地方の八重山共通語(石垣四箇字方言)がある、というような階層性もみられる。たとえば八重山の西表島祖納の話者は、とくにメディアの影響もあって沖縄共通語をおおよそ理解し、また八重山共通語の知識もある程度あるが、沖縄本島や石垣島の人びとのほとんどは、祖納の方言を理解できない。八丈方言にそこまでの階層性はみられないが、後述する坂下地区のほうがおそらく、坂上地区よりも互いに対する影響力は大きいだろう。

1. リ形強変化動詞過去形のタリ形化

上代中央語の動詞アスペクト形式のうち,リ形(ノメリ)とタリ形(ノミタリ,ミタリ)については,強変化動詞ではその両方が,弱変化動詞ではタリ形のみが使用されたが,中古になるとリ形は消滅し,すべてタリ形になって現代語の過去形シタに連続していく。

一方,この方言ではタリ形への一本化が中央語に千年ほども遅れて,まさにいま起ころうとしている。すなわち,この方言では強変化動詞過去形がリ形(「行った。」ikara<*ikaro-wa<*ikiaro-wa),弱変化動詞がタリ形(「見た。」mitara<*mitaro-wa<*mitearo-wa)であらわれるのが基本であったが、そこへ新たに強変化動詞のタリ形 iqtara があらわれるようになったというものである。こうした現象がいまになって起こっていること自体、この方言の文法的な古さをしめ

¹文法班の話者の数は,三根地区 6 人,大賀郷地区 4 人,樫立地区 4 人,中之郷地区 4 人,末吉地区 3 人の計 21 人。

すものであるが、さらに、強変化動詞がこれまで基本的にリ形のみだったことに注目するなら、 強変化動詞にリ形とタリ形が混在する上代中央語よりも古い姿を保っていた可能性さえ指摘でき る。

この新たな変化については、金田 2012²などでもとりあげたが、そこで例としてあげたのは極立地区の1950年代生まれの女性1名のものと大賀郷小学校の方言劇の台本からのものだけだった。八丈島は人口の集中する坂下地区(三根、大賀郷)と、三原山の中腹に分散する坂上地区(樫立、中之郷、末吉)に大きくわかれるが、今回の調査により、末吉以外の全地区でこの語形の使用が確認された。傾向としては、坂下の三根と大賀郷、坂上では大賀郷寄りの樫立で多く観察された。

- 32 kono uwagiwa konome: okinawade pisen ende {<u>katto:ʒa</u>/ <u>kattara:</u>}(この上着はこのまえ沖縄で二千円で買った。) 三根 KO (kao:zja/kawara)
- 53 備考;「なった」<u>nattouʒa</u> (去年いとこが中学の先生になった。) 三根 KO (naro:zja)
- 65 juwe: no tokinja bammamade <u>odottara</u> (お祝いのときにはばあさんまでおどった。) 三根 KO *(odorara)*
- 50 mo: kamo(:)monowa minna kande {fimattara / fimatta(jo:) / fimo:rara:}(もう食べられるものは全部食べた。) 大賀郷 YK (sjimo:rara。なお, kamo:monowa は「食べたものは」の意味。)
- 58 wagaeno dannawa(no:) takedeno: kagoó {tsukurara / tsukuttarodara(作っている) / tsukuttara / tsukuttarowa(作っている)}(夫は竹でかごをつくった。) 大賀郷 YK *(cukurara)*
- 69 kaːtʃan wa misegeː kaimononi {<u>itoːdʒaː</u> / <u>ittaraː</u> / ikaraː / <u>ittadʒaː</u>}(かあさんは市場へ買物に行った。) 大賀郷 YK *(ikoːzja/ikara/ikoːzja。itoːdʒaːは ittoːdʒaːか)*
- 70 mitʃide (noː) gakkoːno senseːni {attaraː / awaraː / aoːdʒa}(道で学校の先生に会った。) 大賀郷 YK *(awara)*
- 31 nimotsuga omokente фutaride {mottara / moto: dara}(荷物が重かったので、二人でもった。) 大賀郷 KT *(motara)*
- 82 sakkimade nonde aro:ga dokoge:<u>itteʃimatto:</u>. (あの人, さっきまでここで「飲んでいたけど」どこに行ったかな, といった意味で,「ノンドロガ(あるいは, ノマットロガ, ノマラットロガ)」といいますか。) 大賀郷 KT (*iqte sjimo:ro:*)
- 53 kjonen itokoga tcu:gakuno sense:ni <u>nattara</u> (去年いとこが中学の先生になった。) 樫立 KP *(narara)*
- 58 utcino çitowa takede kago:{ tsukurara/ <u>tsukuttara</u>}(夫は竹でかごをつくった。) 樫立 KP (cukurara)
- 69 okkateanwa miseni kaimononi {ikara/ <u>ittara</u>}(かあさんは市場へ買物に行った。) 樫立 KP *(ikara)*
- 70 mitcide gakko: no sense: ni {awara/ <u>attara</u>}(道で学校の先生に会った。) 樫立 KP *(awara)* 70 mitʃide gakko: no sense: ni {butsukwatte / <u>butsukwattara</u>}(道で学校の先生に会った。) 樫立
- 32 kono hebirawa kono mja: okinawade niseŋeŋde {<u>kattara</u>/ kattekitara}(この上着はこのまえ 沖縄で二千円で買った。) 中之郷 YT *(kawara)*

_

KT (bucuko:rara)

²「八丈方言における新たな変化と上代語」『言語研究』142 号 2012.9 pp.119-142

2. 動詞活用型動詞否定形の形容詞活用型化

共通語の動詞否定形は形容詞型の活用をするが、この方言では形容詞非過去形が上代東国方言の流れを受け継ぐ e 連体形(akake 「赤い」、nake 「ない」)をもとにした、「赤い。」akakja < * akake-wa、「ない。」nakja \sim naqkja < * nake-wa であるのに対して、動詞の否定非過去形は、動詞とおなじ o 連体形をもとにした nomi(N)naka < * nomi-nako-wa のような活用をする。動詞の o 連体形も同様に上代東国方言の流れを受け継ぐものであるが、そこに共通語の影響を受けた形容詞型の新たな動詞否定形が発生している。

これには段階があり、 \sim naka を形容詞的に拗音化して、jomiNnakja(読まない。)にするだけのものから、形容詞 nakja(ない。)よりも一般的な(おそらく新しい)促音のはいった語形 naqkja(ない。)にあわせて促音を挿入し nomiNnaqkja にしたり、動詞型の o 連体形ではなく、形容詞型の e 連体形で jomiNnakedara のようなノダ形をつくったり、jomanakja のように動詞語根の母音も共通語的な a にしたり、さらには語尾を共通語的に \sim nakaqta にするものまである。その一方で、否定ズがズになる以前の要素をふくむ可能性のある nomiNzjarara(大賀郷)、jomiNzjarara(樫立)のように、とくに坂下で一般的な語形である jomiNnakarara よりもさらに古い語形も併用されている。

なお、nomi(N)naka の撥音 N はのちの挿入によるもので、坂上であらわれにくく、坂下であらわれやすい。

62 warewa kino: ʃimbun o {jominna(k)ja / jominnakedara / jominnakarara} jominnaka/jominnakodara (おれはきのうは新聞をよまなかった。) 大賀郷 YK (jomiNnaka/jomiNnakodara。 jominna(k)ja は jominnak(j)a のあやまりか)

76 今でも使う。nomindʒarara / nominnakkja (きのうはだれも「飲まなかったよ。」といった意味で,「ノミンジャララ」といいますか。) 大賀郷 YK (nomiNnaka, ただしこれは非過去形)

45 sakese: areba aṇṇimo <u>irinnakkja</u> (酒さえあればなにもいらぬ。) 大賀郷 KO *(iriNnaka)*

45 sake{ga/*gase:* } areba anppimo { irinnaka(いらない)/<u>irinnakkja</u>(強い表現)}.(酒さえあればなにもいらぬ。) 大賀郷 NS *(iriNnaka)*

62 wara: kini:wa ʃimbuno {jominnakarara/ jominakatta}(おれはきのうは新聞をよまなかった。) 樫立 KT *(jomiNnakarara)*

62 warewa kino: cimbuŋ {jomindzarara/ jominnakarara/ jomanakja}(おれはきのうは新聞をよまなかった。) 樫立 KP (jomiNnaka, ただしこれは非過去形)

49 {ara / wara} {satsumanʃaːjowa / kammonʃaːjowa} {<u>tabenakja</u> / <u>kaminakja</u>}.(おれはさつまいもなんか食べないぞ。) 中之郷 SN *(tabenaka/kaminaka)*

77 <u>kinnakatta</u> /kinnakarar<u>e</u> /minnakarara (「来なかった,見なかった」は,キンジャララ,ミンジャララですか。) 中之郷 KT (kiNnakarara。つぎの kinnakarar<u>e</u> はコソ強調形の結びのかたちであり,コソ強調辞とともに使用される。)

3. 動詞の o 連体形関係

共通語などでは動詞の「連体形」と「終止形」が同音になっているが、この方言では「終止形」にふたつの意味がある。ひとつは「連体形」に終助辞がついて文末で使用される nomo-wa とい

う「終止形」で、この終助辞はこの語形にとって義務的である。もうひとつは、「旧終止形」ともいうべきもので、単独では使用されずに推量形 nomu-nou-wa などにのみあらわれる nomu である。もともとは連体非過去形 nomo と終止非過去形 nomu の対立があったと思われるが、現代方言では nomu は特定の語形の内部にのみ存在する。

以下の連体非過去形の例では連体形のみが \sim u になり、第 $2\sim$ 第 4 例の終止形のほうは \sim o·wa のままだが、つぎの終止非過去形の例では終止形が \sim u·wa、 \sim u·zja であらわれ、さいごの「ノダ」形でも \sim o·dara、 \sim o·do:zja となるところが \sim u-dara、 \sim u·do:zja になっている。

• 連体非過去形

50 mo: <u>kameru</u> monowa ze:nbu kamara: (もう食べられるものは全部食べた。) 三根 YK *(kamero)*

64 ameno <u> ϕ uru</u> çiniwa ba:tʃanwa jede terebibakkari {mita:rowajo / mita:rowa:}(雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり見ている。) 三根 YK *(huro)*

64 {amega <u>фuru</u> tokiwa / ameno çinja} ba:sanwa jede terebi bakkari mitarowa (雨のふる日に はばあさんは家でテレビばかり見ている。) 大賀郷 KT *(huro)*

64 ameno <u>ouruçi wa</u> ba:tʃanwa ede terebibakkari {mitarowajo / mitearowa}(雨のふる日にはば あさんは家でテレビばかり見ている。) 中之郷 KT *(huro hiwa)*

50 hara <u>taberareru</u> monogwa minna tabetara. (もう食べられるものは全部食べた。) 中之郷 SN *(taberarero)*

· 終止非過去形

34 magowa manzu:jo ko:bedake <u>kamuwa</u> (孫はまんじゅうを皮だけ食べる。) 大賀郷 KO *(kamowa)*

3 o: foge:wa waga ikuwa(うん, 畑へはおれがいく。) 大賀郷 KO (ikowa)

16 wa:, itoko-no фutoŋ-ga jane-no we-ni <u>hositʲaruˈţa</u>. (いとこの布団がやねの上にほしてある。) 中之郷 KH *(hosjitearozja)*

18 macciro dwa tori-ga sorwa <u>tondjaru ga:</u> (真っ白な鳥が空を飛んでいる。) 中之郷 KH *(toNdearozja)*

23 mago-ga kjonen-kara kuni-ni ar**u**らa. (孫が去年から東京にいる。) 中之郷 KH *(arozja)*

34 mago wa man 如:jo ka:be dake <u>kamuwa</u> (孫はまんじゅうを皮だけ食べる。) 末吉 KPYH (kamowa)

・「ノダ」形

47 sono mizu: wa nomuna. <u>nomuda: ba</u> kono mizu: nome (その水はのむな。のむならこの水をのめ。) 三根 KO *(nomoda:ba)*

68 iʃaga keto: kusuri o nomeba {<u>naorudo:dʒa:</u> / naoruno:wa}(医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。) 大賀郷 YK *(naorodo:zja)*

27 o:saka kara to:kjo:madeno kiʃatʃinwa {ikurado: / ikura <u>surudo:</u>}(大阪から東京までの汽車賃はいくらだろうか。) 大賀郷 KT (sodo:~sjodo:)

44 sakiːwa komekara tsukuru doā ta. (酒は米からつくる。) 中之郷 KH (cukurodoazja)

4. 疑問詞+ka

共通語では疑問詞の有無と述語形式のあいだに呼応的な関係はないが、この方言では疑問詞のある WH 疑問文では述語が「連体形」になり(anjo nomo? なにを飲む?)、疑問詞のない YN 疑問文ではそれが「連体形」+終助辞 ka (sakei nomoka? 酒を飲む?)になる。新たな傾向として、疑問詞の有無にかかわらず、述語が「連体形」+終助辞 ka であらわれる。伝統方言形ではすべて ka は不要である。

- 48 ande ome: wa {kamin'no:/ <u>kaminno:'ka</u>}.(なぜおまえはたべないのか。) 三根 NS
- 48 ande omaewa {tabenno:ka / kaminno:(ka)}? (なぜおまえはたべないのか。) 大賀郷 YK
- 48 adde {omiwa / omjaːwa(目上の人)} {<u>kaminnoa**ka**:</u> / <u>agannoː**ka**</u> / <u>agan noa**ka**:</u>} agari? (なぜおまえはたべないのか。) 樫立 KT (筆者注: さいごの agari は意味不明)
- 48 ande omja: wa {kaminai / kaminakoka}(なぜおまえはたべないのか。) 中之郷 KT

5. 疑問詞引用句

YN 疑問文の述語は「連体形」+終助辞 ka であり(sakei nomoka? 酒を飲む?), WH 疑問文の述語は「連体形」のみである(anjo nomo? なにを飲む?)。しかし, WH 疑問文を ka 引用句にいれるばあい, ka のまえは~o 連体形ではなく~u 終止形で, anjo cukuruka kaNge:te (なにを作るか考えて)のようになる。新たな傾向としてその混用がみられる。

43 sake:wa {dogan-jatte/ dogancite} <u>tsukuroka</u> ome:wa citta: ru:. (酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう?) 三根 NS *(cukuruka)*

43 saki:wa adanfite tswkuroka omiwa obi:taro: (酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう?) 樫立 KT (cukuruka)

6. 形容詞語彙の動詞代用

八丈方言で「知っている/知らない」は動詞ではなく、形容詞語彙の sjo(q)kja (知っている)/sjoku na(q)kja (知らない)が使用される。この語彙は古代語の形容詞シロシ(白し、著し)に由来し、方言形の連体形*sjiroke>sjoke に終助辞 wa が融合してできているが、ここに共通語の「知っている」がシッテアルのかたちで入り込んできたものである(この方言のイルは「居る」ではなく「座る」の意味で、人にもものにもアルを使用する)。ただし、3 例目以下では形容詞語彙も併用されている。なお、この調査ではこの語形は坂下地区にのみあらわれている。

- 41 ome: wa kono jono name: o <u>citta: roka:</u> (おまえはこの魚の名まえを知っているか。) 三根 NS (*sjokeka*)
- 43 sake: wa {dogan-jatte/ dogancite} tsukuroka ome: wa <u>citta: 'ru:</u>. (酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう?) 三根 NS (sjokeka)
- 43 sakewa adanjatte tsukurudaro:no: , ome:wa {<u>fitto:dzaroka</u> / foko:dzaroka:}(酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう?) 三根 YK (sjokuozjaroka)
- 35 hakono nakaniwa mandzu:ga ikutsu aroka{<u>fittaroka</u> / ʃokeka}(箱の中にまんじゅうがいく つあるとおもうか。) 大賀郷 KT *(sjokeka)*

41 omaewa kono sakanano namaeo {fokeka / <u>fittaroka</u>}(おまえはこの魚の名まえを知っているか。)大賀郷 KT (*sjokeka*)

43 sakewa dogan{fite / jatte} tsukuruka omaewa {<u>fittaroka</u> / fokeka}(酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう?) 大賀郷 KT *(sjokeka)*

7. 弱変化動詞過去形の強変化動詞化?

この現象は1でみたのとは逆に、弱変化動詞の過去形が~タラではなく、強変化的な~ララとなっているもので、これまで確認されていなかったものである。こうした変化はこの方言の大きな変化の流れに逆行しているようにみえる(再確認が必要か)。ただし、同一地区の同一話者にのみあらわれているので、孤立的な現象とみてよいかもしれない。あるいは、「調査」という状況のなかで生じた過剰な「方言回帰」という可能性もないとはいえないか。

なお、強変化動詞の~ララは東北方言のシタッタ形(=タリタリ形)に対応するアリアリ形で、現在から切りはなされた (アオリスト的な)過去をあらわす。八丈方言ほどではないが、東北方言で存在動詞イルのタリ形=過去形(イダ)がアクチュアルな現在テンスをあらわし、シタ形(=タリ形)、シタッタ形というふたつの過去形をもつことも、タリ形がまだ過去テンス形式になりきっていないことのあらわれである。

58 wage: nowa takede kago: kose: rara (夫は竹でかごをつくった。) 大賀郷 KT (kose: tara) 60 saburo: wa dziro: ni bo: de {bunnaguraretara / bunnagurarerara}(三郎は次郎に棒でなぐられた。) 大賀郷 KT (buNnaguraretara)

61 dziro:wa dzi:tʃanni {so:garetara / <u>so:garerara</u>}(次郎はじいさんにしかられた。) 大賀郷 KT (so:garetara)

おわりに

以上、八丈方言にあらわれたいくつかの新たな現象をとりあげた。全体をみると坂上の末吉地区の例がきわめて少なかった、つまり、末吉地区には新たな現象が少なかったということになるのだが、その理由として、今回の話者の数がほかの地区よりも少なく、調査班も末吉以外が4班なのに対して2班で、結果として資料の数自体が少なかったことがあげられる。それに加えて、つぎのようなことも考えられるだろう。

坂上と坂下を結ぶ大坂トンネルは明治期に開通したもので、それ以前は三根から三原山の周囲を大坂トンネル方向とは逆の時計回りで末吉に行くか、三原山のなかをとおって末吉に行くかが主たるルートだった。したがって、その当時は樫立がもっとも奥まった地域であり、それゆえに民話「人捨て穴」の舞台とされたのも樫立と大賀郷のあいだの伊郷名(大坂トンネルの樫立寄り)というところだった。このように、伝統方言では大まかにいって坂下~末吉~中之郷・樫立のように連続していたものが、大坂トンネルの開通後は坂上地区の入り口が樫立になったため、それ以降、坂下から発信される方言の新たな変化も、乗り合いバスのルートと同様に樫立・中之郷を経由して末吉へ、という流れに変わってしまったのである。

今回のデータはけっしてじゅうぶんな量とはいえないが、いずれにしても、島の中心部である 坂下地区に新たな語形が多くみられ、坂下からもっとも離れた末吉にそれがわずかしかみられな かった点は、周圏分布的な解釈を許容するだろう。坂上地区のなかでも、伝統方言としてはより 古い状態を保っていた樫立・中之郷のうち、大賀郷に近い樫立に新たな語形が比較的多くみられた点も、二次的な周圏分布として、大坂トンネル開通後の坂下からの直接の影響とみることができそうである。

しかし、共通語の影響を受けた新たな語形はまだ古いタイプの語形と共存していて、語形交替の途上にある。したがって、方言の継承・再活性化のためには、方言使用者に語形の新旧を認識して自覚的に使用してもらうことで、より古いタイプの語形の延命(〜継承)をはかることはまだじゅうぶんに可能であると考える。

八丈方言の語彙

-1950年調査との比較-

木部 暢子

1 1950年の語彙調査

1950年の国立国語研究所「八丈島の言語調査」では、八丈方言の語彙に関して、2つの調査が実施されている。一つは、八丈島に関する各種の文献から八丈島方言に関する単語を抜き出し、語彙集としてまとめるという調査、もう一つは、大田南畝(1748-1823)著「一話一言」所載の「八丈方言」の語彙207語の追跡調査である。

まず、八丈関係の文献に現れる単語調査では、建武2 (1335) 年の「八丈年代記」から昭和23 (1948) 年の「八丈方言の研究」(北条忠雄)にわたる47の文献を対象として調査が行われ、それらの中から約4700語の八丈方言の単語が集められている。元資料となった47の文献は、それぞれ成立年代や成立の背景を異にし、方言語彙の収録態度や表記法もまちまちで、集められたデータも様々な性質のものが混在しているが、江戸時代から昭和にかけての八丈島方言の語彙の状況をまとまった分量で把握することができるデータとして、貴重なものである。これらは『八丈島の言語調査』(1950) の巻末に90頁にわたって紹介されている。

次に、「一話一言」の語彙の追跡調査について。「一話一言」は大田南畝の著作であるが、その中の「八丈方言」の部分は、「八丈島俗通志」から転載したものだという(原典の著者、作成年代は不明という)。1950年の調査では、「一話一言」収録語210語のうちの207語について、各村4名ずつ(70代以上、50~60代、30~40代、10~20代の各1名)に、それらの語を現在も使うか、使わないかを記入してもらうという調査を実施している。各集落、207語の調査結果は、『八丈島の言語調査』の218-260頁に掲載されているので、詳しくはそれを参照されたい。全体的な傾向としては、207語のうち163語(78.8%)が島のどこかで使用されている、逆に言うと、「一話一言」から1950年の調査までの150年の間に約20%の語彙が使用されなくなったという結果が出ている。

2 2012年の基礎語彙調査

1950年の調査結果を受けて、今度は2012年の調査までの60年間に語彙がどのくらい変化したかを見てみることにしよう。ただし、2012年の調査は、基礎語彙550語についての調査が目的で、「一話一言」の追跡調査を行ったわけではない。したがって、比較の対象となる語は、2012年調査の基礎語彙調査項目と「一話一言」所載語彙に共通する単語、54語だけである。また、2012年の調査では、「一話一言」の語形を示し、それを使うかどうかを尋ねるという調査方法をとっていない。もし、このような聞き方をしたとしたら、あるいは「一話一言」と同じ語形がもっと出てきたかもしれない。この点で「一話一言」、1950年調査の結果、2012年調査の結果の3者を単純に比較することはできないが、この60年間の変化のおおまかな傾向はつかめるのではないかと思う。

それを示したのが,以下の表である。

表では左から3列目に「一話一言」の語形を、その右の列に八丈の各集落の語形をあげている。 八丈の各集落の語形の欄は、上段と下段に分けてあり、上段に1950年調査の結果を、下段に2012 年の調査の結果を記入している。表の記号の読み方は以下のとおりである。

凡例

〇:「一話一言」と同じ語形を使う。

●:多少ちがった語形を使う。

×:別の語を使う。

△:聞いたことはあるが使わない。

上段:1950年調査の結果。「一話一言」に掲載されている語が使用されているかどうかを上記の記号で示したもの。○と●の二つの記号が入っている欄は、集落内で使用語形に年齢差があることを表す。(『八丈島の言語調査』223~234頁より引用)

下段:2012年調査の結果。「一話一言」に掲載されている語が使用されているかどうかを上記 の記号で示したもの。また、調査で得られた具体的な語形を記号の後にあげておく。

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	樫立	中之郷	末吉
H-030	尻	シンゲタ	•	0	•	0	lacktriangle
			●シンベタ	●シンベタ	●シッベタ,	●シッベタ	●シッゲタ,×
					×オシリ,シリ		シリ
					ッペタ, シッペ		
					タ		
H-053	涙	メナタ	•	•	lacktriangle	$\bigcirc lacktriangle$	lacktriangle
			○メナダ, ナ	○メナダ	○メナダ,×	○メナダ	○メナダ, ナミダ
			ミダ(新)		ナミダ		
H-135	魚	3	0	0	0	0	0
			OB	EO	OB	●イョ, イヨ,	○ョ, サカナ
						×サカナ	
H-145	雄牛	ソウメ	•	•	•	0	•
			×ウシメ	●ゾクメ	×ウシメ	×ウシメ	×ウシメ
H-145	雌牛	バメ	0	0	0	0	0
			○バメ	○バメ	○バメ	×ウシメ	×ウシメ
H-145	老牛	ゾク	×	$\bigcirc lacktriangle$			•
			●ゾクメ, ゾ	○ゾク, ゾクメ	●ヅォック, ヅ	×ウシメ	×ウシメ
			ック, ゾックメ		オックメ(雄牛)		
			(雄牛)				
H-145	子牛	ヲショ, コ	lacktriangle	0	•		lacktriangle
		コメ	×チョンコメ	×	×チョンコメ	×ウシメ	×チョンコメ
H-152	猫	カワフク	×	×	×	×	×
		口,常々	×ネッコメ	×ネコ, ネッコ	× ネッコメ, コ	×ネッコメ	×ネッコメ
		はネツコメ		メ	ネッコ(子猫)		

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	樫立	中之郷	末吉
		といふ					
H-158	蜘蛛	クボナ	×	×	0	×	×
			×クモメ,ト	×トンヂャル	×クモ	×テンコ゚メ	×テンゴメ,
			ンヂャルメ	メ,トージンヅ			
			(蜘蛛の一	アル,トージン			
			種)	ヂャル			
H-160	蝶々	ヒイル	×	•	0	0	0
			×チョーチョ	,	×チョーチョ,	×チョーチョ	×チョーチョメ,
			メ, ヘッチョ	チョーチョーメ	チョーチョメ		チョーチョ
			メ				
H-170	蚕	コナ	0	0	0	0	0
			○コナサマ	○コナサマ	○コナサマ	○コナサマ	○コナサマ(尊
							敬語)
H-171	カマ	ベレメ	×	×	0	×	0
	キリ		×カマキリ	×カマキリ	×カマキル	×ゲンビー	
						メ	は付かない)
H-172	トンボ	ヘツ, ソメ	×	0	•0	•0	•
			×トンボメ	•	×トンボ,トン	●ヘッチョメ	×トンボ,トンボ
				ヘツォメ	ボメ		メ
H-177	雀	ツゝメ	•0	•	•0	0	•0
			×スヅメ〜ス		×スズメ〜スィ	×スヅメ	×スヅメ, スズメ
	1 1/2	. , ,	ズメ	ズメ	ズイメ		<i>x</i>
H-178	鳩	シャートメ	•	0	0	0	•
			ショートメ	×ハトメ	×ハトメ	メントメ	×ハトメ
			(古), ×ハッ				
			トメ、ハトメ、				
H-192	火	ヒノヒボ	ハト ×	0	0	0	0
11-192		レノレハ	XŁ	XŁ	XŁ	XŁ	XE
H-217	洞窟	トウフ	X	X	×	X	X
11 211	们的油	1.77	×ドークツ,		×ドークツ, ホ		×ホラ,ドークツ
			ホコラ, ホラ		ラアナ、トーラ	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	\(\lambda\gamma\
			, , , , , , ,	トーラ), ホラ	~ドーラ(木の		
				1 2), 4,2	55)		
H-236	頂上	トンツムリ	•	•	•	•0	•0
11 200	-X-Z		●トンツベ	●トンツベ,	●トンツィブラ	×テッペン	●トンブ, ●トン
			(低い山), ×	×テッペン	(低いところの		ツブリ(古), ×チ
			テッペン		~), ×テッペ		ョーヅォー(新)
					z		
H-245	跡	コカウテ	×	×	×	•0	×
			×アト, アシ	×アト	×アト	×アト	×アト
			アト				

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	樫立	中之郷	末吉
			○トンメテ	○トンメテイ	○トンメテ(早	○トンメテ(8	○トンメテ
			(古), ×アサ		朝。強調して	時頃まで),	
					言うとトーンメ	×アサ	
					テ), ×アサ		
H-273	夕方	ヤアヨウ	•	•	•	•0	•
				×クレーガタ	-		×ユーガタ,ク
			タ,クレガタ		クレヤ	-	レー(古), クレイ
			(古)			(日が落ちる	エー
						頃), クレガ	
						タ,ヨンベ	
			_			(夕べ)	
H-276	暇	ヨマ	0	•	•0	0	0
			XFA	XFA	×ヒマ(「合間」		×ヒマ(「合間」
					は3マ)	マ(合間), ヨ	は○ヨマ)
			_	_	_	マシ.キ	
H-284	着物	ヘヒラ	•	•	•	•0	•
			●ヘベラ	●ヘビラ	● へべラ, ×	- ,	○ヘビラ
			(古), ×キモ		マダラ,×キ		
			7		モノ	そ行き)	
H-288	帯	ヨヒ	×	×	•	•	X
			×オビ	×オビ	×オビ	×オビ	×オビ
H-334	昼食	ヒヨウ	•	•0		•0	• 0
			●ヒョーラ		×ヒルゲ(古),	●ヒョーラ	●ヒョーラ
	63/-	,		ヒルメシ	ヒルメシ(新)		
H-419	鎌	マカマ	• Is	•0	•	•0	0 13
			○マガマ	○マガマ	×カマ,×ヒラ		○マガマ
					テガ(草刈り道	×カマ	
11 400	<i>h</i> /r	h 1. h=			具)		.,
H-423	篭	タカタラ	V.4-8		• · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	X
			×カゴ				×カゴ、×イメミ
				アル	さい背負う篭)	メミゴ,ユメム	
						ゴ(里芋洗い	使用)
11 491	巨田	カーウ			0	に使うかご)	0
H-431	長男	タロウ	× × チューナ	▼ ×チョーナ		○ ×チョーナ	
					ヘリョ ー リン	メナョーフ	ヘリョ ー リン
			ン, チョウナンメ	ン, ホーヤ, △タロー(使わ			
				ないが知って			
				ないが知っている)			
H-432	二男	ジロウ	X	•O		0	0
11 404	<i></i>		 ×ヂナン,	● ヂョウメ, ×	▼ ×ヂナン	×ヂナン	×ヂナン
			デナンメ デナンメ	●			
H-433	三男	サボウ	×	0	0	0	0
11-455	一力	Lッかソ	L_^	L <u> </u>	L <u> </u>	L <u> </u>	<u> </u>

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	樫立	中之郷	末吉
			×サンナ	○サボウ	×サンナン	×サンナン	×サンナン
			ン, サンナン				
			メ				
H-434	四男	ショウ	×	0	0	0	0
			×ヨンナン	○ショウ, ×ヨ	×ヨンナン	×ヨナン	×ヨンナン
				ンナン			
H-435	五男	ゴロウ	×	0	0	0	0
			×ゴナン	○ゴロウ, ×	×ゴナン	×ゴナン	×ゴナン
11 100	J. III			ゴナン			
H-436	六男	ロクロウ	X	0	0	0	0
			×ロクナン	○ロクロウ, × ロクナン	メロクテン	×ロクナン	×ロクナン
H-437	七男	ヒッテウ	X	0	×	0	0
11 457			×シチナン	×シチナン	×シチナン	×シチナン	×シチナン
H-438	八男	ハッテウ	×	0	×	0	0
11 100	7 ()3		×ハチナン	×ハチナン	×ハチナン	×ハチナン	×ハチナン
H-441	長女	ニョコ	×	0	0	0	0
			×チョージ	○二ョコ, 二ョ	 ×チョーヂョ	×チョージョ	
			ョ,チョーヂ	=			×チョヂョ~チョ
			ョメ	ヂョ			ージョ,
H-442	二女	ナカ	×	0	0	0	0
			×ヂジョ, ヂ	× ヂヂョ, △	×ヂーチョ	×ヂジョ	×ヂヂョ, ニジョ
			ヂョメ	ナカ(聞いた			
				ことがある),			
				テゴメ(?)		_	
H-443	三女	テコ	X			•	•
			×サンヂョ,	×サンヂョ	×サンヂョ	×サンヂョ	×サンヂョ
11 444	m-4-	h-7	サンヂョメ			0	
H-444	四女	クス	X	O × 37 × 37	O	×ヨンヂョ	〇 ×ヨンヂョ
			×ヨンヂョ, ヨンヂョメ	×ヨンヂョ, △ クス(聞いたこ	ハヨン フヨ	スヨンフョ	<u> </u>
				とがある)			
H-445	五女	チイロウ	X	•	•	×	×
11 110			×ゴジョ	×ゴヂョ	×ゴヂョ	×ゴジョ	×ゴヂョ〜ゴジ
							3
H-446	六女	アッパ	×	×	•	•	0
			×ロクジョ	×ロクヂョ	×ロクヂョ	×ロクジョ	×ロクヂョ~ロク
							ジョ
H-450	父	テテ	X	×	0	0	0
			×オトーサ	△テテオヤ,	×オトーチャ	△テテ(古),	×オトーチャ
					ン,オトチャン		ン,トーチャン,
			ン(古), オヤ	ジ,トーチャン		ャン、オヤジ	トッチャン(古)
			ヂ				

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	樫立	中之郷	末吉
H-450	父	トゝウ,	×	0	×	×	0
			×	△トトウ(古)	×	×	×
H-451	母	ハア	×	•	•	×	0
			×	△ホー(古)	×	△ホヮワ(古)	×
H-451	母	カゝア	×	•	0	×	0
			×オカーサ	×オッカ,カ	×オカーチャ	×オカーチ	×オカーチャ
			ン, カーチャ	ーチャン, ホ	ン,オカチャ	ャン, オフク	ン,カーチャン,
			ン(古), オフ	一(古)	ン	口	オッカ(古)
			クロ				
H-452	兄	アセイ	×	•	•	0	•
			×オニーサ		×オニーチャ		
			ン,アンチャ				×アンチャン,
			ン(古)		ン, △アセイ		ニーチャン
				人」はアセイ)	は聞いたこと		
					あり		_
H-453	姉	アネイ	X	0	0•	0	•
					×オネーチャ		×ネーチャン,
			ン,ネーチャ		ン、アンド	ン(呼ぶとき	
			ン(古)	イチャン(「年		は〇〇(名	
				上の女性」		前)ニーチャ	
11 454	- 44	14 7		は,インネ)	\ <u></u>	ン)	
H-454	弟	ゼイ	X	X	X	X	X
			×オトート, シタノ, キョ	×オトウト	×オトウト	×オトート	×オトート
			ンダノ, キョ ーデー				
H-457	祖父	ヲゝジ	×	×	×	0	0
			×オジーサ	×ヂーチャ	×オヂーチャ	×ヂーチャ	×ヂーチャン
			ン~, オヂ	ン,ヂーサ	ン,オーサマ	ン,オヂー	·
			ーチャン, ヂ		(古), オーチ		
			ーチャン	(古)	ヤマ	サマ(古)	
H-465	姪	メイ, ヨウ	0	0	0	0	•
		シ	○メイ,○メ	○メイ	●メイッコ	○メーヨー	○メイ
			イヨーシ			シ(甥と合わ	
						せて), ●メ	
						イッコ	
H-542	小さ	ネツコヒ	0	0	•0	0	0
	V						●ネッコキャ,ネ
			ネッコキャ	●ネッコキャ	ケ,チッチャキ		ーコケ(連体)
					ヤー	み), チンゴ	
						イ(芋)	
H-543	大き	ボヲイ	•0	0	0	0	•0
	い						●ボーキャ,ボ
			×コーキャ	ィー, ●ボウ	ー,×デカキ	×デッカイ	ーケ(連体)

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	樫立	中之郷	末吉
				キャ(「大きい もの」はボウケ モノ)	ャ, デッカキャ ー		
H-544	低い	ミジヤイ	0	0	0	0	•0
			Xヒクキャ	●ミヂカイ,ミ ヂカキャ(キャ で終わると 「ーよ」のニュ アンス。)	×ヒクキャー	× Ŀ. ⁄2 /	●ミジャキャ (古,床が低い),×ネッコキャ(背が低い), ×ヒクキャ(床が低い)
H-549	寒い	コゴヘル	•	0	•	0	•
			●カゲール	●コゲイル(コ ゲイロヒ寒い 日)	×サムキャー	●コギール	●コギール(「凍 える」かも?), ×サムキャ

3 60年の変化

先に述べたように、「一話一言」、1950年調査の結果、2012年調査の結果の3者を単純に比較することはできないが、2012年の調査で「一話一言」や1950年調査と同じ、あるいは類似の語形が回答された項目に関しては、この60年間の間にほとんど変化が起きなかったと考えてよい。そのような語は、次のようなものである。以下には、2012年調査で回答された語形とその使用地域を示した。ただし、それ以外の地域でも聞き方によっては、その語形が回答される可能性がある。

「一話一言」 〈2012年調査の語形と使用地域〉

・シンゲタ「尻」 シンベタ(大賀郷・三根),シッベタ(樫立・中之郷),シッゲタ(末吉)

・メナタ「涙」 メナダ(各集落)

・ヨ「魚」 ヨ(大賀郷・三根・樫立・末吉), イョ(中之郷)

・ゾク「老牛」 ゾック, ヅォック (大賀郷・三根・樫立)

・コナ「蚕」 コナサマ (各集落)

・トンツムリ「頂上」トンツベ(大賀郷・三根)、トンツィブラ(樫立)、トンツブリ(末吉)

・トンメテ「朝」 トンメテ (各集落)

・ヘヒラ「着物」 へべラ (大賀郷・樫立・中之郷), ヘビラ (三根・末吉)

・ナカマ「鎌」 ナガマ (大賀郷・三根・中之郷・末吉)

・ネツコヒ「小さい」ネッコケ、ネッコイ、ネッコキャ(大賀郷・三根・中之郷・末吉)

・ボヲイ「大きい」 ボーケ,ボウイ,ボーキャ(各集落)

・コゴヘル「寒い」 カゲール(大賀郷), コゲイル(三根), コギール(中之郷・末吉)

逆に、2012年の調査で「一話一言」と同じ語形が出にくかったのは、「長男、次男、……」、「長女、次女、……」、「父、母」、「兄、姉」、「弟」といった親族に関することばである。「父、母、兄、姉」に関しては、2012年の調査では名称ではなく呼称としての回答である。「一

話一言」の「父、母、兄、姉」が親族名称なのか親族呼称なのか、はっきりしないが、親族名称・親族呼称は、他の方言でも変化しやすい傾向があり(木部近刊)、おそらく、八丈方言でも呼称、名称ともに変化が早かったのではないかと思われる。

文献

木部暢子(近刊) 『じゃっで方言はおもしとか』岩波書店 国立国語研究所(1950)『八丈方言の言語調査』

(PDFの公開サイト http://db3.ninjal.ac.jp/publication_db/item.php?id=100170001)

八丈語の古さと新しさ1

平子 達也・トマ ペラール

1 はじめに

八丈語は、東京都八丈町(八丈島)と青ヶ島村(青ヶ島)で使用される言語である。本稿では、 このうち 2012 年 9 月の合同調査(以下、本調査)で調査を行った八丈島にある 5 集落の方言の みを扱う。以下、八丈語といった場合、それは八丈島で話される諸方言の総称である。

八丈語と日本語本土諸方言および琉球諸語との関係は必ずしも明らかではない。本稿の主たる 目的は、従来から指摘のあった八丈語の「古さ」と「新しさ」について今一度整理をしなおし、 現代の八丈語が歴史的には複数の層が重なり合って形成されたことを示すことにある。データは 主に本調査によって得られたものを用いる。

以下,表記については調査報告書や先行研究にあるものはそのまま引用し,通常「」内に東京方言の形で(漢字仮名交じりで)その意味を記す。現段階では十分な形態素分析ができていないが,形態素境界を示す場合にはハイフンを用いる。なお,文献資料や方言のデータの出典については本稿末尾を参照。

2 先行研究²

八丈語と本土日本語諸方言および古代日本語(上代東国方言含む)や琉球諸語との関係に言及のある研究のうち、特に本稿に関わると考えられるものを中心にまとめておく。なお、ここにいう上代東国方言とは、『萬葉集』の巻 14 および巻 20 にある東歌・防人歌と呼ばれる歌謡に反映される当時の東日本に分布していたと考えられる言語のことである。

2. 1 Dikins and Satow (1878)

八丈語の文法記述で最も古いものである。その中に、八丈語による「ウイデ祝い」の話のローマ字書きとその英訳、音声・文法の解説があるという。八丈語の形容詞連体形 -ke が『萬葉集』の東歌・防人歌にも見られるものことはその後も多くの研究者によって指摘されてているが、はじめてその事実を指摘したという点で、この Dikins and Satow の研究は評価されるべきものである。

¹ 本稿は、主に 2013 年 9 月 9 日に八丈町保険福祉センターで行われた国立国語研究所セミナー・第 6 回八丈方言講座『八丈・島ことば調査のつどい』(主催:国立国語研究所・八丈町教育委員会)で筆者ペラールおよび平子が行った講演内容をもとにしている。

²本節の執筆にあたっては、金田(2001; 2012 など)の記述を参考にした。

2. 2 北条忠雄(1948など)

北条 (1948)は、八丈語の動詞連体形が-o で終わることおよび既に述べた形容詞連体形-ke について、それらが上代東国方言にも見られる特徴であることを指摘した。さらにそれが単なる中央語の方言的「訛」ではなく、古形の保存であると主張した他、名詞や代名詞など上代東国方言と八丈語との関係性を積極的にとりあげる。

その後,主に上代東国方言に関する研究である北条 (1966)や,琉球語に関する歴史的考察を中心とした北条 (1977)の中で,上代東国方言と琉球諸語との比較も試みている。北条は,「上代の東国語の成立以前に八丈島方言はすでに成立していた」と推論し(北条 1948b: 88),また,上代東国方言のいくつかの特徴が「国語(筆者注:日本語本土諸方言)と琉球語とが分岐する以前の日本語の姿である」(北条 1977: 150)と考える。つまり,ここから推して測るに北条は,日本語本土諸方言と琉球諸語との共通の祖語(日琉祖語)に対立する,その姉妹言語(の末裔)として八丈語を位置付けているのである。管見の限り,北条自身は八丈語と琉球諸語との関係には直接言及していない。しかし,八丈語を日本本土諸方言および琉球諸語と対立する一言語としてとらえ,それら三者の歴史的関係について,間接的・部分的であれ自らの見解を示した最初の研究者は北条だと思われる。

いま一つ北条の主張の中で重要なのは、八丈語が単に上代東国方言に見られる形式を保存しているだけでなく、そこに中近世の中央方言の影響や八丈語固有の特徴が見られることを指摘していることである。これは服部らによって改めて強調されるところでもある。

2. 3 服部四郎 (1968 など)

服部は、「八丈島方言は東歌東国方言の系統をひく非日本祖語的方言が現在の(日本祖語系の)本州東部方言の同化的影響を著しく受けつつ成立したもので、まだいくたの非日本祖語的特徴を保存している」とした(服部 1968:93)。

ここでいう「日本祖語」とは現代の近畿方言と琉球諸語との共通の祖語と概ね同じだと考えてよい。既に服部 (1959: 89)では、東国方言が日本祖語と分岐したのは、近畿方言と琉球諸語とが分岐した年代より古いという仮説を提出している。服部 (1976:26)では、その日本祖語と上代東国方言および八丈語の共通の祖語として「日本曾祖語」なるものを想定している。ただし、同じ服部 (1976: 29)では「奈良朝東国方言、同中央方言、琉球方言の三者は、日本祖語からそれぞれ別々の方向に変化発達したもの」と述べている。なお、服部は「三者が同時に分岐した確証はない」とし、三者が分かれ出た「日本祖語」には相当の年代的な幅を想定しなくてはいけない、としている。

仮に服部が考えたように上代東国方言・同中央方言・琉球諸語の三者が日本祖語からそれぞれ 分岐したものだとするならば、中央方言と琉球諸語とに、八丈語や上代東国方言に見られない共 通の改新が見られるはずである。しかし、服部自身はそれを示しておらず、説得力に欠ける。八 丈語と琉球諸語、本土諸方言との系統的関係については、なおよく考えるべきであろう。 さて、服部は予てより「東歌・防人歌の東国方言」の残存的特徴を含む非日本祖語的特徴を現 代の東日本の諸方言に見い出すことを目指してきたといい(服部 1968: 93), 1967年7月に八丈 島樫立にて現地調査を行っている。

服部は、北条らによって既に指摘のあった形容詞連体形の語尾-ke や動詞連体形-o を、八丈語の「非日本祖語的特徴」とした。さらに、動詞の「過去の終止形」に見られる接尾辞[-(t)ara] (「行った」[ikara]、「起きた」[okitara]など)について、それが非日本祖語的特徴の残存である可能性を指摘している。この形式については、それが伝統的な方言では単純な過去ではなく結果状態を表す形式であったという指摘が金田 (2001; 2012)にある。

2. 4 金田章宏

金田章宏の一連の研究によって、八丈語の記述的研究は大きく進展した。その膨大な量のテキストと記述からは八丈語と上代東国方言や中央方言との関連について多くの示唆を得ることができる。直近の研究としては、強変化動詞の過去・完了の形式(例「飲んだ」)が、ノモーからノンドーという形式に移行しているという八丈語における最近の変化を記述し、それが中央方言で上代から中古にかけて起こったノメリからノミタリという形式への移行と並行的な現象であることを指摘した金田(2012)がある。

2. 5 その他:八丈語の方言学的位置づけに関する先行研究

東條 (1934)は、八丈語を「関東方言」の「伊豆諸島方言」の一つに位置付けている。しかし、以下に見るとおり、明らかに八丈語は現代の関東方言とは大きく異なる特徴を有しており、単にその地理的位置から「関東方言」の一つとするわけにはいかない。その後、金田一 (1955)が八丈語を東日本方言の中の「東部」「北部」に対立する一方言とするという考えを示すが、これも八丈語の特異性からすれば十分ではないだろう。ただし、金田一 (1955: 215)では既に「八丈島の方言は、語頭に著しい特色を有し、特色の幾つかは、全国の他のすべての方言に対して対立する」と明言している点は注目に値する。

平山 (1958)は、八丈語を東部・西部・九州と並ぶ大区画の一つとして位置づけた。これは方言学史上大きなことで、後の金田一 (1967)や上村 (1971)などもこの方言区画に基本的に従っている。

柴田 (1961[1978])は、八丈語にあるいくつかの語彙について、それらが琉球諸語も含めた日本語のどの方言と一致するかどうかという点から、八丈語がどの方言とどの程度近いのかということを考察している。柴田は、八丈語が東部方言とよく一致する一方で、西部方言や九州方言さらには琉球諸語とも共通する性格があること、東部方言の古い層をよく保持している可能性を指摘している。全体として柴田は、平山らのように東部・西部・九州とならぶ一大方言として八丈語を位置付けることに対して慎重な姿勢を示している。

後に述べるように八丈語には古い層と新しい層が混在しており、その方言学的位置づけを明確 にするのは非常に困難である。このような困難に自覚的であるにせよ、そうでないにせよ、総じ て上記の方言学的研究は「共通の改新」を基準とした系統的な位置づけに対する考察を欠いており,方法論上の大きな問題をはらんでいると言わざるを得ない。

3 八丈語の古さ(1) 八丈語と上代日本語(東国方言含む)との比較

以下、今回の合同調査で得られたデータから、八丈語の「古さ」と「新しさ」を示す諸特徴をあげ、その史的解釈を示す。

3. 1 八丈語に見られる上代東国方言の特徴の残存

既に指摘したように上代東国方言には動詞連体形 -o や形容詞連体形 -ke の例がいくつか見られる³。

- (1) 可美都氣努 伊可抱乃袮呂尒 <u>布路</u>与伎能 遊吉須宜可提奴 伊毛賀伊敝乃安多里 「上毛野伊香保の嶺ろに 降ろ雪の 行き過ぎかてぬ 妹が家のあたり」(『萬葉集』 14:3423)
- (2) 比登乃兒乃 <u>可奈思家</u>之太波 波麻渚抒里 安奈由牟古麻能 乎之家口母奈思 「人の児の 愛しけ時は 浜渚鳥 足悩む駒の 惜しけくもなし」(『萬葉集』14: 3533)

八丈語の例を本調査のデータからあげる。()内は当該の形式が観察された集落名。

- (3) ame-no <u>ouro-çi-nja terebi bakkasi mitjarowa</u> 「雨の降る日には(ばあさんは家で)テレビばかり見ている」(中之郷)
- (4) uno me no <u>boːke</u> iro no <u>ciroke</u> otoko-wa dare {dakana:/daroː} 「あの目の大きい,色の白い男は誰だろう」(末吉)

八丈語では、この動詞連体形や形容詞連体形に終助詞-wa がつき、前の連体形と融合をした形式(もしくは終助詞 ५a のついた形式)が文末形式として用いられる(金田 2012: 124, 132)。

- (5) wage:-no çiţo-wa take-de kago: <u>sukurara</u> 「夫は竹で籠を作った」(大賀郷)
- (6) jo-jori niku-no hoː-ga <u>takakja</u> 「魚より肉の方が高い」(末吉)

-

³ 北琉球諸語にも*-o と再建される連体形の形跡が見られることは、服部 (1976: 28-29)や Pellard (2008: 141-143)にも指摘されるところである。服部は、これを以て八丈語(東国方言)、琉球諸語および中央方言の三者を「日本祖語からそれぞれ別々の方向に変化発達したもの」と考えた(服部 ibid.)。

(5)の tsukurara は注目すべき形式である。動詞「作る」tsukur-に補助動詞「あり」ar-が続いた形式の連体形として tsukuraro がある。それに終助詞-wa がつづいた形式が tsukurara で,その意味としては,現在の結果の状態を表すものである(金田 2012: 125。本稿 2. 3 節も参照)。上代東国方言に(7)のような例があり,(5)の tsukurara(\leftarrow tsukuraro-wa)もまた上代東国方言の形式を保存しているものと考えられる。

(7) 安乎楊木能 <u>波良路</u>4可波刀尒 奈乎麻都等 西美度波久末受 多知度奈良須母 「青柳の 張らろ川門に 汝を待つと 清水は汲まず 立処平すも」(『萬葉集』 14:3546)

上代東国方言との関連から言えば以下の例に見られる推量形,現代標準語「だろう」にあたる形式も注目したい。(8),(9)はいずれも「医者がくれた薬を飲めば治るだろう」という意味である。

- (8) iʃa-ga ketoː kusurjo nomeba naoru-<u>noː-</u>wa (三根)
- (9) isja-kara muroā kusurjo {nome-ba / noma-ba} naoru-<u>nuː-</u>wa (樫立)

金田 (2012: 131)によれば、この(naoru-)<u>no:(</u>-wa) ⁵【三根】, (naoru-)<u>nu:(</u>-wa) 【樫立】という形式は、上代東国方言に見られる推量の助動詞ナムの連体形ナモに遡ると考えられるという (*namo>nawo>nowo>nou)。以下に東歌から例をひく。

(10) 可美都氣努 乎度能多抒里我 可波治介毛 兒良波安奈美<u>奈毛</u> 比等里能未思弖 「上毛野 乎度の多抒里が 川路にも 児らは逢はなも 独りのみして」(『萬葉集』14: 3405)

以上、既に先行研究によって指摘されてきたことばかりではあるが、これらのことから八丈語が東歌・防人歌に反映されている上代東国方言特有の諸特徴を保持していると言える。

 $^{^4}$ 金田 (ibid.: 125)など先行研究でも指摘されるように、この東国方言の形式に対応する上代中央方言の形式はハレル(ハレリの連体形)で、それは動詞連用形「ハリ」に補助動詞「アリ」が続いたものと考えられている。実は、上代中央方言の共時態においては、例えば《張りあり》や《咲きあり》という非融合形は実証されない。少なくとも文献上は《咲けり》(サケ $_{
m H}$ リ)という融合形があるのみである。ただし、この所謂「リ完了形」を「動詞連用形+アリ」とすることは、「詒」オクレリ《上上平上》・「除愈」アサレリ《上上平上》(以上『図書寮本類聚名義抄』からの例)などの平安時代資料にある声点表記から支持される(早田 1997: 42 なども参照)。

⁵ 古くは三根では nou であった(金田 2001: 194 など)が、本調査のデータからは ou と oo の区別は 既に失われつつあると見られる。

3.2 上代中央方言との共通点

八丈語の古さは上代東国方言との共通点(動詞連体形や形容詞連体形)から語られることが多いが、実際には上代中央方言との共通点も多くある。ここでは中央方言において中古・中世以降には見られなくなった諸現象で八丈語に残存しているものを取り上げる。

3. 2. 1 人称代名詞

八丈語では、一人称代名詞では ware などとともに are が用いられることがある。

(11) <u>ara kiː-wa isogaci-kja</u>

「おれは今日は忙しい」(中之郷)

- (12) warja keː-wa isoga [i-kja (大賀郷)
- 一人称のア系は、上代では中央方言に限らず東国方言でも散見されるが、中古以降はほとんど 文献資料に例がない。『日本国語大辞典』で「アレ」を検索すると、最も新しい例が大鏡(12世 紀前半)の例である。以下には、『古事記』(712年)から上代語の例をひく。
- (13) ・・(前略)・・多和夜賀比那袁 麻迦牟登波 <u>阿礼</u>波須礼抒・・(後略)・・ 「・・・手弱腕を 枕かむとは 我はすれど・・・」(『古事記』)

この一人称ア系の代名詞については、琉球諸語にも対応する代名詞が存在するという6。琉球諸語では例えば沖縄古語で「あん」、沖縄語今帰仁与那嶺方言 aga (「我々の」)、宮古語大神方言・与那国語 anu⁷、宮古語多良間方言・伊良部方言 aN という形式が見られる。一人称ア系の代名詞は、上代語中央方言および東国方言 (八丈語) そして琉球諸語が分派する以前の段階に遡ると考えられる。

八丈語の二人称代名詞には ome: (後述) などともに nare がある。金田 (2001: 71-74)によれば, nare という形式は主に口論や喧嘩の場面で用いられるが、現代ではあまり使われないという。

(14) <u>nare-</u>wa jama-geː ike

「お前が畑へ行け」(大賀郷)

⁶上代東国方言特有の一人称代名詞「和奴・和努」に対応する形式が琉球諸語に散見されるが(岡前wan, 与那国 banu など),それは上代東国方言の末裔と考えられる八丈語には未だ見いだされない。 7南琉球宮古語大神方言に「俺は」が ara:という形式で現れる。基本形は anu であり,これは不規則的な形式だが,この大神方言 ara:という形式と八丈語の are / ara との関係は不明である。

nare も上代の中央・東国両方言に例がある。しかし、中央方言では中古以降急速にそれは失われたと見える。以下に『日本書紀』(720年)と『源氏物語』(11世紀初頭)から中央方言の例を、『萬葉集』東歌から上代東国方言の例をひく。

- (15) ・・(前略)・・於夜那斯爾 <u>奈礼</u>奈理鶏迷夜「・・・親無しに 汝生りけめや」(『日本書紀』推古紀 104)
- (16) 恋ひわぶる 人のかたみと 手ならせば なれよ何とて なく音なるらむ (『源氏物語』若菜下)
- (17) 許乃河泊尒 安佐菜安良布兒 奈礼毛安礼毛・・(後略)・・「この川に 朝菜洗ふ児 汝も吾も・・・」(『萬葉集』14:3440)

八丈語の nare が口論・喧嘩の場面に多く用いられ、基本的に対等もしくは目下のものにしか使われないというのは、上代・中古における二人称代名詞ナ(レ)が対等の相手や目下のもの・動物に対して用いられていたことを引き継いでいると言えよう。しかし、上代語の「ナ」には一人称の用例もある (Whitman 1999 も参照)。また、北琉球諸語では、対応する形式が尊敬の代名詞として用いられ、南琉球では、再帰代名詞や話者指示的代名詞として用いられる。これらの「ナ(レ)」(に対応する諸形式)が、琉球語・八丈語の共通の祖語に遡るものだとして、その各語派・各方言での消長・意味変化などは興味のある問題である。

表1 二人称の「ナ(レ)」

	二人称	再帰・話者指示
奄美 (喜界島)・上嘉鉄	naːmi	
奄美 (大島)・大和浜	naŋ	
奄美 (加計呂麻)・諸鈍	nam	
奄美・与論	na∶ni	
沖縄古語	なあ	
沖縄・与那嶺	naː	
沖縄・首里	naː	
宮古・大神		nara
八重山・石垣		nara
八重山・竹富		na:(ɾə)

3. 2. 2 係結び

上代以降のいわゆる「古典語」における一特徴である係結びが八丈語に残存している。本調査 で観察された例をあげる。

- (18) so-no hanaci-wa(sa) jome-ni dake-<u>ka</u> kikase <u>tare-g</u>a 「その話は妻にだけ聞かせた」(中之郷)
- (19) u-no çito-ga-<u>ka</u> honto:-no kanemotçi da<u>re</u>. 「あの人こそ本当の金持ちだ」(大賀郷)
 - (19') u-no çito-ga hontoː-no kanemotçi dara. (同上)

両例とも助詞-ka に呼応して、文末の動詞が-[r]e で終わる「已然形」になっている。助詞-ka がない場合、文末の動詞は連体形+終助詞(-ro+wa)の形式などで現れる[=19']。この-ka は、金田 (2001: 184)などによれば、古典語の係助詞コソに遡るという。『日本書紀』歌謡から上代語の例、源氏物語から中古語の例をひく。

- (20) 瀰致儞阿賦耶 鳴之慮能古 阿母儞<u>擧曾</u> 枳擧曳儒<u>阿羅毎</u> 「道に闘ふや尾代の子母にこそ聞こえずあらめ」(『日本書紀』雄略紀 82)
- (21) なみなみの人ならばこそあららかにもひきかなぐらめ(『源氏物語』帚木)

疑問文などで助詞-ka が現れた場合、それに呼応する形で、上代東国方言の助動詞ナムに遡る形式-no:や-nu:が義務的に現れる(金田 2001: 195)という記述もあるが、そういった現象は本調査の範囲ではほとんど観察されなかったようである。ただし、以下の例があった。

(22) sake:-wa adan ʃi-te tsukuru-<u>ka</u> nare-wa ʃokan-<u>no:</u>-ʒa 「酒はどうやって作るか、お前は知っているか」(大賀郷)

金田 (2001: 195)から、助詞-ka に対して-nou で終わる典型的な例をあげておく。

(23) dokoN-ka cjoucukaN-nou

「どこに置いただろうか」

この-ka は、前述した已然形に由来する形式を結びの形式として要求する助詞-ka とは由来が異なり、古典語における係助詞「カ」に遡ると考えられている(金田 2001: 195)。

3. 2. 3 その他:過去の「キ」と存在詞

本調査では、一部の話者から「(むかしよくあの人と)飲んだっけなぁ」という場合に「ノマッチガー」という言い方をすることがある、という回答を得た。これは、上代・中古における所謂過去の助動詞「キ」を用いた「ノミアリシ」に遡る形式であると考えられる(金田 2012: 126など)。中央方言では鎌倉時代以降この「キ」は衰退し、過去を表す形式としては「-タル(<-テ+アル)」および、その後代の変化形である「-タ」が発達する。

現代の八丈語でも、この「キ」に遡る諸形式は既にあまり使われなくなっているようで、本調査でも調査例文に対する答えとしては得られず、こちらから「「ノマッチガー」と言いますか?」というような質問をしなければ引き出せなかった。また、「飲んだとき」という意味で「ノマッチトキ」という言い方をする話者は本調査の範囲ではおらず、既に消えつつある表現だと考えられる。このことについては、上記で指摘した金田(2012)に詳しい記述がある。

また、人や動物のような有生物の存在を「アル」で表現する。中央方言では、18世紀以降になると次第に有生物の存在を「イル」で表すように変化していく。これもまた八丈語に残る「古さ」の一端と言えよう(金水 2006 も参照)。

4 八丈語の古さ(2)八丈語と琉球諸語との比較

北条 (1966)以来,八丈語と琉球諸語との比較というのは,間接・直接問わずまとまった形ではなされていない。現段階では未だ両言語の記述が十分でなく,比較するだけの材料がないかもしれないが,ここでは八丈語と琉球諸語との共通点を若干指摘しておきたい。

4. 1 語彙

4. 1. 1 [—]

本土諸方言においては管見の限り「一つ」と「一人」で「一(ひと)」の部分が互いに異なる発音になることはない。しかし、八丈語では「一つ」は tetsuu、「一人」は tori であって(三根)、接尾辞「つ」の前かそうでないかで両者の形式が異なる。琉球諸語においても八丈語と同様である(服部 1976: 30-32; 1979: 111-113. なお、Pellard 2008: 143の Table 6 も参考になる)。

表2 「一つ」と「つ」の前以外の「一」

	[>]	「一」(「つ」の前以外)
上代日本語	ヒ _甲 ト _乙 ツ	ヒ _甲 ト _乙
中古日本語	ヒトツ (ヒテツ)	ヒト-
奄美 (喜界島)・上嘉鉄	t [?] i-tu	ts²u-
奄美(大島)・大和浜	t³i∶-tsi	t¢²u-

奄美 (加計呂麻)・諸鈍	t [?] i-t	te²u-
奄美 (徳之島)・岡前	t³i∶-t¢i	t²cu-
奄美・与論	tiː-tɕi	teu-
沖縄古語	ふてつ	ひと
沖縄・伊江島	t ^h i ː tsi	t¢hu-
沖縄・与那嶺	t²i∶-t¢i	te²u-
沖縄・首里	tiː-tsi	te²u-
宮古・大神	psti∶-ks	pstu-
宮古・西原	çiti-ts i	çitu-
八重山・石垣	p ^s iti∶-tsi	p ^s itu-
琉球祖語	*pite(e)-tu	*pito-

八丈語と琉球諸語との共通の祖語の段階には、「一つ」の「一(ひと)」にあたる形式と「つ」 前以外に現れるそれとでは異なる形式として再建する必要がある。その対立は本土諸方言では失 われ、八丈語と琉球諸語とで保存されたのである。なお、『枕草子』(10世紀終)に以下のよう な記述がある。これは、少なくとも当時の中央方言において「ひてつ」という形式は「標準的な 言い方」ではなく、既に失われていたことを示唆する。

(24) 「ひてつ車に」など言ふ人もありき (枕草子 262)

4. 1. 2 「土・地面」

本調査では樫立で「地面」を miza といい,「古い言い方」として大賀郷でも midza という形式を得ている。琉球語では,この miza / midza に対応する形式が「土」を表す形式として見られ,琉球諸語と八丈語との共通の祖語の段階に*mita のような形式が再建されることが示唆される8。

表3 琉球諸語の「土」

-	
	「土」
奄美(喜界島)・上嘉鉄	mitea
奄美(大島)・大和浜	mitca

⁸なお、民間語源として「御(み)座(ざ)」がある。

奄美(加計呂麻)・諸鈍 mitea・

奄美(徳之島)・岡前 ntga!

奄美・与論 nitça

伊江島 ntca:

沖縄·与那嶺 mitca:

沖縄・首里 ntca

宮古・大神 mta

宮古・西原 nta

八重山・石垣 nta

八重山•竹富 ntə

与那国 nta

琉球祖語 *mita

4.1.3 「蚯蚓」

本調査では「蚯蚓」を意味する形式として以下のような形式が観察された。

表 4 八丈語の「蚯蚓」

三根	大賀郷	樫立	中之郷	末吉
meme dzume	meme ^d zu(me)	nenezüme	nenedzwme	mimizume

末吉で観察された形式は、標準語の形式に八丈語でよく使われる指小辞-me がついた形式であるう。その他の形式では、総じて第一音節と第二音節の母音が[e]になっている。管見の限り「蚯蚓」がメメズというような形式で現れる方言は本土にないようである。一方、琉球諸語ではその祖語の段階で*memezuと再建される形式が見られる%。

次頁の表 5 中で奄美語に見られる中舌母音 i は琉球祖語の*e に由来する。また、南琉球諸語では第一・第二音節の母音が消失していない。このことから、その母音が琉球祖語の*i ではなく*e

に由来すると言える。

⁹ 樫立・中之郷で第一・第二音節の音節初頭子音が n になっている理由は不明。なお、江戸時代初期に出版された言葉直しを目的とする安原貞室の『片言(嘉多言)』(1650年京都刊)には「蚯蚓をめめず」という記述が見える。

表 5 琉球諸語の「蚯蚓」

X 6 //// // // // // // // // // // // //	
	蚯蚓
奄美 (喜界島)・上嘉鉄	mimida:
奄美(大島)・大和浜	mɨmɨdzɨ
奄美 (加計呂麻)・諸鈍	mɨmɨt
奄美・与論	miːmidzi
沖縄古語	みみず
沖縄・伊江島	mimizi
沖縄・首里	mimidzi
宮古・大神	mimiku
八重山・石垣	mimidzi
与那国	dimimi
琉球祖語	*memezu

4.1.4 「魚」

「魚」を表す jo (三根・末吉・樫立・大賀郷) や ijo (中之郷) という形式は、文献上見られる「いを」に対応する。中央方言では現在「いを」に遡る言い方をしないが、琉球諸語には「いを」に対応する形式が見られる。つまり、八丈語の jo/ijo や琉球祖語の*ijo は、その共通の祖語の段階に遡る形式なのである。

表 6 琉球諸語の「魚」

	魚
奄美 (喜界島)・塩道	?iju
奄美(大島)・大和浜	?juː
奄美(加計呂麻)・諸鈍	?juː
奄美(徳之島)・岡前	?juː
奄美・与論	?juː
沖縄古語	いゆ

沖縄・伊江島	?juː
沖縄・与那嶺	?juː
沖縄・首里	?iju
宮古・大神	шu
宮古・西原	zzu
八重山・石垣	idzu
八重山・竹富	idzu
与那国	iju
琉球祖語	*ijo

この*ijo にあたる上代中央方言の確実な例はなく、上代語文献では専ら「うを」(『日本書紀』 継体紀 97 「美那矢駄府<u>紆鳴</u>謨」 水下ふ魚も)が用いられている。その後、平安時代になって「いを」という形が多く見られるようになるが、「うを」が「いを」に取って代わられることはない。むしろ、現代の中央方言では(より一般的な「さかな」を除けば)「うお」が用いられるようになっている(「魚市場(うおいちば)」など)¹⁰。ただ、「いを」に対応する形式が八丈語と琉球諸語に見られるという事実からは、実際には「いを」という形式が上代以前から中央方言にもあって、たまたま文献上にないだけだと考えるべきである。

4. 1. 5 「朝」•「頭」

ここまでに挙げた語の他にも、八丈語と琉球諸語とで共通してみられるものの、現代の本土諸 方言ではほとんど見られない語はままある。例えば「朝(特に早朝)」は、八丈語では tommetei (三根) もしくは tommete (末吉など) であるが、琉球語でも対応する形式が見られる。

表7 琉球諸語の「朝」

	朝
奄美 (徳之島)・岡前	¢it i mu∶t i
沖縄古語	すとめて

¹⁰ 岩崎本『日本書紀』推古紀(巻第二十二)に「即化ナリ少チヒサキ魚以ヲ以挟ハサマレリ樹枝」がある。このように『日本書紀』の訓などには「いを」という形式はある。しかし、これらは後代(例えば岩崎本推古紀ならば平安中期)の加点であり、上代における確例としては扱えない。『時代別国語大辞典上代編』の「いを」の項にあがっている『新撰字鏡』や『倭名類聚抄』の例も同様である。

沖縄・与那嶺	citimiti
沖縄・首里	sutumiti
宮古・大神	stumuti
宮古・西原	situmuti
八重山・石垣	situmudi
八重山・竹富	cituũti
与那国	t [?] umuti

「頭」にあたる八丈語 tsuburi(各方言)という形式も、琉球諸語に対応する形式が見られる一方、本土諸方言では「おつむ」などに化石的に残されているのみである。これら「朝」や「頭」などを表す諸形式はどれも八丈語と琉球諸語との共通の祖語の段階に遡り、対応する祖形が再建されうる¹¹。

表 8 琉球諸語の「頭」※一部の方言では「頭蓋骨」の意

	頭
奄美(喜界島)・塩道	t [?] uburaː
奄美(大島)・大和浜	tsiburu
奄美(徳之島)・岡前	teiburu
奄美・与論	teiburu
沖縄古語	つぶる
沖縄・伊江島	siburu
沖縄・与那嶺	teimbu
沖縄・首里	tsiburu
八重山・石垣	tsiburi
八重山・竹富	suːru

_

¹¹また、「若い娘」を指して八丈語諸方言では menarabe、琉球語でも似たような形式が見られる。しかし、これは元々me「女」+warabe「童」という語構成であったと考えられ、八丈・琉球それぞれで独立に生じた複合語とも考えられるゆえ、ここでは八丈・琉球に残る共通の「古層」として扱わない。

4. 2 u-系の指示詞

八丈語では遠称の指示詞として u-系が用いられる (ure・uno)。

- (25) <u>uno</u>me-no bo:-ke iro-no ciro-ke otoko-wa dare {dakana:/daro:} 「あの目の大きい, 色の白い男は誰だろう」(末吉) [(4)再掲]
- (26) <u>urja:</u> no:¹² gakko: deka: re, jakuba-de-wa nakkja: 「あれは (ね), 学校だ。役場ではない」(末吉)
 - 一方、琉球諸語では対応する形式が中称で使われる(表9)。

表 9 琉球諸語に見られる u-系の指示詞・代名詞

	「それ」	「その」	「そこ」	「お前」
奄美(喜界島)・塩道	?uri		?uma	?ura
奄美(徳之島)・岡前	?uri:	?uŋ	?umaː	?u-kkja (PL)
奄美・与論	uri	unu, uŋ	uma	ura
伊江島	?uri	?unu, ?uŋ	?maː	?raː
沖縄・与那嶺	?uri	?unu, ?uŋ	?maː	
沖縄・首里	?uri	?unu	?mma	
宮古・大神	uri	unu	uma	บบa
宮古・西原	ui	unu	uma	vva
八重山・石垣	uri	unu	uma	waː
八重山・竹富	uri	unu, uŋ	umə, mmə	waː, woː
与那国	u	unu	uma	nda
琉球祖語	*ure	*uno	*uma	*ura

そもそも琉球諸語における指示詞の体系は必ずしも全体としては明らかになっていない。また、 中央方言史上指示詞のア系の出現は中古以前には遡らない。各語派・各方言における指示詞体系

¹²この no:という形式は間投助詞の一種と見られ、談話中に非常に多く現れる。それは、前後の文節・単語と切れ目なく発音される。筆者(平子)は一度聞いただけではそれが間投助詞であるとは気づかなかった。

の詳細な記述にもとづく, 史的研究が俟たれる。いずれにせよ八丈語と琉球諸語の共通の祖語の 段階における指示詞の体系中に*u-系の指示詞が再建されうると言ってよい。

この u-系の指示詞に関連していえば、それと後に述べる八丈語の二人称代名詞 unu との関係 も考える必要があるだろう。琉球諸語や八丈語では二人称代名詞にも u-系が見られるのだが、これは u-系指示詞が中称すなわち聞き手の領域(にあるもの)を指示することと関係している 可能性もあるのである。八丈語の二人称 u-についてはこの後の5. 1を参照。

5 八丈語の新しさ

上記で指摘したように八丈語には古い特徴が見られる。一方で、八丈語には中央方言において 中古以降に発展した新しい特徴もいくつか見られる。八丈語の歴史を考える場合、これらの史的 位置づけを明らかにする必要がある。

5. 1 二人称代名詞

八丈語において二人称代名詞として nare が用いられることは既に指摘した(3.2.1)が、二人 称代名詞には他にも待遇表現とかかわって多様な形式が存在している。

まず、尊敬語であり、目上の人に対して一般的に使われる(金田 2001: 71) ome:もしくは omja:という形式がある。また、それらと似た形式の omi がある。omi は ome: / omja:と違い、目下や同等のものに使われる。以下の omja:と omi の例は同一話者からのものである。

- (27) 「お前(あなた)は畑へ行け(御行きください)」(樫立)
 - a) <u>omjaː</u>-wa jama-e odzare-joː (対目上)
 - b) <u>omi</u>-wa jama-e ike (対目下)

(27a)の例では omja:という尊敬語があるために、述語動詞も尊敬動詞 odzar-「いらっしゃる」が用いられることに注目したい。

さて、ome:/omja:は、音対応からすれば中央方言の「オマへ (>オマエ)」にあたる。『日本国語大辞典』に挙例がある中で、中央方言の文献資料上「オマへ」の最古の例になるのは、『蜻蛉日記』(974年頃)にある以下の例である。しかし、これが実際「オマへ」と読まれたかは分からない。いずれにしても「オマへ」は中央方言では上代に遡らない。

(28) 御まへにもいとせきあへぬまでなむ、おぼしためるを、見たてまつるも、ただおしはかりたまへ (『蜻蛉日記』中・天祿二年)

omi については、それが同等もしくは目下のものに用いられることから、中央方言のオミ(御身)にあたる形式だと考えられる。ただし、中央方言の文献で17世紀以前にオミの用例はない。

さらに、八丈語では unu という形式も二人称代名詞として用いられる。文献資料上ウヌが中央方言で用いられるようになるのは 18 世紀頃になってからのことである。これが中称の指示詞*u-と関連がある可能性については4. 2 で触れた。

(29) <u>una:</u> kono jo-no namee-jo coke-ka.

「お前はこの魚の名前を知っているか」(末吉)

また、注目すべきは以下の omai という形式である。

(30) <u>omai</u>-wa kono jo-no nameː-jo ʃoke-ka.

「お前はこの魚の名前を知っているか」(末吉。ただし(29)とは別の話者)

omai は特に同等以下のものに対して使用される形式であるという。金田(2001: 73)によれば、この omai という形式は omi や ome: / omja:に比して新しく、現代八丈語では omi や unu にとってかわろうとしているという。 unu と対象がほぼ重なり、 unu が失礼な言い方として敬遠された結果、中央方言の目下に対する言い方であったオマエを方言的な発音にして取り入れた形式が omai だとされている(金田 ibid.)。

通常、中央方言の ae に対しては、八丈語では方言によって異なるものの e:もしくは ja が対応する。ここで、中央方言オマエが (ome: / omja:となっておらず) omai となっているのは、既に八丈語においては尊敬語として ome: / omja:という形式があったために、同音衝突を避けて (omae >) omai として取り入れたからだという (金田 2001: 405 注 29)。なお、中央方言においてオマエが同等もしくは目下に対して使われるようになったのは、江戸時代後半 (18 世紀後半以降) になってからのことである。

以下に八丈語における二人称代名詞の諸形式とそれに対応する中央方言の諸形式の歴史をまとめてみる。この二人称代名詞の様相からだけでも、現代八丈語の成立が上代語以前からの古層の継承と中世以降にあった流刑人などを通じての中央方言との接触の結果であることが示唆される。

表 10 八丈語の二人称代名詞の様相

八丈語の形式	対象 (八丈語)	対応する 中央方言の形式	文献に見られる時期	八丈語での 成立時期 (推定)
nare	同等・目下	ナ (レ)	上代語~中古語	上代以前
ome: / omja:	尊敬	オマエ	中古語以降	中世以降

unu	同等・目下	ウヌ	18世紀以降	江戸時代以降?13
omi	同等・目下	オミ (?)	17世紀以降	江戸時代以降
omai	同等・目下	オマエ (?)	18世紀後半	近代以降?

5. 2 疑問詞

疑問詞「誰」は、上代中央方言で「多例」(『日本書紀』仁徳紀 44)と語頭音節に清音を表す文字があてられていて、実際[tare]というような発音であったと考えられる。一方、八丈語では語頭音節が清音の tare という形式ではなく、濁音の dare という形式が現れる。中央方言で語頭音節が濁音となったことがはっきりと確認されるのは早くとも近世初期の資料からで、この八丈語の dare という形式も、近世以降の中央方言から取り入れられた形式だと考えられる。

(31) uno me-no boː-ke iro-no ciro-ke otoko-wa <u>dare</u> {dakanaː/ daroː} 「あの目の大きい, 色の白い男は誰だろう」(末吉) [(4)再々掲]

また、他の疑問詞「どれ」「どこ」などについても同様のことが指摘できる。すなわち、上代や中古の中央方言ではイヅレ・イヅク(もしくはイヅコ)で、ドレやドコが文献上に現れるのは11・12世紀からである。以下の例に見られる八丈語の「どれ」「どこ」にあたる形式も中世以降の中央方言から取り入れられたものと考えられる。

(32) doi-ga nː-ga kasa-doː

「どれがお前の笠だ」(三根)

(33) a-ga tega-wa {dokon/ dokodo : } aro :

「俺の鍬はどこにある」(三根)

6 八丈語の位置づけ(まとめ)

3節・4節で述べたことからは、本土諸方言(のうち、少なくとも中央方言)および琉球諸語に対立する日本語系の一言語(の末裔)として八丈語を位置付けられることが分かる。一方で、八丈語には中央方言において比較的新しく発達したと考えられる形式も散見される。5節で指摘したものがそれであり、現代の八丈語は、上代以前・日琉・八丈祖語に遡る古い特徴を残しながらも、その後本土方言の影響を強く受けて成立したものと考えられる。この言語上の事実を八丈

¹³ unu については琉球諸語をも含めて比較すると、その史的位置づけについてはなお考える余地があるゆえ、ここでは「?」とした(4.2節参照)。

島の地理的・歴史的背景をも考慮に入れて解釈すれば、以下のようなシナリオを描くことができるだろう。

まず、八丈語(の基盤になった言語: 先八丈語) は、本土諸方言祖語(特に中央方言系統) と 琉球祖語と姉妹関係にある言語として成立したと考えられる。あるいは中央方言と琉球諸語との 共通の祖語である日琉祖語と姉妹関係にあったかもしれない。少なくとも、中央方言と琉球諸語 と対立する言語であったことは間違いなく、その痕跡が形容詞連体形や動詞連体形、東歌の「ナ モ」に遡る推量形などの諸形式に見られる(3.1節)。

かつては、先八丈語のように中央方言とも琉球諸語とも対立する言語(東国方言)が東日本に 広く行われていた。例えば長野県秋山郷の方言などでも形容詞連体形-ke や動詞連体形-o といっ た上代東国方言固有の特徴が見られることはこのことを示唆する(馬瀬 1980, Pellard 2008)。そ の後、当時京都・奈良を中心に話された中央方言の影響を強く受ける中で、東国方言は衰退して いった。

現代の東日本方言の大部分では往時の東国方言の痕跡は限定的に見られるに過ぎない。例えば、動詞命令形 -ro や、上代東国語のナフに遡ると言われる打消の-nai などがそれである。しかし、八丈島や秋山郷は周辺地域から隔絶されており、中央方言の影響を受けにくい環境にあった。八丈島の場合、同じ伊豆諸島に属す三宅島など、より北に位置する有人島との間に黒潮が流れており、このため古くは本土との人・物の交流がなかった、もしくは、あったとしても限定的であったと考えられる。

その後,室町時代以降になって八丈島に当時の幕府の機関が置かれ,江戸時代以降には流刑地となる。このころには既に本土諸方言は中央方言の強い影響を受けていた。八丈語はこの中央方言によって侵食された本土方言からの影響を受けて,徐々に東国方言的特徴を失っていったものと考えられる。人称代名詞や疑問詞の在り方からすると,本土方言の八丈語への影響は非常に強く,また,かなり長く続いたのだろう。

もちろん,本土方言からの影響による変化の他にも八丈語内部での変化もあった。八丈語各方言で盛んに見られる母音融合などの音変化や,金田 (2012)に指摘されるテンス・アスペクトのシステムの変化などがそれである。

このような史的背景を経て成立したのが現代の八丈語であると考える。その史的な性格からして,八丈語は日本語史研究にとって非常に重要であるのだが,考えるべき問題は多く,その詳細な位置づけは難しい。

参考文献

上村 幸雄 (1971) 「なぜ方言を研究するか」『教育国語』 26: 27-43.

金田 章宏 (2001) 『八丈方言動詞の基礎研究』 東京:笠間書院.

金田 章宏 (2012) 「八丈方言における新たな変化と上代語」『言語研究』 142: 119-142.

金水 敏 (2006)『日本語存在表現の歴史』東京:ひつじ書房.

- 金田一春彦 (1955) 「日本語 (方言)」『世界言語概説』下: 212-238. 東京: 研究社.
- 金田一春彦 (1967) 「東国方言の歴史を考える」『国語学』 69:40-50.
- 柴田 武 (1961) 「東部方言の語彙(関東・東海東山)」『方言学講座』第二巻 東京:東京堂出版 [柴田 1978『方言の世界―ことばの生まれるところ』 98-123 東京:平凡社に「八丈方言の位置」として再録].
- 東條 操 (1934)「関東方言」『国語科学講座 VII 本州東部の方言』 37-55. 東京:明治書院.
- 服部 四郎 (1959) 『日本語の系統』 東京:岩波書店.
- 服部 四郎 (1968) 「八丈島方言について」 『ことばの宇宙』 11:92-95.
- 服部 四郎 (1976) 「琉球方言と本土方言」 『沖縄学の黎明―伊波普猷生誕百年記念誌』 7-55. 沖縄文化協会.
- 服部 四郎 (1979) 「日本祖語について 22」 『言語』 8/12: 100-114. 東京:大修館書店.
- 早田 輝洋 (1997) 「平安時代京畿方言のアクセントに関する幾つかの問題」『音声研究』 1(2): 37-44.
- 平山 輝男 (1958) 「青ヶ島方言の所属」『国学院雑誌』 59: 301-306.
- 北条 忠雄 (1948a) 「八丈島方言の研究—特に上代性の遺存について(1)」『日本の言葉』 6: 84-88. 東京:日本の言葉研究会
- 北条 忠雄 (1948b) 「八丈島方言の研究—特に上代性の遺存について (2)」『日本の言葉』 7: 13-29. 東京:日本の言葉研究会
- 北条 忠雄 (1966) 『上代東国方言の研究』 東京:日本学術振興会
- 北条 忠雄 (1977) 「琉球語の諸問題—「比較言語学的立場からの考究」覚書」『秋田大学教育学 部研究紀要 人文科学・社会科学』 27: 159-146.
- 馬瀬 良雄 (1980) 「生きている東歌の語法」『言語生活』 342: 34-40. 東京: 筑摩書房.
- Dikins, F and Ernest Satow (1878) `Notes of a visit to Hachijo in 1878 -Dialect.,' 『日本亜細亜協会会報』 6: 435-477.
- Pellard, Thomas (2008) 'Proto-Japonic *e and *o in Eastern Old Japanese.,' *Cahiers de linguistique Asie orientale* 37(2): 133–158.
- Whitman, John (1999) 'Personal pronoun shift in Japanese: A case study in lexical change and point of view.,' In Kamio, Akio & Takami, Ken-ichi (eds.) *Function and Structure*. Amsterdam; Philadelphia: John Benjamins, 357-386.

用例出典

文献資料(表記は一部本稿に合わせて書き換えた部分がある)

阿部秋生・秋山虔・今井源衛(校注・訳)(1970) 『日本古典文学全集 源氏物語 一』東京: 小学館. 阿部秋生・秋山虔・今井源衛(校注・訳)(1974) 『日本古典文学全集 源氏物語 四』東京: 小学館. 白木進(編著)(1976) 『かたこと』(笠間叢書 53) 東京: 笠間書院.

松浦誠一・木村正中・伊牟田経久(校注・訳)(1973) 『日本古典文学全集 土佐日記・蜻蛉日記』 東京: 小学館.

松尾聰・永井和子(校注・訳)(1972) 『日本古典文学全集 枕草子』東京: 小学館.

水島義治 (1972) 『校註 萬葉集 東歌・防人歌—新増補改訂版—』 東京: 笠間書院.

荻原浅男・鴻巣隼雄(校注・訳)(1975) 『日本古典文学全集 古事記・上代歌謡』東京: 小学館.

琉球諸語 (表記は簡略音声表記に統一した)

木部暢子・窪薗晴夫・下地賀代子・ローレンス ウェイン・松森晶子・竹田晃子 (2011) 『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究--喜界島方言調査報告書--』 立川:国立国語研究所

菊千代・高橋俊三 (2005) 『与論方言辞典』東京:武蔵野書院.

国立国語研究所(編) (1963) 『沖縄語辞典』東京:大蔵省印刷局.

前新透(2011)『竹富方言辞典』石垣:南山舎.

宮城信勇 (2003) 『石垣方言辞典』那覇:沖縄タイムス社.

仲宗根政善(1983) 『沖縄今帰仁方言辞典』東京:角川書店.

沖縄古語大辞典編集委員会(編) (1995) 『沖縄古語大辞典』東京:角川書店.

長田須磨・須山名保子 (1977) 『奄美方言分類辞典』東京:笠間書院.

生塩睦子 (1999) 『沖縄伊江島方言辞典』伊江村:伊江村教育委員会.2 vols.

内間直仁・新垣公弥子 (2000) 『沖縄北部・南部方言の記述的研究』東京:風間書房.

筆者の調査資料



ママをたずねて三千里

―八丈方言の系統的位置について―

ローレンス・ウエイン

1 はじめに

本稿では、一つの単語を中心に、八丈島の方言の系統的位置を考察する。

八丈方言が東日本方言 (= 東部方言) の一つであるとする考え方 (東條 1954: 47-51; 柴田 1961: 97) のほかに,八丈方言は奈良朝東国方言の系統を引きながらも,現代の東日本方言と別系統のことばであるという考え方 (服部 1968: Kupchik 2011: 9) もある。

本稿で問題にする単語は「まま」と発音する語形で、八丈島の五つの地区で「崖」という意味で使われる (内藤 1979: 186 では「土手 (土のままのがけ地)」となっている)。民話の中の使用例 (三根地区) は金田 (2002: 34 (§18)) にみられる。なお、八丈島の五地区以外に、八丈小島と青ヶ島でもこの「まま」が使われているという (山田 2010: 101)。

2 「まま」は東日本方言形か

「まま」という単語は崖の意で八丈方言にみられるが、おなじ「まま」は類似の意味で広く東日本の諸方言に見出せる。『日本方言大辞典』(徳川 1989: 2280) に掲載されている例は以下の通りである。

がけ:山形県, 茨城県, 栃木県, 群馬県佐波郡, 東京都伊豆諸島, 神奈川県鎌倉, 新潟県, 長野県上高井郡・諏訪, 静岡県, 愛知県北設楽郡¹

山地の断層:愛知県北設楽郡

急傾斜地:群馬県勢多郡、新潟県東浦原郡、山梨県南巨摩郡、長野県

段をなしている傾斜地:東京都利島,山梨県南巨摩郡, 2 静岡県

あぜ:岩手県気仙郡,宮城県玉造郡,栃木県,神奈川県中郡,新潟県東浦原郡,長野県佐久 畦の大きなもの:山形県,福島県,茨城県

土手:山形県,福島県,茨城県久慈郡・真壁郡,群馬県利根郡・吾妻郡,埼玉県秩父郡,千葉県安房郡,東京都三宅島・御蔵島,神奈川県中郡,新潟県中越,長野県,静岡県田方郡・庵原郡

石垣:山形県米沢市,群馬県山田郡,東京都伊豆諸島,新潟県東浦原郡

岸:秋田県平鹿郡,山形県米沢市

川岸や土手の崩れたような所:山形県庄内,新潟県中浦原郡・東浦原郡

山などの土の崩れた所:静岡県榛原郡

崖などに横に抉られてできた穴:長野県北安曇郡

¹ これに秋田県の例として男鹿市脇本大倉方言の mama「崖」(北条 1968: 38) が加えられる。秋田県教育委員会(編)(2000: 403)によると、ママを「崖。特に土砂を採る崖」の意味で使うのは山本地方・河辺地方・仙北地方の方言であるという。

² この中に山梨県奈良田 (深沢 1957: 126) が含まれる。

海岸の岩が抉られて魚の隠れ場所になっている所:静岡県榛原郡

崖状の砂浜:新潟県佐渡,静岡県浜名郡

海岸の砂丘:新潟県中頸城郡

「まま」は愛知県東北部以東に分布しているので、東日本の方言形としてみることができ よう。

通時的には、江戸時代の方言集『物類稱呼』には土堤のことは「上總及信濃にて。まゝといふ」(越谷 1775: 4ウ) とあるが、これも東日本方言の例である。さらに、上代の例として万葉集巻 14の 3369 歌が挙げられる。

足柄の ままの小菅の 菅枕 あぜか巻かさむ 児ろせ手枕 阿之我利乃 麻万能古湏氣乃 湏我麻久良 安是加麻可左武 許呂勢多麻久良

これは万葉集に東国の相模国の歌として記載されている。この 3369 歌の「まま」を固有名詞とする立場 (荷田; 澤瀉 1977: 47) と普通名詞とする立場 (松岡 1934: 53; 折口 1936: 35; 伊藤ほか 1975: 368) とがあるが、地名とする説でも、この歌の「まま」はもともと「崖」(松岡 1934: 53 は「谷あい」³) という意味の普通名詞に由来することを認めている。

上掲の3369 歌と並んで、上代語辞典編集委員会 (1967: 689) は巻 10 の2288 歌をも「まま=崖」の例として引用している。

石橋の ままに生ひたる 貌花の 花にしありけり ありつつ見れば

説明として「「石橋の」は飛び石の間の意でママにかけた枕詞で、ママは崖の意と見てよい。」(上代語辞典編集委員会 1967: 690) としているが、次に述べるようにこれは解釈が別れるところである。同じ上代語辞典である丸山 (1967: 906) はこの歌の「ママ」を「あいだあいだ」の意味として捉えている。窪田 (1985: 502) は同様に「「間間に生ひたる」は、その飛石のあひだあひだに生えてゐる」と説明しているし、佐竹ほか (2000: 535) では「渡り瀬の飛び石の間々に生きている…」と解釈して、ママの解釈に関する注を設けていない。一方では、高木ほか (1960: 140) は「崖をママという地方は、中部・関東・東北地方に多い。広島県安芸郡では急傾斜地をいう。」と注記した上で、「崖に咲く貌花のように…」とこの歌を解釈している。佐伯ほか (1974: 42) はこの歌のママを土堤としている。古語辞典では中田ほか (1983: 1537) は 2288 歌の「ママ」を「急斜面・崖」とし、中村ほか (1999: 436, 437) は「崖」と「あいだごと」の両方の意味があるとしているようである。

万葉集の 2288 歌は東歌ではないから、もしここの「ママ」が「崖」という意味であるなら、この単語は東日本方言特有の語形でないことになる。水島 (1984: 417-25) はこの 2288 歌の「ママ」が「急斜面・崖」ではなく、「あいだあいだ」の意味であると論じているが、本稿では水島 (1984) が取り上げていない表記の観点から論じて、同じ結論に到達する。

現存する諸写本・刊本からして2288歌の原表記は次のようであったと考えられる。

-

³「相模方言に於て谷會又は水際の壟土をママと稱する」(松岡 1934: 12)。

石走間 < 生有兒花乃花西有來在筒見者

この歌の中の 生, 有, 見, 花, 在, 見, 者 などの字は正訓表記, 西 と 筒 は訓仮名 (借訓), 乃 は音仮名として使われている。訓仮名も音仮名も, その漢字の本来の意味と関係なく, 表音文字として機能している。さて, 問題の「間と」だが, 意味が「あいだ ~ 」の場合はこれは正訓表記語で, 意味が「崖」なら訓仮名表記語になる。

2288 歌が入っている巻 10 の全 538 首の文字遣いを見てみると,「間」の字は, 2288 歌以外に 16 例あり, 4 すべて正訓表記である。同じ巻に「ま」の発音を表す音訓仮名は 4 例あって, 5 「麻」は三回,「万」は一回使われている。また二の字点(く)は 14 首の中で使われ, 6 そのうちの 11 例は二の字点の前の字は表意文字になっている (例えば, 吾八更 く (われやさらさら) [1927], 何時 くく (いつもいつも) [1931], 時来 く (ときはきにけり) [2013])。一例 (2089 歌) ははっきりしないが, 衍字とする説 (小島ほか 1995: 96-7) は穏当であろう。残り 2 例 (之努く尔 (しののに) [1831], 等乎く尔 (とををに) [2315]) では二の字点の前の字は音仮名で, 2 例ともに部分重語の副詞である。以上のことから, 2288 歌の「間く」は「あいだ~」という意味を表し,「崖」でないということが察せられる。

だが、「まま」は広島県安芸郡では急傾斜地のことを言うという高木ほか (1960: 140) の指摘はきわめて重要である。事実なら、万葉集の 2288 歌と関係なく、この単語は東日本方言特有の語形でないということになる。高木ほか (1960) のこの指摘は『全国方言辞典』(東條 1951: 775) に依拠していると思われるが、『全国方言辞典』のこの情報はにわかに信じがたい。というのは、「まま」の分布をもっとも網羅的に記載している『日本方言大辞典』(徳川 1989: 2280) にはこの広島県安芸郡の例はない。また『広島県方言辞典』(村岡 1980: 18-9) にもそれらしき語形はないことから、『全国方言辞典』のこの記述は誤記ではないかと考えられる。

3 結語

ママ「崖」という語形を八丈島と本州東部の諸方言に見出すことができる。(1) 八丈方言のママが借用語でない, (2) 東日本各地にみられるママが借用語でない, そして (3) 西日本方言にママが存在した時代はなかった, という三つの条件が成立していれば, このママは八丈島方言と本州東部の諸方言の直近の祖語に再建でき, その祖語は東日本祖語 (現代の東日本方言と奈良朝の東国方言の祖語) ということになる。

服部 (1968) と Kupchik (2011: 9) は八丈方言のみが奈良朝の東国方言の系統をひく言語で、その他の東日本方言は奈良朝の中央語の系統で、現代東日本方言に見られる東国方言的な特徴は基層言語の影響によるという。「まま」の場合、その使用の広がりが本州東部のほぼ全域を覆っていることから、服部・Kupchik の仮説が正しいとすれば、その基層言語は東国方言になると考えられ、東国方言の祖語 (服部 1968 の考えでは、これは日琉祖語と姉妹関係にある言語) にママが

⁴ 1838, 1851, 1864, 1876, 1890, 1898, 1899, 1971, 2042, 2054, 2059, 2125, 2166, 2196, 2287, 2344 の各首に一例ずつ。

^{5 1937} 歌に三例, 2018 歌に一例。

⁶ 1831, 1927, 1931, 1932, 2013, 2089, 2108, 2168, 2241, 2266, 2270, 2315, 2323, 2349 の各首。

再建できることになろう。

以上のことから、八丈島方言は東国方言の系統をひくであろうが、服部・Kupchik が考えるように、八丈方言が現代東日本方言の一つでなくても、東日本方言は八丈方言と共通の基盤を有していると考えられる。

東国方言の祖語に*mama が再建できると思われるが、この語形のアクセント範疇の再建は今後の課題として残ることとなる。

参考文献

秋田県教育委員会(編)(2000)『秋田県のことば』秋田市:無明舎.

伊藤 博・中西 進・橋本達雄・三谷栄一・渡瀬昌忠(編)(1975)『萬葉集事典』東京:有精堂.

澤瀉久孝(1977)『萬葉集語釋 巻第十四』東京:中央公論社.

折口信夫 (1936)「萬葉集 巻第十四」齋藤清衛・折口信夫『萬葉集総釋第七』1-269. 東京:楽浪書院.

荷田春満(講).享保年間.『萬葉集童蒙抄』

金田章宏 (2002) 『八丈方言のいきたことば 民話・伝説・談話』東京:笠間書院.

窪田空穂 (1985)『萬葉集評釋 第六巻』東京:東京堂.

越谷吾山 (1775) 『諸国方言 物類稱呼 巻一 天地・人倫』 大坂屋.

小島憲之・木下正俊・東野治之 (校注・訳) (1995)『新編 日本古典文学全集 8 萬葉集 ③』東京: 小学館.

佐伯梅友・藤森朋夫・石井庄司 (校註) (1974)『日本古典全書 新訂萬葉集三』東京:朝日新聞社.

佐竹昭広・山田英雄・工藤力男・大谷雅夫・山崎福之 (校注) (2000)『新日本古典文学大系 2 萬葉集 二』東京・岩波書店.

柴田 武 (1961)「東部方言の語彙」東條 操 (監)『方言学講座 第2巻』64-98. 東京:東京堂.

上代語辞典編集委員会 (1967) 『時代別国語大辞典 上代編』東京:三省堂.

高木市之助・五味智英・大野 晋 (校注) (1960)『日本古典文学大系 6 萬葉集 三』東京:岩波書店. 土屋文明 (1954)『萬葉集私注 第十四巻』東京: 筑摩書房.

東條 操(1951)『全国方言辞典』東京:東京堂.

東條 操 (1954)『日本方言学』東京:吉川弘文館.

徳川宗賢(監)(1989)『日本方言大辞典 下巻』東京:小学館.

内藤 茂 (1979)『八丈島の方言』私家版.

中田祝夫・和田利政・朝倉篤義(編)(1983)『古語大辞典』東京:小学館.

中村幸彦・岡見正雄・北原保雄(編)(1999)『角川古語大辞典』東京:角川書店.

服部四郎 (1968)「八丈島方言について」『ことばの宇宙』3.11:92-5.

深沢正志 (1957)「奈良田方言語彙」稲垣正幸・清水茂夫・深沢正志 (編)『奈良田の方言』山梨民 俗の会.

北条忠雄(編) (1968)『秋田県男鹿市脇本大倉方言』方言録音資料シリーズ 6. 東京:国立国語研究所.

松岡静雄 (1934) 『萬葉集論究 第二輯』東京:章華社.

水島義治(1984)『萬葉集東歌の國語學的研究』東京:笠間書院.

丸山林平(1967)『上代語辞典』東京:明治書院.

村岡浅夫(1980)『広島県方言辞典』広島市:南海堂.

山田平右エ門 (2010) 『消えていく島言葉 ― 八丈語の継承と存続を願って』東京:郁朋社.

Kupchik, John E. (2011) *A Grammar of the Eastern Old Japanese Dialects*. Unpublished PhD dissertation, University of Hawai'i.

八丈町の「八丈方言」継承の取り組み

茂手木 清

「『八丈語?消滅危機言語』のリストに加わる」と 2009 年 2 月の朝日新聞に掲載された記事は、八丈島に住む島民にとっては、少なからず驚きだった。記事では「ユネスコの調査によれば、日本では沖縄の言葉など 8 言語が消滅危機言語リストに挙がった」と報じた。これは、昔から話されてきた故郷の言葉が、何もしなければ近い将来、消滅してしまうということを意味している。この記事を受けて、八丈町教育委員会が中心になって「八丈方言を知り、伝える活動」を始めたのは、2009(平成 21)年度からである。以下 4 年半の取り組みを記す。

1. 学校教育での取り組み

①実態調査 (全小・中・高校生)

ユネスコのリストに挙がった理由のひとつが「子どもが話さない」ということであったので、 島の子どもたちの実態を知る必要があると思い、アンケート調査を行った。島の全小中高校生 (2010年9月758人)を対象に、八丈方言語彙調査を実施した。12の比較的よく使われる名詞、 形容詞、動詞などの言葉を選び「知っているか」「使っているか」を問うた。この調査は、2013年10月にも同様な調査を行い、比較とともに、その後の活動の参考にした。

次ページがその結果の表とグラフである。人数は 2010 年 (758 人) 2012 年 (748 人) である。調査の「知っている」の項では、2010 年の調査より、2012 年の方が数値はどの言葉も増えている。これは取り組みの反映である。特に比較的%の低かった「あっぱめ」(赤ん坊)「たこうな」(竹の子)が、2012 年の調査では、それぞれ+38%、+23%と増えている。この二つの言葉は「島ことばカルタ」の中の言葉にでてくる言葉であり、学校や家庭等で取り組み始めた成果といえる。逆に、「ねっこけ」(小さい)や「まじける」(なくす)などの形容詞や動詞については、伸びが少ない。この結果、カルタに書かれた言葉は認知度が高くなるが、そうでない言葉については、相変わらず低いのである。

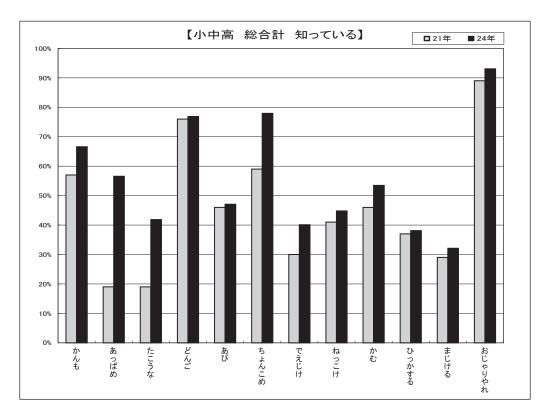
次に「使っている」(表 2・グラフ 2) の項では、どの言葉も 2010 年次の調査でも低く、10% 台の言葉がたくさんある。これは、八丈方言は知っていても、実際の生活の場(家庭・地域・学校)では使っていないことを意味している。このままでは、次の世代に継承していくことは、不可能であり、ユネスコの指摘の通り、八丈方言は「危険」というランクになっているのはうなずける。

また、取り組みを始めてからの、2012年の調査でも「使っている」については、数値は上がっていない。特に、動詞、形容詞の類は死語に近いと考えられ、「でえじけ」などは、マイナスの数値になってしまっている。

表1 「知っている」比較

小中高 総合計 比較 「知っている」748名

調査八丈語	21年	24年	増減
かんも	57%	67%	10%
あっぱめ	19%	57%	38%
たこうな	19%	42%	23%
どんご	76%	77%	1%
あび	46%	47%	1%
ちょんこめ	59%	78%	19%
でえじけ	30%	40%	10%
ねっこけ	41%	45%	4%
かむ	46%	53%	7%
ひっかする	37%	38%	1%
まじける	29%	32%	3%
おじゃりやれ	89%	93%	4%

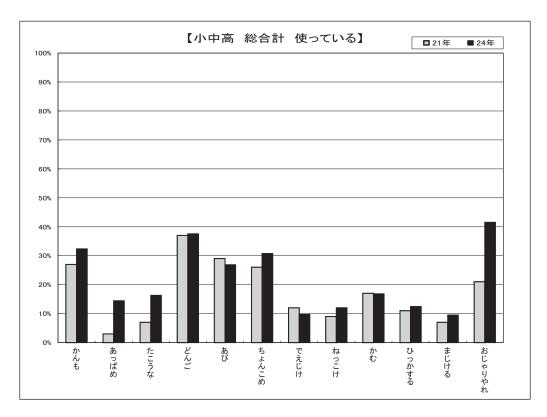


グラフ1 「知っている」比較

表2「使っている」比較

小中高 総合計 比較 「使っている」748名

調査八丈語	21年	24年	増減
かんも	27%	32%	5%
あっぱめ	3%	14%	11%
たこうな	7%	16%	9%
どんご	37%	38%	1%
あび	29%	27%	-2%
ちょんこめ	26%	31%	5%
でえじけ	12%	10%	-2%
ねっこけ	9%	12%	3%
かむ	17%	17%	O%
ひっかする	11%	12%	1%
まじける	7%	9%	2%
おじゃりやれ	21%	42%	21%



グラフ2「使っている」比較

以上の分析から「八丈方言を伝える活動」の前途は、相当厳しいものが予想される。特に、30歳代~40歳代の子どもをもつ親世代への継承がない現状では、一層厳しいと感じざるをえない。

②「八丈・島ことばカルタ」の作成

方言を次世代に継承する方法として、「方言カルタ」が有効であるとの考えから、2010年に手製の「八丈・島ことばカルタ」を作成した。絵札は、島在住の人に描いてもらった。2011年には、小学校の全家庭に無料で配布した。家庭の中で、カルタ遊びをしながら、自然に覚えることをめざすとともに、方言を知っている高齢者との交流をめざした。また、当初作成したカルタの読み札は、島の一地域の言葉を載せたのだが、別の地域の人から「自分の地域の言葉が載っていない」との指摘があり、島の五地域のすべての言葉を載せて、改訂版のカルタを作成した。読み札の表には、共通語と三根、大賀郷の2地域の言葉、裏には樫立、中之郷、末吉の言葉を載せたのである。そして、島内の本屋・みやげ屋などで販売を始めた。ちなみに、1セット850円(+消費税)である。下の写真が五地域の言葉が載っているカルタである。各学校や保育園や家庭でカルタで遊ぶ姿が見られ、カルタ遊びの中から、言葉を覚えるという子どもたちが増えてきている。



③「八丈方言100」を作成し、覚える取り組み

方言を覚えるにはゲーム感覚で、覚えるのが、良いとのことで「八丈方言100」を作成した。 10級から1級まで級を設け、各級10の言葉を選んで作成し、学校等に提示し、遊びながら覚えることをめざした。10級は比較的よく使われる八丈方言にし、だんだん級が上がることにつれ、今はあまり使われなくなってしまった言葉をのせている。各級の言葉には、名詞や動詞、形容詞、文を級ごとに10個配して作った。

_八文方言100を覚えよう(改訂版)()内の言葉は地域によって違う言葉H24.5改訂 八丈町	教育委員会 NO1
---	-----------

	級	10級	9級	8級	7級	6級
	1	・めならべ	・ちょんこめ (おしょこめ)	・かぶめ	・ほうべえ (ほーびゃー)	・とんめて
	2	・あっぱめ	・あび	· < 1=	・はんけ (ひょーげ)	・ばんま (ばっぱ)
}	3	・おやこ	・どんご	・でーこ (じゃーこ)	・まぐさ (まくさ)	・かんじょ
	4	・たこーな	・えーたば (やたば)	・けー (けえ・きー)	・しんべた (しっべた)	・あぶき
八	5	・こっこめ	・げっすり	・にゃっとりめ (とうとうめ)	・づにん	・まん (まに)
方	6	・われ・わが ・あが・わい	・こごん (こがん)	・へんどうこと	・あっちゃん こっちゃん	・じょーる
言	7	・でえじきゃ (じゃーじきゃ)	・ねっこきゃ	・えずきゃ	・はじがましきゃ	・しゃしゃきゃ
	8	・ぼーきゃ	・しょくない	・あてがり (ぞら)	・かまる	・ごらごら
	9	・かむ	・やろごん (やろがん)	・ひっかする	・おもうわよーい	・まじける
	10	・おじゃりやれ	・あに したろ	・どうもよーい	・そご(が)ん だ一の	・このかんも(さ つまいも)は うんまきゃ

④「今週の島ことば」の作成、掲示・・日常的な取り組み

八丈方言を日常的に意識化するために、各小中学校と町役場などに一週に一言ずつ作成し、掲示してもらっている。2010年10月からスタートして、2013年3月末現在98の言葉を掲示している。

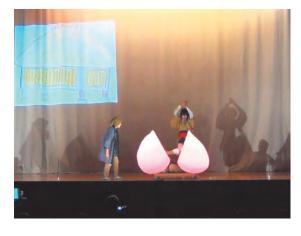
各学校では、廊下等で掲示にし、児童・生徒・ 教職員が日常的に目に触れる機会をふやすとともに、学校を訪れる保護者、地域の人にも見てもらう場として活用されている。

⑤方言劇(小学校の学芸会での発表)

八丈方言を声に出して覚えるには、八丈方言を使った劇が良いと考え、小学校の学芸会で取り組んだ。小学校の地域の話者に協力してもらい、台詞を方言に直した。また、

な ZOT (エロバハーつ(ハロ)

台詞のイントーネーションなどを祖父母に聞いたりして,方言劇をなかだちとする交流が図れた。



学芸会当日は、方言劇に観客から、笑いとともに「懐かしい!」の言葉が聞かれ、八丈方言の入った劇に、会場はなごやかな雰囲気になるばかりでなく、出演した子どもたち教員も貴重な体験を積んでいる。

この写真は、2013年2月に行われた三原小学校での学芸会の一シーンである。台詞の言い回しは、担任の教員ではできないので、保護者や祖父母に聴いてもらい、児童は練習に励んできた。この劇は八丈民話からヒントを得た「桃次郎」である。

すべてが、八丈方言の台詞で演じられ、観客にとって好評であった。2009 年度から今までに、島内の小学校で4本の方言劇を行ってきている。

⑥八丈町教育研究指定校制度の導入で行った八丈町立三原小学校の研究

八丈町の教育課題に取り組む制度として、教育研究指定校制度を設け、2012 年度から発足した。その制度の第一に取り上げたのが「八丈方言」の指導カリキュラム化である。2012 年度は、八丈町立三原小学校が1年かけて研究を行い、その成果を2013年2月27日発表した。島内の教員、保護者、地域の人に呼びかけ、約130人ほどが出席し、公開研究発表会を開いた。講師に国立国語研究所の木部副所長を招請して、示唆の富んだ助言をいただき、密度のこい研究発表会ができた。町教育委員会も全面的支援して成果は多かった。この成果を受けて、2013年度は小学校の全校で1学年、年間3時間ほど八丈方言の学習を行うことになった。



左の写真は、当日のパネルディスカッションの様子で、パネラーには、地域のゲストティーチャーや保護者も入って、学校側だけでない立場からの意見も出されて、三原小学校の成果や課題も確認できた。

小学校なので、難しい理論より「島ことばは楽しい」という遊び感覚で方言を学習するという研究姿勢が成果をあげていた。また、研究テーマに「八丈方言の学習を通して、島や地域に関心をもつ子供の育成」を設定したので、三原小学校では、この研究を深めるに

つれて学校と地域の距離が近づき、その敷居が低くなっていった。当初、八丈方言を話せない、 理解できない教員の意識にも変化が生じてきた。地域の人と一緒に学んでいくことが大切であ ることをつかんだようであった。

2013年度には、中学校の一校が教育研究指定を受けて、中学校での方言学習を研究し、成果を発表する。以降は島の全小中学校で、各学年3時間程度、実施することになる。島の全小中学生は、9年間で合計27時間学習するということである。

⑦教職員研修会

島に赴任するほとんどの教員が、東京や本土からなので、八丈方言については全く知らない 状態である。そこで、教職員対象に、都の教育庁八丈出張所と共催して、毎年夏に希望者向け の研修会を行っている。内容は、理論編と実施編を設け、講師には、方言話者を招いて、実際 に声に出して学ぶ研修内容であり、八丈方言を身近に体験する機会となっている。

2. 社会教育(生涯学習)での取り組み

①八丈方言講座(4年間に6回実施)

八丈方言の貴重さを知り、広めるために、島民向けに「八丈方言講座」を開催してきた。講師には八丈方言研究者金田章宏千葉大学教授をはじめ、専門的な人とともに、島の方言話者にも話してもらった。第4回には、同じ消滅危機言語地域の与論島から講師を招いた。毎回、島の方言

話者にも話をしてもらったことが、講座の参加者にとって身近であり、親しみやすい雰囲気をつくっている。島民の関心も高く、毎回平均 100 人 \sim 150 人程度受講している。しかし、地元出身の若者層(30 歳代 \sim 40 歳代)の参加者が少ないのが課題である。 尚、下の写真は、講座の時の写真である。





②八丈・島ことばカルタ大会(2年間に2回実施)

島ことばカルタを作成したので、家庭や小学校、保育園で遊び感覚でカルタを楽しむ子どもたちの姿がみられた。そこで、小学生から高齢者を交えたカルタ大会を企画した。当日は、小学生の参加者が多かったが、保育園生、中学生、大人、高齢者も入り、なごやかに実施された。ルールは八丈島ルールで、絵札だけでなく読み札も並べ、絵札とともに取れるルールで、年齢別の部と交流の部と行っている。読み手には、各地域の人を呼び、その言葉で詠んでいる。小学生から高齢者まで同じ会場に集まり、楽しめるカルタ大会になっている。

高齢者の参加者からは「小学生と一緒になってカルタができて、楽しかった」という感想がよせられている。2回目からは、参加賞や賞品を用意した。





カルタ会の様子

③島ことば教室

実際の八丈方言を声に出して体験しようという企画で、方言話者を講師として招き、2012 年度に 3 回連続で実施した。各回ともに 20 人ほどの参加者があった。特に、島外から来て島に住みついた人たちにとっては、初めての体験ができ、好評であった。

2013 年度には,30 歳代~40 歳代の親と子ども(祖 父母と孫)との「親子島ことば教室」を企画した。

④八丈方言文法講座

八丈方言研究者の金田章宏氏(千葉大学教授)に、 島民のために八丈方言の特徴である文法について、 2回にわたり講座を開講していただいた。島の人向 けに平易に解説していただき、2日間6時間の講義 であったが、のべ30人ほどの参加者があった。



⑤八丈島の代表的な民謡「ショメ節」の歌詞 100 句 の収集,作成

八丈島に昔から伝わる代表的な民謡「ショメ節」には、たくさんの八丈方言が入っている。この民謡は、かつては宴会の席上や盆踊りなどには、必ず歌われていたものであるが、最近はカラオケの普及等で歌われなくなってしまっている。そこで、八丈方言が入っている歌詞を収集して、100句にまとめ



た。「ショメ節」は7・7, 7・5形式の歌詞なので、上の7・7, 下の7・5の言葉に分けて詠むゲームとして考えた。いわゆる百人一首のルールである。老人会などで何回か開催したが、懐かしさのあまり一緒に歌いだす高齢者もいた。

⑥広がりをみせる取り組み

2009年度からスタートした八丈方言を知り・広める活動であったが、島民に少しずつ知られようになり、理解者が増えてきると共に、島民の間に八丈方言を話すことが恥ずかしいという意識はなくなってきていることを感じる。

- ・高齢者劇団「かぶつ」(八丈方言 ダイダイの意)の方言劇の上演高齢者の芝居好きの素人の人達が集まり、八丈方言による芝居を上演している。高齢者演芸会や保育園・小・中学校で上演してきた。中でも、八丈民話の「ベニ皿(じゃら)・カケ皿(じゃら)」は、東京での公演を実現した。2013年6月には、「不思議なきのこ」という演目で山梨県の南アルプス市で行われた交流発表大会で演じた。
- ・マスコミが注目して取り上げてくれる機会が増えて、島民外にも活動が知られるようになった。 活動を始めて4年経過するが、この間、数多くのマスコミが注目してくれて、メディアで八丈 方言のことを取り上げてくれた。活動の様子を島だけでなく、島外にも知られるようになった。 NHK、朝日新聞、東京新聞、ラジオ、雑誌などで紹介された。また、島の週刊ミニコミ紙「南 海タイムス」にも、度々ニュースとして取り上げて、島民に取り組みを知らせてもらっている。





劇団「かぶつ」公演

「中日新聞」記事

3. これからの取り組みと課題

①「危機言語サミット」(仮称)の実施 2014年度予定

日本の8地域の言語が消滅の危機にあるという発表をうけて、その地域の人たちが集まり、その地域の実態を知り、これからの活動をお互いに支援しながら、横の連携とりあいながら、継承運動を進めていこうという会を2014年に八丈島で開こうと考えている。これまで、活動が八丈島という点であったのを、日本全体の面に広げるという発想である。その際には、文化庁、国立国語研究所、沖縄県、鹿児島県、北海道の関係者、各方言の研究者とともに開催できることを願っている。

- *開催予定時期 2014年12月
- *場所 八丈島
- *招請する地域 消滅危機言語の認定を受けた8地域
- *招請する予定者 1地域3人程度,各方言研究者(1人)
 - *2013年度は、準備、広報活動。2014年度は、実施に向けての具体的な活動を行う。

②「島ことば(八丈方言)冊子」(全12ページ)作成. 島民に全戸配布

2013年度 八丈方言の価値を全島民に知ってもらい、その文化を後世に伝えるために「島ことば(八丈方言)冊子」を作成、配布し、全島民の意識の向上を図る。

3課題

*次世代に八丈方言を継承するための取り組み

「子ども世代が話さない」ということが、消滅にいたる道であるが、現状では、若い人(30歳代~40歳代の親世代)の意識がそんなに高くない。これらの世代が方言継承に関心を持ち、積極的に継承する担い手になっていく必要がある。そのためには、

- 1. 親世代への関心を呼び起こす活動の提起
- 2. 現在八丈方言を話せる祖父母世代から、若い人や子どもたちへの継承

3. 子ども世代が、学校で習ってきたことを、家庭・地域に広める。

*島民への意識の向上

「こんなことをするのは、懐古趣味である」「なくなってしまうのは、どうしようもない」という意見をもっている人に、八丈方言の価値と活動の意味を伝える活動を展開する必要がある、と同時に新しいアイデアを取り入れ、島民誰もが楽しめる企画を考えるとともに、日常的に島民が触れる機会をもうけられたらと思っている。

おわりに

八丈町の学校教育において、小学校では2013年度より1学年年間3時間、中学校では2014年度より1学年3時間 方言学習を始める予定である。八丈島で学んだ児童・生徒は合計27時間、学習することになる。学校から、家庭や地域に発信する体制ができるので、大いに期待するところである。家庭と学校と地域の中で、学校の役割が果たす役割は大きい。学校で学んできた八丈方言(島ことば)を子どもたちが父母に話し、分からない言葉などは、祖父母に聞く。そこで、祖父母の力を借りて、また子どもに環元させる。そのような循環が実現することは、可能であると思う。学校で学んだことを、家庭や地域で交流することにより、八丈方言のみならず、郷土を愛する児童・生徒に育っていくことを願っている。

最後に、八丈方言を知り・伝える活動のめざすことは、単に、方言の知識を増やすのではなく、 島を愛することにつながり、島民に誇りをもつきっかけになると考えている。

. 19 ユネスコの危機言語発表
\mathcal{O}
% 2009.
まとば普及活動経過

2013. 10. 08

-日本で一番古い日本語が残る

と を 開 と

※大中と三原中が、方言 ではなく体育・ダンスを 〇八丈町教育研究指定校 2/5 発表会•講演会 (講師: 演・大小PTA・家庭支援セ ○「ふしぎなきのこ」公 〇八丈方言(島ことば) 串 演・大小以外の小・中学校、 $\sim 17:00$ H25 (2013) 年度 (予定含む) ○言語調査の講演報告会 三原中学校 子 12ページ8000 部 ○メのつく言葉カード 八大高校視聴覚ホープ 方言講座2回7・8月 ○体の言葉等カード (11 月 9 日 13:30 南アルプス市公演 〇三原小(学芸会 4年生(NPO申請) 12 月~2 月 SET 研究 (三原中) ○方言会話集 三原小学校、 金田章宏) ンダー \sim 66 $^{\circ}$ N ○医療・身体にかかわる方言 一覧作成配布(医療関係、老人ホームなど) 三河 5 地域版作成配布(700)增刷 小・中・高校生語彙調査 748 2/27 発表会 パネゲ ながり 三原小学校 〇研究指定校制度導入 ○言語調査と講演報 告会(9月) 方言講座1回・7月 5年生(学校申請) 〇三原小(学芸会) 12 月~2 月 SET H24 (2012) 年度 富士中学校、 No59~98 団体、小学校全家庭配布 ○大中1年 川柳と表現 ショメ節百句手作り作成 4~6年生 (発表5年) 方言講座・2回7・8月 〇末吉/1学校(奨励校) 保育園と老人会、地域) ・10 月川柳やすみりえ 〇大質郷小学校学芸会 (図書館祭、東京公演 〇研究指定校制度発足 ○ [ベニジャラとカが、ヤラ] 全中学校と三根小 10月~11月 疗ス •11月 表現 疗ス 富士中学校、小学校 124・25 は方言取組 〇末吉小学校表現 4年生(学校申請) 12 月~2 月 SET H23 (2011) 年度 (NPO 申請) (別) (別) No20~58 全校・オープニング(学校申請) 熊雄さん民話 DVD (約200枚) 方言講座・2回7・8月 ○三原中学校歌づくり 5月石野田奈津代 2年生(学校申請) 一种核 〇三根小学校学芸会 6年生(学校申請) 〇末吉小学校学芸会 11月~1月 疗ス 12 月~1月疗ス H22 (2010) 年度 富土中学校、 $No1 \sim 19$ 手作り 〇大質鄉小学校学芸会 ※SET=スーパー・エキ 小・中・高校生語彙調査 セントリック・シアター 方言講座2回7・8月 中野ケアセンター 島ことば100作成 大賀郷中、小学校 1 SET (学校申請) H21 (2009) 年度 〇「大きなカフ (他) C保育園) 小学校全校 — χ̄-̄-̄-̄-・文科省 (コミュ ニケーション能力 劇団「かぶつ」公 演 向上。H22~24年 · 文化庁 (言語活 夏期教職員研修 国立国語研究所 総合、国語学習 今週の島ことば 学校研究アート 動。H21年度) その他製作物 カルタ作成 < 演劇等 > 島内調査

紙芝居		桃太郎・手作り (川上)	桃太郎・大判 (A3) サイズ	七夕様(川上)	
島民向け講演会	○講師一金田章宏	○講師—金田章宏	○講師―与論島・菊秀史	〇9月国立国語研究所調査時	〇国立国語研究所調査結
(八丈方言講座)	方言で語る	\sim		講演会 120 名	,,,
	2009. 11. 28	101名参加 6月 13日	151名参加 10.29	〇島民向け方言教室6月20人	(第7回講座) 11/9,
	85名参加	〇講師—金田章宏	○講師─国立国語研究所・	〇八丈方言文法講座	人大高校視聴覚ホール
		5地区の方言対話	木部、千葉大・金田、島の人	千葉大学金田章宏	公
		195名参加9月4日	3月18日105名	(11月18名、3月10日・16	○島民向け親子島ことば
				名)	教室7月13・14日(延ぐ
					20人)、9月23日9人
					〇八丈方言文法講座 (講
					師:千葉大学金田章宏)
インペト		〇図書館祭 (方言百)	○図書館祭カルタ 7/3	〇カルタ大会1月20日、競技	レタ大会
		7月	○カルタ大会1月28日	50名、ギャラリー22名、教委	競技名、ギャラリー
			掛し	等9名(青少年委3名含む)	教委等
			100以上		
老人会等			老人会でカルタ紹介	○老人会方言カルタ、ショメ	○老人会方言カルタ、ショ
				節カルタ	メ節カルタ 11/14、2/
					14
					〇食育講演会での支援
					10/20
町予算関係	○学校教育	○学校教育	○学校教育	○学校教育	○学校教育
	〇生涯教育	〇生涯教育	〇生涯教育	〇生涯教育	〇生涯教育
国などの調査等		東北大学 (?) アルト		〇国立国語研調査 (9月)	○国立国語研究所調査結
				〇琉球大学調査 (1月)	果報告会・シンポジウム
				〇方言シンポジウム	11/9、八丈高校視聴覚示
				3/20、沖縄県立博物館・	ブー
形材したもの			選影十川 大野川県	天が居 マイン・スナイン	
その他		,首徳地区 公 開講座	、一班		
<u>]</u>			() 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
			○観光協会ツィッター掲載		
取材されたもの		○「おれとじいちゃんの島こと	○「おじゃりやれ運動会」	ONATHONAL GEOGRAPHIC	○読売新聞
		MHV—[#/	—NHK 12 月 放映	○東京新聞	
		3月放映	ONPO 環境教育推進協	〇中日新聞	
		〇朝日新聞 (2回)	→You tube 「方言ってなん	〇朝日新聞	
		〇ジパング	だろう」	○有5政新報	
		○南海タイムス	OMX テレビ 2/8 放映		
			〇南海タイムス		

八丈語と八丈島の歴史

林薫

八丈語は、他のどの地域にもない文法構造をもっている言語で、日本では古い日本語の要素を含んでいると言われている。この八丈語を歴史的に位置づけることは、他の地域の言語も同様だと思われるが、困難なことと言わざるを得ない。一般的に言って、普通の人が話す音声言語が記録に残ることは極めて稀である。また、記録が可能になったのは、文字が使われるようになってからであり、その場合、八丈島が記録に出てくるのはかなり遅く、それも稀だからである。従って、あまり要領を得ない、憶測の多い内容になってしまうが、言語的な観点を意識しながら、八丈島の歴史を綴ってみたいと思う。

1 八丈島の縄文・弥生と古代

1. 1 八丈島に存在する遺跡

八丈島における先史時代の遺跡には、分っているものとして、次のようなものがある。

<湯浜遺跡> 八丈島で一番古い人間の足跡と言えば、湯浜遺跡である。約7000年前の縄文

時代のもので、竪穴式住居跡4(写真は1号住居跡),石斧・叩き石・石皿・神津島産の黒曜石剥片などが出土した。土器は、原料の粘土が八丈産と思われる無紋厚手で脆い丸底深鉢形の物であり、本土との系統が分らないため、南方系ではないかなどと言われたが、はっきりはしていないものである。ある程度の集団で渡って来たものと思われる。

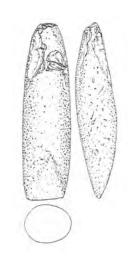
<倉輪遺跡> 約6000年前のもので、住居跡2以上、人骨3体分(写真参照)、近畿関東系の土器、神津島産の黒曜石で作った矢じりや剥片、蛇紋岩製の装身具、大量のイノシシの骨、釣り針、その他石器類が大量に出土した。約200年間居住し、丸木舟で船団を組んで、他の島などと往来していたとも考えられている。

<南方系石器の出土地> 出土地がはっきりしないため発掘調査もできないでいるが、島内各所から出土した、次のような石器群がある。すべて、弥生時代前期の物と考えられている。

①大型円筒石斧群で、琉球列島・五島列島・鹿児島県南部、そして、 本州の太平洋沿岸地域に分布するものと共通性をもつ物(写真参照)。







②小笠原・マリアナ諸島に多数存在するタガネ状石斧(これは八丈から移民した人が持ち帰った可能性もある)。③屋根型石斧で八重山諸島に特徴的に発見される物。これらは、意図的にやって来た者、漂流して来た者などによって持ち込まれた物であったであろうが、良く分かっていない。 <八重根遺跡> 漁港の拡張に伴って、調査された遺跡である。第一文化層は、弥生時代後期から古墳時代前期のもので、掘立小屋の集落をつくり、地元の安山岩・玄武岩を使った多くの剥片石器を用い、魚介類の調理を行っていたと考えられる。また、多数の炉跡があることから、火熱

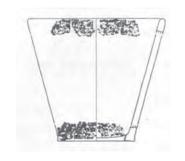
を利用して魚介類の加工を行っていた可能性が高い。第二文化層は、古墳時代から奈良・平安時代のもので、神奈川県の海岸部から来島し、百基近い炉を作って本格的な鰹加工工場を建設、地元の粘土を使って八重根式と言われる多数の煮沸用鉢形土器を製作し、鰹節製造等に利用していた。これらの産物がどのように流通したのかははっきりしないが、大量であることから島内消費のみだったかは疑問である。中国銭(太平通宝、天禧通宝)や糸紡ぎ用の紡錘車も出土している。第三文化層は、中世・近世のものであるが、ふいごの羽口などが出土している。また、江戸時代のものと思われる、大地震と大津波による、白い海砂が挟まった地割れも出ている。

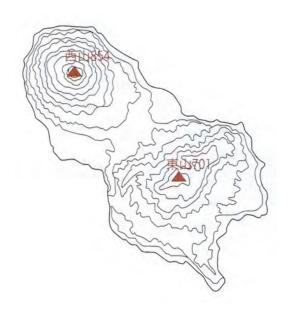
< 火の潟遺跡> 平安時代の製塩遺跡である。 使われた土器はバケツ形の物(図版参照)で珍しいことに西日本系ではなく、能登半島、佐渡島、 津軽海峡、東北地方太平洋岸を通り、房総半島に 達し、そこからの渡来集団によって持ち込まれた ものと思われる。生産した人々や生産された塩が どうなっていったのかは、不明である。

これらの遺跡は、そのほとんどが三原山(東山)の地域に存在する。八丈島を構成している火山は2つあり、古い三原山は10数万年前から活動していたことが分っている。新しい八丈富士(東山)の活動は、約1万前から慶長10(1605)年までであり、八丈島はこの二つの火山が接合してできている繭形の島である。八丈島で活動していたこれらの古代人たちは、八丈富士の噴火活動が盛ん









な時代に活動しており、溶岩地帯で水もなく、噴火活動真っ盛りの八丈富士には近寄らず、三原 山の地域で活動していたと思われる。

さて、これらの遺跡が、八丈島の遺跡を網羅しているとは考えられないものの、以上のことから、次のようなことが言えるであろう。八丈島は、かなり古い時代から、黒潮を乗り越えて、本

土などからの渡来人があった。縄文時代などは断絶した形での渡来であったが、弥生時代ぐらいからは、かなり定住的に生活していたのではなかったかと思われる。人の通常的な移動は、直接本土まで行ったとは思えないが、他の島との交流は一定程度あったのではなかろうか。

また、弥生時代以後でも、ある時期にまとまって渡来し、鰹節製造や製塩などを行っている事例もある。しかし、この人たちが残存したのか、移動していったのか、一部残存したのかは、不明である。

1. 2 縄文・弥生が残る島,八丈島

八丈語は日本語のルーツの一つと言われ、縄文時代の言葉の流れを汲んでいると言われているが、八丈島は、次のような、縄文・弥生の痕跡が残っている珍しい島ではないかと考えている。 こんな小さな島に、こんなに多くの要素が残っている所はないのではないかと思うのである。

- ① 八丈にある高倉(写真参照)は、奄美や沖縄の高倉のように床から柱を立てる形式とは全く 違い、柱が直接地面から屋根まで伸びるもので、弥 生時代の登呂遺跡と同じ形式であると言われている。
- ② 八丈島にある,古代織と言われるカッペタ織りは, アイヌのアツシ織や沖縄のミンサー織と同様,機台 をもたない古い形式の織物である。環太平洋の国々 などで残っている所もあるようだが,日本ではこの 3地域だけに残るのみである。ただし,現在のカッ ペタ織は,多綜絖で二重織になっているなど,後に 付加されたと思われるものがあるので,かなり複雑 な織物になっている。
- ③ 兵那婆伝説と言われるものがある。海津波や山津波によって、ただ一人女性が生き残り、生まれた自分の子どもと夫婦になって、島の始祖になったという、母子交合伝説である。末吉地域は山津波で長い髪の毛が木の枝に絡んで生き残ったとし、他の地域は櫓に掴まって海岸に流れ着いたことになっている。日本に残っている始祖伝説できちんとした母子交合伝説は、八丈島だけだと言われている。沖縄などには兄弟婚は残っているが、母子婚の話はないようである。婚姻規制が強まる前の最も原始的な結婚形態を伝えるものであり、これは、東南アジアなどには残る伝説だということである。日本で最も古い婚姻譚と言える。(写真は明治時代に作られた丹那婆の墓)
- ④ きちんとした文献記録では読んでいないが、八丈島の玉石垣(写真参照)や石場様信仰などは、古い南方系の遺産であるということを聞いたことがある。また、小田原北条氏の時代にわざわざ女性を差し出



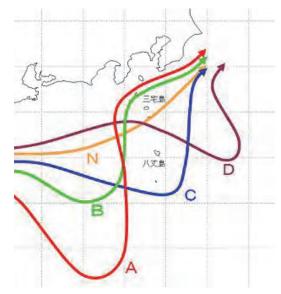




して送ったという史実があるぐらい,八丈島は昔から美人が多いと言われているが,それは人種の系統が違うからだとか,八丈人の骨格を昔調べたら,古代人的な要素が強かったというような話もあるが,文献的には確認はしていない。

⑤ これは、単なる伝説かも知れないが、八丈には徐福伝説がある。秦の始皇帝の時代に、不老不死の薬を求めて、皇帝の命を受けた徐福が船団を組んで船出し、途中難風に遭って四散、500人の女児を乗せた船は八丈島に、500人の男児を乗せた船は青ヶ島に辿り着いた。しかし、男女同棲は許されず、年に1度男が船で八丈島に渡って来て夫婦の契りを結んだという。この習慣を打ち破ったのは、大島に流された源為朝で、八丈まで侵出して来て男女同居の法を身をもって教えたという。

これらのことから言えるのは、海のもつ多様性・可能性・拒絶性である。海は、人や物の交流を促進するという側面と阻止するという側面をもっている。特に、世界最速と言われる黒潮(日本海流。図版参照)が流れ、御蔵島からの途中には島が存在しないという地理的条件の影響を強く受ける八丈島は、本土との行き来を制約する面が大きかったと思われるのである。現代であればエンジン付きの船であるが、古代などは丸木舟であるから、渡ってくるには、かなりの苦労があったものと思われる。こうした絶海の孤島であった八丈島は、その故に、日本では珍しい、「縄文・弥生が



残る島」になったのである。(図版の N が通常の黒潮の流路。 $A\sim D$ は大蛇行の流路を表す)言葉は人とともに伝わって来るもので、文書などとともに伝わり流布するものではない。八丈語の基礎はいつごろ築かれたものであるかよく分らないが、定住性を考慮すると、多分、縄文末か弥生時代ごろなのかもしれない。

2 八丈島への人々の流入の歴史・・・八丈語に与えた影響は?

八丈語の基礎が縄文末・弥生時代にでき、また、八丈語の文法的な基礎は変化しにくかったとしても、語彙が、流入してくる人々によって影響を受けることは、当然考えられることである。 これを時代に沿って見てみたい。

まず、中世以前で、八丈島が文献などに出てくることは非常に少ないが、次のようなものがある。延喜式(延長5 (927) 年撰進、康保4 (967) 年施行)に、八丈の優婆夷・命・神社、許志・(・命・神社が載せられている。両者は、事代主・命・の妃と子どもされていて、丹那婆伝説の丹那婆(種婆とも書かれる)とその子に比定され、過去には別々であったが、現在は優婆夷宝明神社(写真参照)



として合祀されている。同じく,延喜式の記載によれば,朝廷の行事として,亀の甲羅を焼いて吉凶を占う亀がが行われていたが,卜部は対馬から 10 人,壱岐から 5 人,伊豆から 5 人出仕していたという。伊豆というと伊豆半島も含む広い地域になるのだが,江戸時代であっても文献で亀卜が出てくるのは,八丈島だけなので,あるいはこの伊豆は八丈島のことかもしれない。幕末まで,樫立・中之郷地域では,亀卜が行われていたという。亀卜は,朝鮮系ではなく中国系の占いであると言われている。従って,これもまた,黒潮文化の産物であるのかもしれない。これらから,八丈島と中央政府との関係性があったことは分るのだが,中央語と八丈語との関係性がどうだったかは,よく分っていないのである。多分,ほとんど関係性がなかったのではなかろうか。

次に、八丈島の島名由来になったと言われる、八丈絹に関係して考察してみたい。八丈絹とは長さが曲尺8丈(24メートル)の絹織物ということであり、平安時代末から鎌倉時代にかけて各地に現れてくるものである。従って、そのころに、八丈島も長さ8丈(通常の織物は長さが4丈)の絹を産出していたと思われるのである。八丈絹というのは、特殊な価値の高い絹織物を言うのであり、八丈島に絹織物の高い技術があったことを意味することになる。奈良時代には、朝鮮から帰化した秦氏(織物が得意だったという。服部氏等の祖)などが武蔵の国などに入植させられ、絹織物を発達させたと言われている。例えば、埼玉県高麗神社は高句麗国(667年に滅亡)の高麗若光王を祭神とするが、日本の中央部(近畿圏)には受け入れてもらえず、神奈川県の大磯(大磯の高来神社の祭礼はそれを模したものという)に上陸し、先行した韓人が多くいた武蔵の国に入ったという。これは、当然、一定の人数の集団だったのである。また、奈良朝廷などは、絹織物の生産量を上げるために、地方の桑の木の植栽目標を立てたり、国衙で絹織物の生産を行わせたり、そのための技術指導員を地方に派遣したりしている。そうしたグループが、八丈に遭難して上陸したようなことがあったのではないか、と思われるのである。一定の人数の技術の高い集団がくれば、言語的に一定の影響は出てきてもおかしくないし、専門用語は当然そのまま定着すると思われる。

さらに、鎌倉時代以後は、鎌倉幕府や神奈川 (今の横浜)の奥山氏、小田原北条氏などが八 丈島を支配した。宗主地との交流や支配者とし て派遣された神主や代官、また僧侶などの影響 である。支配者として派遣された人々は、人数 としては多くなくとも、支配者として来ている ので、当然影響はあったはずである。江戸時代 にあっては、八丈島のみ寛文9(1679)年まで 派遣された代官が島を支配していたが、遭難な



どが多いため、代官手代が派遣されるようになり、その後享保8 (1723) 年から島人の有力家に 地役人として支配させるようにした。本土から代官や手代が派遣されて来ていた時は、そうした 人々の言語的影響はあったであろうと思われる。(写真は、江戸時代の支配者がいた陣屋跡)

よく、流人の影響が言われるが、あまり影響していないのではないかと思われる。八丈島の、慶長 11 (1606) 年から明治4 (1871) 年までの流人総数は2000人弱であるが、一番多い時の在島数は幕末で350人ほどである。流人はあまり尊敬の対象にはなっておらず(宇喜多秀家でさえ、尊敬の対象にはなっていない)、初期の流人は極端に少なく、また、同じ地域から集団で来ているわけでもない。影響が考えられる具体的な事例や語彙もよく分っていないので、憶測で

あるが、そのように思う。ただ、本土への憧れのようなものはあったようであるから、一定の影響はあったのかもしれない。

漂流民は非常に多いのだが、ずっと島にいない例が多いので、どの程度影響があったであろうか。八丈に残る民謡などは、流人より漂流民の影響の方が大きいと思われる。ちなみに、元禄14 (1701)年の八丈島の人口は、3065人である。大賀郷・中之郷と郷のつく集落は古代らあったであろうが、三根村・樫立村・末吉村などは、江戸時代に分村したと言われるので、当然、中世以前の人口はもっと少なかったであろう。どれぐらいの母集団に対して、どれほどの集団が来ると影響が出てくるのだろうか。単純な数の問題ではないと思うが・・・。源平の争いや南北朝の対立などの時にも、八丈に移動・漂着した人たちがいたようだが、どういう影響があったのか、なかったのかは、よく分らない。

ただし、特徴的なことでは、コック場(台所)やカノー(カヌーの八丈方言。写真参照)といった言葉が入って来ていることである。これは、明治9年から始まった小笠原の開拓に、八丈島から多くの人々が参加し、その人たちが明治時代末や大正時代に小笠原の文物を持ち帰ったものの中の一つであると考えられている。このような事例から考えると、ケース・バイ・ケースで、何かのきっかけで残る語彙もあるということである。関連



して言えば、小笠原や南大東島の開拓には八丈島の人々が大きく関わっており、そうした所にも 八丈語の残滓が現在でも存在する。

明治時代末ぐらいから房総半島などより、春のトビウオ漁に大勢(500人とも言われる)出稼ぎに来たり、そのまま住みついたりしたことがあった。漁業者の中に、その言語的な影響はあるようだが、一般の人々への影響はあまり感じられない。漁具の一種・すかりなどは、一般化しているが、これなどは、こうした導入語になるのであろうか。

なお、一般家庭で八丈語がほとんど使われなくなってしまった現在では考えられないが、東兵エじい(大酒飲みの人)、運祐じい(大声の人)、清兵エじい(大食いの人)など、特徴のある人の個人名が方言になり、他地域でも使われるといった事例もある。狭い社会だからありえるのだと思うが、面白いことだと思っている。現在八丈島に生きている人でも知っているレベルの言葉であるが、こうした言葉が、出て来ては消え、出て来ては消えしていたのであろうか。地名などでも、個人名のついた浜や大石、土地の名前があるが(例えば、郵便局長が事故にあったから、局長浜とか)、そういった個人の事件等にからんだ名称だと思われる。これも一種の方言になるのではなかろうか。

方言の定義をどう考えるかによるが、共通語と違うことを言うのか、あるいは、八丈だけで使われていることを言うのか、様々な考え方がありうると思うが、共通語と違うという観点で考えるならば、他地域との共通性はかなりあることになり、語彙などの伝播はそれによって推測できると思うが、いつ・どのようにということを知るのはかなり難しいのではないかと思われる。

参考文献

浅沼良次(1965)『八丈島の民話』未来社

石田英一郎 (1984)『桃太郎の母』講談社学術文庫

厳原町史編集委員会(1997)『厳原町史』

大間知篤三(1951)『八丈島 -民俗と社会-』東京創元社

小田静雄 (2005)「八丈島の先史文化」国学院大学考古学資料館『国学院大学 考古学資料館紀要』 金達寿 (1986)『古代朝鮮と日本文化』講談社

近藤富蔵(1964-)緑地社版『八丈実記』

東京都教育委員会(1984)『八丈島湯浜遺跡』発掘調査報告書

東京都八丈町教育委員会(1987)『東京都八丈島倉輪遺跡』発掘調査報告書

東京都港湾局・八丈島八重根遺跡調査会 (1993)『東京都八丈島八丈町八重根遺跡発掘調査報告書』 東京都八丈町教育委員会 (1991)『火の潟遺跡』発掘調査報告書

角山幸洋 (1968)『日本染織発達史』田畑書店

永原慶二 (2004) 『苧麻・絹・木綿の社会史』吉川弘文館

八丈町教育委員会・(株)文化財保存計画協会(2009)『東京都指定有形文化財(建造物) 高倉 (六脚倉) 保存修理工事(移築)報告書』

山田平右ヱ門(2010)『消えていく島言葉』郁朋社

山本節 (2010)「東京都八丈島八丈町におけるタナバ (丹那婆) の伝承」西郊民俗談話会『西郊民俗』 210

八丈方言調査データ

八丈方言基礎語彙データ (音声記号表記)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-001	頭(あたま)	tsuburi (里芋の 種イモも)	tsuburi	tsuburi / atama (新)	tsuburi	tsuburi〜 tsüburi (頭脳、 里芋の種イモ)
H-002	髪の毛	tsuburinoke / tsuburinokebu co	kebico	atamanoke / kaminoke	tsuburinoke	kaminoke / tsüburinoke
H-003	つむじ	tsumudzi~ tsumuzi	tsumudzi~ tsumuzi	tsumuzi / tsumudzi / uzu	tsumudzi	tsumuzi~ tsümuzi
H-004	ふけ	фѡ҈ke	фшке	фѡ҈ке	фшке	фѡ҈ke
H-005	白髪 (しら が)	eaga / eiraga	caga	eaga (eaga ni narw 白髪にな る) / eiraga	coăga	eaga (eagaga eikkaridagano 白髪が多いね)
H-006	目 (め)	mentama / manako	manako	manako	medama (全体 を指す) / manako	manako (manakoga jamek ^j a 目が痛 い)
H-007	眉(まゆ)	majuge / mami / mamige / me:ge /	mamige /	majui / majuige / mami	majuu/ majuuge/ mamige	majuuge (mamige まつ げ?)
H-008	額 (ひたい)	çite:	çite:	çite:	çitĕa [.]	çitea:
H-009	鼻 (はな)	hana	hana	hana	hana	hana
H-010	鼻血(はなぢ)	hanadzi	hanadzi / hanazi	hanazi / hanadzi	hanadzi	hanazi
H-011	耳 (みみ)	mimi	mimi	mimi	mimi	mimi
H-012	口 (くち)	kwtci	kwtei	kutei	kwtci	kwtei
H-013	唇 (くちびる)	kuıtçibiruı	kuteibiru	kuteibiru	kuteibiru	kwteibirw
H-014	舌 (した)	cita / bero (古)	bero / cita	kutcibero / bero /	cita/ kutcibero (昔こう言ったか も)	cita / bero
H-015	歯 (は)	ha/nwkaba(抜 けている歯)	nuukaba	ha / nukaba	фŭa ⁻ / nwkaba (全ての歯)	nukaba
H-016	歯茎 (はぐ き)	haguı / haguıki	hagu:ba / haguki	haguı / haguıki	haguiki	haguiki
H-017	顎(あご)	ago / otoge: (あ ご先)	otoge: / otogei (アゴ全体のこ と)	otoge: / ago	ago/ otogĭa·	otag ^j a:/ago/ agui (aguiga harete あごがは れて)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-018	髭 (ひげ)	çige / hege (古) / ho:çige	çige / hege	çige	çige	çige
H-019	毛 (け)	ke [.] / kebuico	kebego / kebigo	ke	ki (髪の毛も体 毛も)	ke/kebici (脇毛や陰毛)/ kebuso (とうもろこしのひげ)
H-020	顔(かお)	tsura (古)	tsura	tsura (古) / kao	kao	kao / tsuura (乱 暴な言い方)
H-021	首 (くび)	kwbi / nodo (前)	kwbi	kwbi	kwbi	kwbi
H-022	肩(かた)	kata / ke:na	kata / keːna	kata / ke:na	kata	kata / ke:na (古)
H-023	胸 (むね)	mune / muneutci	muine	munaita (〜が厚 い,〜が痛い,全体 に使う。心臓・胃 などにも)/mune	munada	mune
H-024	乳 (ちち)	teitei / oppai	oppai	tci / oppai	oppai / teitei	oppai (「牛の搾 乳」は teiteisibori とい う)
H-025	腹 (はら)	χara∼hara	hara	hara	фагŏа	hara
H-026	背中 (せな か)	ke:na / hedaka	hedaka	hedaka / hadaka (古) /senaka (新)	hedaka (背中全体: 肩から腰までを指すか) / kia:na (背中上部を指すか) ー フェム」)	senaka / hedaka
H-027	肝 (きも)	kimo / фwgi (内 蔵全体)	kimo	kandzo:/kimo(魚の肝,人間には言わない)	kimo	kimo/ фwgi (魚 のはらわた)
H-028	臍 (へそ)	heso	hettcogo	heso / hessogo	hetteogo	heso / hettcogo (古)
H-029	腰(こし)	koçi	koci	koçi	koçi	koci
H-030	尻(しり)	simbeta	simbeta	siggeta / siri	sibbeta	ociri / cibbeta / cirippeta / cippeta
H-031	肛門 (こうもん)	ketsumoana / ko:mon (新)	kikumogomon / ko:mon	kwsomari (kwsomari jamerw 肛門が痛 い)/ko:mon	NR	ko:mon
H-032	手 (て)	te / tembo: / tambo:	te	te:/çira:(拳)/ tabbo:(物をもらう ときの手の形)	te	te / tabbo~tabo: (手の平)
H-033	腕 (うで)	uide	uude	uide	uude (手首まで)	uide
H-034	肘 (ひじ)	çi ^d zi∼çidzi	çi ^d zi / çizi	çizi ∼çidzi	çidzi	çizi

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-035	力 (ちから)	udeppusi / tsikara	teikara	NR	tcikara	tcikara / udeppuci ga tsüjoi (力がある)
H-036	拳 (こぶし)	geŋkoʦɯ / geŋko	geŋkotsɯ / kobwsi	kobuici / geŋko / geŋkotsui	geŋko (こぶしそ のもの) / geŋkoʦш	kobuici / geŋkotsü
H-037	筋 (すじ)	sudzi	suzi	swzi~swdzi /	sudzi	suızi~süzi
H-038	指 (ゆび)	jwbi/ibi(古)	jwbi / ibi	jubi	jubi / ibi	jubi
H-039	爪 (つめ)	tsume	tsume	tsume	tsume	tsume∼tsüme
H-040	足 (あし)	aci / acinoke:na (足の甲)	anaçita (足のうら) / açi / açi	aci / akke: (靴を 履く部分) (akke: bozi 大きい足)	aci	aci (aci で全体)
H-041	腿 (もも)	фциtomomo / фшtohagi / momo	фциtomomo / фциtohagi / momo	momo / фuitomomo	momo	momo / фtomomo
H-042	股 (また)	mata	mata	mata / matacita	matagura	mata
H-043	膝(ひざ)	çidza~çidza	çi ½akabura / tsugume	çizakabuı / çiza	çidza / çidzakamburi (古)	çiza / çizakabuıra
H-044	くるぶし	ke:buɪɕi / kuɪruɪbuɪɕi	kurubuei	ke:bwsi / kwrwbwsi	ki:bwei	kurubuci
H-045	脛 (すね)	sume / akke:	suine	hagi / swne / akke: (古)	hagi/ sume	sune∼süne
H-046	ふくら脛	komuna / фикшrahagi	фұнкшғаһаді	hwkwrahagi / Фwkwrahagi	NR	kobura (koburaga çikkatamatta 足 がつった)/ фkurahagi
H-047	踵(かかと)	kakato (akke: ア キレス腱)	akke: / akkei	akke:/ bozi / kakato	akki:	kakato / akkei (古)
H-048	体 (からだ)	karada	karada	gake: / karada	karada	karada / taikakuı
H-049	背丈 (せた け)	se: / setake	setake	se	sei	wwaze (wwazega arw 背が高い)
H-050	骨 (ほね)	hone	hone	hone	hone	hone
H-051	皮 (かわ)	kawa / ko:be	kawa / ko:be	kawa / ka:	kŭa (果物の皮 も)	koa:be / kawa
H-052	ほくろ	hokuro	kţusube	hokuro (「あざ」 aza は幼児の尻に あるもの)	hokuro (「あざ」 は aza~azŏa)	kwswbe (kwswbega cikkari aroza (ほくろがたくさ んあるね)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-053	涙 (なみだ)	menada / namida (新)	menada	męnada / namida	męnada	menada / namida
H-054	声 (こえ)	koe	koe / koi	koe / koi	ki:	koe
H-055	息 (いき)	iki	iki	iki	iki	iki
H-056	咳 (せき)	seki	seki	seki	ciki/ seki	seki
H-057	唾 (つば)	tsubaki / tsuba	tsubaki / tsuba	tsuba / tsubaki	tsuba/ tsudaki	tsuba / tsudaki (古)
H-058	あくび	akwbi	akwbi	akwbi / akwbi:	akwbi	akwbi
H-059	涎 (よだれ)	jondare	jondare	jondare / jodare	jodare / joddare (古)	jodare / joddare
H-060	屁 (〜)	he	he	çi:ri/çi:ri:(古)/ onara(新)	çiːri	heːri / çiːri (çiːrjo heru 屁 を放る)
H-061	糞 (くそ)	wŋko / kwso / hedda (鳥の糞)	uıŋko/ kwso	kţuso / tuŋko	nitto	nitto (nittoo maruu 糞をす る)
H-062	尿(にょう)	comben / jombari	comben / jombari	comben	comben / jobbari (古)	co:ben / comben / jobbari (jobbario swrw おしつこをする)
H-063	おでき	jombe / jambe (すりきずがうん だもの)	jambe	NR	jabbe	kizü
H-064	たんこぶ	taŋkobw	taŋkobw	taŋkobui	taŋkobw	taŋkobui
H-065	汗 (あせ)	ase	ase	ase	ase	ase (hoto:rw「暑 くて」)
H-066	垢 (あか)	aka	aka	aka	aka	aka
H-067	怪我(けが)	kega (kego: 怪 我を)	kega (kego: cita:no (ケガを したの)	kega	kega	kega
H-068	病気	jonde (動詞) / jandarowa (病気 になる)	jami / b ⁱ o:ki	b'o:ki / jamu: (動 詞、結核などで長 く病床にある人を jamihoroke とい う)	jami / jamib ^j o:ki	jamu (動詞,病 気になる) / bio:gin (病気が ちの人)
H-069	血 (ち)	tei	tei	tei	tei	t¢i
H-070	傷 (きず)	kizw	ki ˈzɯ / kizɯ	kizw~kidzw	kizw	kizuı~kizü
H-071	薬 (くすり)	kwswri	kwswri	kwswri	kwswri	kwswri~ kwsüri
H-072	灸 (きゅう)	ok ^j u:	k ^j w:	ok ⁱ w: (灸に使うモ グサは mogwsa)	k ^j ur:	k ^j u:
H-073	命 (いのち)	inotei	inotei	inotei	inotei	inotci
H-074	木 (き)	ki	ki	ki	ki	ki

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-075	葉 (は)	happa	happa	ha (~oterw 葉が 落ちる)/happa	happa	happa
H-076	枝 (えだ)	eda	eda	eda/edaburi (たくましい枝について)	eda / jeda	eda
H-077	梢 (こずえ)	kozwe	kozwe	NR	tondzaki	NR
H-078	実 (み)	mi	mi	mi	mi	mi
H-079	根 (ね)	ne: / nekko	nekko	nekko / nokko	ne / nekko	ne / nekko
H-080	草 (くさ)	kwsa (kwsa: 草を) / tanari (雑草)	kwsa/kwso: (草を)	kıµsa	kwsa	kwsa
H-081	花 (はな)	hana	hana	hana / e:taba (明 日葉)の呼び名: taro:bana (一番良 い花) / ziro:bana (二番目に良い 花) / saburo:bana (三番目に良い 花)	hana	hana
H-082	種 (たね)	tane	tane	tane	tane	tane
H-083	苗 (なえ)	ne: (ne:je: 田植 え)	ne: / nae	ne: / nae	n ^j ĭa	nae / n ^j a:
H-084	稲 (いね)	tabuı	ne:/ ine/ tabu	ine / okabuı (陸で とれる稲)	ine/ ine (植える とき) / tabuu (刈 るとき)	ine
H-085	穂 (ほ)	ho	inaho	ho	NR	tabuu か (tabukari 稲刈 り)
H-086	米 (こめ)	kome	jone / kome	kome	kome	kome
H-087	籾 (もみ)	momi	momi/ mom ^j o (籾を)	momi (momigara 籾殻)	momi (「籾殻」 は momigara)	momi
H-088	麦 (むぎ)	mwgi	mugi	mwgi (mwgigara 麦殼)	mwgi	mwgi
H-089	藁 (わら)	wara / inawara	wara	wara	wara	wara
H-090	麦わら	mugiwara	mugiwara	mugiwara	mugiwara	muugiwara
H-091	茅(かや	kaja	kaja	kaja (屋根葺き用)	kaja (希)	kaja
H-092	粟(あわ)	awa (w は弱い)	awa	awa / aː (aːmeçi 栗飯)	awa (希)	awa (粟は島に はない)
H-093	稗(ひえ)	çie	hie	粟と区別なし	NR	島にはない
H-094	芋 (いも)	imo (里芋)	imo (里芋)	imo (里芋のこと) / teingo: (小振りの 里芋)	imo (里芋)	imo (里芋)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-095	甘藷 (さつま いも)	kammo	k ^h ammo	satswma / kanco: (satswmaimo は内 地の人か)	kanco / kammo / dziki: (古)	satswma~ satswma (satswma kamoka サツマイモ食べようか) (「さとうきび」は kanca)
H-096	豆 (まめ)	mame	mame	mame	mame	mame / dzikwgwri
H-097	きゅうり	k ^j w:ri	k ^j w:ri	k ^j w:ri	k ^j w:ri	k ^j w:ri
H-098	蓬 (よもぎ)	jomogi	jomogi	jomogi	jomogi	jomogi
H-099	菜 (な)	парра	nappa	na / nappa (大根 の葉、カキナの 葉)	парра	парра
H-100	大根 (だい こん)	de:ko	de:ko / dza:ko	de:ko	dĭa·kon	dza:ko
H-101	冬瓜 (とうが ん)	NR	to:gan	NR	to:gan	to:gan
H-102	かぼちゃ	kabotea	kabotea	kabotea	kabotea	kabotça
H-103	瓜 (うり)	uıri / cimauıri	uri	uri	uıri	wri (まくわ瓜)
H-104	韮 (にら)	nica	nira	nira (島にはなかった)	nira (近代的、最 近のもの)	nica
H-105	茸 (きのこ)	kinoko	kinoko	kinoko (しいたけ ci:take (自生)を指 した)	kinoko (種類で 言うのが普通)	kinoko/¢i:take 「しいたけ」
H-106	きくらげ	mimidabuı	kikurage	dabumimi	dabumimi	mimitabu / dabumimi
H-107	とうがらし	tongaraci	toŋgara¢i	tongara¢i	tongaraci	to:garaci~ tongaraci
H-108	にがうり	NR	nigauri	NR	NR	nigaturi
H-109	胡麻(ごま)	goma	goma	goma	goma	goma
H-110	苺 (いちご)	iteigo / abi (野 いちご)	iteigo / abi (の いちご) / deŋkiabi (のい ちごの一種)	abi	abi	abi (山いちご)
H-111	黴(かび)	kabi	kabi	kabi	kabi	kabi
H-111	麹 (こうじ)	ko:dzi	ko: ½i	ko:zi~ko:dzi (酒 造・味噌に)	ko:zi	ko:zi
H-112	ソテツ	sotetsui	camembana	sotetsui	sotetsய / gocamembana とも	sotetsü (camembana ソ テツの花)
H-113	松 (まつ)	matsu	matsui	matsw	matsu	matsui
H-114	竹 (たけ)	take	take	take (「筍」は tako:na:)	take (「筍」は tako:na)	take

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-115	梅 (うめ)	ume	ume	ume	ume	ume
H-116	桃 (もも)	momo	momo	momo	momo	momo
H-117	桑 (くわ)	kanoki (桑の木) / kabe: (桑の葉) / kanomi (桑の 実)	kabe: / kabei	kanoki (桑の木) / kabe: (桑の葉)	kanoki (桑) / kabĭa (桑の葉)	kabia: (桑の葉) / kabia:noki (桑の 木) / kabia:batake (桑 畑) / kanomi (~ の実)
H-119	すすき	susuki	susuki	swswki	magusa (牛の 餌にする)	swswki
H-120	びろう樹	biro: / ¢ironoki	kwba	biro:	birou	biro:
H-121	ミカン	mikan	mikan	mikan (種類別に komikan, uneu:, bakanari とも)	mikan	mikan
H-122	茎 (くき)	kwki	kwki	kwki	kwiki	kwki~kwki
H-123	あおさ	NR	aosa	NR (hamba 海藻 の一種)	aosa	島にはない
H-124	モズク	NR	mozwkw	NR (budo: 海藻 の一種)	NR	島にはない
H-125	藻 (も)	mo (種類に buido, hamba (nori), nori, tosaka, komonoha)	mo	mo / mo:	mo (希) / teŋgwsa (テング サ)	kaiso: (種類に budo, tosaka, hamba, nori (岩 のり), teŋkusa)
H-126	イカ	ika / ikame	ika / ikame	ika/ ikame	ika / ikame	ika / ikame
H-127	タコ	tako / takome	tako / takome	takome	tako / takome	tako / takome / n ^j okkome
H-128	エビ	ebi / ebime	ebi / ebime	ebi / ebime	ebime / ebi	ebi / ebime
H-129	ウニ	uni / dzaruu (トゲ がないバフンウ ニ)	uni / unime	unime (食べな い)	umi (-me は付かない)	umi / irakazi (ウ ニの仲間、トゲ ばかりで食べら れない) / dzaruu ~dzaruuzaruu (ウ ニの仲間、トゲ が無いバフンウ ニ、食べられる)
H-130	ウニの身	mi	NR	NR	NR (食べなかっ た)	uuni / nakami
H-131	貝(かい)	kai (ke:go: トコ ブシのから)	kai (abuuki あ わび)	総称はない。 metto: (高瀬貝)/ citadami などと種 類別に言う	kĭa:go: (トコブシ の貝殻のこと。 貝の総称はな く、種類で言う のが普通)	kai (ke:go:「貝 殼」)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-134	巻き貝	cittaka (岩に付 く小さいもの) / metto: (ボタンを 作るのに使う)	çitadami	NR (タニシはいな い) / citadami (çirami ミミガイ科 の一種)	citadami	metto: (gai) (巻 き貝の一種)
H-132	カメ	kame / kameme	kameme	kameme	kameme / kame	kame / kameme
H-133	カニ	kanime	kanime	kanime / garimame	kanime / ganime	kani / kanime
H-135	魚(さかな)	jo	jo	jo / sakana	sakana / jɔ / ijo	jo (jo: tsuri iko:gon 魚を釣 りに行こうか)
H-136	うろこ	kokedza / wroko	koke ^d za / wroko	wroko/ wroko: / koke	koke	uroko / kokera
H-137	ウナギ	unagi / unagime	unagi / unagime	unagi / unagime	unagi	unagi (nadame ウツボか)
H-138	クジラ	kwdzira	kur ¹ zira / kurzira	kwzira	kudzira / kudzirame	kwzira
H-139	カツオ	katsu:	katsur:	katsuu: (古) / tatsuuo (新)	katsur:	katswo/ katsw: ~katsü:漁師言 葉)
H-140	トビウオ	tobijo / tobi	tobijo (tobime tsuri ikogo:N 「トビウオ釣り に行こう」)	tobijo	tobijo	tobi
H-141	イルカ	iruukame / iruuka	irwka (me は 付けない)	irwka	irwka	irwka
H-142	ナマコ	wmidzimpo (海 のチンポ)	namako (me は 付けない)	umedzippo	namako	namako
H-143	ヒトデ	çįtode	çitode (me は 付けない)	çitode	çitode	çtode
H-144	ヤドカリ	okagani / kanagome	jadokari (me は付けない)	NR	kanagame	NR
H-145	牛 (うし)	weime / zokw / zokwme / zokkw / zokkwme (雄 牛) / bokko / bokkome (大きな雄牛) / bame (雌牛) / tcoŋkome (子牛)	weime / zokw / bame / zokwme	weime / teoŋkome (子牛)	шєіте	wsime / dzokkw / dzokkwme (雄牛) / bame (雌牛) / tsoŋkome (赤ちゃん牛) / tso:semme (朝鮮牛?,赤い牛)
H-146	馬(うま)	umame	umame	umame	umame	uma / umame
H-147	ヤギ	jagime	jagime	jagime / oswjagi (雄山羊)	jagime	jagime
H-148	豚 (ぶた)	butame	butame	butame	butame	butame

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-149	角 (つの)	tswno	tsumo	tsumo	tsuno	tswno∼tsüno
H-150	とさか	tosaka	tosaka	tosaka (馬のたて がみとしてはない)	tosaka	tategami / tosaka
H-151	犬 (いぬ)	inume	inu/ inume	inume	inume	inume
H-152	猫 (ねこ)	nekkome	neko/ nekkome	nekkome	nekkome	nekkome / konekko (子猫)
H-153	ウサギ	usagime	usagi / usagime	usagi / usagime	usagime	usagime
H-154	ネズミ	nedzwmime / nedzwmi / jorwnoçito (古)	jomedono / nezumi	nedzwmi / nezwmime / jomedono (古)	nedzumi/ jomedono	nezumi
H-155	虫 (むし)	mugime	muei / mueime	muci / mucime	musime	mucime
H-156	アリ	arime	ari / arime	arime	arime	arime
H-157	蚊 (か)	kabume	kabume	kabume / ka	kabume	kabume
H-158	蜘蛛(くも)	kumome / tondzarume (蜘 蛛の一種)	ton zarume / to:zindzaru / to:zindzaru	tengome	tennome	kwmo
H-159	クモの巣	kumomenosu	ton zarumeno sui / kuimonosui	kumonosui / tengomenosui	adzi	kumonosu
H-160	蝶々 (ちょうちょ)	tco:tcome / hettcome / he:rume (大き なハエ)	teo:teo/ teo:teo:me	tco:tcome / tco:tco	teo:teo	tco:tco / tco:tcome
H-161	カタツムリ	katatsumuri / dendemmuci	katatsumuri / dendenmuci	katatsumuri / dendemmuci (昔 は食べたかもしれない)	dendemmusi	katatsumuri / dendemmusi
H-162	カエル	kaerume	kaerume / k ^j a:rume	kaerume	k ^j a:rume	kaerume / k ^j a:rume (古)
H-163	蜂 (はち)	hateime	hateime / hatei	hatci / hatcime (蜂 の種類 abume, buijome (牛を襲 う)	hateime	hatçi / hatçime
H-164	蝿(はえ)	he:me	he:me / he:	he:me	ça:me	ça:me
H-165	蛆 (うじ)	udzimuci / udzime	udzime	wdzi / wzime	udzime	uzime
H-166	蚤 (のみ)	nomime / nomme	nomme /	nomi / numme	nummi	nomi / numme

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
Н-167	ミミズ	memedzuu / memedzuume	meme dzume ~memezume	mimidzu / mimizume	nenedzume	mimizume / memezui / nenezüme
H-168	シラミ	camme∼camme	camme	camme	camme	camme (me は付かない)
H-169	ムカデ	gedzigedzi / mwkadzime / mwkade	mwka zime ~	mwkade / mwkademe	mwkadzime	muukazime
H-170	蚕 (かいこ)	konasama	konasama	konasama (尊敬 語)	konasama	konasama
H-171	カマキリ	kamakiri (ke:bio:me とか げ)	kamakiri	kamakiri (-me は 付かない)	gembi∶me	kamakiru
H-172	トンボ	tombome	hettcome / hettsome	tombo / tombome	hetteome	tombo / tombome
H-173	バッタ	battame	batta / battame	battame	battame	batta/ battame / battami
H-174	鳥 (とり)	torime	torime	torime / 「キジ」は kizime (戦後入れ た。 今は害鳥)	torime	torime
H-175	ニワトリ	n ^j attorime	n ^j attori / n ^j attorime / to:to:me	n ^j atorime	n ^j attorime	n ^j attorime/ to:to:me (昔)
H-176	とさか	NR	tosaka	tosaka	tosaka	NR
H-177	雀 (すずめ)	sudzume~ suzume	sur ^d zume / suzume	sudzume / suzumeme	sudzume	swzwme∼ süzüme
H-178	鳩 (はと)	hattome / hato / co:tome (古)	hatome	hatome	hatome	hatome
H-179	カラス	karasume	karasume	karasu / karasume	karasume	karaswme∼ karasüme
H-180	ウズラ	udzura / udzurame	wzwrame	NR (子供の頃は いなかった)	NR	wzwra (me は付かない)
H-181	鷹(たか)	takame (tombi / tombime トピ)	taka (tombime トビ)	taka (niceme トンビ)	ni:cemme	taka (「鳶」は tombime)
H-182	卵(たまご)	tamago	tamago	tamago	tamago	tamago
H-183	巣 (す)	sui	sw	sui	sui	sui
H-184	羽 (はね)	hane	hane	hane	hane	hane
H-185	動物	do:butsu	ikimono	o:bwtsw	NR	ikimono / do:buɪtsü
H-186	空 (そら)	sora / tenne:	sora	sora / tenni	ten ^j ni:	sora
H-187	日 (ひ)	çi	çi	çi (日付け)/ oçisama/ tento:sama (古)	çi	çi / tento:sama も 使う

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-188	太陽	tento:sama	tento:sama / taijo:	çi / taijo: / oçisama	tento:sama	tento:sama
H-189	光 (ひかり)	çikari	çikari	çįkari	çikari	çkari
H-190	蔭 (かげ)	çikage / kage / kagebo:ci	kage	kage / çikage (日 蔭) / kokage (木 蔭)	kage	kage / çikage / kagebo:ci (影法 師)
H-191	まぶしい	mabweįk ^j a	mabweikia (「まぶしいで すね」)	mabusi:	mabusi:	mabuuci: (mabuucik ^j a:no: まぶしいなあ)
H-192	火 (ひ)	çi	çi	çi	çi	çi
H-193	水 (みず)	midzuu	mi ˈzw / mizw	mizuw~ midzuu / 海水 uuco (煮炊 きに用いた) (uucokuumi 海水 を汲みに行く人。 桶を頭に載せて)	midzuu	mizw~mizü
H-194	山 (やま)	jama	jama	jama	jama	jama
H-195	川 (かわ)	kawa / ko: (古)	kawa / ko:	ka: / kawa / ka:ra / ta:da	kowa	kawa
H-196	橋(はし)	haci	haci	hatei	haci	haci
H-197	丘 (おか)	jama / oka/ tombui	oka	jama	oka	oka
H-198	陸地(りくち)	oka (小高い) / riku	oka / rikut¢i	oka / okaco	oka	rikutci / oka
H-199	土·地面	teitei / dzimen/ midza (古)	tsutci	tsutei / teitei, zimen	teitei	tsütei / teitei (死語) / miza (外の土の上)
H-200	星 (ほし)	hoei	hoei	hoci	hoci	hoci
H-201	月(つき)	hoci / tswki / otswkisama	tsųki	tsuuki / otsuukisama / otsuukisama	tsųıkį	tsuuki~ otsükisama
H-202	雲 (くも)	kumo / kumome	kumo	kumo	kwmo	kumo
H-203	霧 (きり)	kiri / kasumi / moja	kiri	kiri	kiri (新) / moja (古)	kiri / moja
H-204	露 (つゆ)	tswjw	tswjw	tswjw / jotswjw	tswjw	tswjw / tsüjw
H-205	雨 (あめ)	ame	ame	ame	ame	ame
H-206	風 (かぜ)	kadze	ka dze / kaze	kaze	kadze	kaze
H-207	竜巻 (たつまき)	tatsumaki / tsumudzikadze (小さい)	tatsumaki /tsumudzika ⁴ z e	tatsumaki (-me はない)	tatsumaki	tatsuumaki~ tatsümaki (tsuuzikaze「辻 風」)
H-208	稲光 (いな びかり)	inabikari / inadzuma (古)	inabikari	inabikari / inazuma	inabikari	inazuma \sim inazüma

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-209	地震 (じし ん)	dziein	dziein / dziein	ziein / dziein	dziein	dzicin
H-210	虹 (にじ)	nidzi~nizi / nidzime	nw ⁱ i ½i / nizi	nizi / nidzi	nidzi	nizi
H-211	明かり	akari	akari	akari	akari	akari
H-212	雷 (かみな り)	kaminari / kaminarisama	kaminari	kaminarisama / gorogorosama (幼 児語)	gorogorosama	kaminari / kaminarisama
H-213	潮(しお)	co	co / wcio	uso (usomizu 塩水)/so	co	cio / co
H-214	煙(けむり)	kemuri / kebuı / kemu	iburi/ kemuri	jwbwri (jwbwsw [動詞])/ibwri (古)/kemwri (新)	kemuri	kemuri/iburi (kemuride iburoka 煙でい ぶそうか)
H-215	浅瀬 (あさ せ)	ne	asase	dzimoto	asak ^j a (浅いと言 う)	asase
H-216	遠浅 (とお あさ)	to:asa	to:asa	to:asa	to:asa	to:asa
H-217	洞窟 (どうくつ)	do:kwtsw / hokora / hora	to:ra (小さいも の、俵も to:ra) / hora	hora / do:kwtsw	hora ² ana	do:kutsut / horaana / to:ra~do:ra (木 のうろ)
H-218	海 (うみ)	umi	umi	umi	umi	umi/ hama
H-219	水溜り、池	tamari (水溜り) / ike (池)	mizutamari / ike	codamari (潮だまり) / ike (池)	NR	iki (水たまり、 池)
H-220	港 (みなと)	minato	minato / wan	te:bo: (突堤か) / minato	minato	minato
H-221	波 (なみ)	nami	nami	nami	nami	nami / wneri (大 きな波) (「風」は nagi)
Н-222	泡 (あわ)	awa / abwkw (古) (ao: 泡を)	abuukuı / awa	awa / abwkw (石 鹸)	cowa (波の花の こと)	jota (jotaga hatterukara k ^j o:wa umigaareteruzo : 泡が張っているから京は海が荒れているぞ)/cabuki (海の泡)/abuku (石鹸の泡)
H-223	島 (しま)	eima	cima	eima	cima	cima
H-224	浜 (はま)	hama	hama	hama / swnahama	NR	hama
H-225	珊瑚礁	sangoco:	sangoco:	NR	NR	sangoco: (島に はない)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-226	砂 (すな)	suma	swna/ なari (ca:re つちぼ こり)	suina	suma	süna
H-227	石 (いし)	ici / icikoro	içi	ieį	içi	iei
H-228	溝(みぞ)	midzo (小さい) / hora (大きい) / midzo (古)	midzo / mizo	çida / mizo / midzo	midzo	mizoma (排水 用)
H-229	田 (た)	tabara	tabara	tabara (少ない) / tabara: (古) / tambo (新)	tabara	tabara
H-230	畦道 (あぜ)	adze	a ^d ze / azemitci / azemitci	aze/ azemitci / adzemitci	hata	NR
H-231	畑(はたけ)	jama / co / jamaco (奥の方)	co / jama	-co (地名に付け て言う) / hatake / jama	jama	jama/ jamaco (遠くの畑)
H-232	野 (の)	noppara / no	no / noppara	jabuı	NR	NR
H-233	道 (みち)	mitei	mitei	mitei	mitei	mitei
H-234	崖 (がけ)	mama	gake	gake / dote/ mama (切り立ったところ)	gake/ horabata	mama / takamama
H-235	坂 (さか)	saka	saka	saka	saka	saka
H-236	頂上 (ちょう)	teppen / tontsube (低い 山)	tontsube / teppen	tombw/ tontswbwri (古)/ tco:dzo: (新)	teppen	teppen/ tontsübura (低 いところの~)
H-237	東(ひがし)	çigaçi / çigaçikaze (東 風) / narai (東北 風)	çigaci / narai	çigaci / çigacikade ~çigacikade (東 風) / naraikade (東風)	çigaci / narai (北 東の風。良い 風)	narai (北東の 風)
H-238	北 (きた)	kita / saga (北 風) / nare: (北 東) / nare:kaze (北東風)	kita / narai (北 東の風)	kita / nare: (北風)	kita / koamura (北風)	NR
H-239	西(にし)	nici (nicipon 冬 の季節風)	nici / nicikaze	nici / nicikade~ nicikaze (西風) (「風」単独では [kaðe]。 但し [ð] ほどの摩擦はな い)	nici (方角) / nici (風。良い風)	NR
H-240	南(みなみ)	minami / minami kaze (南 風) / nagaci (南 西) / nagacikaze (南西風)	minami / minamikaze	minami / minamikade~ minamikaze (南 風) / hae (南風、 古)	minami (方角) / minami (風)	nagaci (南風)
H-241	右 (みぎ)	migi	migi	migi	migi	migi

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-242	左 (ひだり)	çidari	çidari	hidari (ç ではなく) / çidari	çidari	çidari
H-243	前(まえ)	mae (maege: dero 前に出ろ) / me: / sakkata (古) /	me:	mai / me:	mae	mae
H-244	後ろ (うしろ)	meiro / oeiro	meiro	ociro / ociro (okki 海側、jaburo 山 側)	ociro / wciro	weiro / oeiro (古)
H-245	跡 (あと)	ato / aciato	ato	ato	ato	ato
H-246	横(よこ)	joko	joko	jokoppara / joko	joko	joko
H-247	上 (うえ)	we	we	ve (歯唇接近音) / uiwe~uie	wedda / wenda / we	we / we:
H-248	下 (した)	cita	cita	çta	cta~cita	cita
H-249	中 (なか)	naka (hakon naka 箱の中)	naka	naka	naka	naka
H-250	底 (そこ)	soko	soko	eigi (:) / eimbu	soko / doddzoko (崖の)	cibbuı
H-251	内 (うち)	utci / naka	utci	utci	naka	utci
H-252	外 (そと)	soto	soto	n ^j a: / soto	soto (「庭」は n ^j a:)	soto
H-253	奥(おく)	okuı	summa	oku~okuzi (「庭」 n ^j a:)	okuı	oku
H-254	角 (かど)	kado	kado	swmi / kado	kado	tsunokko / kado (新)
H-255	傍 (そば)	soba	soba	soba / sobe: (そばに) / sobajo: (そばを)	soba / sobja: (∼ ₹2)	soba
H-256	今日(きょう)	ke:	kei	ki:	ki:/k ^j o:	ki:
H-257	昨日 (さくじ つ)	kine:	kinei	kini:	kini: / kin ^j o:	kini:/kin ^j o:(借 用形?)
H-258	一昨日(いっさくじつ)	ototoi / wtswtse:	ototoi	utcitci: / ototoi	utetei~uteitei: / ototoi	ototswi / wteitei:
H-259	明日(みょう にち)	asu / acita	asw	asuı	acța~acita / asui	asui
H-260	明後日みょう ごにち)	asatte / sannasatte (古)	asatte	asatte	asatte	asatte
H-261	明明後日(み ようみょうご にち)	ciasatte / sannasatte	ciasatte	cigasatte / ciasatte / sannasatte	sannasatte (gijasatte 明明 明後日、 janasatte 明明 明明後日)	sannasatte
H-262	今年 (ことし)	kotoci	kotoci	kondo / kotoci	kotoci	kotoci

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-263	昨年(さくね ん)	k ^j onen	k ^j onen	k ^j onen	k ^j onen	k ^j onen
H-264	一昨年(いっさくねん)	ototogi	ototoci	ototoci	ototogi	ototogi
H-265	来年(らいね ん)	rainen / de:nen	rainen / de:nen (知っているが 使わない)	de:nen	r ^j a:nen / dza:nen	r ⁱ a:nen / dza:nen (古) / rainen (新)
H-266	再来年(さらいねん)	sarainen / sare:nen / sade:nen	sarainen	sade:nen	sar ^j a:nen / sarainen	sar ^j a:nen
H-267	今 (いま)	man / ima	man	mani / man	man	man / mani (man ^j a isogaci: 今は忙しい)
H-268	昔 (むかし)	mukaci	muukagi	mukaci	mukac / coteːni	mwkaci / mʲaːni (以前に)
H-269	夏 (なつ)	natsuı	natsw	natsui	natsuı	natsuı
H-270	冬 (ふゆ)	фшјш	фшјш	фшјш	фшјш	фшјш
H-271	朝(あさ)	asa/ tommete (古)	tommetei	tommete	asa / tommete (8 時頃まで)	tommete (早朝。 強調して言うと to:mmete) / asa
H-272	昼(ひる)	çiru	çouıradoki	çirw~hirw	çiru	çiru
H-273	タ方 (ゆうが た)	jui:gata/ kuiregata (古)	kuire:gata	ju:gata / kure: (古) / kureje:	ju:gata/kureja (日が落ちる頃) /kuregata/ jombe (夕べ)	ju::gata / ku:reja
H-274	夜 (よる)	joruu/ jombe (昨日の夜、古)	joru	joruu (「昨夜」は jobbe / jombe	jobbe	jobbe
H-275	夜中	jonaka	jonaka	jonaka	jonaka / joruujonaka	jonaka
H-276	暇(ひま)	çima	çima	çima (「合間」は joma)	çima / joma (合 間) / jomașki	çima (「合間」は joma)
H-277	時 (とき)	toki	toki / dzibwn	toki	toki	dzikan / toki
H-278	年 (とし)	toci	toci	toci	toci	toci (年齢も)
H-279	暦 (こよみ)	kojomi / kojume (古)	kojomi (コユミ は使わない)	koimi (3音節) / kojomi	kojomi / koimi (3 音節)	kojomi
H-280	物 (もの)	mono	mono	mono	mono	mono
H-281	色 (いろ)	iro	iro	iro	iro	iro
H-282	音 (おと)	oto	oto	oto	oto	oto
H-283	夢 (ゆめ)	jume	jume	jume/jumi: (夢 を)	jume	jume
H-284	着物 (きも の)	kimono, hebera (古)	hebira	hebira	hebera / madara (よそ行き)	madara / kimono / hebera
H-285	襟 (えり)	eri	eri	jeri / eri	eri	eri /jeri (古)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-286	袖 (そで)	sode	sode	sode	sode	sode
H-287	裾 (すそ)	suiso	swso	suiso	suiso	suiso
H-288	帯 (おび)	obi	obi	obi	obi	obi
H-289	紐(ひも)	çimo/ çibo (古)	çimo	çibo	çimo / çibo / nawa	çimo /çibo (古)
H-290	足袋(たび)	tabi	tabi	tabi	tabi	tabi
H-291	袴 (はかま)	hakama	hakama	hakama	hakama	hakama
H-292	下駄(げた)	geta/ bokkuri (古)	geta / pukkuri (何 か履物)	geta (acida 高下 駄)	geta (hoːba / acida 高下駄) / bokkuri	geta / acida (高 下駄)
H-293	草履(ぞうり)	dzo:ri / acinaka (走るの使うぞう り、短い)	zowri / acinaka (つま 先だけの履 物)	dzo:ri / acinaka 走るのに使う、前 半分しかないぞう り)	dzo:ri / dzo:ri (古) / acinaka (走るのに使う, 前半分しかない ぞうり)	dzo:ri
H-294	緒 (お)	hanao	oba	hanawo (下駄の)/ hanao	o / hanao	hanao
H-295	布 (ぬの)	kire	kire	kire	kire / nwno / boro (ボロ布)	kire
H-296	表 (おもて)	omote (「玄関」 は tobo:)	omote (「玄関」 は tobow)	omote / omotei: (~)こ) / sakkata	omote (「前」は sakkata)	omote
H-297	裏 (うら)	ura	uıra	ura / ociro	ura	
H-298	綾,模様 (あや)	gara	mojow / mojo: (ow と o: の 区別がある人 とない人がい る)	mojo:	gera	aja
H-299	手ぬぐい、タ オル	tenege: / tenegui (新)	tenege: / tenegei	tenigi:	tenegi: / tenegui / tenugui	tenwgwi / (古)tenegi:
H-300	養 (みの)	mino	mino ((A) 見 たことある, (B)使わない)	mino	NR	NR / (kappa)
H-301	湯 (ゆ)	ојш	ojuı	ju	ju / sajui	jm/ojm(jm: wakase 湯を沸 かせ)
H-302	茶 (ちゃ)	otca	otea	tea	tça	tea / otea (tea: nomogon 茶を 飲みましょう)
H-303	飯 (めし)	gohan / meçi (古) (cameçi 白 ごはん)	meci	meçi	meci / cameci	meçi / çiromeçi (白米)
H-304	粥 (かゆ)	okaju (oke:o tamoore おかゆ を下さい)	okajuı	oke:	k ^j a / okajui	okajuı

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-305	餅 (もち)	motei	motei:	motei:	motei:	motei:
H-306	雑炊 (ぞうすい)	ozija / dzo:swi	zowswi / odzija	dzo:ei:/odzija	dzo:ei: / dzo:ei:	dzo:ei:/dzo:sei (新?)(odzija 残ったご飯をみそ 汁などと混ぜて 煮直したもの)
H-307	味噌(みそ)	miso	miso	miso / misu	miso	miso / tekkammiso (自 家製の味噌)
H-308	汁 (しる)	eiru	çirw	tsuiju / ¢iru	çirw / tswjw (「オカズ」は ça:)	tswjw
H-309	塩 (しお)	çio	çio	co	cio / co	cio / co (古)
H-310	塩辛い	coppai (coppak ^j a しょっぱいよ)	coppai	cokkarake / karak ^j a:/ coppai	cokkarai / coppak ^j a (「魚 醤」は cur:de)	cokkar ^j a: / cokkarai (新)
H-311	砂糖(さとう)	sato: (sato:: kero 砂糖をくれ)	sato:	sato:	sato:	sato:
H-312	甘い	ame: / amak ^j a	amak ^j a	amak ^j a	amai	amak ^j a:
H-313	砂糖黍 (さと うきび)	to:gimi	kanca	kanea (kibiganea サトウキビの種 類、to:kibiganea とうもろこし)	kanca	kanca
H-314	粕(かす)	kasui	kasu	kasuı	sw:tsw:dobw (酒作りの)	kasuı
H-315	酒 (さけ)	sake	sake	sake	sake	sake (燒酎)
H-316	麹(こうじ)	ko:zi	ko:dzi	ko:dzi~ko:zi	ko:dzi	ko:dzi
H-317	粒 (つぶ)	tswbw	tswbw	tswbw	tswbw	itsuubuu
H-318	糠(ぬか)	nwka	nwka	nwka	nwka	nwka
H-319	粉 (こ・こな)	kona	kona	kona	ko / kona	kona
H-320	にんにく	ninniku	ninniku	ninniku	ninniku	ninniku
H-321	芽 (め)	me	me	me	me	me
H-322	クワズイモ	NR	NR		kwwadzwimo (5 音節)	NR
H-323	肉 (にく)	nikw	nikw	nikw	nikw	nikw
H-324	果物 (くだもの)	kwdamono (「み かん」は ko:zi、小さい, 酸っぱくて種が 大きい)	kwdamono	kudamono	kwdamono (「み かん」は ko:zi)	kudamono
H-325	油 (あぶら)	abuıra	abura	abuıra	abuıra	abuıra
H-326	天ぷら	tempura	tempura	tempura	tempura	tempura (かき 揚げ含む)
H-327	灰 (はい)	hai / he: (古)	he:	he:	ça:	ça: (古) / hai

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
						(新)
H-328	匂い (にお い)	nioi (kamaruu 動詞「匂いがす る」)	nioi	nijoi (いい匂いも) (kamarowana: 臭 いなあ) / nioi	nijoi / nioi / kamaruu (動詞 「臭い」)	nioi (kamaruu 動詞「匂いがす る」)
H-329	味 (あじ)	azi	adzi	adzi~azi	adzi~azi	adzi
Н-330	料理 (りょう り)	r ^j o:ri	rio:ri / 「魚をさばく」は dzo:ruu (bouudzo so wa: 料理をし ようか)	ų;o:ų	r ⁱ o:ri	goteiso: (来客向け) / rio:ri / 「料理する」はdzo:ruu (jo:dzo:rowa 魚を料理する / dzo:rodza)
H-331	ご飯	meci	meci	meçi	meci	meçi (meço kamoaka ご飯 を食べようか)
H-332	食事 (しょく じ)	meçi	meci	çokuızi	meçi	meçi
H-333	朝食 (あさ めし)	asame¢i	asame¢i	asame¢i / asakę	asake (古) / asame¢i	asage (古) / asameci (新)
H-334	昼食 (ひる めし)	ço:ra	hirumesi / çoura	ço:ra	ço:ra	çiruuge (古) / çiruumesi (新)
H-335	夕食 (ゆうめ し)	ju:meçi	joumesi	jo:ke / jo:me¢i	jo:ke / jo:me¢i	jo:ke(古)/ jo:meci(古)/ ju:meci(新)
Н-336	膳(ぜん)	odzen	ozen	dzen / tabodai~ tabudai (ちゃぶ 台)	dzen	obon
H-337	食べる	kamu	kamuu (kamowa 食 べるよ)	kamu	kamu	kamowa (あまり 使わない)
H-338	食べ物	kamimono	kamomon	kamomon	kamomono	kamomon
Н-339	家 (いえ)	ie / wagae (我が家) / omaenoe (お前の家), unga は目下へ)	e	je: / wtci	e / wagae (我が家) / wngaie~unagai (おまえの家)	je
H-340	母屋 (おも や)	omoja / bo:keuttci (大き い家) / bo:e (分 家)	bouie	omoja (希) (「はな れ」は dzigura (希))	bo:keutci (「は なれ」は geja / enoko)	omoja / bo:je (古)
H-341	台所 (だい どころ)	kokkuba / okatte	kokkuba	kokkuiba / kokuiba	kokkuıba	daidokoro / kokkuuba / otema

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-342	天井 (てん じょう)	tendzo:	tendzo: / ama	tendzo: (「天井 裏」は ama)	tendzo: (「天井 裏」は ama)	tendzo:/ama (古)
H-343	床 (ゆか)	jwka (miza「地面」)	jwka	juka	jwka (床) / midza~miza (床•地面)	jwka
H-344	棚(たな)	tana	tana	tana	tana	tana
H-345	竈 (かまど)	kamado / hettsuri (ごはんを炊く釜 全体)	kamado	kamado (hettswi 自在鉤)	kamado / hettswi	kamado / hettswi
H-346	いろり	irori	irori	irori / dziroputci (囲炉裏端)	kamado / dziro (「囲炉裏淵」は dzirobutei,「予 備の薪」の musukubi)	irori
H-347	戸 (と)	to	to / amado	to	to	to
H-348	板 (いた)	ita	ita	ita	ita	ita
H-349	節 (ふし)	фшеі	фџ; / фџ; іте	фсі~фшсі	феі~фшеі	фінеі
H-350	穴 (あな)	ana	ana	ana	doma / ana	ana
H-351	柱 (はしら)	hacira	hacira	hacira	hacira	hacira
H-352	釘 (くぎ)	kwgi	kwgi	kwgi	kwgi	kwgi
H-353	瓦 (かわら)	kawara	kawara	kawara / ka:ra	kawara	kawara (ほとん どない。普通は トタン。)
Н-354	便所 (べん じょ)	toire / kandzo: (古)	bendzo / kandzo:	kandzo:	bendzo/ kandzo: (「島ア ジサイの葉」を kandzo:ciba と いう。これをトイ レットペーパー として使用した)	bendzo / kandzo (kandzo は他地 区の言い方 か?)
H-355	垣(かき)	kwne「生け垣」	icigaki (石 垣)/kune (生け垣)	icigaki / ori (古) / kaki	orito / icigaki	kakine / ori (石 積の垣)
H-356	庭 (にわ)	n ^j a:	n ^j a:	n ^j a:	n ^j a:	n ^j a:
H-357	井戸 (いど)	ido	ido	ido	ido	ido
H-358	墓 (はか)	hakaco	hakaço	hakaco	haka / hakaco	haka (精密には 無声化して [χąka]。)
H-359	煤 (すす)	swsw	swsw	swsw	süsü∼susu	swsw[szsw]
H-360	埃 (ほこり)	hokori	hokori	hokori	hja:re (砂ぼこり) / hokori	hokori
H-361	縄 (なわ)	nawa	no:	na:	noa / n ^j a:	nawa / nva (古)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-362	鎖 (くさり)	kwsari	kwsari	kışari	kışari	kwsari
H-363	綱 (つな)	tsuma	roppu / tsuna	na: / tswna	tsuma	tsuma
H-364	袋 (ふくろ)	фшкшго	фшкшго	фкшго / фшкшго	фкшго~ фшкшго	фшкшго
H-365	荷 (に)	nimotsu	ni / nimotsu	ni	ni:~ni	ni (n ⁱ o: tswmw 荷を積む)
H-366	皿 (さら)	sara	sara	sara	sara / goki	sara
Н-367	椀(わん)	owan	owan/goki (聞いたことあ り)	wan	wan	wan
H-368	茶碗 (ちゃ わん)	mecizawan / goki (古)	tçawan	tcawan / goki (古)	goki / megizawan	meçidzawan
H-369	壷 (つぼ)	tsubo	tsubo	tsubo	tsubo	tsubo
H-370	鉢 (はち)	hatci	hatei	hatei	hatei	hateinamme
H-371	瓶 (かめ)	kame	kame	kame	kame	kame
H-372	水瓶 (みず がめ)	mizugame	mizwgame	midzugame	midzugame	mizugame
H-373	桶 (おけ)	oke	oke	oke	oke	oke
H-374	水桶 (みず おけ)	NR	mizwoke	mizwoke	midzwoke	mizwoke
Н-375	盥 (たらい)	tarai / tare: (古)	tarai / tare:	tare: (木製)	tạr ^j ạ:	tar ^j a:/kanadar ^j a: (金盥)
H-376	ひしゃく		çakuı	cakuı	çeakuı	camodzi
H-377	柄 (え)	e / çicakuınoe	e / totte	je / e	e	bo:
Н-378	釜 (かま)	hagama	okama / hagama (聞い たことがある)	haŋgama (ごはん 釜) / mecigama / kama	kama / haŋgama (ご飯用)	mesigama / hagama
H-379	しゃもじ	hera (camozi お 玉)	camodzi	hera / camozi	hera / cazi	¢атозі
H-380	急須・鉄瓶 (きゅうす)	k ^j u:su:/ kibico (古)	k ^j u:su:/ tetsubin	k ^j u::su / tetsubin / kibico~kibico: (南洋帰りの方が 使用、古)	k ^j u:su / dobin / kibico	kibico (古) / kʲwːsw (新)
H-381	箸(はし)	haçi	haci	haei	hac~haci	hacira
H-382	包丁 (ほうち ょう)	ho:teo:	houteo:	deba / ho:teo:	ho:teo:	ho:teo:
H-383	刀 (かたな)	katana	katana	katana	katana	katana
H-384	小刀 (こが たな)	kiridaçinaiфш	kogatana	kogatana	kogatana / naiфш	kogatana
H-385	まな板	mane:ta / kiriban (古)	manaita / kiriban	mane:ta / kiɾiban	kiriban	manaita / kiɾiban (古)
H-386	臼 (うす)	usu	usu	wsw (搗き臼)/ iciwsw (挽き臼)	wsw (搗き臼) / swrwsw (挽き	usu

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
					臼、腰の重い 女)	
H-387	杵 (きね)	kine	kine	kine (横杵) / tegine (竪杵)	kine (「ゴマすり (道具)」は deŋŋine	kine
H-388	斧 (おの)	ono	ono (薪割り用) / nata (枝落と し用) / joki (大 工道具)	ono (伐採用) / joki (薪割り用)	masakari / makiwari / ono / joki (古)	ono / nata (山 刀)
H-389	鋸 (のこ)	nokogiri	noko / nokogiri	nokogiri	nokogiri	noko (nokogiriと も)
H-390	鑿 (のみ)	nomi	nomi	nomi	nomi	nomi
H-391	錐 (きり)	kiri	kiri	kiri	kiri	kiri
H-392	箱(はこ)	hako	hako	hako	hako	hako
H-393	筆 (ふで)	фшde	фшdе	фшde / фшdzi: (~を)	фшde / фшdi: (~を)	фшde
H-394	紙 (かみ)	kami	kami	kami / kam ^j o (~ を)	kami	kami
H-395	鋏 (はさみ)	hasami	hasami	hasami	hasami	hasami
H-396	印 (しるし)	syrwei (y は丸 めのある i)	ciruci / meboci	eirwei	coci (coci mo tanemo n ⁱ a:何も かもめちゃくち ゃになってなく なる)	eirwei
H-397	漆 (うるし)	uruei	uruei	uruci (希)	uruei	uruei
H-398	鏡 (かがみ)	kagami	kagami	kagami	kagami	kagami
H-399	櫛(くし)	kwci	kwei	kwei	kwe	kwei / to:gwei (半月型の櫛)
H-400	布団 (ふとん)	фциton	фціton	фton~фuton / jagu: (腕を通すも の)	φιμιτον	фциton
H-401	枕 (まくら)	makuıra	makuıra	makuıra	makuıra	makuıra
H-402	箒 (ほうき)	ho:ki	howki / hoːki	ho:ki / ho:k ^j o (~ を)	ho:ki	howki / ho:ki
H-403	竿 (さお)	sao/ monohocizao (物干し竿)/ saodake	sao	sawo / sao	sao	sao
H-404	杖 (つえ)	tsuembo:	tsuie / tsuiemboui / tsuikkimboui	tsute / tsukumbo: (物を突くための 棒) / tsutembo: (古))	tüse	tsuie / tsuiembo:
H-405	笠・傘(かさ)	kasa /ko:mori (古)	kasa	kasa	kasa	kasa

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-406	針 (はり)	hari / nwibari	hari	hari	hari	hari
H-407	糸 (いと)	ito	ito / n ^j w:tow	ito	ito / tenn ^j o: (たこ 糸)	ito
H-408	煙管 (きせ る)	kiserui	kiseru	kiçerш~kiserш	kįseru	kiserui
H-409	金 (かね) (金属・お金)	dzene/ dzene (古) / dzan ^j e	kane / dzene / dzeni	kanamono / kane	kane / dzene / dzeni (お金)	okane / kane / dzeni / dzene
H-410	三味線(しゃみせん)	çamisen	camisen	çamisen	camisen	NR (camisen)
H-411	船 (ふね)	фшпе	фшпе	фшпе	фшпе	фшпе
H-412	帆 (ほ)	ho	ho	ho	ho	ho
H-413	櫂 (舟のカ イ)	kai	kai / ro (ro と kai は別物)	kai	ro / kai	kai
H-414	網 (あみ) (魚を獲るあ み)	ami	ami	jo:ami / ami	ami	ami
H-415	槍 (やり)	jari / tsukimbo:	jari	tsukimbo:/mori/ jari	mori / jas / jari	jari
H-416	鍬 (くわ)	kuwa / mitsuuguwa (3 つに分かれてる 鍬) / hiraguwa (平らな鍬) / tega	tega	tega (種類に mitsuuga, hiraga)	tega (種類に mitsüiga / çiragwa)	kwwa / k ⁱ a:tegą (草取り道具) (「蚕」は konasama)
H-417	鋤 (牛にひかすすき)	swki	swki	şki~swki	șki / purao	NR
H-418	脱穀用ゴザ	goza~godza	goza / musico	mueiro	muco~muciro	godza
H-419	鎌 (かま)	magama	magama	magama	kama / magama	kama / hiratega (草刈り道具)
H-420	鋤 (すき)	swki	swki			NR
H-421	箆 (へら)	hera	hera	hera	hera	NR
H-422	笊 (ざる)	dzarui / dzarui	zarw〜dzarw / imemigo (竹で 編んだ壺が他 の細い笊)	dzaruu / mi (脱穀 用)	dzarui	dzarui
H-423	篭 (かご)	kago	kago / dzarui	kago / imemigo (里芋洗いに使 用)	kago / imemigo, jumem'go (里 芋洗いに使うか ご)	imeŋgo (小さい 背負う篭)
H-424	篩 (ふるい)	фшсші / ті	фшсші / ті	фшгі:~фшгші	фшгі: / фшгші	NR
H-425	俵 (たわら)	tawara / toːra (古)	to:ra	tawara / taːra / sumidaːra (炭俵)	tawara / sumidoara / dzukkui	tyara (古)
H-426	筵 (むしろ)	goza~godza	muciro / moco (古) /	musiro	muso / musiro / goza	musiro / komo

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
			goza			
H-427	薪(たきぎ)	maki / gomi	maki (大きい 木) / gomi (ち よっと大きめの 木、細い木と いう人もいる) / musukubi (着火材に使う 細かい木)	gomi / takigi / dzansara (古)	gomi / mwskwbi	maki / gomi / mwswkwbi
H-428	人 (ひと)	çito	çito	çto∼çito	çto	çito
H-429	親 (おや)	oja	oja	oja	oja / ojasama	oja
H-430	子 (こ)	ko (wkwno ko あそこの家の子) / kodomo	ko / kodomo / appame (赤ん 坊)	ko/jakkome (古)	ko / kodomo	kodomo
H-431	長男	tco:nan / tcotunamme	tco:nan / taro: (使わないが知っている) / bo:ja	tco:nan	teo:nan	tco:nan
H-432	二男	dzinan / dzinamme	dzowme / dzinan	dzinan	dzinan	dzinan
H-433	三男	sannan / sannamme	saboui	sannan	sannnan	sannan
H-434	四男	jonnan	jonnan / com	jonnan	jonan	jonnan
H-435	五男	gonan	gonan / gorou	gonan	gonan	gonan
H-436	六男	rokunan	rokunan / rokurou	rokuman	rokunan	rokunan
H-437	七男	citcinan	citcinan	citcinan	citcinan	citcinan
H-438	八男	hatçinan	hatginan	hateinan	hateinan	hateinan
H-439	九男	k ^j ur:nan	k ^j ui:nan	k ^j tu:nan	k ^j uı:nan	k ^j ur:nan
H-440	十男	dzw:nan	dzw:nan	dzw:nan	dzw:nan	dzw:nan
H-441	長女	teo:dzome	teo:dzo / n ^j oko / n ^j okome	teodzo~teo:zo/ n ^j okome (古)	tço:zo	teo: ^d zo
H-442	二女	dzizo / dzidzome	dzidzo / naka (聞いたことが ある) / tegome (?)	dzidzo / nizo	dzizo	^d zi: ^d zo
H-443	三女	sandzo / sandzome	sandzo	sandzo	sandzo	san ^d zo

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-444	四女	jondzo / jondzome	jondzo/kwsw (聞いたことが ある)	jondzo	jondzo	jon ^d zo
H-445	五女	gozo	godzo	godzo~gozo	gozo	godzo
H-446	六女	rokuızo	rokudzo	rokudzo~ rokuzo	rokuızo	rokudzo
H-447	末っ子	swekko/ çippaci (古) / cippaci	swekko/cippaci/cippacime (meが付くと上品でない感じがする。)	swekko / çippacime	eįppaci	çippaci / çippacime (me は愛情をこめた 謙遜のニュアン ス。)
H-448	親子 (おや こ)	ojako	ojako (親戚も)	ojako (親戚も)	ojako	ojako
H-449	孫 (まご)	mago / magome	mago	mago	mago	mago
H-450	父, おとうさ ん	oto:san / to:tean (古) / ojadzi	otto / totoui (古) / ojazi / to:tean / teteoja	oto:tean / to:tean / tottean (古)	oto:tɕan / tete (古) / ojazi	oto:tean / ototean
H-451	母, おかあさ ん	oka:san / ka:tean (古) / oфшкшго	okka / ka:tean / ho: (古)	oka:tean / ka:tean / okka (古)	oka:tean / hwa (古) / oфшкшго	oka:tean / okatean
H-452	兄, おにいさ ん	oni:san/ antean (古)	ani / antcan (「年上,目上 の人」は asei)	antean / aei: (古) / ni:tean	antean / aniki	oni:tean / antean (asei は聞いたこ とあり)
H-453	姉, おねえさ ん	one:san/ ne:tean (古)	ne:tean / neija / neitean (「年 上の女性」は inne)	ne:tcan	ne:tcan (呼ぶと きは〇〇 (名 前)ni:tcan)	one:tean / ando
H-454	弟 (おとうと)	oto:to / citano k ^j o:de:	otouto	oto:to	oto:to	otouto
H-455	妹 (いもうと)	imo:to / citano k ^j o:de:	imouto	imo:to	imo:to	imouto
H-456	兄弟 (きょう だい	k ^j o:dai / k ^j o:de:	k ^j oude:	k ^j o:de:	k ^j o:dai	k ^j o:dai / k ^j o:dza:
H-457	祖父(そふ)	ozi:san~ odzi:tean / dzi:tean	dzi:tean / dzi:san / owsama (古)	dzi:tean	dzi:tean / odzi:tean / o:sama (古)	odzi:tean / o:sama (古) / o:teama
H-458	祖母(そぼ)	oba:san / oba:tean / ba:tean/ babba (坂上の呼び方)	ba:tean / bamma (古) / omo:sama (古)	ba:tean / bamba / umma (古)	ba:tean / oba:tean / babba (古)	oba:tcan

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-459	夫(おっと)	danna / te:sui	otto / ojazi / wagajenoçito / wage:noçito	danna / otto/ to: / wagainoçito	dantsükü (宿ろく) / danna (呼ぶ時は名前で呼ぶ)	wagi (:)noçito
H-460	妻 (つま)	jome / wage:no çito	jome / wagajenojatsui / wage:nojatsui	jome / wagainoonnago	kan ^j a: / jome (呼 ぶ時は名前で 呼ぶ)	omi / 呼ぶ時は 名前で呼ぶ
H-461	夫婦 (ふう ふ)	фш:фш / tsureai	фш:фш	фш:фш	фш:фш	фш:фш
H-462	叔父 (おじ)	ozitcan / ozisan / odzi	odzi	odzi~ozi	odzi	o ^d zitean / o ^d zi
H-463	叔母 (おば)	obatean / obasan / oba	oba	oba	oba	obatçan / oba
H-464	甥(おい)	oi / meijo:ci	oi	oi	oikko/me:jo:çi (姪と合わせて)	oikko
H-465	姪 (めい)	mei / meijoːɕi	mei	mei	meikko/ me:jo:ci (甥と合 わせて)	meikko
H-466	従兄弟 (い とこ)	itoko	itoko	itoko	itoko	itoko
H-467	婿 (むこ)	mwko / mwkodono	mwko / mwkodono	mwko	mwko	muko
H-468	家族 (かぞ く)	kazokw~ kadzokw	kazokw / cote: (cote:は「以前 に」の意味も)	nakama / kazoku	kazoku / kan ^j a:	kadzoku
H-469	親戚 (しん せき)	ojako	ojako	ojako	ojako	ojako
H-470	男(おとこ)	onokogo / otokogo	otoko / otokogo	onokogo	onokogo	otoko / onokogo
H-471	女 (おんな)	onnago	onnna / onnago (聞い たことがある)	onnago	onnago	onna / onnago
H-472	目上(の男)	meure (warejori bo:ke çito 私よ り年上の人) / tociure	asei / sempai (年齢が上の 人)	ani (呼ぶ時は 00 (人名)ani / bo:keçito (年上)	antean (呼ぶ時 は○○ (人名) antean / ○○ odzitean)	mewenoçito
H-473	目下 (弟、 妹)	togigita	NR	omentce:/ korentce:	呼ぶ時は名前 を呼び捨て	NR
H-474	青年 (せいねん)	se:nen / wake:cw: (古)	wake:sui	wake:cш (20 歳~ 25,26 歳) / wake:ci	wakia:cui (17、 18 才~27,28 才 或は結婚するま で)	wakakeçito
H-475	大工 (だい く)	daikw / deːkw (古)	de:kw	de:kw / daikw	dja:kw./ de:kw	daiku
H-476	友だち	ho:be:	howbe:	nakama / ho:be:		tomodatci

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
				(古)		
H-477	若い娘	menarabe	menarabe	menarabe	menarabe	menarabe (25 才 くらいまで)
H-478	私(わたし)	ware / wai / ai / warewa (私は) / waga (私の) / wareni (私に)	ai / wai / ware / aga (?)	aga / are	are / aga	ware / wai
H-479	私たち	warera / waira	waica: / waira: / waira	warentce: / arentce:	warenca: / warentca:	ware:ca: / waica:
H-480	あなた	omae / ome: (対 目上、対目下と いう人も) omi: (同等以上)	ome:	ome: (目上や年 上) / omi (古)	om ^j a:	om ^j aį
H-481	あなたたち	omaera / ome:ra (同等以下) / omira (同等以 上)	ome:ra	omentee: / ome:tatei (目上や 年上) / omira (古)	om ^j anca:	om ^j aįca:
H-482	お前	wnw/wn/ wŋga (軽蔑して いる)	uunuu / omae	ome:/omai/ wmw(けなし)	om ^j a: / wŋga	omi
H-483	お前たち	wnara / wnwra	unura / omaera / ome:ra	omentce: / omaira / wmwra (けなし)	om ^j anca: / wnwnca	omi:ca
H-484	皆 (みな)	minna / menna (古)	menna	menna	dzembw (人も)	minna
H-485	名 (な)	namae /	na / name:	name:	nam ^j a:	namae
H-486	お祝い	oiwai / juwe	juwe:	jurwe:~juwe:~ juue:	juwja:/juwai/ oiwai	iwai
H-487	結婚 (けっこん)	kekkon (konrei 結婚式)	kekkon / kenre: / kenrei	kekkonciki (jue:dara 結婚 式)	kekkon / sui:gen / konre:	kekkon / çui:gen
H-488	結納 (ゆい のう)	juino:	jwino:	jwino:/ jwe:~jwwe:	juino:	NR (juino:)
H-489	喧嘩 (けん か)	keŋka	keŋka	keŋka	keŋka	kenka
H-490	相互扶助 (そうごふじ ょ)	tetsudai / ko:jo: / mitciko:jo: (古)	miteigo:jo: (皆 で道を整備す る)/jore:	jwi (まれ)	josoa:swrw (手 伝う) / gappe:	miteigo:jo: (道 の整備)
H-491	相撲 (すも う)	sumo:	sumoui	sumo:	sumo	sumo:~sumou
H-492	>	çitotsuɪ / tetsuɪ (古)	tetsui	tetsui	tetsui	çitotsuı
H-493	ニつ	фшtatsш	фwtatsw	φtatsw∼φwtatsw	фtatsш	фшtatsш
H-494	三つ	mittsw	mittsw	mittsw	mittsw	mittsw

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-495	四つ	jottsw	jottsw	jottsw	jottsw	jottsui
H-496	五つ	itsutsu	itsıµtsıµ	itsutsu	itsutsu	itsutsu
H-497	六つ	muttsui	muttsu	muitsui	muitsui	muttsui
H-498	せつ	nanatsui	nanatsuı	nanatsui	nanatsui	nanatsui
H-499	八つ	jattsw	jattsw	jattsui	jattsui	jattsuı
H-500	九つ	kokonotsui	kokonotsui	kokonotsui	kokonotsui	kokonotsu
H-501	十 (とお)	to:	tow	to:	to~to:	to:
H-502	一人	tori	tori	çtori	tori / çitori	çitori
H-504	二人	фшtагі	фwtari / фwtai	φtari∼φωtari	φtari∼φuıtari	фшtari
H-503	三人	sannin	sannin	sannin	sannin	sannin
H-505	四人	jonin/ jottari (古)	jottari / jonin	jonin / jottari	jottari / jonin	jonin
H-506	五人	gonin	gonin	gonin	gonin	gonin
H-507	六人	rokunin	rokunin	rokunin	rokunin	rokunin
H-508	七人	eiteinin	nananin / citcinin	eiteinin	eiteinin	nananin
H-509	八人	hateinin	hateinin	hateinin	hateinin	hateinin
H-510	九人	k ^j u:nin	kunin / k ^j u:nin	k ^j w:nin	k ^j ur:nin	k ^j w:nin
H-511	十人	dzu:nin	dzw:nin	dzw:nin	dzw:nin	dzw:nin
H-512	いくら	ikura / doidake	ikura / ikujen (金額) / donogure:	ikuıra	ikura	ikura
H-513	いつ	itsuı	itsw / itswtsw	itsuı	itsuı	itsw
H-514	だれ	dare / dai / dare: (~を)	dare / dai	dare / dari: (~を)	dare	dai
H-515	どこ	doko / dokoge: / doko: (~を)	doko / dokei, dokoge: (どこ に)	doko / doki: (~ に) / doko: (~を) / dokkara (~から)	doko	doko
H-516	どれ	dore	doi / dore	dore / dori: (~を)	dore	dore
H-517	なぜ	ande / adde	ande / adde (古)	ande	ande	ande:
H-518	なに	ani	ani:/ani(聞き 返す場合)/an do:(何か?)	ani / an ^j o (~を)	andoa (~です か) / ani. / anio (~を)	ando:
H-519	いくつ	ikutsui / doidake	ikutsu	ikutsui	ikutsu	ikutsui
H-520	これ	kore / koreo (~ を)	koi	kọre / kori: (~を)	kore / kori: (~ を)	kore

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-521	それ	sore / wre / sore: (~を)	sorei / soi	sore / sori: (~を)	sore / sori: (~ を)	sore
H-522	あれ	mre/ mre: (~を) / are	urei / ure / ui	wre / wri: (~を) / wr ^j a (~は) / are	wre / wra / wre: (~を)	are
H-523	22	koko	koko / kokonotsw	koko	koko	koko
H-524	そこ	soko / soko: (~ を)	soko	soko	soko / soki:	soko
H-525	あそこ	wkw/wkw:(~ を)	uukuu	uku	uku	attci / tookebaco / oku::dzi
H-526	技•仕事	cigoto	cigoto	cigoto		wadza
H-527	鬼 (おに)	onime	onime	onime		oni
H-528	心 (こころ)	kokoro	kokoro	kokoro		kokoro
H-529	情け (なさ け)	nasake	dzoui	nasake		nasake
H-530	言葉 (こと ば)	kotoba	kotoba	kotoba		eimago
H-531	歌 (うた)	uıta	uta	uuta		uta
H-532	踊り (おどり)	odori	odori	odori		odori
H-533	鼓 (つづみ)	tsudzumi	tsuzumi	tsuzumi		NR
H-534	宝(たから)	takara	takara	takara		takaramono
H-535	型 (かた)	kata	kata	kata		kata
H-536	形 (かたち)	katatei	katatei	katat¢i		katat¢i
H-537	休息	jasumi / ippuku	ippuku / jasumi	ippuku	çtoiki / jasumi	jasumu (動詞)
H-538	魂 (たまし い)	tamaci:	tamaei:	tamaci:		tamaci:
H-539	刺青 (いれ ずみ)	iredzumi	irezumi	irezumi		iredzumi
H-540	真似 (まね)	mane	mame	mane / mani: (~ を)	mame / mami: (~を)	mane
H-541	嘘 (うそ)	oso (osotsuuki 嘘つき)	jamaeu	oso (oso: ʦឃkឃna うそをつくな) / osoţki (うそつき) / kiธឃnį /	kitsune (「嘘つ き」も) / kitsunetșki (嘘 つき)	te:ren
H-542	小さい	nekkoke / nekkok ^j a	nekkoi / nekkok ^j a	nekkok ^j a / neːkoke (連体)	nekkoi (子供、 ねずみ) / tciŋgoi (芋)	tcittcake / tcittcak ^j a:
H-543	大きい	bo:ke / ko:k ^j a	bowi / bowi: / bowkia (「大き いもの」は bowke mono)	bo:k ^j a / bo:ke (連 体)	bo:i / dekkai	dekak ^j a / dekkak ^j a: / bo:k ^j a:

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-544	低い	çikuk ^j a	midzikai / midzikakia (kia で終わると「一 よ」のニュアン ス。)	nekkokia (背が低 い) / çikukia (床 が低い) / mizakia (古、床が低い)	çkuıi	çikшk ⁱ a:
H-545	同じ	onnaci	o (n)nazi	onnazi	onadzi	onna ^d zi
H-546	短い	mikkake / mikkak ^j a	mizikai / mizikak ^j a	mizikak ⁱ a	mikkai	midzikak ^j a:
H-547	丸い	maruke / maru:k ^j a	marwi / marwk ^j a	marwk ^j a	maruri	mammarwk ^j a:
H-548	暖かい	nukutoke / nukutok ^j a	hotouru	attak ^j a / nukutoi	nukutoi	attakak ^j a: (「暑 い」は atsuk ^j a:)
H-549	寒い	kage:rui	kogeirtu (kogeiro çi 寒 い日)	kogi:rɯ (「凍える」 かも?) / samwk ⁱ a	kogi:ruı	samuk ⁱ a:
H-550	冷たい	çakkoke	çakkoi / çakkok ^j a (çakkoke mono 冷たい	çakkok ^j a	çakkoi	çakkok ⁱ a:

八丈方言基礎語彙データ(かな表記)

(.は母音が無声化していることを表す)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	型立
H-001	頭 (あたま)	ツブリ (里芋の 種イモも)	ツブリ	ツブリ / アタマ (新)	ツブリ	ツブリ〜ツィブリ (頭脳、里芋の種イ モ)
H-002	髪の毛	ツブリ <i>/ケ /</i> ツブリ <i>/ケブシ</i> ョ	ケビショ	アタマノケ / カ ミノケ	ツブリノケ	カミノケ / ツィブリノ
H-003	つむじ	ツムジ	ツムンジ〜ツ ムジ	ツムジ / ツムヂ / ウズ	ツムヂ	ツムジ〜ツィムジ
H-004	ふけ	フ.ケ	フ.ケ	フ.ケ	フ.ケ	フ.ケ
H-005	白髪 (しらが)	シャガ / シラガ	シャガ	シャガ (シャガ ニナル白髪にな る) / シラガ	ショアガ	シャガ (シャガガ シッカリダガノ 白 髪が多いね)
H-006	目 (め)	メンタマ / マナコ	マナコ	マナコ	メダマ (全体を 指す) / マナコ	マナコ (マナコガ ヤメキャ 目が痛 い)
H-007	眉 (まゆ)	マユゲ / マミ / マミゲ / メ ーゲ /	マミゲ / マ	マユ / マユゲ / マミ	マユ/ マユゲ/ マミゲ	マユゲ (マミゲ まつげ?)
H-008	額(ひたい)	ヒ.テー	ヒ.テー	ヒ.テー	ヒ.テ゛ア	ヒチャー
H-009	鼻 (はな)	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ
H-010	鼻血(はな ぢ)	ハナヂ	ハナヂ / ハ ナジ	ハナジ / ハナ ヂ	ハナヂ	ハナジ
H-011	耳 (みみ)	33	33	33	33	33
H-012	口 (くち)	ク.チ	ク.チ	ク.チ	ク.チ	ク.チ
H-013	唇 (くちび る)	ク.チビル	ク.チビル	ク.チビル	ク.チビル	ク.チビル
H-014	舌 (した)	シタ / ベロ (古)	ベロ / シタ	ク.チベロ / ベ ロ / シタ	シタ/ ク.チベロ (昔こう言ったか も)	シタ/ベロ
H-015	歯 (は)	ハ / ムカバ (抜けている歯)	ムカバ	ハ / ムカバ	ホァ/ ムカバ (全ての歯)	ムカバ
H-016	歯茎 (はぐ き)	ハグ / ハグキ	ハグーバ / ハグキ	ハグ / ハグキ	ハグキ	ハグキ
H-017	顎(あご)	アゴ / オトゲ ー (あご先)	オトゲー / オトゲイ (ア ゴ全体のこ と)	オトゲー / アゴ	アゴ/ オトギーア・	オタギャー / ア ゴ / アグ (アグ ガ ハレテ あごが はれて)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-018	髭 (ひげ)	ヒゲ / ヘゲ (古) / ホーヒ ゲ	ヒゲ / ヘゲ	ヒゲ	ヒゲ	ヒゲ
H-019	毛 (け)	ケーケブショ	ケベショ / ケビショ	ケ	キ (髪の毛も体 毛も)	ケ / ケビシ (脇 毛や陰毛) / ケブ ショ (とうもろこし のひげ)
H-020	顔 (かお)	ツラ (古)	ツラ	ツラ (古) / カオ	カオ	カオ / ツラ (乱 暴な言い方)
H-021	首 (くび)	クビ / ノド (前)	クビ	クビ	クビ	クビ
H-022	肩 (かた)	カタ / ケーナ	カタ / ケーナ	カタ / ケーナ	カタ	カタ / ケーナ (古)
H-023	胸 (むね)	ムネ / ムネウ チ	ムネ	ムナイタ (〜が 厚い,〜が痛い, 全体に使う。心 臓・胃などにも) / ムネ	ムナダ	ムネ
H-024	乳 (ちち)	チチ/オッパイ	オッパイ	チ/ オッパイ	オッパイ / チチ	オッパイ (「牛の 搾乳」は チチシ ボリという)
H-025	腹 (はら)	ハラ	ハラ	ハラ	ファロア	ハラ
H-026	背中 (せな か)	ケーナ / へ ダカ	ヘダカ	ヘダカ / ハダ カ (古) /セナカ (新)	ヘダカ (背中全 体: 肩から腰ま でを指すか) / キャーナ (背中 上部を指すか 「ーヲ モム」)	セナカ / 〜ダカ
H-027	肝 (きも)	キモ / フギ (内蔵全体)	キモ	カンヅォー / キ モ (魚の肝,人間 には言わない)	キモ	キモ / フギ (魚 のはらわた)
H-028	臍 (へそ)	ヘソ	ヘッチョゴ	ヘソ / ヘッソゴ	ヘッチョゴ	ヘソ / ヘッチョゴ (古)
H-029	腰 (こし)	コシ	コシ	コシ	コシ	コシ
H-030	尻 (しり)	シンベタ	シンベタ	シッゲタ / シリ	シッベタ	オシリ / シッベタ / シリッペタ / シ ッペタ
H-031	肛門 (こうも ん)	ケツノアナ / コーモン (新)	キクノゴモン / コーモン	ク.ソマリ (ク.ソ マリ ヤメル肛門 が痛い) / コー モン	NR	コーモン
H-032	手 (て)	テ / テンボー / タンボー	テ	テー / ヒラー (拳) / タッボー (物をもらうときの	テ	テ / タッボ〜タボ ー (手の平)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
				手の形)		
H-033	腕 (うで)	ウデ	ウデ	ウデ	ウデ(手首まで)	ウデ
H-034	肘 (ひじ)	シヂ〜ヒヂ	ヒヂ / ヒジ	ヒジ ~ヒヂ	ヒヂ	ヒジ
H-035	力 (ちから)	ウデップシ / チカラ	チカラ	NR	チカラ	チカラ / ウデッ プシ ガ ツィヨイ (力がある)
H-036	拳 (こぶし)	ゲンコツ / ゲ ンコ	ゲンコツ / コブシ	コブシ / ゲンコ / ゲンコツ	ゲンコ (こぶしそ のもの) / ゲンコ ツ	コブシ / ゲンコツ イ
H-037	筋 (すじ)	スヂ	スジ	スジ〜スヂ / シズ	スヂ	スジ〜スィジ
H-038	指 (ゆび)	ユビ / イビ (古)	ユビ/化	ユビ	ユビ / イビ	ユビ
H-039	爪 (つめ)	ツメ	ツメ	ツメ	ツメ	ツメ〜ツィメ
H-040	足 (あし)	アシ / アシノ ケーナ (足の 甲)	アナヒタ (足 のうら) / アヒ / アシ	アシ / アッケー (靴を履く部分) (アッケー ボジ 大きい足)	アシ	アシ (アシで全体)
H-041	腿 (もも)	フ.トモモ / フ トハギ / モモ	フ.トモモ / フ.トハギ / モモ	モモ / フトモモ	モモ	モモ / フ.トモモ
H-042	股 (また)	マタ	マタ	マタ / マタシタ	マタグラ	マタ
H-043	膝 (ひざ)	ヒヅァ〜ヒヅァ	ヒ ヅァカブラ	ヒザカブ / ヒザ	ヒヅァ / ヒヅァ カンブリ (古)	ヒザ / ヒザカブラ
H-044	くるぶし	ケーブシ / ク ルブシ	クルブシ	ケーブシ / ク ルブシ	キーブシ	クルブシ
H-045	脛 (すね)	スネ/アッケー	スネ	ハギ / スネ / アッケー (古)	ハギ/ スネ	スネ〜スィネ
H-046	ふくら脛	コムナ / フクラハギ	フ.クラハギ	ホゥ.クラハギ / フクラハギ	NR	コブラ (コブラガ ヒッカタマッタ 足 がつった) / フ.ク ラハギ
H-047	踵 (かかと)	カカト (アッケ ー アキレス 腱)	アッケー / アッケイ	アッケー/ ボジ / カカト	アッキー	カカト / アッケイ (古)
H-048	体 (からだ)	カラダ	カラダ	ガケー / カラダ	カラダ	カラダ / タイカク
H-049	背丈 (せた け)	セー / セタケ	セタケ	セ	セイ	ウワゼ (ウワゼガ アル背が高い)
H-050	骨 (ほね)	ホネ	ホネ	ホネ	ホネ	ホネ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-051	皮 (かわ)	カワ / コーベ	カワ/コーベ	カワ / カー	クア (果物の皮 も)	コアーベ / カワ
H-052	ほくろ	ホクロ	ク.スベ	ホクロ (「あざ」ア ザは幼児の尻に あるもの)	ホクロ (「あざ」 は アザ〜アゾ ア)	ク.スベ (ク.スベガ シッカリ アロジャ (ほくろがたくさん あるね)
H-053	涙 (なみだ)	メナダ / ナミ ダ (新)	メナダ	メナダ / ナミダ	メナダ	メナダ / ナミダ
H-054	声 (こえ)	コエ	コエ / コイ	コエ / コイ	キー	コエ
H-055	息 (いき)	件	件	件	件	件
H-056	咳 (せき)	セキ	セキ	セキ	シキ/ セキ	セキ
H-057	唾 (つば)	ツバキ / ツバ	ツバキ / ツ バ	ツバ / ツバキ	ツバ/ ツダキ	ツバ / ツダキ (古)
H-058	あくび	アクビ	アクビ	アクビ / アクビ	アクビ	アクビ
H-059	涎 (よだれ)	ヨンダレ	ヨンダレ	ヨンダレ / ヨダ レ	ヨダレ / ヨッダ レ (古)	ヨダレ / ヨッダレ
H-060	屁 (~)	^	^	ヒーリ / ヒーリ ー (古) / オナ ラ (新)	ヒーリ	ヘーリ / ヒーリ (ヒーリョ ヘル屁を 放る)
H-061	糞 (くそ)	ウンコ / クソ / ヘッダ (鳥 の糞)	ウンコ/ ク.ソ	クソ / ウンコ	ニット	ニット (ニットオ マル糞をする)
H-062	尿(にょう)	ションベン / ヨンバリ	ションベン / ヨンバリ	ションベン	ションベン / ヨ ッバリ (古)	ショーベン / ショ ンベン / ヨッバリ (ヨッバリオ ス,ル おしっこをする)
H-063	おでき	ヨンベ / ヤン ベ (すりきず がうんだもの)	ヤンベ	NR	ヤッベ	キズィ
H-064	たんこぶ	タンコブ	タンコブ	タンコブ	タンコブ	タンコブ
H-065	汗 (あせ)	アセ	アセ	アセ	アセ	アセ (ホトール「暑 くて」)
H-066	垢 (あか)	アカ	アカ	アカ	アカ	アカ
H-067	怪我 (けが)	ケガ (ケゴー 怪我を)	ケガ (ケゴー シターノ (ケ ガをしたの)	ケガ	ケガ	ケガ
H-068	病気	ョンデ (動詞) / ヤンダロワ (病気になる)	ヤミ / ビョーキ	ビョーキ / ヤム ー (動詞、結核 などで長く病床 にある人を ヤミ ホロケ という)	ヤミノヤミビョーキ	ヤム (動詞,病気 になる) / ビョーシ ン (病気がちの 人)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-069	血(ち)	チ	チ	チ	チ	チ
H-070	傷 (きず)	キズ	キ 吹/ キズ	キズ~キヅ	キズ	キズ~キズィ
H-071	薬 (くすり)	ク.スリ	ク.スリ	ク.スリ	ク.スリ	ク.スリ~ク.スィリ
H-072	灸 (きゅう)	オキュー	キュー	オキュー (灸に 使うモグサは モ グサ)	キュー	キュー
H-073	命 (いのち)	イノチ	イノチ	イノチ	イノチ	イノチ
H-074	木 (き)	キ	丰	キ	キ	+
H-075	葉 (は)	ハッパ	ハッパ	ハ ([^] オテル葉 が落ちる) / ハッ パ	ハッパ	ハッパ
H-076	枝 (えだ)	エダ	エダ	エダ / エダブリ (たくましい枝に ついて)	エダ / イエダ	エダ
H-077	梢 (こずえ)	コズエ	コズエ	NR	トンヂャキ	NR
H-078	実 (み)	3	3	3	3	3
H-079	根 (ね)	ネー / ネッコ	ネッコ	ネッコ / ノッコ	ネ / ネッコ	ネ / ネッコ
H-080	草 (くさ)	クサ (クサー 草を) / タナリ (雑草)	ク.サ/ クソ ー (草を)	ク.サ	ク.サ	ク.サ
H-081	花(はな)	ハナ	ハナ	ハナ / エータ バ (明日葉)の 呼び名:タロー バナ (一番良い 花) / ジローバ ナ (二番目に良 い花) / サブロ ーバナ (三番目 に良い花)	ハナ	ハナ
H-082	種 (たね)	タネ	タネ	タネ	タネ	タネ
H-083	苗 (なえ)	ネー (ネーイ ェー 田植え)	ネー / ナエ	ネー / ナエ	ニャ	ナエ / ニャー
H-084	稲 (いね)	タブ	ネー/ イネ/ タブ	イネ / オカブ (陸でとれる稲)	イネ/ イネ (植 えるとき) / タブ (刈るとき)	イネ
H-085	穂 (ほ)	ホ	イナホ	ホ	NR	タブ か (タブカリ 稲刈り)
H-086	米 (こめ)	コメ	ヨネ / コメ	コメ	コメ	コメ
H-087	籾 (もみ)	モミ	モミ/ モミョ (籾を)	モミ (モミガラ 籾殻)	モミ (「籾殻」は モミガラ)	モミ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-088	麦 (むぎ)	ムギ	ムギ	ムギ (ムギガラ 麦殻)	ムギ	ムギ
H-089	藁 (わら)	ワラ / イナワ ラ	ワラ	ワラ	ワラ	ワラ
H-090	麦わら	ムギワラ	ムギワラ	ムギワラ	ムギワラ	ムギワラ
H-091	茅かや	カヤ	カヤ	カヤ (屋根葺き 用)	カヤ (希)	カヤ
H-092	粟 (あわ)	アワ (ワのwは 弱い)	アワ	アワ / アー (ア ーメシ 粟飯)	アワ (希)	アワ (栗は島には ない)
H-093	稗(ひえ)	ヒエ	上工	栗と区別なし	NR	島にはない
H-094	芋(いも)	イモ (里芋)	イモ (里芋)	イモ (里芋のこ と) / チンゴー (小振りの里芋)	イモ (里芋)	イモ (里芋)
H-095	甘藷 (さつまいも)	カンモ	カンモ	サツマ / カン ショー (サツマイ モは内地の人 か)	カンショ / カン モ / ヂキー (古)	サツマ〜サツィマ (サツマ カモカ サツマイモ食べよ うか)(「さとうきび」 は カンシャ)
H-096	豆 (まめ)	マメ	マメ	マメ	マメ	マメ / ヂクグリ
H-097	きゅうり	キューリ	キューリ	キューリ	キューリ	キューリ
H-098	蓬 (よもぎ)	ヨモギ	ヨモギ	ヨモギ	ヨモギ	ヨモギ
H-099	菜 (な)	ナッパ	ナッパ	ナ / ナッパ (大根の葉、カキ ナの葉)	ナッパ	ナッパ
H-100	大根 (だいこん)	デーコ	デーコ / ヂ ャーコ	デーコ	ディアーコン	ヂャーコ
H-101	冬瓜 (とうが ん)	NR	トーガン	NR	トーガン	トーガン
H-102	かぼちゃ	カボチャ	カボチャ	カボチャ	カボチャ	カボチャ
H-103	瓜 (うり)	ウリ / シマウリ	ウリ	ウリ	ウリ	ウリ (まくわ瓜)
H-104	韮 (にら)	ニラ	ニラ	ニラ (島にはな かった)	ニラ (近代的、 最近のもの)	ニラ
H-105	茸 (きのこ)	キノコ	キノコ	キノコ (しいたけ シータケ (自生) を指した)	キノコ (種類で 言うのが普通)	キノコ / シータケ「しいたけ」
H-106	きくらげ	ミミダブ	キクラゲ	ダブミミ	ダブミミ	ミミタブ / ダブミミ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-107	とうがらし	トンガラシ	トンガラシ	トンガラシ	トンガラシ	トーガラシ〜トンガラシ
H-108	にがうり	NR	ニガウリ	NR	NR	ニガウリ
H-109	胡麻 (ごま)	ゴマ	ゴマ	ゴマ	ゴマ	ゴマ
H-110	苺 (いちご)	イチゴ / アビ (野いちご)	イチゴ / ア ビ (のいち ご) / デンキ アビ (のいち ごの一種)	アビ	アビ	アビ (山いちご)
H-111	黴(かび)	カビ	カビ	カビ	カビ	カビ
H-111	麹(こうじ)	コーヂ	コーヂ	コージ〜コーヂ (酒造・味噌に)	コージ	コージ
H-112	ソテツ	ソテツ	シャメンバナ	ソテツ	ソテツ / ゴシャ メンバナ とも	ソテツィ (シャメン バナ ソテツの花)
H-113	松 (まつ)	マツ	マツ	マツ	マツ	マツ
H-114	竹 (たけ)	タケ	タケ	タケ (「筍」はタ コーナー)	タケ (「筍」はタ コーナ)	タケ
H-115	梅 (うめ)	ウメ	ウメ	ウメ	ウメ	ウメ
H-116	桃 (もも)	モモ	モモ	モモ	モモ	モモ
H-117	桑 (くわ)	カノキ (桑の 木) / カベー (桑の葉) / カ バ (桑の実)	カベー / カベイ	カノキ (桑の木) / カベー (桑の 葉)	カノキ (桑) / カ ビャ (桑の葉)	カビャー (桑の葉) / カビャーノキ (桑の木) / カビャ ーバタケ (桑畑) / カノミ (~の実)
H-119	すすき	ススキ	ススキ	ススキ	マグサ (牛の餌 にする)	ススキ
H-120	びろう樹	ビロー / シロノキ	クバ	ビロー	ビロウ	ビロー
H-121	ミカン	ミカン	ミカン	ミカン (種類別 にコミカン, ウン シュー, バカナ リとも)	ミカン	ミカン
H-122	茎 (くき)	ク.キ	クキ	ク.キ	ク.キ。	ク.キ~クキ
H-123	あおさ	NR	アオサ	NR (ハンバ 海 藻の一種)	アオサ	島にはない
H-124	モズク	NR	モズク	NR (ブドー 海 藻の一種)	NR	島にはない
H-125	藻(も)	モ (種類にブ ド, ハンバ (ノ リ), ノリ,トサ	モ	モ/モー	モ (希) / テング サ (テングサ)	カイソー (種類に ブド,トサカ,ハン バ,ノリ (岩のり),

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
		カ, コモノハ)				テンクサ)
H-126	イカ	イカ / イカメ	イカ / イカ メ	イカ/ イカメ	イカ / イカメ	イカ / イカメ
H-127	タコ	タコ / タコメ	タコ / タコメ	タコメ	タコ / タコメ	タコ / タコメ / ニョッコメ
H-128	エビ	エビ / エビメ	エビ / エビ メ	エビ / エビメ	エビメ / エビ	エビ / エビメ
H-129	ウニ	ウニ/ ジァル (トゲがないバ フンウニ)	ウニ/ ウニメ	ウニメ (食べな い)	ウニ(-メは付か ない)	ウニ/ イラカジ (ウニの仲間、トゲ ばかりで食べられ ない)/ ヅァル〜 ヅァルザル(ウニ の仲間,トゲが無 いバフンウニ、食 べられる)
H-130	ウニの身	3	NR	NR	NR (食べなかっ た)	ウニ/ ナカミ
H-131	貝(かれ))	カイ (ケーゴ ー トコブシの から)	カイ (アブキ あわび)	総称はない。メットー (高瀬貝)/シタダミ などと 種類別に言う	キャーゴー (トコ ブシの貝殻のこ と。 貝の総称は なく、種類で言う のが普通)	カイ (ケーゴー 「貝殻」)
H-134	巻き貝	シッタカ (岩に 付く小さいも の) / メットー (ボタンを作る のに使う)	ヒ.タダミ	NR (タニシはいない) / シタダミ(ヒラミミミガイ科の一種)	シタダミ	メットー (ガイ)(巻き貝の一種)
H-132	カメ	カメ / カメメ	カメメ	カメメ	カメメ / カメ	カメ / カメメ
H-133	カニ	カニメ	カニメ	カニメ / ガリマメ	カニメ / ガニメ	カニ/カニメ
H-135	魚 (さかな)	E	Э	ョ / サカナ	サカナ / イョ / イヨ	ョ (ヨー ツリ イコ ーゴン 魚を釣り に行こうか・)
H-136	うろこ	コケヅァ / ウ ロコ	コケ ヅァ / ウロコ	ウロコ/ ウロコー / コケ	コケ	ウロコ / コケラ
H-137	ウナギ	ウナギ / ウナ ギメ	ウナギ / ウ ナギメ	ウナギ / ウナギ メ	ウナギ	ウナギ (ナダメ ウ ツボか)
H-138	クジラ	クヂラ	クヂラ / ク ジラ	クジラ	クヂラ / クヂラ メ	クジラ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-139	カツオ	カツー	カツー	カツー (古) / タ ツオ (新)	カツー	カツオ/ カツー〜 カツィー漁師言葉)
H-140	トビウオ	トビョ / トビ	トビョ (トビメ ツリ イコゴー ン「トビウオ 釣りに行こ う」)	トビヨ	トビヨ	トピ
H-141	イルカ	イルカメ / イ ルカ	イルカ (メは 付けない)	イルカ	イルカ	イルカ
H-142	ナマコ	ウミヂンポ (海 のチンポ)	ナマコ (メは 付けない)	ウメヂッポ	ナマコ	ナマコ
H-143	ヒトデ	ヒトデ	ヒトデ (メは 付けない)	い デ	い デ	ヒトデ
H-144	ヤドカリ	オカガニ/ カナゴメ	ヤドカリ (メ は付けない)	NR	カナガメ	NR
H-145	牛 (うし)	ウシメ / ゾク / ゾクメ / ゾ ック / ゾックメ (雄牛) / ボッ コ / ボッコメ (大きな雄牛) / バメ (雌牛) / チョンコメ (子 牛)	ウシメ / ゾ ク / バメ / ゾクメ	ウシメ / チョン コメ (子牛)	ウシメ	ウシメ / ヅォック / ヅォックメ (雄 牛) / バメ (雌牛) / チョンコメ (赤ち ゃん牛) / チョー センメ (朝鮮 牛?, 赤い牛)
H-146	馬 (うま)	ウマメ	ウマメ	ウマメ	ウマメ	ウマ / ウマメ
H-147	ヤギ	ヤギメ	ヤギメ	ヤギメ / オスヤ ギ (雄山羊)	ヤギメ	ヤギメ
H-148	豚 (ぶた)	ブタメ	ブタメ	ブタメ	ブタメ	ブタメ
H-149	角 (つの)	ツノ	ツノ	ツノ	ツノ	ツノ〜ツィノ
H-150	とさか	トサカ	トサカ	トサカ (馬のた てがみとしては ない)	トサカ	タテガミ / トサカ
H-151	犬 (いぬ)	イヌメ	イヌ/ イヌメ	イヌメ	イヌメ	イヌメ
H-152	猫(ねこ)	ネッコメ	ネコ/ ネッコ メ	ネッコメ	ネッコメ	ネッコメ / コネッ コ (子猫)
H-153	ウサギ	ウサギメ	ウサギ / ウ サギメ	ウサギ / ウサギ メ	ウサギメ	ウサギメ
H-154	ネズミ	ネヅミメ / ネ ヅミ / ヨルノヒ ト (古)	ヨ が ノ / ネ ズ:	ネヅミ / ネズミ メ / ヨメドノ (古)	ネヅミ/ ヨメドノ	ネズミ
H-155	虫(むし)	ムシメ	ムシ / ムシ	ムシ / ムシメ	ムシメ	ムシメ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
			メ			
H-156	アリ	アリメ	アリ / アリメ	アリメ	アリメ	アリメ
H-157	蚊 (か)	カブメ	カブメ	カブメ / カ	カブメ	カブメ
H-158	 	クモメ / トン ヂャルメ (蜘蛛 の一種)	トンギャルメ / トージンヅ ァル/ トージ ンヂャル	テンゴメ	テンコ°メ	クモ
H-159	クモの巣	クモメノス	トンヂャルメ ノス / クモノ ス	クモノス / テン ゴメノス	アヂ	クモノス
H-160	蝶々 (ちょうちょ)	チョーチョメ / ヘッチョメ / ヘールメ (大 きなハエ)	チョーチョ / チョーチョー メ	チョーチョメ / チョーチョ	チョーチョ	チョーチョ / チョーチョメ
H-161	カタツムリ	カタツムリ / デンデンムシ	カタツムリ / デンデンム シ	カタツムリ / デ ンデンムシ (昔 は食べたかもし れない)	デンデンムシ	カタツムリ / デンデンムシ
H-162	カエル	カエルメ	カエルメ / キャールメ	カエルメ	キャールメ	カエルメ / キャ ールメ (古)
H-163	蜂 (はち)	ハチメ	ハチメ / ハ チ	ハチ/ ハチメ (蜂の種類 アブ メ, ブヨメ (牛を 襲う)	ハチメ	ハチ / ハチメ
H-164	蝿(はえ)	ヘーメ	ヘーメ / へ ー	ヘーメ	ヒャーメ	ヒャーメ
H-165	蛆 (うじ)	ウヂムシ / ウ ヂメ	ウヂメ	ウヂ / ウジメ	ウヂメ	ウジメ
H-166	蚤 (のみ)	<i>パメ / ノンメ</i>	ノンメ / ヌン メ	<i>ド ヌ</i> ンメ	ヌンミ	<i>パ / ヌ</i> ンメ
H-167	ミミズ	メメヅ / メメヅ メ	メメ • ダメ〜メ メズメ	ミミヅ / ミミズメ	ネネヅメ	ミミズメ / メメズ/ ネネズィメ
H-168	シラミ	シャンメ	シャンメ	シャンメ	シャンメ	シャンメ (メは付か ない)
H-169	ムカデ	ゲヂゲヂ / ム カヂメ / ムカ デ	ムカヂメ〜ムカジメ	ムカデ / ムカ デメ	ムカヂメ	ムカジメ
H-170	蚕 (かいこ)	コナサマ	コナサマ	コナサマ (尊敬 語)	コナサマ	コナサマ
H-171	カマキリ	カマキリ (ケー ビョーメ とか げ)	カマキリ	カマキリ (-メは 付かない)	ゲンビーメ	カマキル

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-172	トンボ	トンボメ	ヘッチョメ / ヘツォメ	トンボ / トンボ メ	ヘッチョメ	トンボ / トンボメ
H-173	バッタ	バッタメ	バッタ / バ ッタメ	バッタメ	バッタメ	バッタ/ バッタメ / バッタミ
H-174	鳥 (とり)	۲IJメ	KUH	トリメ / 「キジ」 はキジメ (戦後 入れた。 今は害 鳥)	KUY	トリメ
H-175	ニワトリ	ニャットリメ	ニャットリ / ニャットリメ / トートーメ	ニャトリメ	ニャットリメ	ニャットリメ/ トート ーメ (昔)
H-176	とさか	NR	トサカ	トサカ	トサカ	NR
H-177	雀 (すず め)	スヅメ〜スズメ	スヅメ / ス ズメ	スヅメ / スズメ メ	スヅメ	スズメ〜スィズィメ
H-178	鳩 (はと)	ハットメ / ハト メ / ハト / シ ョートメ (古)	ハトメ	ハトメ	ハトメ	ハトメ
H-179	カラス	カラスメ	カラスメ	カラス / カラス メ	カラスメ	カラスメ〜カラス _イ メ
H-180	ウズラ	ウヅラ / ウヅ ラメ	ウズラメ	NR (子供の頃は いなかった)	NR	ウズラ (メは付か ない)
H-181	鷹(たか)	タカメ (トンビ / トンビメ トビ)	タカ (トンビメ トビ)	タカ (ニシェメト ンビ)	ニーシェンメ	タカ (「鳶」は トン ビメ)
H-182	卵 (たまご)	タマゴ	タマゴ	タマゴ	タマゴ	タマゴ
H-183	巣(す)	ス	ス	ス	ス	ス
H-184	羽 (はね)	ハネ	ハネ	ハネ	ハネ	ハネ
H-185	動物	ドーブツ	イキモノ	オーブツ	NR	イキモノ / ドーブ ツィ
H-186	空 (そら)	ソラ / テンネ ー	ソラ	ソラ / テンニ	テンニー	ソラ
H-187	日 (ひ)	Ł	٤	ヒ (日付け) / オ ヒサマ / テント ーサマ (古)	ヒ	ヒ / テントーサマ も使う
H-188	太陽	テントーサマ	テントーサマ / タイヨー	ヒ / タイヨー / オヒサマ	テントーサマ	テントーサマ
H-189	光 (ひかり)	ヒカリ	ヒカリ	ヒ.カリ	ヒカリ	ヒ.カリ
H-190	蔭 (かげ)	ヒ.カゲ / カゲ / カゲボーシ	カゲ	カゲ / ヒカゲ (日蔭) / コカゲ (木蔭)	カゲ	カゲ / ヒカゲ / カゲボーシ (影法 師)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-191	まぶしい	マブシキャ	マブシキャ (「まぶしいで すね」)	マブシー	マブシー	マブシー (マブシ キャーノー まぶし いなあ)
H-192	火 (ひ)	ヒ	ヒ	ヒ	と	と
H-193	水 (みず)	ミヅ	ミ ダ/ ミズ	ミズ〜 ミヅ / 海水 ウショ (煮 炊きに用いた) (ウショクミ 海水 を汲みに行く 人。桶を頭に載 せて)	ミヅ	ミズ〜ミ zü
H-194	山 (やま)	ヤマ	ヤマ	ヤマ	ヤマ	ヤマ
H-195	川 (かわ)	カワ / コー (古)	カワ / コー	カー / カワ / カーラ / ターダ	コワ	カワ
H-196	橋 (はし)	ハシ	ハシ	ハチ	ハシ	ハシ
H-197	丘 (おか)	ヤマ / オカ/トンブ	オカ	ヤマ	才力	オカ
H-198	陸地 (りく ち)	オカ (小高い) / リク	オカ / リクチ	オカ / オカショ	才力	リクチ / オカ
H-199	土•地面	チチ/ ヂメン/ ミヂャ (古)	ツチ	ツチ/ チチ, ジ メン	チチ	ツィチ/ チチ(死 語) / ミジャ (外の 土の上)
H-200	星 (ほし)	ホシ	ホシ	ホシ	ホシ	ホシ
H-201	月 (つき)	ホシ / ツ.キ / オツキサマ	ツキ	ツキ / オツキサ マ / オツ.キ.サ マ	ツ,キ,	ツキ~オツィキサマ
H-202	雲 (くも)	クモ / クモメ	クモ	クモ	クモ	クモ
H-203	霧 (きり)	キリ / カスミ / モヤ	キリ	キリ	キリ(新) / モヤ (古)	キリ/モヤ
H-204	露 (つゆ)	ツユ	ツユ	ツユ / ヨツユ	ツユ	ツユ / ツィユ
H-205	雨 (あめ)	アメ	アメ	アメ	アメ	アメ
H-206	風 (かぜ)	カヅェ	カヅェ/ カ ゼ	カゼ	カヅェ	カゼ
H-207	竜巻 (たつ まき)	タツマキ / ツ ムヂカヅェ (小さい)	タツマキ /ツ ムヂカヅェ	タツマキ (-メは ない)	タツマキ	タツマキ〜タツィ マキ (ツジカゼ 「辻風」)
H-208	稲光 (いなびかり)	イナビカリ / イナヅマ (古)	イナビカリ	イナビカリ / イ ナズマ	イナビカリ	イナズマ〜イナ zü マ
H-209	地震 (じしん)	ヂシン	シン / ヂシン	ジシン / ヂシ ン	ヂシン	ヂシン
H-210	虹 (にじ)	ニヂ〜ニジ / ニヂメ	ムイヂ / ニ ジ	ニジ / ニヂ	ニヂ	ニジ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-211	明かり	アカリ	アカリ	アカリ	アカリ	アカリ
H-212	雷 (かみな り)	カミナリ / カミナリサマ	カミナリ	カミナリサマ / ゴロゴロサマ (幼児語)	ゴロゴロサマ	カミナリ / カミナリサマ
H-213	潮 (しお)	ショ	ショ / ウシ オ	ウショ (ウショミ ズ塩水) / ショ	ショ	シオ / ショ
H-214	煙(けむり)	ケムリ / ケブ / ケム	イブリ/ ケム リ	ユブリ (ユブス [動詞]) / イブリ (古) / ケムリ (新)	ケムリ	ケムリ / イブリ (ケムリデ イブロカ 煙でいぶそうか)
H-215	浅瀬 (あさ せ)	ネ	アサセ	ヂモト	アサキャ (浅い と言う)	アサセ
H-216	遠浅 (とお あさ)	トーアサ	トーアサ	トーアサ	トーアサ	トーアサ
H-217	洞窟 (どうく つ)	ドークツ / ホコラ / ホラ	トーラ (小さ いもの、俵も トーラ) / ホ ラ	ホラ / ドークツ	ホラアナ	ドークツ / ホラア ナ / トーラ [~] ドー ラ (木のうろ)
H-218	海 (うみ)	ウ ミ	ウ ミ	ウミ	ウミ	ウミ/ ハマ
H-219	水溜り、池	タマリ (水溜り) / イケ (池)	ミズタマリ /	ショダマリ (潮だ まり) / イケ (池)	NR	イキ (水たまり、 池)
H-220	港 (みなと)	ミナト	ミナト / ワン	テーボー (突堤 か) / ミナト	ミナト	ミナト
H-221	波 (なみ)	ナミ	ナミ	ナミ	た	ナミ / ウネリ (大 きな波) (「風」は ナギ)
H-222	泡 (あわ)	アワ / アブク (古)(アオー 泡を)	アブク / アワ	アワ / アブク (石鹸)	ショワ (波の花 のこと)	ヨタ (ヨタガ ハッ テルカラ キョーワ ウミガアレテルゾ ー 泡が張ってい るから京は海が荒 れているぞ) / シ ャブキ (海の泡) / アブク (石鹸の泡)
H-223	島 (しま)	シマ	シマ	シマ	シマ	シマ
H-224	浜 (はま)	ハマ	ハマ	ハマ / スナハマ	NR	ハマ
H-225	珊瑚礁	サンゴショー	サンゴショー	NR	NR	サンゴショー (島 にはない)
H-226	砂 (すな)	スナ	スナ/ ヂャリ (シャーレ つ	スナ	スナ	スイナ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
			ちぼこり)			
H-227	石 (いし)	イシ / イシコロ	イシ	イシ。	イシ	イシ
H-228	溝 (みぞ)	ミヅォ (小さい) / ホラ (大き い) / ミヂョ (古)	ミヅォ / ミジョ	ヒダ / ミジョ / ミヅォ	ミヂョ	ミゾマ(排水用)
H-229	田 (た)	タバラ	タバラ	タバラ (少ない) / タバラー (古) / タンボ (新)	タバラ	タバラ
H-230	畦道(あぜ)	アヅェ	アヅェ/ ア ゼミチ / ア ヅェエミチ	アゼ/ アゼミチ/ アヅェミチ	ハタ	NR
H-231	畑 (はたけ)	ヤマ / ショ / ヤマショ (奥の 方)	ショ / ヤマ	-ショ (地名に 付けて言う) / ハ タケ / ヤマ	ヤマ	ヤマ/ ヤマショ (遠くの畑)
H-232	野 (の)	ノッパラ / ノ	ノ / ノッパラ	ヤブ	NR	NR
H-233	道 (みち)	ミチ	ジチ	ミチ	ジチ	ミチ
H-234	崖 (がけ)	ママ	ガケ	ガケ / ドテ/ マ マ (切り立ったと ころ)	ガケ/ ホラバタ	ママ / タカママ
H-235	坂 (さか)	サカ	サカ	サカ	サカ	サカ
H-236	頂上 (ちょう じょう)	テッペン / ト ンツベ (低い 山)	トンツベ / テッペン	トンブ / トンツ ブリ (古) / チョ ーヅォー (新)	テッペン	テッペン / トンツ ィブラ (低いところ の〜)
H-237	東(ひがし)	ヒガシ / ヒガ シカゼ (東風) / ナライ (東 北風)	ヒガシ / ナライ	ヒガシ / ヒガシ カデ〜ヒガシカ ヅェ (東風) / ナライカデ (東 風)	ヒガシ / ナライ (北東の風。良い 風)	ナライ (北東の風)
H-238	北 (きた)	キタ / サガ (北風) / ナレ ー (北東) / ナレーカゼ (北東風)	キタ / ナラ イ (北東の 風)	キタ / ナレー (北風)	キタ / コアムラ (北風)	NR
H-239	西 (にし)	ニシ (ニシポ ン 冬の季節 風)	ニシ / ニシ カゼ	ニシ / ニシカ デ〜ニシカゼ (西風)(「風」単 独では [kaðe]。	ニシ (方角) / ニシ (風。良い 風)	NR

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-240	南 (みなみ)	ミナミ / ミナミ カゼ (南風) / ナガシ (南西) / ナガシカゼ (南西風)	ミナミ / ミナ ミカゼ	ミナミ / ミナミカ デ〜ミナミカゼ (南風) / ハエ (南風、古)	ミナミ (方角) / ミナミ (風)	ナガシ(南風)
H-241	右 (みぎ)	ギ	洋	ギ	ギ	ギ
H-242	左 (ひだり)	ヒダリ	ヒダリ	ヒダリ (ヒ.ではな く) / ヒダリ	ヒダリ	ヒダリ
H-243	前 (まえ)	マエ (マエゲ ー デロ 前に 出ろ) / メー / サッカタ (古) /	メー	マイ/メー	マエ	マエ
H-244	後ろ (うし ろ)	ウシロ / オシロ	ウシロ	オシロ / オシロ (オッキ 海側、 ヤブロ 山側)	オシロ / ウシロ	ウシロ / オシロ (古)
H-245	跡 (あと)	アト / アシア	アト	アト	アト	アト
H-246	横(よこ)	ヨコ	ヨコ	ヨコッパラ / ヨ	ヨコ	ヨコ
H-247	上 (うえ)	ウエ	ウエ	ウウェ [~] ウエ	ウェッダ / ウェ ンダ / ウエ	ウエ / ウェー
H-248	下 (した)	シタ	シタ	シタ	シタ〜シタ	シタ
H-249	中 (なか)	ナカ (ハコン ナカ 箱の中)	ナカ	ナカ	ナカ	ナカ
H-250	底 (そこ)	ソコ	ソコ	シギ (ー) / シ ンブ	ソコ / ドッヅォ コ (崖の)	シッブ
H-251	内 (うち)	ウチ/ ナカ	ウチ	ウチ	ナカ	ウチ
H-252	外 (そと)	ソト	ソト	ニャー / ソト	ソト (「庭」は ニ ャー)	ソト
H-253	奥 (おく)	オク	スンマ	オク [~] オクジ (「庭」ニャー)	オク	オク
H-254	角 (かど)	カド	カド	スミ / カド	カド	ツノッコ / カド (新)
H-255	傍 (そば)	ソバ	ソバ	ソバ / ソベー (そばに) / ソバ ョー (そばを)	ソバ / ソビャー (~に)	ソバ
H-256	今日 (きょ う)	ケー	ケイ	キー	キー/キョー	キー
H-257	昨日 (さくじ つ)	キネー	キネイ	キニー	+ / +-=	キニー / キニョー (借用形?)
H-258	一昨日(いっさくじつ)	オトトイ / ウツ ツェー	オトレイ	ウチ・チー / オトトイ	ウッチ~ウチチー / オトトイ	オトツイ / ウチチー

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-259	明日(みょう にち)	アス / アシタ	アス	アス	アシ.タ〜アシタ / アス	アス
H-260	明後日(みょうごにち)	アサッテ / サ ンナサッテ (古)	アサッテ	アサッテ	アサッテ	アサッテ
H-261	明明後日 (みょうみょう ごにち)	シアサッテ / サンナサッテ	シアサッテ	シガサッテ / シ アサッテ / サン ナサッテ	サンナサッテ (シヤサッテ 明 明明後日、ヤナ サッテ 明明明 明後日)	サンナサッテ
H-262	今年 (こと し)	コトシ	コトシ	コンド / コトシ	コトシ	コトシ
H-263	昨年(さくね ん)	キョネン	キョネン	キョネン	キョネン	キョネン
H-264	一昨年(いっさくねん)	オトトシ	オトトシ	オトトシ	オトトシ	オトトシ
H-265	来年(らいね ん)	ライネン / デ ーネン	ライネン / デーネン (知っている が使わない)	デーネン	リャーネン / ヂ ャーネン	リャーネン / ヂャ ーネン (古) / ライ ネン (新)
H-266	再来年(さらいねん)	サライネン / サレーネン / サデーネン	サライネン	サデーネン	サリャーネン / サライネン	サリャーネン
H-267	今(いま)	マン / イマ	マン	マニ/ マン	マン	マン / マニ(マニ ャ イソガシー 今 は忙しい)
H-268	昔 (むかし)	ムカシ	ムカシ	ムカシ	ムカ g / ショテ ーニ	ムカシ / ミャーニ (以前に)
H-269	夏 (なつ)	ナツ	ナツ	ナツ	ナツ	ナツ
H-270	冬 (ふゆ)	フユ	フユ	フユ	フユ	フユ
H-271	朝 (あさ)	アサ/ トンメテ (古)	トンメテイ	トンメテ	アサ / トンメテ (8 時頃まで)	トンメテ(早朝。強 調して言うと トー ンメテ)/ アサ
H-272	昼 (ひる)	ヒル	ヒョウラドキ	ヒルーヒル	ヒル	ヒル
H-273	夕方 (ゆう がた)	ユーガタ/ ク レガタ (古)	クレーガタ	ユーガタ / クレ ー (古) / クレイ ェー	ユーガタ / クレヤ (日が落ちる頃) / クレガタ / ヨンベ (タベ)	ユーガタ / クレ ヤ
H-274	夜 (よる)	ヨル/ ヨンベ (昨日の夜、古)	ヨル	ヨル(「昨夜」はヨッベ / ヨンベ	ヨッベ	ヨッベ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-275	夜中	ヨナカ	ヨナカ	ヨナカ	ヨナカ / ヨルヨ ナカ	ヨナカ
H-276	暇(ひま)	ヒマ	ヒマ	ヒマ (「合間」はヨマ)	ヒマ / ヨマ (合 間) / ヨマシ.キ	ヒマ (「合間」はヨマ)
H-277	時 (とき)	h ‡	トキ / ヂブ ン	N +	14	ヂカン / トキ
H-278	年 (とし)	トシ	トシ	トシ	トシ	トシ (年齢も)
H-279	暦 (こよみ)	コヨミ / コユメ (古)	コヨミ (コユミ は使わない)	コイミ (3音節) / コヨミ	コヨミ / コイミ (3 音節)	コヨミ
H-280	物 (もの)	モノ	モノ	モノ	モノ	モノ
H-281	色 (いろ)	イロ	イロ	イロ	イロ	イロ
H-282	音 (おと)	オト	オト	オト	オト	オト
H-283	夢 (ゆめ)	ユメ	ユメ	ユメ / ユミー (夢を)	ユメ	ユメ
H-284	着物 (きも の)	キモノ, へべラ (古)	ヘビラ	ヘビラ	へベラ / マダ ラ (よそ行き)	マダラ / キモノ / ヘベラ
H-285	襟 (えり)	エリ	エリ	イェリ / エリ	エリ	エリ /イェリ (古)
H-286	袖 (そで)	ソデ	ソデ	ソデ	ソデ	ソデ
H-287	裾 (すそ)	スソ	スソ	スソ	スソ	スソ
H-288	帯 (おび)	オビ	オビ	オビ	オビ	オビ
H-289	紐 (ひも)	ヒモ/ ヒボ (古)	ヒモ	ヒボ	ヒモ / ヒボ / ナワ	ヒモ /ヒボ (古)
H-290	足袋 (たび)	タビ	タビ	タビ	タビ	タビ
H-291	袴 (はかま)	ハカマ	ハカマ	ハカマ	ハカマ	ハカマ
H-292	下駄 (げた)	ゲタ/ ボックリ (古)	ゲタ / プッ クリ (何か履 物)	ゲタ (アシダ 高 下駄)	ゲタ (ホーバ / アシダ 高下駄) / ボックリ	ゲタ / アシダ (高下駄)
H-293	草履 (ぞう り)	ジォーリ / ア シナカ (走る の使うぞうり、 短い)	ゾウリ / ア シナカ (つま 先だけの履 物)	ヂョーリ / アシ ナカ 走るのに 使う、前半分し かないぞうり)	ヂョーリ / ヅォ ーリ (古) / アシ ナカ (走るのに 使う, 前半分し かないぞうり)	ヅォーリ
H-294	緒 (お)	ハナオ	オバ	ハナウォ (下駄 の) / ハナオ	オ / ハナオ	ハナオ
H-295	布 (ぬの)	キレ	キレ	キレ	キレ / ヌノ / ボロ (ボロ布)	キレ
H-296	表 (おもて)	オモテ (「玄 関」は トボー)	オモテ (「玄 関」はトボウ)	オモテ / オモ チー (~に) / サッカタ	オモテ (「前」は サッカタ)	オモテ
H-297	裏 (うら)	ウラ	ウラ	ウラ / オシロ	ウラ	

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-298	綾,模様 (あや)	ガラ	モヨウ / モ ヨー (オウ と オー の区別 がある人とな い人がいる)	モヨー	ゲラ	アヤ
H-299	手ぬぐい、 タオル	テネゲー / テネグイ (新)	テネゲー / テネゲイ	テニギー	テネギー / テ ネグイ / テヌグ イ	テヌグイ / (古)テ ネギー
H-300	蓑 (みの)	<i>!!</i>	ミノ ((A) 見 たことある, (B)使わない)	<i>ჰ.</i> /	NR	NR / (カッパ)
H-301	湯 (ゆ)	オユ	オユ	ユ	ユ / サユ	ユ / オユ (ユー ワカセ 湯を沸か せ)
H-302	茶 (ちゃ)	オチャ	オチャ	チャ	チャ	チャ / オチャ (チャー ノモゴン 茶を飲みましょう)
H-303	飯 (めし)	ゴハン / メシ (古)(シャメシ 白ごはん)	メシ	メシ	メシ / シャメシ	メシ / シロメシ (白米)
H-304	粥 (かゆ)	オカユ (オケ ーオ タモオレ おかゆを下さ い)	オカユ	オケー	キャ/オカユ	オカユ
H-305	餅 (もち)	モチ	モチー	モチー	モチー	モチー
H-306	雑炊 (ぞうすい)	オジヤ / ヅォースイ	ゾウスイ / オヂヤ	ヅォーシー / オヂヤ	ヂョーシー / ヅォーシー	ヅォーシー / ヅ ォーセイ (新?) (オ ヂャ 残ったご飯 をみそ汁などと混 ぜて煮直したもの)
H-307	味噌 (みそ)	ミソ	シン	シン/シス		ミソ / テッカンミソ (自家製の味噌)
H-308	汁 (しる)	シル	シル	ツユ / シル	シル/ ツユ (「オカズ」はシャ ー)	ツユ
H-309	塩 (しお)	シオ	シオ	ショ	シオ/ショ	シオ / ショ (古)
H-310	塩辛い	ショッパイ (ショッパキャ しょっぱいよ)	ショッパイ	ショッカラケ / カラキャー/ ショ ッパイ	ショッカライ / ショッパキャ (「魚醤」はシュ ーデ)	ショッカリャー / ショッカライ (新)
H-311	砂糖 (さと う)	サトー (サトー ー ケロ 砂糖 をくれ)	サトー	サトー	サトー	サトー

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-312	甘い	アメー / アマキャ	アマキャ	アマキャ	アマイ	アマキャー
H-313	砂糖黍 (さとうきび)	トーギミ	カンシャ	カンシャ (キビ ガンシャ サトウ キビの種類、ト ーキビガンシャ とうもろこし)	カンシャ	カンシャ
H-314	粕 (かす)	カス	カス	カス	シューチュード ブ (酒作りの)	カス
H-315	酒 (さけ)	サケ	サケ	サケ	サケ	サケ(焼酎)
H-316	麹 (こうじ)	コージ	コーヂ	コーヂ〜コージ	コーヂ	コーヂ
H-317	粒 (つぶ)	ツブ	ツブ	ツブ	ツブ	イツブ
H-318	糠 (ぬか)	ヌカ	ヌカ	ヌカ	ヌカ	ヌカ
H-319	粉 (こ・こな)	コナ	コナ	コナ	コ/コナ	コナ
H-320	にんにく	ニンニク	ニンニク	ニンニク	ニンニク	ニンニク
H-321	芽 (め)	メ	メ	メ	メ	メ
H-322	クワズイモ	NR	NR		クワヅイモ (5 音 節)	NR
H-323	肉 (にく)	ニク	ニク	ニク	ニク	ニク
H-324	果物 (くだ もの)	クダモノ(「み かん」は コー ジ、小さい, 酸っぱくて種 が大きい)	クダモノ	クダモノ	クダモノ (「みか ん」はコージ)	クダモノ
H-325	油 (あぶら)	アブラ	アブラ	アブラ	アブラ	アブラ
H-326	天ぷら	テンプラ	テンプラ	テンプラ	テンプラ	テンプラ (かき揚 げ含む)
H-327	灰 (はい)	ハイ / へー (古)	^-	<u>~</u>	ヒャー	ヒャー (古) / ハイ (新)
H-328	匂い (にお い)	ニオイ(カマ ル動詞「匂い がする」)	ニオイ	ニヨイ (いい句 いも) (カマロワ ナー 臭いなあ) / ニオイ	ニヨイ / ニオイ / カマル(動詞 「臭い」)	ニオイ(カマル動詞「匂いがする」)
H-329	味 (あじ)	アジ	アヂ	アヂ~アジ	アヂ~アジ	アヂ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-330	料理 (りょう り)	リョーリ	リョーリ / 「魚をさばく」 はヂョール (ボウヂョ ソ ワー 料理を しようか)	リョーリ	リョーリ	ゴチソー (来客向け) / リョーリ / 「料理する」は ヂョール(ヨー ヂョーロワ 魚を料理する / ヂョーロヂャ)
H-331	ご飯	メシ	メシ	メシ	メシ	メシ (メショ カモ アカ ご飯を食べ ようか)
H-332	食事 (しょく じ)	メシ	メシ	ヒョクジ	メシ	メシ
H-333	朝食 (あさ めし)	アサメシ	アサメシ	アサメシ / アサ ケ <u>.</u>	アサケ (古) / アサメシ	アサゲ (古) / ア サメシ (新)
H-334	昼食 (ひる めし)	ヒョーラ	ヒルメシ / ヒョウラ	ヒョーラ	ヒョーラ	ヒルゲ (古) / ヒル メシ (新)
H-335	夕食 (ゆう めし)	ユーメシ	ヨウメシ	ヨーケ / ヨーメ	ヨーケ / ヨーメ	ヨーケ (古) / ヨー メシ (古) / ユーメ シ (新)
H-336	膳 (ぜん)	オヅェン	オゼン	ヅェン / タボダ イ〜タブダイ (ちゃぶ台)	ヅェン	オボン
H-337	食べる	力厶	カム (カモワ 食べるよ)	カム	カム	カモワ (あまり使 わない)
H-338	食べ物	カミモノ	カモモン	カモモン	カモモノ	カモモン
H-339	家 (いえ)	イエ / ワガエ (我が家) / オ マエノエ (お 前の家), ウン ガ は目下へ)	エ	イェー / ウチ	エ / ワガエ (我 が家) / ウンガイ エ [^] ウナガイ (お まえの家)	イエ
H-340	母屋 (おも や)	オモヤ / ボ ーケウチ (大 きい家) / ボ ーエ (分家)	ボウエ	オモヤ (希)(「は なれ」はヂグラ (希))	ボーケウチ (「は なれ」はゲヤ / エノコ)	オモヤ / ボーイ ェ (古)
H-341	台所 (だい どころ)	コックバ / オ カッテ	コックバ	コックバ / コク	コックバ	ダイドコロ / コッ クバ / オテマ
H-342	天井 (てんじょう)	テンヂョー	テンヂョー / アマ	テンヂョー (「天 井裏」はアマ)	テンヂョー (「天 井裏」は アマ)	テンヂョー / ア マ (古)
H-343	床 (ゆか)	ユカ (ミジャ 「地面」)	ユカ	ユカ	ユカ (床) / ミヂ ャ〜ミジャ (床・	ユカ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
					地面)	
H-344	棚(たな)	タナ	タナ	タナ	タナ	タナ
H-345	竈 (かまど)	カマド / ヘッ ツイ (ごはんを 炊く釜全体)	カマド	カマド (ヘッツイ 自在鉤)	カマド / ヘッツ	カマド / ヘッツイ
H-346	いろり	イロリ	イロリ	イロリ / ヂロプ チ (囲炉裏端)	カマド / ヂロ (「囲炉裏淵」は ヂロブチ,「予備 の薪」のムスク ビ)	イロリ
H-347	戸 (と)	F	ト / アマド	<u>۲</u>	F	<u>۲</u>
H-348	板 (いた)	イタ	イタ	イタ	イタ	イタ
H-349	節 (ふし)	フシ	フ.シ / フ. シメ	フ.シ〜フシ	フ.シ〜フシ	フシ
H-350	穴 (あな)	アナ	アナ	アナ	ドマ/アナ	アナ
H-351	柱 (はしら)	ハシラ	ハシラ	ハシラ	ハシラ	ハシラ
H-352	釘 (くぎ)	クギ	クギ	クギ	クギ	クギ
H-353	瓦 (かわら)	カワラ	カワラ	カワラ / カーラ	カワラ	カワラ (ほとんど ない。普通はトタ ン。)
H-354	便所 (べん じょ)	トイレ / カン ヂョー (古)	ベンヂョ / カンヂョー	カンヂョー	ベンヂョ / カン ヂョー (「島アジ サイの葉」を カ ンヂョーシバ と いう。これをトイ レットペーパー として使用した)	ベンヂョ / カン ヂョ (カンヂョは他 地区の言い方 か?)
H-355	垣 (かき)	クネ「生け垣」	イシガキ (石 垣) / クネ (生け垣)	イシガキ / オリ (古) / カキ	オル / イシガキ	カキネ / オリ (石 積の垣)
H-356	庭 (にわ)	ニャー	ニャー	ニャー	ニャー	ニャー
H-357	井戸 (いど)	ボ	ボ	ボ	イド	1ド
H-358	墓 (はか)	ハカショ	ハカショ	ハカショ	ハカ / ハカショ	ハカ
H-359	煤 (すす)	スス	スス	スス	ス"ス"~スス	スス[ス.ス]
H-360	埃 (ほこり)	ホコリ	ホコリ	ホコリ	ホャーレ (砂ぼ こり) / ホコリ	ホコリ
H-361	縄 (なわ)	ナワ	ノー	ナー	ノア / ニャー	ナワ / ヌア (古)
H-362	鎖 (くさり)	クサリ	ク.サリ	ク.サリ	ク.サリ	ク.サリ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-363	綱 (つな)	ツナ	ロップ / ツナ	ナー / ツナ	ツナ	ツナ
H-364	袋 (ふくろ)	フクロ	フ.クロ	フ.クロ / フクロ	フ.クロ~フクロ	フ.クロ
H-365	荷 (に)	ニモツ	ニ/ ニモツ	=	=-~=	ニ(ニョー ツム 荷を積む)
H-366	皿 (さら)	サラ	サラ	サラ	サラ / ゴキ	サラ
H-367	椀 (わん)	オワン	オワン / ゴ キ (聞いたこ とあり)	ワン	ワン	ワン
H-368	茶碗 (ちゃ わん)	メシジャワン / ゴキ (古)	チャワン	チャワン / ゴキ (古)	ゴキ / メシジャ ワン	メシヂャワン
H-369	壷 (つぼ)	ツボ	ツボ	ツボ	ツボ	ツボ
H-370	鉢 (はち)	ハチ	ハチ	ハチ	ハチ	ハチナンメ
H-371	瓶 (かめ)	カメ	カメ	カメ	カメ	カメ
H-372	水瓶 (みず がめ)	ミズガメ	ミズガメ	ミヅガメ	ミヅガメ	ミズガメ
H-373	桶 (おけ)	オケ	オケ	オケ	オケ	オケ
H-374	水桶 (みず おけ)	NR	ミズオケ	ミズオケ	ミヅオケ	ミズオケ
H-375	盥(たらい)	タライ / タレ ー (古)	タライ / タレ ー	タレー(木製)	タリャー	タリャー / カナダ リャー (金盥)
H-376	ひしゃく		シャク	シャク	ヒ・シャク	シャモヂ
H-377	柄 (え)	エ/ヒシャクノエ	エ / トッテ	イェ / エ	工	ボー
H-378	釜 (かま)	ハガマ	オカマ / ハ ガマ (聞い たことがある)	ハンガマ (ごは ん釜) / メシガ マ / カマ	カマ / ハンガ マ (ご飯用)	メシガマ / ハガ
H-379	しゃもじ	ヘラ (シャモジ お玉)	シャモヂ	ヘラ / シャモジ	ヘラ / シャジ	シャモジ
H-380	急須・鉄瓶 (きゅうす)	キュース / キ ビショ (古)	キュース / テツビン	キュース / テツ ビン / キビショ 〜キビショー (南洋帰りの方が 使用、古)	キュース / ドビン / キビショ	キビショ (古) / キュース (新)
H-381	箸 (はし)	ハシ	ハシ	ハシ	ハç~ハシ	ハシラ
H-382	包丁 (ほう ちょう)	ホーチョー	ホウチョー	デバ / ホーチョー	ホーチョー	ホーチョー

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-383	刀 (かたな)	カタナ	カタナ	カタナ	カタナ	カタナ
H-384	小刀 (こが たな)	キリダシナイフ	コガタナ	コガタナ	コガタナ / ナイ フ	コガタナ
H-385	まな板	マネータ / キ リバン (古)	マナイタ / キリバン	マネータ/キリバン	キリバン	マナイタ / キリバ ン (古)
H-386	臼 (うす)	ウス	ウス	ウス (搗き臼) / イシウス (挽き 臼)	ウス (搗き臼) / スルス (挽き臼、 腰の重い女)	ウス
H-387	杵 (きね)	丰ネ	キネ	キネ (横杵) / テギネ (竪杵)	キネ (「ゴマすり (道具)」はデン キ°ネ	キネ
H-388	斧 (おの)	オノ	オノ(薪割り 用) / ナタ (枝落とし用) / ヨキ (大工 道具)	オノ (伐採用) / ヨキ (薪割り用)	マサカリ / マキ ワリ / オノ / ヨ キ (古)	オノ / ナタ (山 刀)
H-389	鋸 (のこ)	ノコギリ	<i>/</i> コ / <i>/</i> コギ リ	ノコギリ	ノコギリ	ノコ(ノコギリとも)
H-390	鑿 (のみ)	<i>ド</i>	ド	ミ	ミ	<i>ト</i>
H-391	錐 (きり)	キリ	キリ	キリ	キリ	キリ
H-392	箱 (はこ)	ハコ	ハコ	ハコ	ハコ	ハコ
H-393	筆 (ふで)	フデ	フデ	フデ / フヂー (~を)	フデ / フディー (~を)	フデ
H-394	紙 (かみ)	カミ	カミ	カミ / カミョ (~ を)	カミ	カミ
H-395	鋏 (はさみ)	ハサミ	ハサミ	ハサミ	ハサミ	ハサミ
H-396	印 (しるし)	シュルシ (丸 めのあるイ)	シルシ / メボシ	シルシ	ショシ (ショシ モ タネモ ニャ ー何もかもめち ゃくちゃになっ てなくなる)	シルシ
H-397	漆 (うるし)	ウルシ	ウルシ	ウルシ (希)	ウルシ	ウルシ
H-398	鏡 (かがみ)	カガミ	カガミ	カガミ	カガミ	カガミ
H-399	櫛 (くし)	クシ	ク.シ	クシ	クc	クシ / トーグシ (半月型の櫛)
H-400	布団 (ふと ん)	フ.トン	フ.トン	フ.トン〜フトン / ヤグー (腕を通 すもの)	フ.トン	フ.トン

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-401	枕 (まくら)	マクラ	マクラ	マクラ	マクラ	マクラ
H-402	箒 (ほうき)	ホーキ	ホウキ / ホ ーキ	ホーキ / ホー キョ (~を)	ホーキ	ホウキ / ホーキ
H-403	竿 (さお)	サオ/ モノホ シザオ (物干 し竿) / サオダ ケ	サオ	サウォ / サオ	サオ	サオ
H-404	杖 (つえ)	ツエンボー	ツエ / ツエ ンボウ / ツ ッキンボウ	ツエ / ツクンボ ー (物を突くた めの棒) / ツエ ンボー (古))	ツィセ	ツエ / ツエンボ
H-405	笠·傘 (か さ)	カサ / コー モリ (古)	カサ	カサ	カサ	カサ
H-406	針 (はり)	ハリ / ヌイバ リ	ハリ	ハリ	ハリ	ハリ
H-407	糸 (いと)	ル	小 / ニュ ートウ	小	イト / テミョー (たこ糸)	小
H-408	煙管 (きせ る)	キセル	キセル	キシェルーキセル	キセル	キセル
H-409	金 (かね) (金属・お金)	ヅェネ/ ヂェ ネ (古) / ヂャ ニェ	カネ / ヂェ ネ / ヂェニ	カナモノ / カネ	カネ / ヂェネ / ヂェニ(お金)	オカネ / カネ / ヅェニ/ ヂェネ
H-410	三味線 (しゃみせん)	シャミセン	シャミセン	シャミセン	シャミセン	NR (シャミセン)
H-411	船 (ふね)	フネ	フネ	フネ	フネ	フネ
H-412	帆 (ほ)	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ
H-413	櫂 (舟のカ イ)	カイ	カイ / ロ (ロとカイは別 物)	カイ	ロ / カイ	カイ
H-414	網 (あみ) (魚を獲るあ み)	アミ	アミ	ヨーアミ / アミ	アミ	アミ
H-415	槍 (やり)	ヤリ / ツキンボー	ヤリ	ツキンボー / モリ / ヤリ	モリ / ヤス. / ヤリ	ヤリ
H-416	鍬 (くわ)	クワ / ミツグ ワ (3つに分か れてる鍬) / ヒ ラグワ (平らな 鍬) / テガ	テガ	テガ (種類に ミ ツガ, ヒラガ)	テガ (種類に ミ ツガ / ヒラグヮ)	クワ / キャーテ ガ (草取り道具) (「蚕」はコナサマ)
H-417	鋤 (牛にひ かすすき)	スキ	スキ	s,キ~スキ	s,キ / プラオ	NR
H-418	脱穀用ゴザ	ゴザ〜ゴヅァ	ゴザ / ムシ	ムシロ	ムショ〜ムシロ	ゴヅァ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
			口			
H-419	鎌 (かま)	マガマ	マガマ	マガマ	カマ / マガマ	カマ / ヒラテガ (草刈り道具)
H-420	鋤 (すき)	スキ	スキ			NR
H-421	箆 (へら)	ヘラ	ヘラ	ヘラ	ヘラ	NR
H-422	笊 (ざる)	ヅァル/ ヂャ ル	ザル〜ヅァ ル/ イメジゴ (竹で編んだ 壺が他の細 い笊)	ヅァル/ ミ (脱 穀用)	ヅァル	ヅァル
H-423	篭 (かご)	カゴ	カゴ / ヅァ ル	カゴ / イメミゴ (里芋洗いに使 用)	カゴ / イメミゴ, ユメムゴ (里芋 洗いに使うかご)	イメンゴ (小さい 背負う篭)
H-424	篩 (ふるい)	フルイ / ミ	フルイ / ミ	フリー~フルイ	フリー / フルイ	NR
H-425	俵 (たわら)	タワラ / トー ラ (古)	トーラ	タワラ / ターラ / スミダーラ (炭 俵)	タワラ / スミドア ラ / ヅック	トアラ (古)
H-426	筵 (むしろ)	ゴザ〜ゴヅァ	ムシロ / モ ショ (古) / ゴザ	ムシロ	ムショ / ムシロ / ゴザ	ムシロ / コモ
H-427	薪(たきぎ)	マキ / ゴミ	マキ (大きい 木) / ゴミ (ちょっと大き めの木、細 い木という人 もいる) / ム スクビ (着火 材に使う細か い木)	ゴミ / タキギ / ヅァンサラ (古)	ゴミ / ム s.クビ	マキ/ゴミ/ムスクビ
H-428	人 (ひと)	ヒト	ヒト	ヒト~ヒト	ヒト	나
H-429	親 (おや)	オヤ	オヤ	オヤ	オヤ/オヤサマ	オヤ
H-430	子(二)	コ (ウクノ コ あそこの家の 子) / コドモ	コ / コドモ / アッパメ (赤ん坊)	コ / ヤッコメ (古)	コ / コドモ	コドモ
H-431	長男	チョーナン / チョウナンメ	チョーナン / タロー (使わ ないが知っ ている) / ボ ーヤ	チョーナン	チョーナン	チョーナン
H-432	二男	ヂナン / ヂ ナンメ	ヂョウメ / ヂ ナン	ヂナン	ヂナン	ヂナン

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-433	三男	サンナン / サンナンメ	サボウ	サンナン	サンナン	サンナン
H-434	四男	ヨンナン	ヨンナン / ショウ	ヨンナン	ヨナン	ヨンナン
H-435	五男	ゴナン	ゴナン / ゴロウ	ゴナン	ゴナン	ゴナン
H-436	六男	ロクナン	ロクナン / ロクロウ	ロクナン	ロクナン	ロクナン
H-437	七男	シチナン	シチナン	シチナン	シチナン	シチナン
H-438	八男	ハチナン	ハチナン	ハチナン	ハチナン	ハチナン
H-439	九男	キューナン	キューナン	キューナン	キューナン	キューナン
H-440	十男	ヂューナン	ヂューナン	ヂューナン	ヂューナン	ヂューナン
H-441	長女	チョージョ / チョーヂョメ	チョーヂョ / ニョコ / ニョ コメ	チョヂョ〜チョー ジョ/ ニョコメ (古)	チョージョ	チョーヂョ
H-442	二女	ヂジョ / ヂヂ ョメ	ヂヂョ / ナ カ (聞いたこ とがある) / テゴメ (?)	ヂヂョ / ニジョ	ヂジョ	デーチョ
H-443	三女	サンヂョ / サ ンヂョメ	サンヂョ	サンヂョ	サンヂョ	サンヂョ
H-444	四女	ヨンヂョ / ヨン ヂョメ	ョンヂョ / ク ス (聞いたこ とがある)	ヨンヂョ	ヨンヂョ	ヨンヂョ
H-445	五女	ゴジョ	ゴヂョ	ゴヂョ〜ゴジョ	ゴジョ	ゴヂョ
H-446	六女	ロクジョ	ロクヂョ	ロクヂョ〜ロクジョ	ロクジョ	ロクヂョ
H-447	末っ子	スエッコ/ ヒッ パシ (古)/ シッパシ	スエッコ / シッパシ / シッパシメ (メが付くと上 品でない感 じがする。)	スエッコ / ヒッ パシメ	シッパシ	ヒ.ッパシ / ヒ.ッ パシメ (メは愛情 をこめた謙遜のニ ュアンス。)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-448	親子 (おやこ)	オヤコ	オヤコ (親戚 も)	オヤコ(親戚も)	オヤコ	オヤコ
H-449	孫 (まご)	マゴ / マゴメ	マゴ	マゴ	マゴ	マゴ
H-450	父, おとうさ ん	オトーサン / トーチャン (古) / オヤヂ	オット / トト ウ (古) / オヤジ / ト ーチャン / テテオヤ	オトーチャン / トーチャン / ト ッチャン (古)	オトーチャン / テテ (古) / オ ヤジ	オトーチャン / オトチャン
H-451	母, おかあさん	オカーサン / カーチャン (古) / オフクロ	オッカ / カ ーチャン / ホー (古)	オカーチャン / カーチャン / オッカ (古)	オカーチャン / ホヮワ (古) / オ フクロ	オカーチャン / オカチャン
H-452	兄,おにい さん	オニーサン/ アンチャン (古)	アニ/ アン チャン (「年 上, 目上の 人」はアセイ)	アンチャン / ア シー (古) / ニ ーチャン	アンチャン / アニキ	オニーチャン / アンチャン (アセ イは聞いたことあ り)
H-453	姉, おねえ さん	オネーサン/ ネーチャン (古)	ネーチャン / ネイヤ / ネイチャン (「年上の女 性」は イン ネ)	ネーチャン	ネーチャン (呼 ぶときは○○ (名前)ニーチャ ン)	オネーチャン / アンド
H-454	弟 (おとう と)	オトート / シタノ キョーデ	オトウト	オトート	オトート	オトウト
H-455	妹 (いもうと)	イモート / シ タノ キョーデ ー	イモウト	イモート	イモート	イモウト
H-456	兄弟 (きょう だい, しま い)	キョーダイ / キョーデー	キョウデー	キョーデー	キョーダイ	キョーダイ / キョーデャー
H-457	祖父(そふ)	オジーサン〜 オデーチャン / デーチャン	ヂーチャン / ヂーサン / オウサマ (古)	ヂーチャン	ヂーチャン / オヂーチャン / オーサマ (古)	オデーチャン / オーサマ (古) / オーチャマ
H-458	祖母(そぼ)	オバーサン / オバーチャン / バーチャン/ バッバ (坂上 の呼び方)	バーチャン / バンマ (古) / オモ ーサマ (古)	バーチャン / バンバ / ウン マ (古)	バーチャン / オバーチャン / バッバ (古)	オバーチャン
H-459	夫 (おっと)	ダンナ / テ ーシュ	オット / オ ヤジ / ワガ イェノヒト / ワゲーノヒト	ダンナ / オット / トー / ワガイ /ヒト	ダンツィクィ(宿ろ く) / ダンナ (呼 ぶ時は名前で呼 ぶ)	ワギ (一)/ヒト

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-460	妻 (つま)	ヨメ / ワゲー ノ ヒト	ヨメ / ワガイ ェノヤツ / ワゲーノヤツ	ヨメ / ワガイノ オンナゴ	カニャー / ヨメ (呼ぶ時は名前 で呼ぶ)	オミ / 呼ぶ時は 名前で呼ぶ
H-461	夫婦 (ふう ふ)	フーフ / ツレ アイ	フーフ	フーフ	フーフ	フーフ
H-462	叔父 (おじ)	オジチャン / オジサン / オ ヂ	オヂ	オヂ~オジ	オヂ	オヂチャン / オ
H-463	叔母 (お ば)	オバチャン / オバサン / オバ	オバ	オバ	オバ	オバチャン / オ バ
H-464	甥(おい)	オイ/ メイヨーシ	オイ	オイ	オイッコ / メー ヨーシ (姪と合 わせて)	オイッコ
H-465	姪 (めい)	メイ / メイヨーシ	М	M	メイッコ / メーヨ ーシ (甥と合わ せて)	メイッコ
H-466	従兄弟 (い とこ)	イトコ	小コ	小コ	小コ	小コ
H-467	婿 (むこ)	ムコ / ムコド ノ	ムコ / ムコ ドノ	ムコ	ムコ	ムコ
H-468	家族 (かぞ く)	カゾク〜カヅォク	カゾク / ショテー (ショ テーは「以前 に」の意味も)	ナカマ / カゾク	カゾク / カニャ	カヅォク
H-469	親戚 (しん せき)	オヤコ	オヤコ	オヤコ	オヤコ	オヤコ
H-470	男(おとこ)	オノコゴ / オ トコゴ	オトコ / オト コゴ	オノコゴ	オノコゴ	オトコ / オノコゴ
H-471	女 (おんな)	オンナゴ	オンナ / オ ンナゴ (聞い たことがある)	オンナゴ	オンナゴ	オンナ / オンナ ゴ
H-472	目上 (の男)	メウエ (ワレヨリ ボーケ ヒト 私 より年上の人) / トシウエ	アセイ / セ ンパイ (年齢 が上の人)	アニ(呼ぶ時は ○○ (人名)アニ / ボーケヒト (年 上)	アンチャン (呼 ぶ時は〇〇 (人 名) アンチャン / 〇〇オヂチャ ン)	メウエノヒト
H-473	目下(弟、 妹)	トシシタ	NR	オメンチェー/ コレンチェー	呼ぶ時は名前を 呼び捨て	NR
H-474	青年 (せい ねん)	セーネン / ワ ケーシュー (古)	ワケーシュ	ワケーシュ (20 歳~25,26 歳) / ワケーシ	ワキャーシュ (17、18 才~ 27,28 才或は結 婚するまで)	ワカケヒト
H-475	大工(だい	ダイク / デー	デーク	デーク / ダイク	ディャーク. / デ	ダイク

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
	<)	ク (古)			ーク	
H-476	友だち	ホーベー	ホウベー	ナカマ / ホー ベー (古)		トモダチ
H-477	若い娘	メナラベ	メナラベ	メナラベ	メナラベ	メナラベ (25 才く らいまで)
H-478	私(わたし)	ワレ / ワイ / アイ / ワレワ (私は) / ワガ (私の) / ワレ ニ(私に)	アイ / ワイ / ワレ / ア ガ (?)	アガ / アレ	アレ / アガ	ワレ / ワイ
H-479	私たち	ワレラ / ワイ ラ	ワイシャー / ワイラー / ワイラ	ワレンチェー / アレンチェー	ワレンシャー / ワレンチャー	ワレーシャー / ワイシャー
H-480	あなた	オマエ / オメ ー (対目上、 対目下という人 も) オミー (同 等以上)	オメー	オメー (目上や 年上) / オミ (古)	オミャー	オミャイ。
H-481	あなたたち	オマエラ / オ メーラ (同等以 下) / オミラ (同等以上)	オメーラ	オメンチェー / オメータチ (目 上や年上) / オ ミラ (古)	オミャンシャー	オミャイ、シャー
H-482	お前	ウヌ / ウン / ウンガ (軽蔑し ている)	ウヌ / オマエ	オメー / オマイ / ウム (けなし)	オミャー / ウンガ	オミ
H-483	お前たち	ウナラ / ウヌ ラ	ウヌラ / オ マエラ / オ メーラ	オメンチェー / オマイラ / ウヌ ラ (けなし)	オミャンシャー / ウヌンシャ	オミーシャ
H-484	皆 (みな)	ミンナ / メン ナ (古)	メンナ	メンナ	ヅェンブ (人も)	シナ
H-485	名 (な)	ナマエ /	ナノナメー	ナメー	ナミャー	ナマエ
H-486	お祝い	オイワイ / ユウェ	ユウェー	ユウェー [~] ユウェ ー~ユエー	ユウャー / ユワ イ / オイワイ	イワイ
H-487	結婚 (けっこん)	ケッコン (コン レイ 結婚式)	ケッコン / ケンレー / ケンレイ	ケッコンシキ (ユ エーダラ 結婚 式)	ケッコン / シュ ーゲン / コンレ ー	ケッコン / シュー ゲン
H-488	結納 (ゆい のう)	ユイノー	ユイノー	ユイノー / ユエ ー [~] ユウェー	ユイノー	NR (ユイノー)
H-489	喧嘩 (けん か)	ケンカ	ケンカ	ケンカ	ケンカ	ケンカ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-490	相互扶助 (農作業など)	テツダイ / コ ーヨー / ミチ コーヨー (古)	ミチゴーヨー (皆で道を整 備する)/ ヨレー	ユイ (まれ)	ヨソアースル(手 伝う) / ガッペー	ミチゴーヨー (道の整備)
H-491	相撲(すむ		スモ	スモー~スモウ		
H-492	→ つ	ヒトツ / テツ (古)	テツ	テツ	テツ	トルツ
H-493	ニつ	フタツ	フ.タツ	フ.タツ〜フタツ	フ.タツ	フタツ
H-494	三つ	ミッツ	ミッツ	ミッツ	ミッツ	ミッツ
H-495	四つ	ヨッツ	ヨッツ	ヨッツ	ヨッツ	ヨッツ
H-496	五つ	イツツ	イツ.ツ.	イツツ	イツツ	イツツ
H-497	六つ	ムッツ	ムッツ	ムッツ	ムッツ	ムッツ
H-498	せつ	ナナツ	ナナツ	ナナツ	ナナツ	ナナツ
H-499	八つ	ヤッツ	ヤッツ	ヤッツ	ヤッツ	ヤッツ
H-500	九つ	ココノツ	ココノツ	ココノツ	ココノツ	ココノツ
H-501	十 (とお)	} -	トウ	} -	ト~トー	} —
H-502	一人	トリ	トリ	ヒトリ	トリ / ヒトリ	ヒトリ
H-504	二人	フタリ	フ.タリ / フ タイ	フ.タリ〜フタリ	フ.タリ〜フタリ	フタリ
H-503	三人	サンニン	サンニン	サンニン	サンニン	サンニン
H-505	四人	ヨニン/ ヨッタ リ (古)	ヨッタリ / ヨニン	ヨニン / ヨッタリ	ヨッタリ / ヨニン	ヨニン
H-506	五人	ゴニン	ゴニン	ゴニン	ゴニン	ゴニン
H-507	六人	ロクニン	ロクニン	ロクニン	ロクニン	ロクニン
H-508	七人	シチニン	ナナニン / シチニン	シチニン	シ。チニン	ナナニン
H-509	八人	ハチニン	ハチニン	ハチニン	ハチニン	ハチニン

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-510	九人	キューニン	クニン / キ ューニン	キューニン	キューニン	キューニン
H-511	十人	ヂューニン	ヂューニン	ヂューニン	ヂューニン	ヂューニン
H-512	VKB	イクラ / ドイダ ケ	イクラ / イク イェン (金額) / ドノグレー	イクラ	イクラ	イクラ
H-513	いつ	イツ	イツ / イツ ツ	イツ	イツ	イツ
H-514	だれ	ダレ / ダイ / ダレー (~を)	ダレ / ダイ	ダレ / ダリー (~を)	ダレ	ダイ
H-515	どこ	ドコ / ドコゲ ー / ドコー (~を)	ドコ / ドケ イ, ドコゲー (どこに)	ドコ / ドキー (~に) / ドコー (~を) / ドッカラ (~から)	ドコ	ドコ
H-516	どれ	ドレ	ドイ/ドレ	ドレ / ドリー (~を)	ドレ	ドレ
H-517	なぜ	アンデ / アッ デ	アンデ / ア ッデ (古)	アンデ	アンデ	アンデー
H-518	なに	アニ	アニー / ア ニ(聞き返す 場合) / アン ドー (何 か?)	アニ/ アニョ (~を)	アンドア (~で すか) / アニ. / アニョ (~を)	アンドー
H-519	いくつ	イクツ / ドイ ダケ	イクツ	イクツ	イクツ	イクツ
H-520	これ	コレ / コレオ (~を)	コイ	コ _. レ / コリー (~を)	コレ / コリー (~を)	コレ
H-521	それ	ソレ / ウレ / ソレー (~を)	ソレイ / ソイ	ソレ / ソリー (~を)	ソレ / ソリー (~を)	ソレ
H-522	あれ	ウレ/ ウレー (~を)/ アレ	ウレイ / ウ レ / ウィ	ウレ / ウリー (~を) / ウリャ (~は) / アレ	ウレ / ウラ / ウレー (~を)	アレ
H-523		ココ	ココ / ココ <i>/</i> ツ	ココ	ココ	ココ
H-524	そこ	ソコ / ソコー (~を)	ソコ	ソコ	ソコ / ソキー	ソコ
H-525	あそこ	ウク / ウクー (~を)	ウク	ウク	ウク	アッチ / トオケバ ショ / オクーヂ
H-526	技•仕事	シゴト	シゴト	シゴト		ワヅァ
H-527	鬼 (おに)	オニメ	オニメ	オニメ		オニ
H-528	心 (こころ)	ココロ	ココロ	ココロ		ココロ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-529	情け (なさ け)	ナサケ	ヂョウ	ナサケ		ナサケ
H-530	言葉 (ことば)	コトバ	コトバ	コトバ		シマゴ
H-531	歌 (うた)	ウタ	ウタ	ウタ		ウタ
H-532	踊り(おど り)	オドリ	オドリ	オドリ		オドリ
H-533	鼓 (つづみ)	ツヅミ	ツズミ	ツズミ		NR
H-534	宝 (たから)	タカラ	タカラ	タカラ		タカラモノ
H-535	型 (かた)	カタ	カタ	カタ		カタ
H-536	形 (かたち)	カタチ	カタチ	カタチ		カタチ
H-537	休息	ヤスミ / イップク	イップク / ヤスミ	イップク	ヒ.トイキ / ヤス	ヤスム (動詞)
H-538	魂 (たまし い)	タマシー	タマシー	タマシー		タマシー
H-539	刺青 (いれ ずみ)	イレヅミ	イレズミ	イレズミ		イレヅミ
H-540	真似 (まね)	マネ	マメ	マネ / マニー (~を)	マメ / マミー (~を)	マネ
H-541	嘘 (うそ)	オソ (オソツキ 嘘つき)	ヤマシュ	オソ (オソー ツ クナ うそをつく な) / オソ sキ (うそつき) / キツ ニ_/	キツネ (「嘘つ き」も) / キツネ tsキ (嘘つき)	テーレン
H-542	小さい	ネッコケ / ネッコキャ	ネッコイ / ネッコキャ	ネッコキャ / ネーコケ (連体)	ネッコイ (子供、 ねずみ) / チン ゴイ (芋)	チッチャケ / チッ チャキャー
H-543	大きい	ボーケ / コーキャ	ボウィ / ボ ウィー / ボ ウキャ (「大 きいもの」は ボウケ モノ)	ボーキャ / ボ ーケ (連体)	ボーイ / デッカイ	デカキャ / デッ カキャー / ボー キャー
H-544	低い	ヒクキャ	ミヂカイ / ミ ヂカキャ (キ ャで終わると 「ーよ」のニ ュアンス。)	ネッコキャ (背が 低い)/ ヒクキャ (床が低い)/ ミ ジャキャ (古、床 が低い)	ヒ.クイ	ヒクキャー

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	樫立
H-545	同じ	オンナシ	オ (ン)ナジ	オンナジ	オナヂ	オンナヂ
H-546	短い	ミッカケ / ミッカキャ	ミジカイ / ミ ジカキャ	ミジカキャ	ミッカイ	ミヂカキャー
H-547	丸い	マルケ/マルーキャ	マルイ/マルキャ	マルキャ	マルイ	マンマルキャー
H-548	暖かい	ヌクトケ / ヌクトキャ	ホトウル	アッタキャ / ヌクトイ	ヌクトイ	アッタカキャー (「暑い」はアツキ ャー)
H-549	寒い	カゲール	コゲイル(コ ゲイロ ヒ 寒 い日)	コギール(「凍え る」かも?) / サ ムキャ	コギール	サムキャー
H-550	冷たい	ヒャッコケ	ヒャッコイ / ヒャッコキャ (ヒャッコケ モノ 冷たい もの)	ヒャッコキャ	ヒャッコイ	ヒャッコキャー

八丈方言文法項目データ

八丈方言文法項目データ (音声記号表記)

1	共通語	おれはきょうはいそがしい	備考
1	大賀郷 1	war ^j a ke:wa isoga¢ik ^j a	
1	大賀郷 2	{waja / warewa} kio:wa {isogacikia / isogacikiajo:}	
1	三根 1	ara ke:wa isogacik ^j a	
1	三根 2	waiwa keiwa {isoga¢ikute: / isoga¢ik ^j a:}	
1	末吉	ar ⁱ a: ki:wa isoga¢ikedara:	
1	中之郷1	ara ki:wa isoga¢ik ⁱ a.	
1	中之郷 2	ara ke:wa isogacik ^j a	後に「今日」をki:というと訂正
1	樫立1	wara ki:wa isogacikia	※共通語形が出るのが多く、 方言形を引き出すのに苦労 した
1	樫立2	wara k ^j o:wa isogacik ^j ajo:	
1	樫立3	warewa k ^j o:wa isogacik ^j a	
2	共通語	おまえが畑へ行け。	備考
2	大賀郷1	narewa jamage: ike (nare は同等以下)	
2	大賀郷 2	omaega hatake: {ike / ikebajokedza}	
2	三根 1	n:ga {jamage: / jame:} ike:	n:ga 同等の人
2	三根 2	ome:wa jamae {odzare: / ike:}	odzare:は丁寧な形
2	末吉	unga jame: {ike / ikebajoke ²za}	
2	中之郷1	om ^j a: wa jam ^j a: ike	
2	中之郷 2	{ũnga / ŋ:ga} jam ^j a: ike	
2	樫立1	omʲaːwa jamia ikeba joʔkeza. (「行けばいい (命令)」は ike)	
2	樫立2	omiwa jamae ike. (対目下) / om ^j a:wa jamae odzarejo: (対目上)	
2	樫立3	omiga jamae ike	
3	共通語	うん、畑へはおれがいく。	備考
3	大賀郷 1	o: coge:wa waga ikuwa	
3	大賀郷 2	wakarara, soidza waga {hatake ni / hatake:} ikowa // o: waga {hatake ni / hatake:} ikowa	
3	三根 1	hoiza aga jame: ikowa:	
3	三根 2	{um / n:} {jamaje / jamage:}wa {waga / aga} ikowa:	
3	末吉	(unga) jamage:wa aga ikowa	
3	中之郷 1	jam ^j a: wa aga ikowa	
3	中之郷 2	o: jam ^j a:wa aga ikowa	

3	樫立1	wara jamia ikowajo	
3	樫立2	o:, waga jamae ikodza.	
3	樫立3	o: jamaewa wa:ga ikowa	
4	共通語	おれの鍬はどこにある。	備考
4	大賀郷 1	waga tegawa dokoni aro.	VIII 3
4	大賀郷 2	{waqa / aqa} kuwawa dokoni aro	
4	三根 1	aga tegawa {dokon / dokodo:} aro:	aga tegawa dokodo
4	三根 2	{waqa / aqa} kuwawa dokoni {arudaro: / aro:}	aga togawa denede
4	末吉	aga magamawa dokoni aro.	 鍬でなく鎌
4	中之郷1	aga kuwawa dokoni arodo	
4	中之郷 2	aga thegawa dokoni aro ✓	
4	樫立1	waga kawa {dokoda?taro: / dokoni aruudaro:}	
4	樫立2	waga kuwawa dokoni aro.	
4	樫立3	waga kuwawa dokoni aruka	
5	共通語	この鎌は太郎のか。	備考
5	大賀郷 1	kono magamawa taro:nogaka	
5	大賀郷 2	kono {kama / magama} wa taro:noka	
5	三根 1	kono magamawa taro:gaka	
5	三根 2	kono magamawa {senseiga / senseino} da:jo:	太郎→先生
5	末吉	kono magama wa totteangaka	
5	中之郷1	kono magamawa taroonoka	
5	中之郷 2	kono magamawa taro:ga ka	
5	樫立1	kono magamawa om ^j a:nogaka.	
5	樫立2	kono magamawa taro:nogaka	
5	樫立3	kono kamawa taro:no ka	
6	共通語	どれがおまえの笠だ	備考
6	大賀郷1	dorega narega kasado:	
6	大賀郷 2	dorega omaeno kasado:	
6	三根 1	doiga n:ga kasado:	
6	三根 2	doiga ome:no kasado:	
6	末吉	dorega unga kasa da:	
6	中之郷 1	dorega om ^j a:no kasa do:	
6	中之郷 2	dorega unga kasa doa	
6	樫立1	dorega om ^j a:no kasado	
6	樫立2	dorego omino {minodoa / minodo:} (対目下) //	
U	1年44.4	omia:no minowa dorede {odzaro / odzarijaro:}	
6	樫立3	dorega omi no kasada	
7	共通語	その笠がおれのだ。	備考
7	大賀郷1	sono kasaga wagadara	

7	大賀郷 2	sono kasawa wagame dara	
7	三根 1	sono kasaga wagado:za:	
7	三根 2	sono kasawa {aga / waga} da:jo:	
7	末吉	sono kasaga aga da: ½a:	
7	中之郷 1	sono kasaga aga dowa4za	
7	中之郷 2	sono kasaga aga dara / sore ga aga kasa dara (それが私の 笠だ。)	
7	樫立1	(sorega waga kasadoaza.) sono kasaga wagadoaza.	
7	樫立2	sono minowa waga minodarajo:	
7	樫立3	sono kasaga wareno dara	
8	共通語	このふろしきはおまえのか。	備考
8	大賀郷 1	kono фшrusikiwa {naregaka / naregado:ka}	
8	大賀郷 2	kono фшrocikiwa omaenoda: (「誰のだ」は dagamedo: / darenodo:}	
8	三根 1	kono фшrusik ^j a {n:gada: / n:gaka:}	
8	三根 2	kono фшrosikiwa ome:no {gaka: / ka:}	確認する時は ome:noda:no:
8	末吉	kono фшговікіwa шŋga ka.	
8	中之郷 1	kono фшговікіwa om ^j :gaka.	
8	中之郷 2	kono фшгоєікіwa {ũŋga / ŋga} ka	
8	樫立1	kono hurugikiwa om ^j a:nogaka	
8	樫立2	kono фшrшскіwa {ominogaka (対目下)/ omia:nogaka (対目上)}	
8	樫立3	sono фшговікіwa ominoka	
9	共通語	それはおとうとのかもしれない。	備考
9	大賀郷 1	sorewa k ^j o:de:noga kamo¢irennaka	「おとうとの」kio:de:noga, oto:tonoga でかなり迷う。結局 「太郎の」taro:noga で採取
9	大賀郷 2	sorewa {oto:tono kamo cirennakajo (:) (かもしれない) / oto:tonodza ne:ka (:) (弟のじゃないか) }	
9	三根 1	soiga k ^j o:de:noga dakamo¢irennakajo:	
9	三根 2	sorewa oto:tono dakamo cirennakano:	
9	末吉	sore wa no: k ^j o:dee no ga kamo girennaka:	
9	中之郷 1	sorewa k ^j o:d ^j a:ga kamo cirennaka.	
9	中之郷 2	sorewa k ^j o:dja:no kamo ¢irennaka	no の代わりに ga は不可。 kjo:dja:は kjo:dea:か
9	樫立1	sorewa humi (人名)nogakamo cirenai.	
9	樫立2	sora kio:dza:nogakamo cirenakajo:	
9	樫立3	sorewa oto:tono kamo cirenakia	
10	共通語	沖縄には船で行くより飛行機で行ったほうがいい。	備考

	Г		
10	大賀郷 1	okinawan ^j a фunede derojori çiko:kide detaho:ga jokanno:wa	
10	大賀郷 2	okinawaniwa φunede ikujori çiko:kide ittaho:ga jokk ^j ajo:	
10	三根 1	okinawage:wa фumede ikojori çiko:kide ittaho:ga jokk ^j a:	
10	三根 2	okinawage: iko tokiwa фumede ikojorimo çiko:kide ikoho:ga jokk ^j ano:	
10	末吉	okinawa ge:wa фune de ikojori mo çiko:kide ittaho:ga jokk ^j a:	
10	中之郷 1	okinawan ^j a φunede ikojorikamo çiko:kide ittaho:ga {jokanno:wa / jokk ^j ajo}	
10	中之郷 2	okinawa niwa фunede ikojori çiko:kide itta ho:ga jokk ^j a	
10	樫立1	okina:n ^j a humede ikojorimo hįko:kide i?ta ho:ga jo?k ^j ajo.	
		okinawajewa фunede ikujorika hiko:kinoho:ga {jokk ^j ajo:	
10	樫立2	(実際に行ったことがある)/jokan nwa jo. (想像で言う場	
		合 (と内省))}	
11	共通語	飛行機は一日に一回しかない。	備考
11	大賀郷 1	çiko:kiwa itenteini ikkaiçika nakk ^j a	
11	大賀郷 2	çiko:kiwa iteiniteini ikkaiçika nakk ^j ajo:	
11	三根 1	çiko:kiwa iteinteini ikkaiçika nakk ^j a:	
11	三根 2	çiko:kiwa itcinitcini sambincika nakk ^j a {jo: / no:}	一回→三便。
11	末吉	çiko:kiwa itcinitcini ikkaicika nakk ^j ajo:	
11	中之郷 1	çiko:kiwa jo iteiniteini ikkaiçika nakk ^j ajo:	
11	中之郷 2	çiko:kiwa iteiniteini ikkaiçika {nakk ^j a / kinnaka (来ない)}	
11	樫立1	hįko:kiwa iteintein saŋkaicįka na?kjajo:.	
11	樫立2	çko:kiwa itenitei ikkaicika nakka jo:	
12	共通語	空港ならこっちの道を行きなさい。	備考
12	大賀郷 1	kuiko:ge: ikoda:ba kotteino miteo ike	
12	大賀郷 2	{çiko:dzo: / ku::ko:}ge: ikoda:ba {kottcino miteiga jokk ^j ajo (:) / kottcije ikeba jokk ^j ajo:}	
12	三根 1	çiko:zo:ge:wa kotteino miteo ikeba jokk ^j a:	
12	三根 2	ku:ko:ge: ikoda:ba: kotteino miteio {ikijare: / odzare: / ike}	録音終了後、「空港」は hiko:zo: と言っていた。行き なさい=ikijare:
12	末吉	kui:ko:nara kottei no miteo:{ ike:/ ittaho:gajokune:ka:}	
12	中之郷1	çiko:ˈzoːnara kottcino mitcijo itta hoːga jokk ⁱ ajo:	
12	中之郷 2	çiko:dzo:ewa kotteino miteio odzarijare	
12	樫立1	hįko:zo:n ^j a ko?teino miteo ikeba jo?keza.	
_		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	·

12 整立			çko:dzo:e {odzaraba (目上)/ ikaba} kotteino miteiho	
13 大質郷	12	樫立2		
13 大震郷2 mitsino mannaka (o) aruitat-ba damedo dza. kotteino mitsio {ike: / itra-ba jokkedza: (行ったらいいよ)} 13 三根1 mitsino mannakaō e:za damedara: e:mazuun / e:dzadameda jo: } jēṃ k; o jēṃ k;	13	共通語		備考
13 大震郷2 mitsino mannaka (o) aruitat-ba damedo dza. kotteino mitsio {ike: / itra-ba jokkedza: (行ったらいいよ)} 13 三根1 mitsino mannakaō e:za damedara: e:mazuun / e:dzadameda jo: } jēṃ k; o jēṃ k;	13	大賀郷1	miteino mannako: mittea damedara	
13 大俊郷 2 mitcio { ike: / itta:ha jokkedza: (行ったらいいよ) } mitcio mitcio mannakao e:za damedara: mitcino mannakao e:za damedara: e:mazun は「歩かずに」という意味。 mitcino mannaka: e:n'ɛa damedara: mitcino mannaka: e:n'ɛa damedara: mitcino mannaka: e:n'ɛa damedara: mitcino mannaka: aritta damedara: mitcino mannakao { jadde / jande とも } ittewa dame dara (jo) mitcino mannakao { jadde / jande とも } ittewa dame dara (jo) mitcino mannakao to:ttea damedarajo. mitcino mannakao to:ttea damedarajo. ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## #			miteino mannaka (o) aruita:ba damedo:dza. kotteino	
13 三根 1 miteino mannakaō e za damedara: miteino mannakawo {e:muna: / e:mazun / e:mazun / jókṣ, miteino mannakawo {e:muna: / e:mazun / jókṣ, miteino mannaka e:n²a damedara: miteino mannaka e:n²a damedara; miteino mannaka e:n²a damedarajo: miteino mannakao {jadde / jande とも} ittewa dame dara (jo) miteino mannakao ja²za damedarajo. miteino mannakao ja²za damedarajo: miteino mannakao ja²za damedaraj	13	大賀郷 2		
3 一根 2	13	三根 1		
3 一根 2			miteino mannakawo {e:muna: / e:mazun /	e:mazwn は「歩かずに」とい
13 中之郷1 mitcino mannakwa: arittea damedarajo: mitcino mannakao {jadde / jande とも} ittewa dame dara (jo) mitcino mannakao aja 2za damedarajo. mitcino mannakao to:ttea damedarajo:	13	三根 2	-	
中之郷2	13	末吉	mitei no mannaka: e:n tza damedara:	
13 中之郷 2 (jo)	13	中之郷 1	miteino mannakwa: arittea damedarajo:	
13 中之郷 2 (jo)		t t fain	mitcino mannakao {jadde / jande とも} ittewa dame dara	
13 樫立 2 mitcino mannakao to:ttca damedarajo:.	13	中之郷 2	(jo)	
14 共通語 道が広いなあ。	13	樫立1	miteino mannakoa ja?za damedarajo.	
大賀郷1 miteiga çirokiano:	13	樫立2	miteino mannakao to:ttea damedarajo:.	
14 大復郷2 miteiga çirokiano: 14 三根1 miteiga çirokiano: 14 三根2 miteiga çirokiano: 14 三根2 miteiga çirokiano: 14 末吉 miteiga firokiana: / çirokedza: } 14 中之郷1 a: miteiga hiroswa: 14 中之郷2 miteiga hiroswa: 14 樫立1 miteiga hiroswa: 14 樫立2 wa: miteiga çirokia finoa / no: } 15 共通語 あ、雨がふってきた。 備考 15 大賀郷1 amega фuttekitara 15 大賀郷2 o amega фuttekitara: / o amega фuttekitara: 15 三根2 a: amega фuttekitara: 15 三根2 a: amega фuttekitara: 15 中之郷1 wa: amega фuttekitara: 15 中之郷1 wa: amega фuttekitara: 15 中之郷1 wa: amega фuttekitara: 15 極立1 wa: amega фuttekitara: 15 極立1 wa: amega фuttekitaro: 15 樫立2 wa: amega фuttekitaro: 15 樫立3 amega futtekitaro: 16 共通語 いとこの布団がやねの上にほしてある。 備考 17 世本によってある。 6 共通語 いとこの布団がやねの上にほしてある。 6 大倉	14	共通語	道が広いなあ。	備考
14 三根 1 mitsiga çiroso:no:	14	大賀郷 1	miteiga çirok ^j ano: // miteiga çiroso:	
14 三根 2 miteiga çirokiano:	14	大賀郷 2	miteiga çirok ^j ano:	
14 末吉 miteiga {çirokiana: / çirokedza: } 14 中之郷1 a: miteiga hiroswa: 14 中之郷2 miteiga çirokia noa: 14 樫立1 miteiga çirokia noa 14 樫立2 wa: miteiga çirokia noa / no: } 14 樫立3 miteiga çirokia noa / no: } 15 共通語 あ、雨がふってきた。 備考 15 大賀郷1 amega фutte kito: dza 15 三根1 aijaijai amega фutte kito: dza 15 三根2 a: amega фuttekitara: 15 末吉 amega фuttekitara: 15 中之郷1 wa: amega фuttekitara: 15 中之郷1 wa: amega фuttekitara: 15 中之郷2 amega фuttekitara: 15 中之郷3 amega фuttekitaro: 15 樫立1 wa: amega фuttekitaro: 15 樫立3 amega {фuttekito: dza / фuttekitara} 16 共通語 いとこの布団がやねの上にほしてある。 備考	14	三根 1	miteiga çiroso:no:	
14 中之郷1 a: miteiga hiros®a:	14	三根 2	miteiga çirok ^j ano:	
14 中之郷 2 miteiga çirokia noa:	14	末吉	miteiga {çirok ^j ana: / çirokedza:}	
14 樫立 1 miteiga hirosoa.	14	中之郷1	a: miteiga hiros ^w a:	
14 樫立 2 wa: miteiga çirokia{noa / no:} 14 樫立 3 miteiga çirokiano: 15 共通語 あ、雨がふってきた。 備考 15 大賀郷 1 amega фuttekitara 15 大賀郷 2 o amega фutte kito:dza 15 三根 1 aijaijai amega фuttekita:ra: / o amega фutte kito:za 15 三根 2 a: amega фuttekitara: 15 末吉 amega фuttekita: セa: 15 中之郷 1 wa: amega фuttekitara: 15 中之郷 2 amega фutte kitara 15 樫立 1 wa: amega hull'te kitoaza 15 樫立 2 wa: amega фuttekitaro: 15 樫立 3 amega { фuttekito:dza / фutte kitara } 16 共通語 いとこの布団がやねの上にほしてある。 備考	14	中之郷 2	miteiga çirok ^j a noa [.]	
14 樫立 3 miteiga çirokiano:	14	樫立1	miteiga hirosoa.	
15 共通語	14	樫立2	wa: miteiga çirok ^j a{noa / no:}	
大賀郷1 amega фuttekitara 15 大賀郷2 o amega фutte kito:dza 15 三根1 aijaijai amega фuttekita:ra: / o amega фutte kito:za 15 三根2 a: amega фuttekitara: 15 末吉 amega фuttekita:dza: 15 中之郷1 wa: amega фuttekitara: 15 中之郷2 amega фuttekitara: 15 中之郷2 amega фuttekitara 15 樫立1 wa: amega hur?te kitoaza 15 樫立2 wa: amega фttekitaro: 15 樫立3 amega futtekito:dza / futt	14	樫立3	miteiga çirok ^j ano:	
15 大賀郷2 o amega фutte kito:dza 15 三根 1 aijaijai amega фuttekita:ra: / o amega фutte kito:za 15 三根 2 a: amega фuttekitara: 15 末吉 amega фuttekita: セa: 15 中之郷 1 wa: amega фuttekitara: 15 中之郷 2 amega фuttekitara 15 樫立 1 wa: amega hui?te kitoaza 15 樫立 2 wa: amega фtekitaro: 15 樫立 3 amega futtekito:dza / futtekit	15	共通語	あ、雨がふってきた。	備考
15 三根 1 aijaijai amega фuttekita:ra: / o amega фutte kito:za 15 三根 2 a: amega фuttekitara: 15 末吉 amega фuttekita:セa: 15 中之郷 1 wa: amega фuttekitara: 15 中之郷 2 amega фutte kitara 15 樫立 1 wa: amega hu²te kitoaza 15 樫立 2 wa: amega фtekitaro: 15 樫立 3 amega {фuttekito:dza / фutte kitara} 16 共通語 いとこの布団がやねの上にほしてある。 備考	15	大賀郷 1	amega фuttekitara	
15 三根 2 a: amega фuttekitara: 15 末吉 amega фuttekitara: 15 中之郷 1 wa: amega фuttekitara: 15 中之郷 2 amega фuttekitara 15 樫立 1 wa: amega hur?te kitoaza 15 樫立 2 wa: amega фttekitaro: 15 樫立 3 amega { фuttekito:dza / фutte kitara } 16 共通語 いとこの布団がやねの上にほしてある。 備考	15	大賀郷 2	o amega фutte kito:dza	
15 末吉 amega фuttekita: ½a:	15	三根 1	aijaijai amega фuttekita:ra: / o amega фutte kito:za	
15 中之郷 1 wa: amega фuttekitara: 15 中之郷 2 amega фutte kitara 15 樫立 1 wa: amega hur?te kitoaza 15 樫立 2 wa: amega фttekitaro: 15 樫立 3 amega { фuttekito:dza / фutte kitara } 16 共通語 いとこの布団がやねの上にほしてある。 備考	15	三根 2	a: amega фuttekitara:	
15 中之郷 2 amega фutte kitara 15 樫立 1 wa: amega hur?te kitoaza 15 樫立 2 wa: amega фttekitaro: 15 樫立 3 amega { фuttekito:dza / фutte kitara } 16 共通語 いとこの布団がやねの上にほしてある。 備考	15	末吉	amega фuttekita: 42a:	
15 樫立 1 wa: amega hน?te kitoaza 15 樫立 2 wa: amega фttekitaro: 15 樫立 3 amega {фuttekito:ぬa/ фutte kitara} 16 共通語 いとこの布団がやねの上にほしてある。 備考	15	中之郷1	wa: amega фuttekitara:	
15 樫立 2 wa: amega фttekitaro: 15 樫立 3 amega {фuttekito:dza/ фutte kitara} 16 共通語 いとこの布団がやねの上にほしてある。 備考	15	中之郷 2	amega фutte kitara	
15 樫立3amega { фuttekito: dza / фutte kitara }16 共通語いとこの布団がやねの上にほしてある。備考	15	樫立1	wa: amega hui?te kitoaza	
16 共通語 いとこの布団がやねの上にほしてある。 備考	15	樫立2	wa: amega фttekitaro:	
	15	樫立3	amega { фuttekito:dza /	
16 大賀郷 1 itokono фшtonga janeno weni hocitaarowa	16	共通語	いとこの布団がやねの上にほしてある。	備考
/ 100000 Passong Tomorio Well Hostianio	16	大賀郷1	itokono фutonga janeno weni hocitaarowa	

16	大賀郷 2	itokono фшtonga janeno weni hocite arodza	
16	三根1	itokono фutonga janeno weini hocitearowa:	
16	三根 2	itokono фutonga janeno weini hogitearowa:	
10		itoko no no: omtonga janeni {hocitearoda:ga:/ hosarete	
16	末吉	aroga:}	
16	中之郷1	wa:, itokono фшtonga janeno weni hositiarudza.	
16	中之郷 2	itokono фшtonjo jane no weni hogit (e)arowa (jo:)	no の代わりに ga は不可
16	樫立1	itokono huutonga janeno weni hocite arowa.	
1.0	157 ± 0	itokono фtoŋga janeni {hoɕitearowajo: (人に説明する時	
16	樫立2	と内省)/ hocitearodza. (断定する時と内省)}	
17	共通語	きのうは今日より風が強かった。	備考
17	大賀郷 1	kine:wa ke:jori kazega tsuijokarara	
17	大賀郷 2	kino:wa k ^j o:jori kadzega tsuijokararano:	
17	三根 1	kineiwa keijori kazega tsuijokara:no:	
17	三根 2	kineiwa keijoriwa kazega tsuijokarano:	
17	末吉	kinii wa no: kiijori kadzega tsuujokarara.	
17	中之郷 1	kiniiwa kiijorika ka zega tsuijo karo wa za:	
17	中之郷 2	{kini: / kine:} wa ki:jori kazega tsuijokatta noa:	
17	樫立1	kini:wa ki:jori kazega tsuijokarara.	
17	樫立2	kini:wa ki:jori kazega tsuijokaro:dza.	
17	樫立3	kino:wa kazega tsuijokararano:	
18	共通語	真っ白な鳥が空を飛んでいる。	備考
18	大賀郷 1	matteirodo: torimega soro: tondaarowa	
18	大賀郷 2	macciroke toriga sorao {tondarodza / tondarowano (:)}	
18	三根 1	massiroke torimega soro: {tondaroza / tondearoza}	
18	三根 2	maccirona tori (me)ga sorao tondearowa:jo:	過去形:tondearara:
10	++	massiroke torimega {sora: / tenni:jo} {maite aro &a /	
18	末吉	tonde aro ½a jo:}	
18	中之郷1	macciro dwa toriga sorwa tondjarur za:	
18	中之郷 2	ciroke torimega tenni:o thondarawa	
18	樫立1	wa. maʔcirodoa torimega soroa tonde araajo:. (toʔde とは言わない)	
18	樫立2	macciroke torimega sorao {tonde arowajo / todde araijo:}	
19	共通語	あの山にはいのししがいるそうだ。	備考
19	大賀郷1	uno jamaniwa inociciga arute:ja	
19	大賀郷 2	uno jama niwa inociciga irute:dza	
19	三根 1	uno jamage:wa inociciga arutteija:	uno jamaniwa
19	三根 2	uno jamaniwa inociciga aruteijano:	- J

19	末吉	tuno no: iama nivya inagiciga agustairia (r)ia:	
		uno no: jama niwa inociciga arutei:ja (:)jo:	
19	中之郷1	uno jamaniwasa inociciga arutteijajoo	
19	中之郷 2	uno jamaniwa inociciga aruttejajo:	
19	樫立1	ono jaman ^j a inociciga arш?tci∶jajo	
19	樫立2	ano jaman ^j a: inociciga artutci (:)jajo:.	
19	樫立3	inociciga {arutci:ja / arara}	
20	共通語	あれは学校だ。役場ではない。	備考
20	大賀郷1	ur ⁱ a gakko:dara. jakubaza nakk ⁱ a	
20	大賀郷 2	wrewa {gakko:da / gakko:deka arega (学校であって)}	
20	八只从2	jakuba{dza / dewa} nakk ^j a	
20	三根 1	uıra gakkouido:za jakuibadewanakk ^j a:	
20	三根 2	urewa gakko:da:jo: jakuba {dza / dewa} nakk ^j a:	
20	末吉	uɪɾʲaː noː gakkoː dekaːre, jakuba dewa nakkʲaː	
20	中之郷1	urewa (jo) gakkodarajo:, jakuba za nakk ajo:	
20	中之郷 2	urewa gakko:dekare. jakuba dewa nakk ^j ajo:	
20	樫立1	wkwwa ga?ko:dekare. jakwbaza na?k ^j a.	
20	樫立2	ora gakko:dattci (:)ja. jakubadza {nakk ^j a. /	
20	全立 2	nakatei:jajo:.}	
20	樫立3	arewa gakko:dara. jakuba dza nakk ^j a	
21	共通語	あれが役場だ。	備考
21	大賀郷 1	urega jakubado:dara // urega jakubado:dare	
21	大賀郷 2	urega jakubadeka arega.	
21	三根 1	wigaka jakwbadare:	
21	三根 2	wiga jakwba {dara: / da:jo:}	
21	末吉	ure ga ka jakuba danne:	
21	中之郷 1	uregaka jakubadarega.	
21	中之郷 2	urega jakuba dara	
21	樫立1	wkwgaka jakwbadare.	
21	樫立2	aregaka jakuba{dza / da}n ^j a:	
21	樫立3	arega jakuba dara	
22	共通語	あの目のおおきい、色の白い男はだれだろう。	備考
22	大賀郷 1	uno meno bo:ke irono macciroke otokowa daredatte:	
22	1.70.00	uno meno {dekkake / bo:ke} iroga ciroke otokowa	
22	大賀郷 2	daredo:	
22	三根 1	uno mentamano bouike irono giroke otokowa daidaroui	
22	三根 2	uno meno bouike irono ciroke otokowa daidaro:no:	
		uno me no bo:ke iro no ciroke otokowa dare {dakana: /	
22	末吉	da ro:}	
22	中之郷1	umo meno booke çitode irono cirokeçitowa dokono çito	
ь	I.	<u> </u>	

22			
22		uno manakono {bo:ke / dekkake とも} irono ciroke	
	中之郷2	onokogowa dare daro: no:	
22	樫立1	ono meno bo:ke irono giro:ke otokowa daredaro:.	
			補:「色が白い」は
22	樫立2	ano meno bo:ke otokowa daidaro:.	ironofirokeʤa. (言い切り)「色
	1主立 2	ano meno bolke diokowa daldaro	の白い男」は出てこず。おそ
			らくironosiroke
23	共通語	孫が去年から東京にいる。	備考
23	大賀郷1	magowa k ^j oneŋkara kumini arowa	
23	大賀郷 2	magoga k ^j oneŋ kara kunini arowa (:) (いるよ)	
23	三根 1	magoga k ^j oneŋkara kunin arowa	
23	三根 2	magoga k ^j oneŋkara kunige (:) (sunde)arowa:	
23	末吉	magome wa k ^j onen kara kunini arowa.	
23	中之郷1	magoga k ^j oneŋkara kunini aruu dza.	
23	中之郷 2	magoga k ^j oneŋkara kunini ittaro (w)a	
23	樫立1	magoga k ^j oneŋkara kunini arowa.	
23	樫立2	magoga k ^j oneŋkara kunini aro:dza	
23	樫立3	magoga k ^j oneŋkara kumi: itterowa	
24	共通語	孫はいつ東京から帰るか。	備考
24	大賀郷1	magowa itsu kunikara {modorudaro: / modorodo:}	
24	大賀郷 2	magowa itsu kunikara kaerodo:	
24	三根 1	magowa itsu kunikara ke:te kurukano:	
24	三根 2	magowa itsu kunikara kejte kuru kano:	
24	末吉	magome wa itsui kuini kara ke:ro	
24	中之郷1	mogowa itsu kunikara k ^j a:te {kuruka no. / kurodoa.}	
24	中之郷 2	magowa itsu kumikara k ^j a:tte kuro (:)\\footnote{1}	
24	樫立1	magowa itsu kunikara k ^j a:ro	
24	樫立2	magowa itsu kumikara k ^j a:ruda:	
24	樫立3	magowa itsu to:kio:kara kia:ruka	
25	共通語	八月には帰ってくるようだ。	備考
25	大賀郷1	hateigatsum ^j a modottekuruno:wa	
25	大賀郷 2	hateigatsuuniwa kaette kuruundza ne:ka.	
25	三根 1	hateigatsum ^j a ke:te kurogonda:jo:	
25	三根 2	hateigatsuuniwa ke:ttekuuru tejja:	
25	末吉	hateigatsuu niwa keete kuro ganda:gai.	
25	中之郷1	hoteigatsuuniwa k ^j a:tte kurutti:ja	
25	中之郷2	hateigatsum ^j a: k ^j a:tte kuru jo:darajo:	*kwro は不可
25	樫立1	hateigatsuuniwa k ^j a:?te kuurutei:jajo.	

25	樫立2	hatcigatsumiwa k ^j annuwajo:.	
25	樫立3	natsujasuminiwa k ^j a:tte kurujo:dara	
26	共通語	かあさんはあした東京へむすこに会いにいく。	備考
26	大賀郷 1	ho:donowa acita kumige: musukoni aini ikowa	
2.5	1.707.00	ka:teanwa acita kumige (:) musukoni {aini ikodara / aini	
26	大賀郷 2	ikowa}	
26	三根 1	ka:tcanwa asu kumige: musukoni aini ikuteija:	
26	三根 2	ka:teanwa acita kumige: kodomoni ainiitte kurowa:	
26	-1:-1:	шгада je no ka:teanwa asш kшп ^ј е kodomoni ai ni iko	
26	末吉	watte ittarara.	
26	中之郷 1	ka:teanwa (sa) asu kumi: itte kodomoni atte kuronte joi	
26	中之郷 2	okkateanwa asu kumie kodomoni ikutteija	
26	樫立1	o?kateanwa asuu kuunie kodomoni aini ikowa	
26	樫立2	hoawa asut kodomoni aine to:kio:ni ikowa.	
27	共通語	大阪から東京までの汽車賃はいくらだろうか。	備考
27		o:sakakara to:k ^j o:madeno kicateinwa ikuraguire:	
27	大賀郷1	surudaro:	
27		o:saka kara to:k ^j o:madeno kigatcinwa {ikurado: / ikura	
27	大賀郷 2	surudo:}	
27	三根 1	o:sakakara towkio:madeno kicatcinwa ikwradaro:no:	
27	三根 2	o:sakakara to:k ^j o:madeno kicatcinwa ikura daro:no:	
27	+-+-	o:saka kara tokio:made no denga tgin wa {ikuradaro: /	
27	末吉	ikuradakano:}	
27	中之郷 1	o:saka kara to:k ^j o: made kicatcinwa ikura daka noa:	
27	中之郷 2	o:sakakara kunimadeno kiscatcinwa ikuradaka no:	
27	樫立1	o:sąkakara to:k ^j o:madeno kięateinwa ikuradaro:	
27	版大力	o:sakara kicatcinwa {ikurado: / ikuradaro: /	
27	樫立2	ikuradeodzaro: (対目上)}	
28	共通語	四時まで駅でまっておれ。	備考
28	大賀郷1	jozimade ekide mateitaare	
28	大賀郷 2	jodzimade ekide {mattarejo / matto:jo}	
28	三根 1	jozimade ekide matta:re	
28	三根 2	jodzimade ekide {mattearejo: / matcitearejo:}	
28	末吉	jo ½i made ekide matta:re:	
28	中之郷1	jo zimade sokode mattiare jo:	
28	中之郷 2	jodzimade ekide mattarejo:	
28	樫立1	jozimade jekide {matcirojoi / matcite arejoi}	
20	₩ → ~	jodzimade {matcite wase odzare: (より丁寧らしい)/	
28	樫立2	matcitewasejo:}	

29 共通語五時までに帰らなくてはならない。仮29 大賀郷 1gozimadeni modorinno:to narinnaka29 大賀郷 2godzimadeni {kaerinno:to dara / kaerino:to dame dara}	備考
29 大賀郷 2 godzimadeni {kaerinno:to dara / kaerino:to dame dara}	
goddingon (morning)	
29 三根 1 gozimaden {ke:rinna:badara: / ke:na:badara:}	
29 三根 2 godzimadeni ke:rinna:ba narinnakajo:	
29 末吉 g站 made ni ke:rin na:to {dameda:nte / damedorajo:.}	
29 中之郷 1 goʻzinadeni k ^j a:razum ^j a dowaga	
godzimadeni (wa) k ^j a:{ranakutewa / rinnakutewa}	
29 中之郷 2 narinnaka (jo: / no:)	
29 樫立 1 gozimadeni k ^j a:rinnoato doadara	
29 樫立 2 godzimaden ^j a k ^j a:ranak ^j adarajo:	
30 共通語 次郎、この荷物を家までかついで行ってくれ。 仮	備考
30 大賀郷 1 ziro: kono nimotsu: jemade katsuunde motteike	
30 大賀郷 2 dziro: kono nimotswo iemade katswide {motte itto:jo /	
mottetto:jo}	
30 三根 1 dziroui, kono nimotsui: emade katsuindeittekero	
30 三根 2 dziro: kono nimotswo emade katswide {itteke: / itto:jo:} itto:jo:は優し	いいい方。
30 末吉 煌iro:, kono no: nimotsu: ie made katside ittekero:	
30 中之郷 1 ½iruu, kono nimotsu: wagajamade katsuide mottette kero.	
30 中之郷 2 dziro: kono nimotswo iemade katswide ittekero	
30 樫立 1 ziro: kono nimotsu: iemade katsur?de i?to:	
31 共通語 荷物が重かったので、二人でもった。 仮	
31 大賀郷 1 nimotsuuga omokaro:de фuntaride motara	
31 大賀郷 2 nimotswga omokente фwtaride {mottara / moto: dara}	
31 三根 1 nimotswga omokaro:te фwtaide sagetara	
31 三根 2 nimotswga omokaro:te фwtaride {motteikara:/motara:}	
kono no: nimotsuga {omokute / omokede} фutari de	
31 末吉 ka mota:da {re: / ga:}	
31 中之郷 1 nimotswga omokede фwtaride jattode moteikora.	
31 中之郷 2 nimotsuga omokente фutaride sagetara	
31 樫立 1 nimotsuga omokute (重くて) hutaride motara	
31 樫立 2 nimotswga omokaro:jani фtaride motara.	
32 共通語 この上着はこのまえ沖縄で二千円で買った。 仮	備考

22	1.7074	1 . 1 . 1 . 1 .	
32	大賀郷1	kono uwagiwa konome: okinawade nisen ende kawara	
32	大賀郷2	kono uwagiwa konomae okinawade nisenende kawara:	
32	三根 1	kono uwagiwa konome: okinawade nisen ende {katto:za / kattara:}	「買った」kao:do:za/ kao:za
32	三根 2	kono фшкшwa konome: okinawage: {iko:tokini /	
32		nisenende} {kattekitara: / kawara:}	
32	末吉	kono no: uwagi wa konome: okinawa de nisen.ende kawa: ²za	
32	中之郷 1	kono uwagi wa sa kono m ^j a: okinawade nisen'ende katte kitoa &a.	
32	中之郷 2	kono hebirawa kono m ^j a: okinawade nisenende {kattara / kattekitara}	
32	樫立1	kono uwagiwa konom ^j a: okinawade nisenende {ka?tara / kawarajo:}	
32	樫立2	kono catsuwa konom ^j a: okinawade nisen jende kawara (jo).	
33	共通語	沖縄にはめずらしい菓子がある。	備考
33	大賀郷 1	okina:n ^j a mezuracike kaciga arowa	
33	大賀郷 2	okinawaniwa medzuracike kaciga {arowa / arowano: / arodza}	
33	三根 1	okinawan ^j a mezuracike kaciga arowa	
33	三根 2	okinawaniwa medzuracike kaciga arowajo:	
33	末吉	okinawa niwa no: me zrasike kasi ga arowa	
33	中之郷 1	okina:niwa me zuracike kaciga {ippja / sikkari} aro wajo	
33	中之郷 2	okinawaniwa mezuracike kaciga arə (w)a (no:)	
33	樫立1	okina:niwa mezuracike kaciga aroza.	
33	樫立2	okinawania: medzuracike kaciga arowajo:.	
33	樫立3	mezuracike kaciga arowa	
34	共通語	孫はお菓子が好きだ。	備考
34	大賀郷1	magowa kaciga sukidara	
34	大賀郷 2	magowa okaciga {sukidara / sukido:dara}	
34	三根 1	magowa kaciga suukidara	
34	三根 2	magowa kaciga suuki {da:jo: / dara}	
34	末吉	magome wa kaciga suukida: 🕏 a.	
34	中之郷1	magowa kacciga daiswki dwadza.	
34	中之郷 2	magowa kaciga sukidara	
34	樫立1	magowa kaco swkidarajo:	
34	樫立2	magowa kaciga sukidarajo:	
34	樫立3	magowa okaciga suuki dara	

35	共通語	箱の中にまんじゅうがいくつあるとおもうか。	備考
35	大賀郷1	hakono nakan manzu:ga ikutsu aruto omo:	
35	大賀郷 2	hakono nakaniwa mandzu:ga ikutsu aroka{sittaroka / sokeka}	
35	三根 1	hakon nakani manzuu:ga ikuutsuu aruuto omo:ro	
35	三根 2	hakononakani mandzu:ga ikutsu aruto omouka	
35	末吉	hakono no: nakani man ˈzw:ga ikwtsw arwto omo:	
35	中之郷1	hakononakan ^j a (sa), man ˈzwwga ikwtsw arw to omo:	
35	中之郷 2	hakono nakani ikutsu mandzu:ga aruto omo: / ikutsu ça:ttaruto omo: (いくつ入っていると思うか。)	
35	樫立1	hakon nakan manzuu:wa ikuutsuu aruuto omo:	
35	樫立2	hakononakani mandzu::ga ikutsu aro (いくつある?) (「と思うか?」は NR)	
36	共通語	孫はまんじゅうを皮だけ食べる。	備考
36	大賀郷1	magowa manzu:jo ko:bedake kamuwa	
36	大賀郷 2	magowa mandzui:o kawadakecika {kaminnaka / kaminno:dara}	
36	三根 1	magowa manzurijo ko:bedake kamowa	
36	三根 2	wagaino magowa mandzur:wo kawadake kamowa	
36	末吉	mago wa man ²zu:jo ka:be dake kamuwa	
36	中之郷1	magowa mandzuuuno kwa:bedakii uumagatte kamodza:.	
36	中之郷 2	magowa mandzu:{o/ no} koa dake kamo (w)a	
36	樫立1	magowa manzu:jo koadake kamowajo:.	
36	樫立2	magowa mandzu:jo koabedake kamowa.	
37	共通語	じいさんは朝から海へ魚をとりにいった。	備考
37	大賀郷1	dzi:teanwa tommetekara tumige: jo: torii detara	
37	大賀郷 2	dzi:tcanwa asakara umi {ni / je} sakanao torini {ikara / ittarajo:}	
37	三根 1	dziisanwa tommeteikara umige: jouttori ikara	
37	三根 2	wagaino dzi:teanwa tommetekara tumige: jo:torini ikara	
37	末吉	½i:sanwa no: tommetekara wmige: jo: torini.ikara.	
37	中之郷1	½i:tcanwa tommetekara ham ^j aa sakanoa tori ni iku wa [‡] a.	
37	中之郷 2	dzi:san tõmmetekara uumie jo: torini i (k)kara	
37	樫立1	zi:teanwa ton:metekara umi: sakanoa tori: {oza?tara / ozarara}	
37	樫立 2	dzi:sanwa toNmetekara jo:tsuri ikara.	
38	共通語	ここは海にちかいので魚がうまい。	備考
38	大賀郷 1	kokowa umin tcikakente joga n:mak ^j a	
38	大賀郷 2	kokowa {umini / umige:} tcikakente sakanaga {umak ^j a	

38 三根 1			/ m:mak ^j a}no:		
38 三根 2	38	三根 1	kokowa umige: teikakente joga n:mak ^j a:		
Record	38				
本方					
38 中之郷 2 kokowa umini telikakente joga mmaka kg立 1 kokowa umini telikakente joga mmaka kg立 1 kokowa umini telikakeite sakanaga ummakla.	38	末吉	mmakedara}		
接立 kokowa umini tejkakade {jo/sqkana} ga ummak/a. kokowa umini tejkakade {jo/sqkana} ga ummak/a. kokowa umini tejkakeite sakanaga ummak/a. 魚より肉のほうが高い。 偏考 分質郷 jojori nikuno ho:ga takak/a sakanajori nikuno ho:ga takak/ajo: takakedka. (高い(独自)) takak/ja. (高い (独自)) takak/ja. jojori nikuno ho:ga takak/jorika/jo	38	中之郷 1	kokowa (sa) hamani tcikakede joga umak ^j a no:.		
8 際立 2 kokowa umini teikakeite sakanaga ummakia.	38	中之郷 2	kokowa umini teikakente joga mmakia		
39 共通語 魚より肉のほうが高い。	38	樫立1	kokowa umini teikakade {jo / sakana} ga ummakia.		
39 大賀郷1	38	樫立2	kokowa umini teikakeite sakanaga ummak ^j a.		
大賀郷 2 sakanajori nikumo ho:ga takakʲajo: takakedza. (高い (独自)	39	共通語	魚より肉のほうが高い。	備考	
大賀郷3 {sakana/jo(古)}jori nikumo ho:ga takakʲano:. takakedza. (高い/独白〉) takakja. (コローローローローローローローローローローローローローローローローローローロー	39	大賀郷1	jojori nikumo ho:ga takak ^j a		
大賀郷3 {sakana / jo (古) jori nikumo ho:ga takak'ano:	39	大賀郷 2	sakanajori nikumo ho:ga takak ^j ajo:		
大賀郷4 (jo / sakana) jori nikumo ho:ga takakia.		 		takakedza. (高い〈独白〉)	
39 三根 1 ijojori nikumoho:ga takak'a:	39	大質郷 3	{sakana / jo (古)}jori nikuno ho:ga takakʲano:.	takakja. (高い)	
39 三根 3 jojori nikumo ho:ga takakia (no:). no:はやわらげ 39 三根 4 jo jori nikumo ho:ga takakia no: 39 末吉 jojori nikumo ho:ga takakia 39 末吉 jojori nikumo ho:ga takakia 39 末吉 jojori nikumo ho:ga takakia 39 中之郷 1 jojori nikumo ho:ga takakia 39 中之郷 2 jojori nikumo ho:ga takakia 39 中之郷 3 jojori nikumo ho:ga takakiano: 39 中之郷 4 {sakana / jo} {jori / joriwa / jorika / jorikawa} {nikuuga / nikumo ho:ga takakia. 39 極立 1 jojori nikumo ho:ga takakia. 39 極立 1 jojori nikumo ho:ga takakia. 39 極立 4 jojori nikumo ho:ga takakia. 39 極立 4 jojori nikumo ho:ga takakia. 40 共通語 おれは蛸のさしみが食べたい。 備考 40 大復郷 1 waria takomeno sacimio kamitakia 40 大復郷 2 waja takono sacimiga {kamitakia / tabetakia}no: 40 大復郷 4 warewa takono sacimiga tabetakiano: 40 三根 1 wara takono sacimiga kamitakia 40 三根 2 wara takono sacimiga kamitakia 40 三根 3 wara takono sacimiga kamitakia / tabetakia: } 40 三根 3 ara takono sacimiga kamitakia 40 三根 4 ara takono sacimiga kamitakia 40 三根 5 ara takono sacimiga kamitakia 40 三根 6 ara takono sacimiga kamitakia 40 三根 6 ara takono sacimiga kamitakia 40 三根 6 ara takono sacimiga kamitakia 40 三根 6 ara takono sacimiga kamitakia 40 三根 6 ara takono sacimiga kamitakia 40 三根 6 ara takono sacimiga kamitakia 40 正成 7 元 7	39	大賀郷 4	{jo/sakana} jori nikumo ho:ga takak ^j a.		
三根4	39	三根 1	ijojori nikunoho:ga takak ^j a:		
末吉 jojori nikumo ho:ga takakia 39 末吉 jojori nikumo ho:ga takakia 39 中之郷1 jojori nikumo ho:ga takakia 39 中之郷2 jojori nikumo ho:ga takakia 39 中之郷3 jojori nikumo ho:ga takakia 39 中之郷3 jojori nikumo ho:ga takakia 39 中之郷4 {sakana / jo} {joriwa / jorika / jorikawa} {nikumo ho:ga takakia. joriwa を joria と言うのは古い言い方。ogは弱い二重母音で[o:]にも (以下同じ)。 39 樫立 1 jojori nikumo ho:ga takakia. jointi nikumo ho:ga takakia. 39 樫立 4 jojori nikumo ho:ga takakia:jo: 40 共通語 おれは蛸のさしみが食べたい。 備考 40 大賀郷1 waria takomeno sacimio kamitakia 40 大賀郷2 waja takono sacimiga {kamitakia / tabetakia}no: 40 大賀郷3 waria takono sacimiga kumitakia (no:). 40 大賀郷4 warewa takono sacimiga kamitakia s は口蓋化していない。[su] にも聞こえる) 50 元素 40 三根 ara takono sacimiga kamitakia no: 40 三根 ara takono sacimiga kamitakia no: 40 元根 ara takono sacimiga kamitakia no: 40 元根 ara takono sacimiga kamitakia ara no: takomeno saci	39	三根 3	jojori nikumo ho:ga takak ^j a (no:).	no:はやわらげ	
末吉	39	三根 4	jo jori nikumo ho:ga takak ^j a no:		
中之郷 1 jojori nikumo hooga takakia jo: 39 中之郷 2 jojori nikumo hooga takakia 39 中之郷 3 jojori nikumo hooga takakiano: {sakana / jo} {jori / joriwa / jorika / jorikawa} {nikumga / nikumo hooga} takakia. joriwa を joria と言うのは古い言い方。ogは弱い二重母音で[o:]にも (以下同じ)。	39	末吉	jojori nikumo ho:ga takak ^j a		
中之郷2	39	末吉	jojori nikumo ho:ga takak ^j a.		
中之郷 3	39	中之郷1	jojori nikumo hooga takak ^j a jo:		
中之郷4 sakana/jo} {jori / joriwa / jorika / jorikawa} {nikunga / nikuno hogga} takakia. joriwa を joria と言うのは古い言い方。ogは弱い二重母音で[o:]にも (以下同じ)。 2 整立 1 jojori nikuno hoga takakiano:	39	中之郷 2	jojori nikumo ho:ga takak ^j a		
中之郷4 sakana/jo} {jori/joriwa/jorika/jorikawa} {nikuuga/ nikuuno hooga} takakia. 言い方。ogは弱い二重母音で[o:]にも(以下同じ)。 2 樫立 1 jojori nikuuno hooga takakia:jo:	39	中之郷3	jojori nikumo ho:ga takak ^j ano:		
中之郷4 nikuno hogga ł takakia. 言い方。 ogは弱い二重母音で[o:]にも(以下同じ)。 極立 1 jojori nikuno hogga ł takakia:jo: 40 共通語 おれは蛸のさしみが食べたい。 備考 40 大賀郷 1 waria takomeno sacimio kamitakia 40 大賀郷 2 waja takono sacimiga ł kunitakia / tabetakia / no: 40 大賀郷 4 warewa takono sacimiga kunitakia (no:). 40 大賀郷 4 warewa takono sacimiga kamitakia 40 三根 1 waiwa takono sacimiga ł kamitakia s は口蓋化していない。[sul] にも聞こえる) 40 三根 ara takono sacimiga kamitakia no: 40 末吉 ara no: takomeno sacimiga kamitakia ara no: takomeno sacimiga kamitakia			[sakana / io] [joci / jociwa / jocika / jocikawa] [nikuga /	joriwa を joria と言うのは古い	
図 図 図 図 図 図 図 図 図 図	39	中之郷 4	9 中之郷 4	ア級4 「	言い方。ogは弱い二重母音
39 樫立4 jojori nikugaho: takakʲaːjo: 40 共通語 おれは蛸のさしみが食べたい。 備考 40 大賀郷 1 warʲa takomeno sacimio kamitakʲa 40 大賀郷 2 waja takono sacimiga {kamitakʲa / tabetakʲa}no: 40 大賀郷 3 uqaja: takono sacimiga kuitakʲa (no:). 40 大賀郷 4 warewa takono sacimiga tabetakʲano: 40 三根 1 waiwa takono sacimiga kamitakʲa s は口蓋化していない。[sul] にも聞こえる) 40 三根 ara takono sacimiga kamitakʲa no: 40 末吉 ara no: takomeno sacimiga kamitakʲa			で[o:]にも (以下同じ)。		
### おれは蛸のさしみが食べたい。	39	樫立1	jojori nikuno ho:ga takak ^j ano:		
大賀郷 1 waria takomeno sacimio kamitakia 40 大賀郷 2 waja takono sacimiga {kamitakia / tabetakia}no: 40 大賀郷 3 ujaja: takono sacimiga kuitakia (no:). 40 大賀郷 4 warewa takono sacimiga tabetakiano: 40 三根 1 waiwa takono sacimiga kamitakia s は口蓋化していない。[sul] にも聞こえる) 40 三根 ara takono sacimiga kamitakia no: 40 末吉 ara no: takomeno sacimiga kamitakia	39	樫立4	jojori nikugaho: takak ^j a:jo:		
大賀郷 2 waja takono sacimiga {kamitakia / tabetakia}no: 40 大賀郷 3 uqaja: takono sacimiga kuritakia (no:). 40 大賀郷 4 warewa takono sacimiga tabetakiano: 40 三根 1 waiwa takono sacimiga kamitakia s は口蓋化していない。[suu] にも聞こえる) 40 三根 ara takono sacimiga kamitakia no: 40 末吉 ara no: takomeno sacimiga kamitakia	40	共通語	おれは蛸のさしみが食べたい。	備考	
大賀郷3 uqaja: takono sasimiga kuitakia (no:).	40	大賀郷1	war ^j a takomeno sacim ^j o kamitak ^j a		
大賀郷4 warewa takono sacimiga tabetakiano: 40 三根 1 waiwa takono sacimiga kamitakia s は口蓋化していない。[sw] にも聞こえる) 40 三根 ara takono sacimiga kamitakia no: 40 末吉 ara no: takomeno sacimiga kamitakia	40	大賀郷 2	waja takono sacimiga {kamitak ^j a / tabetak ^j a}no:		
40 三根 1 waiwa takono sasumiga kamitakia s は口蓋化していない。[sw] にも聞こえる) 40 三根 ara takono sasimiga kamitakia no: 40 末吉 ara no: takomeno sasimiga kamitakia ara takono sasimiga kamitakia ara no: takomeno sasimi	40	大賀郷3	щаја: takono sacimiga kwitak ^j a (no:).		
S は口蓋化していない。[sw] s は口蓋化していない。[sw] にも聞こえる) 40 三根 ara takono sacimiga kamitakia no: 40 末吉 ara no: takomeno sacimiga kamitakia	40	大賀郷 4	warewa takono sacimiga tabetakiano:		
本書 Wara takono sasimiga {kamitakʲaː / tabetakʲaː } にも聞こえる) 本書 ara takono sasimiga kamitakʲa no: 本書 ara no: takomeno sasimiga kamitakʲa	40	三根 1	waiwa takono sasumiga kamitak ^j a		
にも聞こえる) 40 三根 ara takono sasimiga kamitakia no: 40 末吉 ara no: takomeno sasimiga kamitakia	40	二担 2	wood takana saaimiga (kamitakia: / tahatakia:)	s は口蓋化していない。[sw]	
40 末吉 ara no: takomeno sacimiga kamitak ^j a	40	二根 3	wara takono sagininga {kanntak/a. / tabetak/a: }	にも聞こえる)	
	40	三根	ara takono sacimiga kamitak ^j a no:		
	40	末吉	ara no: takomeno sacimiga kamitak ^j a		
40 末吉 aria tako (me)no sacimio kamitakia.	40	末吉	ar ⁱ a tako (me)no sacim ⁱ o kamitak ⁱ a.		

40	中之郷 1	wara takomeno sasum ^j o kamitak ^j a.	
40	中之郷 2	ara takomeno sasimiga tabetak ^j a	sacimio 专可
40	中之郷 3	ara (:) takono sacimiga {kamitak ^j ano: / kamitak ^j ajo:}	Suprime 0 ;
	1 10/41 0	{wara / ara} {takono / takomeno} sacimio {tabetakia /	takome は最近は言わない。
40	中之郷4	kamitak ^j a (古)}.	「俺」は ware / are
40	樫立1	wara takomeno sacimio kamitakia	Pagros water are
40	樫立3	warewa takono sacimiga {tabetak ^j a / kamitak ^j a}	
40	樫立 4	wara takono saeimio kamitakia	
41	共通語	おまえはこの魚の名まえを知っているか。	備考
41	大賀郷1	naria kono jono name: jo cokeka	un · J
41	大賀郷 2	omaewa kono sakanano namaeo {cokeka / cittaroka}	
41	八貝州上	Oniacwa kono sakanano namaco (gokeka / gittaroka)	ome:.(〈目下に対して〉おま
41	大賀郷 3	omaeuja kono sakanano namaeo cokeka.	え) wnnw (相手を軽んじたと
71	八貝畑リ	omacuja kono sakanano mamaco gokeka.	き)
41	三根 1	un ^j a kono jono name:o cjokeka	<u> </u>
71		uira kono jono name.o gjokeka	ome:は今は目上目下どちら
41	三根 3	ome:wa kono jono name:o citta:roka:	にも使う。昔は目上へは
41	_1K 3	onie. wa kono joho name.o citta.ioka.	ommi:
		ome:wa kono jono namaeo {coko:dzaroka: (対目上)/	Ollilli.
41	三根 4	cokeka: (対同等)}	
41	末吉	wn ^j a: kono jono namee jo cokeka.	
41	小 口	unra. Kono jono namee jo cokeka.	ome:は年輩の人に使う。omi:
41	末吉	omaiwa kono jono name:jo cokeka.	はさらに丁寧。
41	中之郷 1	omia:wa konojono namia:jo cokenoa	はららに1一一。
41	中之郷 2	una kono jono nam ^j a (:)o sokeka	
41	中之郷 3	omia:wa kono jono namia:wo cokeka	
41	中之郷4	uma kono jono nam ^j a:jo cokeka (i).	「お前が」は wnga。「お前を」
41	上内 土 1	: 1 · : : 1 · / 1 1 lbt=1-b) //	は wnw:。
41	樫立1	om'a:wa kono jono nam'a:jo obi:ta (cokeka とは言わない)	
41	樫立4	omiwa kono sakanano nam ^j a:jo obi:toaka	/##: /
42	共通語	これはかつおだろう。	備考
41	大賀郷4	omaewa kono{jo / sakana}no {namae / name:}o cokeka	
42	大賀郷1	koria katsur: danno:za	
42	大賀郷 2	koja {katsuo dara (no:) / katsuode ne:ka}	
42	大賀郷 3	koreщa {katswo/katsw:(古)} daro:.	
42	大賀郷 4	korewa katsuo dara jo:	
42	三根 1	kora: kattsuuu daro:	
42	三根 3	kor ^j a katsur: daro:	
42	三根 4	kora katsuo {do:dzaroa no: (対目上) / da:no: (対同等)}	
42	末吉	kor ^j a: katsu: {dan no:dza / daro:}	

42	末吉	kor ^j a katsur:daro:.	
42	中之郷 1	kora katsuuu doa dza	
42	中之郷 2	kora katsuio daro:	
42	中之郷3	kora katsuio daro	
42	中之郷 4	kora {katsuio / katsuii } {dannoiza / darog}.	katsuu:は漁師の言葉。
42	樫立1	kor ^j a: katsu: daro:	
42	樫立4	kora katsu: {daro:/doadza(断定的ないい方)}	
43	共通語	酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう?	備考
43	大賀郷 1	sake:wa adancite tsukuruka narewa cokanno:za	
40	1 70 /07 0	sakewa dogan{cite / jatte} tsuukuuruuka omaewa	
43	大賀郷2	{cittaroka / cokeka}	
43	大賀郷 3	sakewa adancite tswkwrwka oamewa cokeka.	
40	1.70.607 4	kono sakewa dogon jatte tsukuttaruka omaewa	
43	大賀郷 4	{coidaro: / cokeka}	
12	→ += 1	sakeiwa {dogon jatte / adancite} tsukuruka ome:wa	
43	三根 1	çokeka	
12	— +H 2	sake:wa {doganjatte / dogancite} tsukuroka ome:wa	
43	三根 3	eitta: 「ruu:	
12	→ += 4	sakewa adan.jatte tsukurudaro:no:, ome:wa	
43	三根 4	{citto:dzaroka / coko:dzaroka:}	
43	末吉	saki:wa adancite tsukuruka omaiwa ci:daro:.	i は良く無声化するが w は無 声化しにくい。
1			
43	中之郷 1	saki:wa adan cite tsukuruka om ^j a:wa cokeka.	
43	中之郷1中之郷3	saki:wa adan cite tsukuruka om ^j a:wa cokeka. sakewa adancite tsukuruka om ^j a:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)}	gi:daro:の方が良い。
43	中之郷 3	sakewa adancite tsukuruka om ^j a:wa {cokeka / ci:daro:	gi:daro:の方が良い。
43		sakewa adancite tsuukuruuka om ^j a:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)}	gi:daro:の方が良い。
43	中之郷 3	sakewa adancite tsukuruka om ^j a:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)} saki:wa {dogan / adan}cite {tsukuroka / tsukuruka	gi:daro:の方が良い。
43	中之郷 3	sakewa adancite tsukuruka om ^j a:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)} saki:wa {dogan / adan}cite {tsukuroka / tsukuruka (新?)} una {cokanno:za (古) / ci:daro: (新)}.	gi:daro:の方が良い。
43 43	中之郷 3 中之郷 4 樫立 1	sakewa adancite tsukuruka omia:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)} saki:wa {dogan / adan}cite {tsukuroka / tsukuruka (新?)} una {cokanno:za (古) / ci:daro: (新)}. sakewa adancite tsukuruka obi:taro: sakewa do:jatte tsukuruka {omiwa / omia:wa}	gi:daro:の方が良い。
43 43 43	中之郷 3 中之郷 4 樫立 1 樫立 3	sakewa adancite tsukuruka omia:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)} saki:wa {dogan / adan}cite {tsukuroka / tsukuruka (新?)} una {cokanno:za (古) / ci:daro: (新)}. sakewa adancite tsukuruka obi:taro: sakewa do:jatte tsukuruka {omiwa / omia:wa} obi:to:ka	gi:daro:の方が良い。 備考
43 43 43 43	中之郷 3 中之郷 4 樫立 1 樫立 3 樫立 4	sakewa adancite tsukuruka om ⁱ a:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)} saki:wa {dogan / adan}cite {tsukuroka / tsukuruka (新?)} uma {cokanno:za (古) / ci:daro: (新)}. sakewa adancite tsukuruka obi:taro: sakewa do:jatte tsukuruka {omiwa / om ⁱ a:wa} obi:to:ka saki:wa adancite tsukuroka omiwa obi:taro:	
43 43 43 43 44 44	中之郷 3 中之郷 4 樫立 1 樫立 3 樫立 4 共通語 大賀郷 1	sakewa adancite tsukuruka omia:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)} saki:wa {dogan / adan }cite {tsukuruka / tsukuruka (新?)} una {cokanno:za (古) / ci:daro: (新)}. sakewa adancite tsukuruka obi:taro: sakewa do:jatte tsukuruka {omiwa / omia:wa} obi:to:ka saki:wa adancite tsukuroka omiwa obi:taro: 酒は米からつくる。	
43 43 43 43 44	中之郷 3 中之郷 4 樫立 1 樫立 3 樫立 4 共通語	sakewa adancite tsukuruka omia:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)} saki:wa {dogan / adan}cite {tsukuroka / tsukuruka (新?)} una {cokanno:za (古) / ci:daro: (新)}. sakewa adancite tsukuruka obi:taro: sakewa do:jatte tsukuruka {omiwa / omia:wa} obi:to:ka saki:wa adancite tsukuroka omiwa obi:taro: 酒は米からつくる。 sakewa komekara tsukurowa	
43 43 43 43 44 44 44	中之郷 3 中之郷 4 樫立 1 樫立 3 樫立 4 共通語 大賀郷 1	sakewa adancite tsukuruka omia:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)} saki:wa {dogan / adan}cite {tsukuroka / tsukuruka (新?)} uma {cokanno:za (古) / ci:daro: (新)}. sakewa adancite tsukuruka obi:taro: sakewa do:jatte tsukuruka {omiwa / omia:wa} obi:to:ka saki:wa adancite tsukuroka omiwa obi:taro: 酒は米からつくる。 sakewa komekara tsukurowa {sakewa / sakeiwa} komekara {tsukuru / tsukuru	
43 43 43 43 44 44	中之郷 3 中之郷 4 樫立 1 樫立 3 樫立 4 共通語 大賀郷 1	sakewa adancite tsukuruka omia:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)} saki:wa {dogan / adan}cite {tsukuruka / tsukuruka (新?)} uma {cokanno:za (古) / ci:daro: (新)}. sakewa adancite tsukuruka obi:taro: sakewa do:jatte tsukuruka {omiwa / omia:wa} obi:to:ka saki:wa adancite tsukuroka omiwa obi:taro: 酒は米からつくる。 sakewa komekara tsukurowa {sakewa / sakeiwa} komekara {tsukuru / tsukuru danno:dza}	
43 43 43 43 44 44 44	中之郷 3 中之郷 4 樫立 1 樫立 3 樫立 4 共通語 大賀郷 1 大賀郷 2	sakewa adancite tsukuruka omia:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)} saki:wa {dogan / adan}cite {tsukuroka / tsukuruka (新?)} uma {cokanno:za (古) / ci:daro: (新)}. sakewa adancite tsukuruka obi:taro: sakewa do:jatte tsukuruka {omiwa / omia:wa} obi:to:ka saki:wa adancite tsukuroka omiwa obi:taro: 酒は米からつくる。 sakewa komekara tsukurowa {sakewa / sakeiwa} komekara {tsukuru / tsukuru danno:dza} sakeua komekara {tsukuroua (つくるよ) / tsukurodza	
43 43 43 43 44 44 44	中之郷 3 中之郷 4 樫立 1 樫立 3 樫立 4 共通語 大賀郷 1	sakewa adancite tsukuruka omia:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)} saki:wa {dogan / adan }cite {tsukuroka / tsukuruka (新?)} uma {cokanno:za (古) / ci:daro: (新)}. sakewa adancite tsukuruka obi:taro: sakewa do:jatte tsukuruka {omiwa / omia:wa} obi:to:ka saki:wa adancite tsukuroka omiwa obi:taro: 酒は米からつくる。 sakewa komekara tsukurowa {sakewa / sakeiwa} komekara {tsukuru / tsukuru danno:dza} sakeua komekara {tsukuroua (つくるよ) / tsukurodza (つくる<断定>) / tsukurodo:dza (つくるんだよ)}.	
43 43 43 43 44 44 44	中之郷 3 中之郷 4 樫立 1 樫立 3 樫立 4 共通語 大賀郷 1 大賀郷 2	sakewa adancite tsukuruka omia:wa {cokeka / ci:daro: (誘導)} saki:wa {dogan / adan }cite {tsukuruka / tsukuruka (新?)} uma {cokanno:za (古) / ci:daro: (新)}. sakewa adancite tsukuruka obi:taro: sakewa do:jatte tsukuruka {omiwa / omia:wa} obi:to:ka saki:wa adancite tsukuroka omiwa obi:taro: 酒は米からつくる。 sakewa komekara tsukurowa {sakewa / sakeiwa} komekara {tsukuru / tsukuru danno:dza} sakeua komekara {tsukuroua (つくるよ) / tsukurodza (つくる<断定>) / tsukurodo:dza (つくるんだよ)}. sakewa komekara {tsukuro (:)dza / tsukuttarowa	

44	三根 3	sake:wa komekara tsuikurowa	
44	三根 3		
	末吉	sakewa komekara tsukurowano:	
44		saki:wa komekara tsukurui.	
44	中之郷1	saki:wa komekara tsukuru doa za.	
44	中之郷 3	sakewa komekara tsukurodza:	
44	中之郷 4	sakiːwa komekara {tswkwroza / tswkwrowa}.	{tsuukuuttaroza / tsuukuuttarowa}「作っている よ」。
44	樫立1	sąkewa komekara tswkwrw no∶za	
44	樫立3	sakewa kome kara tsuukurowa	
44	樫立4	sąki:wa komekara tsukurodza	
45	共通語	酒さえあればなにもいらぬ。	備考
45	大賀郷 1	sakese: areba annimo irinnakk ^j a	
45	大賀郷 2	sakese: areba a (:)nnimo irinnaka	
45	大賀郷 3	sake{ga / gase: } areba annimo { irinnaka (いらない) / irinnakk ^j a (強い表現)}.	
45	大賀郷 4	sakega areba (no:) annimo nakute jokedza.	
45	三根 1	sakese: areba annimo jokk ^j a:	
45	三根 3	sakese: areba annimo irinnaka (:)	
45	三根 4	sakęse: areba annimo irinnakano:	
45	末吉	sakese: areba annimo irinnaka.	
45	中之郷1	sake ca areba annimo jokkya.	
45	中之郷3	sakesae areba annimo {jokkia / irinnaka (誘導)}	irinnaka の方が良い。
45	中之郷4	sakedake areba annimo {irinakoza / irinnaka}.	se:は使わない。
45	樫立1	sąkeca: areba annimo jo?kia	
45	樫立3	sake sae areba annimo irinnaka	
45	樫立4	sąkeca: ar ^j a: {annimo innaka / jokk ^j a:}	
46	共通語	うちのじいさんは酒もたばこものまない。	備考
46	大賀郷 1	wagaino dzi:teanwa sake:mo tabako:mo nominnaka	
46	大賀郷 2	wage:no dzi:teanwa sakemo tabakomo annimo nominnaka.	
46	大賀郷 3	waga eno dzi:sanwa sakemo tabakomo {nominnaka (飲まない) / agarinnaka (召し上がらない:敬語)}.	(古)o:sama (じいさん)
46	大賀郷 4	wagaeno dzi:teanwa sakemo tabakomo annimo {nominaka / nominno:dza}	
46	三根 1	wagaeno dziisanwa sakeimo tabakoumo nominnaka:	
46	三根 3	wage:no dzi:sanwa sake:mo tabako:mo nominnaka	
46	三根 4	wage:no dzi:teanwa sake:mo tabako:mo nominnakano:	
46	末吉	wagaino dzi:sanwa saki:mo tabako:mo nominnaka.	
40	小口	wagamo upi.sanwa sani.mo taoano.mo nominiana.	

46	中之郷 1	wagaeno dzi:sanwa saki:mo tabako:mo nominnaka.	
46	中之郷 3	wagaino dzi:teanwa sakemo tabakomo nominnaka	
46	中之郷4	waga (j)eno dzi:teanwa saki:mo tabakoomo {nominnaka / nominakoza}.	「おじいさん」は toto:とも言う か。「飲まない」の丁寧な言い 方 mia:rinnaka。
46	樫立1	wagi:no zi:teanwa saki:mo tabako:mo agarinnaka (敬語)	•
46	樫立3	wagajano dzi:tcanwa sakemo tabakomo nominaka	
46	樫立 4	wagi:no odzi:teanwa saki:mo tabako:mo nominnaka	
47	共通語	その水はのむな。のむならこの水をのめ。	備考
47	大賀郷 1	sonomizuwa nomuna. nomoda:ba kono mizu: nome	, ·
47	大賀郷 2	sono midzuwa {nomennaka / damedara} nomoda:ba kono midzuo {nome / nomeba jokadza}	
47	大賀郷 3	sono mizuuqa nomunajo. nomora:ba kono mizuuo nomejo (:).	
47	大賀郷 4	sono mizuwa nomunajo: {nomutok ^j a: / nomundattara} kono mizuo nomejo:	
47	三根 1	sono mizu: wa nomuna. nomuda: ba kono mizu: nome	
47	三根 3	sono mizu::wa nomunajo, {nomodara (ba) / nomundara / nomoda:bajo} kotteino mizu:: {nome (目下へ) / nomijare (目上へ}	
47	三根 4	sono mizuwa nominnakajo:. nomoda:ba {kono / kottcino} mizu:: nomijarejo:	
47	末吉	sono mizu: wa nomuna. nomodaraba kono mizu: nome.	daraba は[da:ba]にも。
47	中之郷 1	sono mizuwa nomunajo:, nomodaraba kotteino mizuuu nome.	
47	中之郷3	sono midzuwa nomuna. {nomunara / nomodaraba} kono midzuo nome	
47	中之郷 4	sono mizu: wa nominajo:. nomodaraba kono mizu: {nome / nomijare / agarijare}.	{nomijare / agarijare}は丁寧 な言い方。
47	樫立1	sono mizu: wa nomina. nomaba ko?tcino mizu: nome.	
47	樫立3	sono mizuwa nomunajo. nomunara kono mizuo nome	
47	樫立4	sono midzuwa nomuna. nomitakaraba kono midzu: nome	
48	共通語	なぜおまえはたべないのか。	備考
48	大賀郷1	ande narewa {kaminno: / kaminno:do:}	
48	大賀郷 2	ande omaewa kaminno:	
48	大賀郷3	ande omaeщa kaminno:.	
48	大賀郷 4	ande omaewa {tabenno:ka / kaminno: (ka)}	
48	三根 1	ande um ^j a kaminno:do:	
48	三根 3	ande (×adde) ome:wa {kamin [↑] no: / kaminno: [↑] ka}	目上へは agarinno:ka:

48	三根 4	ande ome:wa {agarinno: / agarijaranaino: (丁寧)}	
		ande omaiwa {kaminna:ni / kaminna:da / (目下に)	
48	末吉	kaminna: / (目上に) me:rinna:mi}.	
48	中之郷 1	ande om ^j a:wa kaminnakod ^w a.	
48	中之郷 3	ande om ^j a:wa {kaminai / kaminakoka}	
48	中之郷4	{ande / adde (古)} wna {tabenako (:) (i) / kaminako (:) (i)	「お前」は wnw。「 (自分が)
		(古)}.	食べない」は kaminaka。
48	樫立1	a?de om ⁱ a:wa kaminnoa.	
48	樫立 4	adde {omiwa / omia:wa (目上の人)} {kaminnoaka: /	
	,	aganno:ka / agan noaka:}	
49	共通語	おれはさつまいもなんか食べないぞ。	備考
49	大賀郷1	war ⁱ a kammonse: kaminnaka	
49	大賀郷 2	waja satsumaimonse: {kaminnaidzo:/kaminnakajo:}	
49	大賀郷3	щаја kammonse:ща kaminnaka.	
49	大賀郷 4	waiwa no: kammo (w)a kaminnakajo:	
49	三根 1	wa:iwa kammonse: kaminnakajo:	
49	三根 3	wara kammonse:jowa {tabennaka: / kaminnaka:}	tabennaka: は新しい言い方
49	三根 4	ara kamo:wa {kaminnakka: / kaminnaka}	
49	末吉	ar ^j a satsumantce: (jo)wa kaminne: (zo).	
49	中之郷 1	wara satsumanga:wa, kaminnakajo.	
49	中之郷 3	ara satsumanca: kaminakajo	
40		{ara / wara} {satsumanea:jowa / kammonea:jowa}	
49	中之郷4	{tabenak ^j a / kaminak ^j a}.	
49	樫立1	wara satsumoawa {kaminnaka / kaminaka}	
49	樫立3	warewa satsuma naŋka kaminaka	
49	樫立4	wara: {kammoca:wa/kammowa} {kaminaka/kwinnnaka (ぞんざいな言い方)}	
50	北流新		供
50	共通語	もう食べられるものは全部食べた。	備考
50	大賀郷1	haja kameromonowa zembui kamara	
50	大賀郷 2	haja kamerui monowa minna {kamo:te simattara: / kamarara / kande simarara}	
50	大賀郷 3	haja kameromonowa zembw kamarajo.	
	1.70000	mo: kamo (:)monowa minna kande {simattara / simatta	
50	大賀郷 4	(jo:) / cimo:rara:}	
50	三根 1	ha: kameromonowwa zembw kande cimowrara	
50	三根 3	hara kamero mono:wa minna kamara	
50	三根 4	mo: kamerui monowa ze:nbui kamara:	
		har ^j a {kamero / kameruı (新)} mono:wa menna {kamara /	
50	末吉	kanda (新)}.	
	I		<u> </u>

50	中之郷 1	{kamero / kamo} monowa hara minna kamoa ²za:	
50	中之郷3	hara kamerui monowa zembui {kandazo / kamowa:dza / kamara}	
50	中之郷 4	hara taberarerui monogwa minna tabetara.	taberareru を taberarero に近く も発音。
50	樫立1	hara kamero mono:wa zembui kamara.	
50	樫立4	hara kamero mono:wa minna kamara	
51	共通語	食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。	備考
51	大賀郷 1	kande nerodakeda:ba inumeja nekkometo onnazido:za	
51	大賀郷 2	kande nerudakeda:ba inunekoto onnaçido:dza	
51	大賀郷 3	kande nerodake da:ba inumeja nekkometo onnazido:dza.	
51	大賀郷 4	kandotte {nerudakenara / netecimaeba} inume to nekkome to {icco / onnazi }do:dza:	
51	三根 1	kande nerodakeda:ba inumeja nekkometo onnazidara	
51	三根 3	kande (×kadde)nerodake{da:ba / daraba} inumeja nekkometo onnadzi {dara: / do:dza:}	
51	三根 4	ka:nde nerodakenara inumeja {nekkome / nekome} to onnadzidara:	
51	末吉	{kande / kandottci:} nerodakedaraba inumeja ne (k)kometo {onnazida:za / onnazidara}.	kandottci:「食べてから」。
51	中之郷 1	kande nerodake daraba inumeto nekkometo onna zi doa za:	
51	中之郷3	kande nerudake da:ba inumeja nekkometo onnadzi darajo	
51	中之郷 4	tabete nerodakedaraba inumeja nekkometo {onnazidoaza / onnazidara}.	
51	樫立1	ka?de nerodakedaraba inumeja nekometo onnazidara.	
51	樫立4	kadde nerodakedaraba {inumekoto / inume ja nekkometo} {onnadzidoadza: / onnacidoadza:}	
52	共通語	さとうはあまい。くすりはあまくない。	備考
52	大賀郷1	sato:wa amakeni kusuriwa amakunakk ^j a	
52	大賀郷 2	sato:wa amakega kusuriwa {amaku nakk ^j ano: / nigak ^j ano:}	
52	大賀郷 3	sato:ɰa amakedza. konokaciwa amakwnakkedza. (この菓子は あまくない。)	
52	大賀郷 4	sato:wa {amakega no: / amakedza:}, kusuriwa {amakunakkedza / amakunakkedara: / amakunakk ^j a}	
52	三根 1	satouwa amakega kuisuiriwa amakuinakk ^j a:	
52	三根 3	sato:wa amak ^j a: kusuriwa amaku nakk ^j ano:	

52	三根 4	sato:wa amak ^j ano: , kusuriwa amakunakk ^j ano:	
52	末吉	sato:wa amak ^j a. {kusuriwa / kusur ^j a (古)} amakunakk ^j a.	m:makʲa「おいしい」。
52	中之郷1	sato:wa amakega, kuisuiriwa amakuinakk ^j a no:	
52	中之郷3	sato:wa amak ^j ajo: kuisuiriwa amakuinakk ^j a	
52	中之郷 4	satoowa amak ^j a. kuusuuriwa amakuunakk ^j a.	◇「薬はいらない。」 kwswriowa irinaka. ◇「うまくない」wmmakwnakkia. ◇ 「うまいなあ。」wmmakianoa. ◇「甘い菓子」amake kasi. ◇「この薬は苦い。」konokwswriwa nigakedara. ◇「この菓子はおいしい。」konokaciwa wmmakiannoa. ◇「この菓子は甘い。」konokaciwa famakianoa/amakeza}.
52	樫立1	sato:wa amak ^j a. kusuriwa amaku na?k ^j a.	amake@aj.
52	樫立3	sato:wa amak ^j a. kuisuiriwa amakuiwa nakk ^j a	
52	樫立4	sato:wa amak ^j a kwswriwa amakwnakk ^j a	
53	共通語	去年いとこが中学の先生になった。	備考
53	大賀郷1	kionen itokoga teur:gakumo sense:ni narara	VII 3
53	大賀郷 2	kionen itokoga teu:gakuno sense:ni narara.	
53	大賀郷 3	k ^j onen itokoga tœu:gakko:no sense:ni {naro:dza / nararajo:}	
53	大賀郷 4	kionen (no:) itokoga teu::gakko:no sense:ni (no:) {narara / narara:}	
53	三根 1	kionen itokoga teu:gakkoumo sense:ni naratteija:	「なった」nattowza
53	三根 3	kionen itokoga teu:gakko:no sense:ni narara:	
53	三根 4	kionen itokoga teu:gakumo sense:ni narara:	
53	末吉	kionen itokoga teu:gakumo sense:ni narara.	
53	中之郷1	kionen itokoga teur:gakkono senei:ni narowa zanoa	
53	中之郷3	kionen itokoga teu:gakuno sense:ni {narara: / narowa:dza}	
53	中之郷4	kionen itokoga teu:gakumo sense:ni {narara / naroadza}.	
53	樫立1	kionen itokoga teu:gakumo sense:ni narara	
53	樫立3	kionen itokoga teu:gakumo sense:ni nattara	
53	樫立4	kionen itokoga teu:gakumo sense:ni natta	
54	共通語	いとこは英語の本が読める。	備考
54	大賀郷1	itokowa e:gono {honjo / honga} jomerowa	
34	八貝仰1	nokowa e.gono (nonjo/ nonjga) jomerowa	

	ı	T	1
54	大賀郷 2	itokowa eigono honga jomerowa	
54	大賀郷3	itokowa e:gono hongga jomerowajo:.	
54	大賀郷 4	itokowano: e:gonohonga jomerodza.	
54	三根 1	itokowa eigono honga jomerowa	
54	三根 3	itokowa e:gono honn ^j a jomerowa	
54	三根 4	itokowa e:gono honga jomerodzdza (:)	
54	末吉	itokowa e:gono honga jomerowa.	
54	中之郷 1	itokowa i:gono honga jomerutteii ja	
54	中之郷 3	itokowa eigono honga jomerowa	
54	中之郷4	itokowa i:gono honga {jomerowa/jomerodza}.	
54	樫立1	itokowa je:gono honio jomerowajo.	
54	樫立3	itokowa e:gono honga jomerowa	
54	樫立4	itokowa e:gono honga jomero (w)a	
55	共通語	あの人こそほんとうの金持ちだ。	備考
55	大賀郷 1	{uno çitokoso / uno çito ga:} honto:no kanemoteidara	
5.5		uno çitokoso kanemotcidara // uno hitogaka kanemotci	
55	大賀郷 2	dekarega	
55	→ カ貝 分尺 2	wno çito{ga / gaka (係り助詞あり)} honto:no	
55	大賀郷3	kanemotei {dara / dare (結び)}.	
55	大賀郷 4	uno çitogano: honto:no kanemotei {do:dza: / do:dara:}	
55	— +	uno çitowa hontono kanemotcida:no:// uno çitogaka	
33	三根 1	hontono kanemoteidare	
55	三根 3	uno çitoga jappari kanemotçi dara: // uno çitogaka	
33	111 3	jappari kanemotci dare: (係り結び)	
55	三根 4	uno hitowa honto:no kanemoteida:no:	
5.5	末吉	{uno / (B) ano (?)} {çitokoso honto:no kanemoteidara / /	
55	木 百	çitogaka (jo) honto:no kanemotcidare}.	
55	中之郷 1	unucitokoso honto:no kanemotci dann ^j a:	
55	中之郷3	uno çitokoso honto:no kanemotci danno:dza	
		uno {çitoga honto:no {kanemotcidara /	
55	中之郷 4	kanemoteidoadza} // uno citogaka honto:no	
		kamemoteidare.	
55	烟士 1	ono hįtiwa honto:no kanemoteidara. // onohįtogaka	
ا	樫立1	honto:no kanemoteidare.	
55	樫立3	ano çitokoso honto:no kanemotci dara	
55	樫立4	ono çitogaka honto:no kanemotei dare	
56	共通語	その話は妻にだけ聞かせた。	備考
56	大賀郷1	sono hanagowa jomenidake kikasetara	
57	十起细 3	sono hanaciwa {wagaino jatsui / wage:no / wagaino jome	
56	大賀郷 2	(新)}nidake ki̯kasetara.	
-			-

56	大賀郷 3	sono hanaciųa jomenidakeųa kikaseteokarajo.	
	1 . 1 10 / 107 . 4	kono hanaciwa wagaeno nio:bo:nidake {juo:dza /	
56	大賀郷 4	hanacito:dara: / hanacitara: }	
56	三根 1	sono hanacowa jomendake kikasetara	
		{sogando: / sono} hanaciwajo: {①jomenidake / ②	
56	三根 3	jomenidakeka} {①kikasetara: / ②hanacitare: (係り結	
		び)}	
56	三根 4	sono hanacowa tsumanidake kikasetara:	
56	末吉	sono {hanacowa / (新)hanaciwa} jomenidake kikasetara.	kikasetara の i は無声化せ ず。
56	中之郷 1	sono hanaciwa (sa) jomeni dakeka kikase tarega	
56	中之郷3	sono hanaciwajo: jomenidake kikasetara	
56	中之郷 4	sono {hanaciwanoa / hanacowanoa} jomenidake	
30	中之州4	kikase{toʻadza / tara}.	
56	樫立1	sono hanacowa jomedakeŋka kikasetare	
56	樫立4	sono hanaco (:)wa jomendake kikasetoadza:	
57	共通語	妻に夕飯を作らせる。	備考
57	大賀郷 1	jomeni jo:meco tswkwrasetara	
57	大賀郷 2	{wage:no/wagaino} ni jo:mecio {kose:saserowa (古)/	
37	八貝加乙	tswkwraserw (新)}	
57	大賀郷 3	щagaenoni ju∷mecio tsukuraseroщa.	
57	大賀郷 4	wagaeno nio:boni jo:mesi tsukuraserodara.	
57	三根 1	jomeni joumeco tsukuraserowa	
57	三根 3	jomeni {jowneco/jowke: (古)} {tswkwraserowa (no:)	
31	11X_3	(新) / cimatsusaserowa (no:)}	
57	三根 4	jomeni jo:meci (o) tsukuraserowa	
57	末吉	jomeni jo:meco tsutkuraserowa.	
57	中之郷1	ka:teanni jumecowa tsukurasetaro{ 4za: / wa:}	
57	中之郷3	jomeni jo:keo koca:saserui	
57	中之郷4	jomeni jui:meco {tsukura / cimatsusa}se{rodza / rowa}.	
57	樫立1	(名前)ni jwo:meco tswkwraseroza.	
57	樫立4	jomeni jo:meco twkwrasetoadza:	
58	共通語	夫は竹でかごをつくった。	備考
58	大賀郷 1	wage:no çitowa takede kago: tsukurara	
58	大賀郷 2	wage:nowa takede kago: kose:rara (古)	
58	大賀郷 3	wagaeno çitowa takede kago: {tswkwrara. / tswkwro (:)dza}.	
		wagaeno dannawa (no:) takedeno: kagoó {tsukurara /	
58	大賀郷 4	tswkwttarodara (作っている) / tswkwttara (作った) /	
		tswkwttarowa (作っている)}	
	•	·	

	1		
58	三根 1	dannawa takede kogow tsukurara	
58	三根 3	wage:no dannawa takede kago: {tswkwrara/	
50		tswkwro:dza}	
58	三根 4	{wage:no hito / otto}wa takede kagoo {tsukura: /	
36		tsukurara}jo	
58	末吉	waga (j)eno {çitowa / dannawa} takede kago: tsuukurara.	
58	中之郷 1	wagiːno çitowa takede kagowo tsuukuırowa dza	
58	中之郷3	oto:tcan wa takede kago: {koca:tajo / koca:tara}	
58	中之郷 4	wagaeno çitowa takede kagoʊ̯ {tsu̞ıkuɪɾara /	
50	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	tsukuroadza}.	
58	樫立1	wagi:no citowa takede kago: tsukuroza.	
58	樫立3	utcino çitowa takede kago:{ tsukurara / tsukuttara}	
58	樫立4	wagi:noçitowa takede kagọ: koca:ta (ra)	
59	共通語	次郎はおとうとの三郎とけんかした。	備考
59	大賀郷 1	dzo:wa oto:tono sabo:to keŋko:citara	
59	大賀郷 2	dziro:wa oto:tono saburo:to keŋka citara.	
59	大賀郷 3	dziro:ιψa oto:tono saburo:to keŋko (:) {sitara / sito:dza}.	
59	大賀郷 4	dziro:wa no: oto:tono saburo:to keŋko: {cito:dara:/	
39	八貝州 4	cito:dza: / citatte:dza:}	
59	三根 1	dzirouwa k ^j o:de:no saburouto keŋkou cita	
59	三根 3	dziro:wa oto:tono saburo:to {keŋko: (ケンカを) / keŋka}	
37		citara:	
59	三根 4	dziro:wa oto:tono saburo:to keŋkacita	
59	末吉	{dziro:wa / dzo:wa} oto:tono {saburo:to / sabo:to} keŋka:	dzo:「次男」, sabo:「三男」。
37	八口	citara.	u ≥0.+1√27], sabo.+==27] ₀
59	中之郷 1	ziru:to oto:to saburoo to keŋkoa citoa ka	
59	中之郷3	dziro:wa oto:tono saburo:to {keŋkacita / keŋkacitara jo:}	
59	中之郷 4	dziroywa saburroyto keŋkoa {citoadza / citara / citarara /	「弟の」があると不自然とのこ
37	1 2 247 7	citarajo / citararajo: }.	とで訳にナシ。
59	樫立1	ziro:wa k ^j o:za:no saburo:to keŋkoa citara	
59	樫立4	dziro:wa k ⁱ o:dza:no saburo:to keŋkoa cita (ra)	
60	共通語	三郎は次郎に棒でなぐられた。	備考
60	大賀郷1	sabo:wa dzo:ni bo:de bunnaguraretara	
60	大賀郷 2	saburo:wa dziro:ni bo:de {bunnaguraretara /	
00	八只別4	bunnagurarerara}	
60	大賀郷3	saburo: ua dziro: ni bo: de bunnagurare {tara / to: dza}.	
60	大賀郷 4	saburo:wa dziro:ni bo:de bunnaguraretara.	
60	三根 1	saburouwa dzirouni boude bunnagurareta	「なぐられた」butaretara
60	三根 3	saburo:wa dziro:ni bo:de bunnaguraretara:	
60	三根 4	saburo:wa dziro:ni bo:de bunnagurareta: jo	
		•	

ara を使う
ara を使う
ara を使う
 ara を使う
ara を使う
ara を使う
aia e R
与
ara を使う
 考
<u> </u>

62	樫立1	wara kini:wa cimbuun ^j o {jominnaka?tara / jominzarara}	
		warewa kino: cimbwn {jomindzarara / jominnakarara /	
62	樫立3	jomanak ^j a}	
62	樫立4	wara: kini:wa gimbuno {jominnakarara / jominakatta}	
63	共通語	その新聞はきょうのだ。きのうのはこれだ。	備考
63	大賀郷1	sono cimbunwa ke:nodara. kine:nogawa koredara.	
63	大賀郷 2	sono cimbunwa kio:nodara kino:nowa koredara	
63	大賀郷3	sono cimbunua k ^j o:no darajo:. kine:noua koredara.	
	1.70.407.4	sono cimbunnwa k ^j o:no {dara / dai}, kino: nowa kore	
63	大賀郷 4	dara:	
63	三根 1	sono çimbunwa keinodara. kineinowa koido:za	
63	三根 3	{sono / kono} cimbunwa ke:nodara. kine:nowa koidara.	
63	三根 4	sono cinbunwa keinogada:jo. kineinogawa kore da:jo:	
(2)	++	sono cimbunwa ki:nogadara. kini:nogawa {koredara (ra)	
63	末吉	/ koreda:dza}.	
62	中之郷 1	sono cimbunwajo ki:no dekare, kiniinowa	
63	中之郷	koredekaregajo	
63	中之郷3	sono cimbunwa ki:nuda kini:nowa koredoa: dza	
63	中之郷4	sono cimbunwa ki:nogadara. kini:nogawa {koredarara /	
03	中之州4	koredoadza / koredekare }.	
63	樫立1	sono cimbunwa ki:nodara. kini:nowa koredara.	
63	樫立3	kono gimbunwa k ^j o:nodara:. kino:nowa kore dara	
63	樫立4	sono cimbunwa ki:nodara kini:nowa koidara	
64	共通語	雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり見ている。	備考
64	大賀郷1	ameno φιμιοçin ^j a baːtɛanwa iede terebibakkari mitaarowa	
64	大賀郷 2	{amega фшгш tokiwa / ameno çin ^j a} ba:sanwa jede terebi	
04	八貝加乙	bakkari mitarowa	
64	大賀郷 3	ameno Фшгоçiniща ba:sanщa jede terebi bakkari	
04	八只洲刀	{mitaroща / mitearoща}.	
64	大賀郷 4	ameno çiwa ba:teanwa tuteide terebibakkari {mitearowa /	
J-T	/\ <i>\\</i> /\\	mita:rowa}	
64	三根 1	ameno φιιιτοhin ⁱ a bammawa ede terebibakkar ⁱ o mitaarowa	
64	三根 3	amega фшго çiwa ba:teanwa jede terebibakkari	
0.	_ IX 3	mita:rowa:	
64	三根 4	ameno фшгш çiniwa ba:teanwa jede terebibakkari	
	·	{mita:rowajo / mita:rowa:}	
64	末吉	amega фшго çin ^j a ba:sanwa jede {tereb ^j obakkari /	(A), (B)は個人の差。
64	小 口	terebibakkari (新)} { (A)mita:rowa / (B)mitarowa}.	(-7) (-7) (-7) (-7)
64	中之郷1	ameno фшгоçin ^j a terebi bakkaçı mitjarowa	

ameno фшruuçi wa ba:tcanwa ede terebibakkari {mitarowajo / mitearowa} 64 中之郷 4	
amega фшго {çiniwa / çin ⁱ a} ba:teanwa jede tereb ⁱ obakkari {mitarowa / mitarodza / mite odzarowa}. ameno hшro hin ⁱ a ba:teanwa iede terebiba?kari mite	
64 中之鄉 4 terebiobakkari {mitarowa / mitarodza / mite odzarowa }. 64 樫立 1 ameno huro hinia ba:teanwa iede terebiba?kari mite	
ameno huro hin ^j a ba:tɛanwa iede terebiba?kari mite	
64 樫立 1	
ozarowa (敬語) ameno фшrucinia ba:sanwa jede terebiobakkari {mitaroa / go:dza~は目上の。	トルサナス
64 樫立 4	八に刈りる
go:dzarowa / go:dzatte odzarowa } 言葉	
65 大賀郷 1 jurwe:no tokiniwa ba:teammade odorara	
65 大賀郷 2 iwain ⁱ a baːsammade odorara	
65 大賀郷 3 juruqe:no tokin ⁱ a ba:sammadega {odorara/odoro:dza}.	
大賀郷 4 juwaino {tokiwano / toki:} ba:teammade {odorara / odotta (:)rowa}	
65 三根 1 juwe:no tokin ^j a bammamade {odottara / odorara}	
65 三根 3 juwe:no tok ^j a ba:teammade (ga) odorara:	
65 三根 4 {iwe:/juwe:} no tokiniwa ba:tcammade {odora:jo/	
O3 二根 4 odorara }	
65 末吉 {iwe: / juwe:}no {tokiniwa / tokin ^j a} ba:sammade	
05 木百 odorara.	
65 中之郷 1 juwja:no tokin ^j a ba:team madega odorarwa戈a.	
65 中之郷 3 iwaino tokiwa ba:teammade odorarajo	
{iwja:/juwja:}no tokin ^j a (noa) {oba:teammade/	
65 中之郷 4 oba:teammo} {odorara / odoroadza / odotte ketara / /	
odotte {ketarejo / tamo:rara / tamo:roadza}}.	
65 樫立 1 juja:no tokiwa ba:tcammade odorara.	
65 樫立 4 juja:no tokin ^j a: oba:teammade {odorara / odotta}	
66 共通語 花子はきのうから病気でねている。 備考	
66 大賀郷 1 hanakowa kine:kara jande netaarowa	
66 大賀郷 2 hanakowa kino:kara b ^j o:kide netarowa	
66 大賀郷 3 hanakowa kine:kara {jande / bio:kide} netarowa.	
66 大賀郷 4 hanakowa kino:kara (no:) bio:kide neta:rowa.	
66 三根 1 hanakowa kineikara jande netearowa	
66 三根 3 hanakowa kine:kara jande (×jadde) neta:rowa	
66 三根 4 hanakowa kineikara tsurakute neta:rowajo	
oo _ R T nanakowa kincikara isanakate neta.iowajo	
hanakowa kini:kara {iande / iadde (古)} { (A)neta:rowa /	の差
	.の差。
hanakowa kini:kara {jande / jadde (古)} { (A)neta:rowa / (A), (B) は個人	の差。
hanakowa kini:kara {jande / jadde (古)} { (A)neta:rowa / (B)netarowa}.	の差。

接立 4 hanakowa kini:kara jande netaarowa	66	樫立1	hanakowa kini:kara ja?de netearowa	
株理語 花子はかあさんに二はんをたべさせてもらった。 備考 大質郷1 hanakowa ka-teanni meco kamasete muro:rara	-	,		
大質郷1				
大賀郷2				C., thi
大賀郷3				
大俣郷4	-			
大貨郷4	07	八貝加り		
1 日根3	67	大賀郷 4		
	67	三根 1	hanakowa ka:teanni meeo kamasete muiro:rara	
	67	三根 3	hanakowa ka:teanni meso kamasete moro:rara:	
***	67	三根4	hanakowa ka:tcanni {mecio / meco} kamasete	
(mora:ra / mura:ra).	07	111.4	{morawa:jo / morawara}	
(mora-ra / muura-ra). hanakowa ka:tsanni meco kamasete {muuratt/aro (三人称) / muurowarara / muurowarowa ½a } hanakowa ka:tsanni meco kamasete morattarowa morattarara (新?) / morattarowa (新?) hanakowa ka:tsanni meco hoomete {moroara / moroadza / morattarara (新?) / morattarowa (新?) hanakowa ka:tsanni meco kamasete {muuroara / muuroarara } hanakowa ka:tsanni meco kamasete {muuroara / muuroarara } hanakowa oka:tsanni meco {kamasete / ho:mete } moratta ho:mete ~ は手で食べさせてもらうような感じ 大賀郷1 icaga keto: kusuurio nomeba naoruuno:wa icaga keto: kusuurio nomeba naoruu no:wa icaga keto: kusuurio nomeba {naoruudaro: / naorodza } icaga keto: kusuurio nomeba {naoruudo:dza: / naoruuno:wa } icaga keto: kusuurio nomeba naoruuno:wa icaga keto: kusuurio nomeba naoruuno:wa icaga keto: kusuurio nomeba naoruuno:wa icaga keto: kusuurio nomeba naoruudaro: icaga keto: kusuurio nomeba naorudaro: icaga keto: kusuurio nomeba naorudaro: icaga keta: kusuurio nomeba naorudaro: icaga keta: kusuurio nomeba naorudaro: icaga keta: kusuurio nomeba naorudaro: icaga keta kusuurio nomeba naorudaro: icaga keta kusuurio nomeba naorudaro: / naoranga / naorudoadaza / naori:tasowa icakara muuroa kusuurio nomeba / naorudaro: / naoranga / naorodoadza / naori:tasowa icakara muuroa kusuurio (nomeba / nomaba) naoruunu:wa icakara muuroa kusuurio (nomeba / nomaba) icakara muuroa kusuurio (nomeba / nomaba) icakara muuroa kusuurio (nomeba	67		hanakowa {kaka:ni / ka:teanni (新)} meco kamasete	
中之郷1	07	/K LI	{mora:ra / mwra:ra}.	
	67	中之郷1	hanakowa ka:tcanni meco kamasete {murattiaro (三人称)	
中之郷4 hanakowa ka:teanni meco hogmete {morgara / morgadza / morattarara (新?) / morattarowa (新?)} 規立 1 hanakowa ka:teanni meco kamasete {muuroara / muuroarara} ho:mete~は手で食べさせてもらうような感じ 接立 4 hanakowa oka:teanni meco {kamasete / ho:mete} moratta ho:mete~は手で食べさせてもらうような感じ 接妻 接妻 接妻 接妻 接妻 接妻 接妻 接		1 1	/ murowarara / murowarowa ^d za }	
一方 中之郷4 morattarara (新?) / morattarowa (新?) 去、継続非過去か。 本の本には、	67	中之郷 3	hanakowa ka:teanni meeo kamasete morattarowa	
Morattarara (新?)/morattarowa (新?) 去、継続非過去か。 大曜立 1	67	中之郷 4	hanakowa ka:tcanni meco hoomete {moroara / moroadza /	順に、完成非過去、継続過
muroarara muroarara ho:mete moratta fe fe fe fe fe fe fe f		1 70/40 1	morattarara (新?) / morattarowa (新?)}.	去、継続非過去か。
muuroarara muuroarara ho:mete moratta ho:mete ~ は手で食べさせてもらうような感じ 作名 大賀郷1 icaga keto: kuusuurio nomeba naoruuno:wa icaga keto: kuusuurio nomeba naoruuno:wa icaga keto: kuusuurio nomeba naoruuno:wa icaga keto: kuusuurio nomeba naoruudaro: / naorodza icaga keto: kuusuurio nomeba (naoruudaro: / naorodza icaga keto: kuusuurio nomeba (naoruudo:dza: / naoruuno:wa icaga keto: kuusuurio nomeba naoruuno:wa icaga keto: kuusuurio nomeba naoruudo:dza: / naoruuno:wa icaga keto: kuusuurio nomeba naoruudaro: icaga keta kuusuurio nomeba naorudaro: icaga keta kuusuurio nomeba naorudooa	67	趣	hanakowa ka:tcanni meco kamasete {muroara /	
Page 1		作五八 1	muroarara}	
大賀郷1 icaga keto: kuusuurio nomeba naoruuno:wa	67	樫立 4	hanakowa oka:tcanni meco {kamasete / ho:mete} mocatta	ho:mete~は手で食べさせて
Season		15.22		もらうような感じ
大賀郷 2 icaga keto: kussurio nomeba naoruu no:wa	68	共通語	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。	備考
大賀郷 3 isaga keta kuusuri: nomeba {naoruudaro:/naorodza}. 大賀郷 4 isaga keto: kuusuri o nomeba {naoruudo:dza:/naoruuno:wa} 68 三根 1 isaga keto: kuusurio nomeba naoruuno:wa 68 三根 3 isaga keto: kuusurio nomeba naorodara: 68 三根 4 isaga keto: kuusurio nomeba naoruudaro: 68 末吉 isaga keta: kuusurio nomeba naoruudaro:. 68 中之郷 1 bio:inde muurowaruu kuusurio nomeba naorodoa za. 68 中之郷 3 isaga keta kuusurio nomeba naoruunno:wa 68 中之郷 4 oisasanga {keta / ketoa} kuusurio nomeba {naoruudaro:/naoroanoa / naorodoadza / naori:tasowa}. 68 樫立 1 isakara muuroa kuusurio {nomeba / nomaba} naoruunu:wa naoruunu:wa	68	大賀郷1	icaga keto: kwswrio nomeba naorwno:wa	
大賀郷 4 icaga keto: kwswri o nomeba {naorwdo:dza: / naorwno:wa} 68	68	大賀郷 2	icaga keto: kwswrio nomeba naorw no:wa	
大貨郷4 naoruno:wa naoruno:wa naoruno:wa isaga keto: kuusuurio nomeba naoruno:wa isaga keto: kuusuurio nomeba naorudaro: isaga keto: kuusuurio nomeba naorudaro: isaga keta: kuusuurio nomeba naorudaro: isaga keta: kuusuurio nomeba naorudaro:	68	大賀郷 3	icaga keta kusuri: nomeba {naorudaro:/naorodza}.	
naoruno:wa	68	大智郷 4	icaga keto: kwswri o nomeba {naorwdo:dza:/	
Eday icaga keto: kwswrio nomeba naorodara: icaga keto: kwswrio nomeba naorudaro: icaga keto: kwswrio nomeba naorudaro: icaga keta: kwswrio nomeba naorudaro: icaga keta: kwswrio nomeba naorudaro:	00	八貝四甲	naoruno:wa}	
E根4 icaga keto: kឃsuurio nomeba naoruudaro:	68	三根 1	isaga keto: kwswr ^j o nomeba naorwno:wa	
Figure	68	三根 3	icaga keto: kusuur ^j o nomeba naorodara:	
68 中之鄉 1 bio:inde murowarui kuisuurio nomeba naorodoa a. 68 中之鄉 3 icaga keta kuisuurio nomeba naoruunno:wa 68 中之鄉 4 oicasanga {keta / ketoa} kuisuurio nomeba {naoruudaro: / naoroganoa / naorodoadza / naori:tasowa}. 68 樫立 1 icakara muiroa kuusuurio {nomeba / nomaba} naoruunu:wa	68	三根 4	icaga keto: kusurio nomeba naorudaro:	
中之郷 3 icaga keta kusuurio nomeba naoruunno:wa oicasanga {keta / ketoa} kusuurio nomeba {naoruudaro: / naoroanoa / naorodoadza / naori:tasowa}. eakara muuroa kuusuurio {nomeba / nomaba} naoruunu:wa oicasanga {keta / ketoa} kuusuurio nomeba {naoruudaro: / naoroanoa / naorodoadza / naori:tasowa}. oicakara muuroa kuusuurio {nomeba / nomaba} oicasanga {keta / ketoa} kuusuurio nomeba {naoruundaro: / naoroundaro: / naorounda	68	末吉	icaga keta: kwswrio nomeba naorwdaro:.	
68 中之鄉 4 oicasanga {keta / ketoa} kwusuurio nomeba {naoruudaro: / naoroanoa / naorodoadza / naori:tasowa}. 68 樫立 1 icakara mwuroa kwusuurio {nomeba / nomaba} naoruunu:wa	68	中之郷 1	bio:inde murowaru kusurio nomeba naorodoa &a.	
P之郷4 naoroanoa / naorodoadza / naori:tasowa }. 68 樫立 1 icakara muroa kwsurio {nomeba / nomaba} naorumu:wa	68	中之郷3	icaga keta kusurio nomeba naorunno:wa	
naoroganoga / naorodogadza / naoriːtasowa }. 68 樫立 1 icakara muroa kuusurio {nomeba / nomaba} naorumu:wa	60	由→細 4	oicasanga {keta / ketoa} kusuurio nomeba {naoruidaro: /	
68 樫立 1 naorunu:wa	08	十८%) 4	naoroanoa / naorodoadza / naori:tasowa }.	
naorunu:wa	60		icakara muroa kwsurio {nomeba / nomaba}	
68 樫立 4 icaga {keta / ketoa} kwswrio nomeba naorwnw:dza	08	慳立	naorunu:wa	
		Inter I.		

69	共通語	かあさんは市場へ買物に行った。	備考
69	大賀郷 1	ho:donowa misege kaimon ikara	
69	大賀郷 2	ka:teanwa {iteibani / iteibae} {kaimononi / kaimonoge:}	
	1.70.407.2	ikarara	
69	大賀郷3	ka:teanua mise{ge/e} kaimonni {ikara/ikarara}.	
69	大賀郷 4	ka:tcan wa misege: kaimononi {itto:dza: / ittara: / ikara: / ittadza:}	
69	三根 1	ka:tcanwa misege: kaimononi ikara	
69	三根 3	ka:tcanwa {misege: / miseje (新しい表現)} kaimononi ikara:	
69	三根 4	ka:teanwa iteibage: {kaimononi / otsukaini} ikara:	
69	末吉	ka:tcanwa mis ^j e: kaimononi ikara.	
69	中之郷 1	ka:tcanwa misee (狭) kaimononi ikara	
69	中之郷3	ka:tcanwa itcibae kaimononi {detanno:wajo / detara}	
69	中之郷4	ka:teanwa iteib ^j a: kaimononi {ikoadza / ikarara}.	ikodoadza「(これから)行くよ」
69	樫立1	ka:teanwa {mici: / mise:} kaimononi ikara.	
69	樫立3	okkateanwa miseni kaimononi {ikara / ittara}	
69	樫立4	oka:teanwa iteib ^j a (:) kaimononi ikara:	
70	共通語	道で学校の先生に会った。	備考
70	大賀郷 1	mitcide gakko:no sense:ni awara	
70	大賀郷 2	mitcide gakko:no sense:ni awarara	
70	大賀郷 3	mitteide gakko:no sense:ni aujarajo.	
70	大賀郷 4	miteide (no:) gakko:no sense:ni {attara: / awara: / ao:dza}	
70	三根 1	mitcide gakkowno sense:ni ikio:rara	
70	三根 3	to:ride gakko:no sense:ni {awarara (何日か前に) / awara (ついさっき)}	
70	三根 4	mitcide gakko:no sense:ni awara:	
70	末吉	mitcide gakko:no sense:ni awara.	
70	中之郷 1	mitcide gakkoono senciini aowa dza	
70	中之郷3	mitcide gakko:no sense:ni {ikʲia:ra / ikiarara / ikʲa:rara}	
70	中之郷4	miteide gakkoono {sense:ni / sensi:ni (古)} {awoadza / awara / awarara / ai:taei̞tara}.	(古)sensi:を[sengi:]とも。 awararaの方がawaraより前を 指す?
70	樫立1	mitcide ga?ko:no {sense: / senci:} ni awara	
70	樫立3	mitcide gakko:no sense:ni {awara / attara}	
70	樫立4	mitcide gakko:no sense:ni {butsukwatte / butsukwattara}	
71	共通語	なにを買おうか。	備考
71	大賀郷1	an ⁱ o kawdaro:ka	VIII 177
/ 1	八貝畑1	aifu kamuaiu.ka	

71	大賀郷 2	ani: kauudaro:	
71	大賀郷 3	anio kao:kano:. / anioka kao:ka (no:).	
71	大賀郷 4	anio kao:kano:.// ani kao:kano:.	
71	三根 1	an ⁱ o kaowkano:	
71	三根 3	an ⁱ o kao:kano:	
71	三根 4	an ⁱ o kao:kano: / an ⁱ o kao:	
71	末吉	an ^j o kao:kana.	
71	中之郷 1	ki:wa an ⁱ o kawokka noaa	
71	中之郷3	an ^j o: kao:kano:	
71	中之郷4	an ^j o kao:kanoa.	
71	樫立1	an ^j o kao:ka.	
71	樫立3	an ^j o: kao (:)ka	
71	樫立4	an ^j o kao:kano:	
72	共通語	和子のとおなじげたを花子にもかってやろう。	備考
72	大賀郷1	kazutkonoto onnazi geto: hanakonimo kattekerogon	
72	大賀郷 2	kadzukonoto onnadzi geta: hanakonimo kattekerukano:	
72	大賀郷 3	kazuko{ga / no}to onnazi geto: hanakonimo {kattejaro: / kattekero:kano: / kattejarodo:dza}.	備考:kazukogato と kazukonoto でニュアンスに差 があるようである。ga を用いる と「差をつけていない」というこ とが強調されるようである。
72	大賀郷 4	kazukonoto onnadzi getao hanakonimo kattejarogon.	
72	三根 1	kazukonogato onnazi geto: hanakommo kattekero:	
72	三根 3	kazukogato onnadzi geto: hanakommo katte kerodza:	
72	三根 4	kazutkonoto onnadzi { getao / geta: } hanakonimo kaogonno:	geta: は末吉的な感じ
72	末吉	kazukogato onnazi geta: hanakonimo kattekero:.	
72	中之郷1	ka zukoto onna zi getoa hanakonimo kattejarodara	
72	中之郷3	kadzukoto onnadzi getao hanakonimo katte kerogan	
72	中之郷4	kazukogato onnazi getoa hanakonimo kattekerogan.	
72	樫立1	kazukogato onnazi getoa hanakonimo ka?te jarowa	
72	樫立4	kazukoto onnadzi getoa hanakommo katte kerodza	
73	共通語	和子と花子は友だちだ。	備考
73	大賀郷1	kazuukoto hanakowa ho:be:dara	
73	大賀郷 2	kadzukoto hanakowa tomodatci da:no	
73	大賀郷3	kazukoto hanakowa tomodatci dara.	
73	大賀郷 4	kazukoto hanakowa {tomodatcidara: / tomodatcidatte:wa}	
ļ		to in a during during	

73	三根 3	kazukoto hanakowa ho:be: {dara (jo:) / do:dza:}	
73	三根 4	kazukoto hanakowa ho:be:dara:	
73	末吉	kazukoto hanakowa ho:be:dara.	
73	中之郷1	kazukoto hanakowa ho:b ⁱ a: {doa ⁴ za / datti: ⁴ za}	
73	中之郷 3	kadzukoto hanakowa ho:b ^j a: {doadza / do:dza}	
73	中之郷4	kazukoto hanakowa ho:b ^j a:dara.	ho:bia:を数回[ho:bioa]とも言っているが言い間違いと判断。あるいは[a:]が[oa]となることの類推か。
73	樫立1	kazukoto hanakowa ho:bia darajo	
73	樫立3	kazukoto hanakowa ho:bai dara	
73	樫立4	kadzukoto hanakowa ho:b ⁱ a:doadza	
74	共通語	花子は顔がかあさんによく似ている。	備考
74	大賀郷 1	hanakowa kaoga ho:dononi joku nitaarowa	
74	大賀郷 2	hanakowa kaoga ka:teanni joku {nitarowano: (似ているね) / nitarowa}	
74	大賀郷 3	hanakowa kaodateiga ka:sanni joku {nito:dza / niteirodza / nitearowa}.	
74	大賀郷 4	hanakowa (no:) kaoga ka:teanni sokkuridara:.	
74	三根 1	hanakowa kaoga ka:teanni joku nitaarowa	
74	三根 3	hanakowa kaoga ka:teanni joku nita:rowano:	
74	三根 4	hanakowa kaoga ka:teanni joku nita:rowano:	
74	末吉	hanakowa kaoga ka:teanni joku {nita:rowa (A) / / nitarowa (B)}. sokkuridara.	(A), (B) は個人の差。
74	中之郷 1	hanatean, om ^j aawa kaoga ka:teanni {nita.aro ½a / sokkuridoa ½a}	
74	中之郷 3	hanakowa kaoga ka:teanni joku {nitaroano: / nita:rodza}	
74	中之郷 4	hanakowa {tsuraga / kaoga} ka:teanni joku {nitarodza / nitarowa / sokkuridoadza}.	
74	樫立1	hanakowa kaoga ka:teanni joku nitearowano	
74	樫立4	hanakowa kaoga ka:teanni {jokumitara: / nitaroadza (意 外性や驚きが強い) / nitaroano}	
75	共通語	◆たぶんあの人は「飲まないだろうな〜飲まないと思うよ。」といった意味で、「ノミンジャンノウワ (中之郷:ノミンジャンノーワ)」といいますか。	備考
75	大賀郷 1	いまでも使う。	「来ないだろう」キンジャンノウ ワ
75	大賀郷 2	今でも使う。nominnakanno:wa を使う。	
75	大賀郷 3	いまでも使う? nominnakanno:wa.	
75	大賀郷 4	今でも使う。nominnaka: / ikindzanno:wa / ikinnanno:wa	

ı no:wa
nno:wa とも言う。
tila da
備考
ごろう」シンナカンノウ
rara
rara とも言う。
は nominnakarara
carara _o
備考
ごろう」ミンナカン <i>ノ</i> ウ
ジャンノーワ (言うか
いが使わない)

77	大賀郷 4	キンジャララ、ミンジャララ	
77	三根 1	キンジャララ、ミンジャララですか。Yes (キンナララも)	
77	三根 3	キンジャララ、ミンジャララですか。	
		キンジャララ・ミンジャララ。上の世代 (祖母:当時 100	
77	三根 4	才、現在なら130才)が使用。	
77	末吉1	キンジャララ、ミンジャララですか。	
77	中之郷 2	キンジャララ、ミンジャララですか。OK, OK	
77	中之郷 3	kinnakatta / kinnakarare / minnakarara	
77	樫立1	キンジャララ、ミンジャララ	
77	樫立3	キンジャララ、ミンジャララ	
		◆むかしよくあの人と「飲んだっけなあ。」といった意味	
78	共通語	で、「ノンジガー (あるいはノマッチガー、ノマラッチガ	備考
		一)」といいますか。	
78	大賀郷 1	知らない。	
78	大賀郷 2	知らない。nomaro:gano:	
78	大賀郷 3	知らない。nomararajo:.を使う。	
78	大賀郷 4	知らない。nomaro:gano:	
78	三根 1	知らない。	
78	三根 3	いまでも使う。	(nondero:gano:) nomaratte:ga:
78	三根 4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
78	末吉1	知らない。	
78	末吉2	(A)いまでも使う。/ (B)以前は使っていた。	(A), (B) は個人の差。
78	中之郷 1	知らない。	
78	中之郷 2	聞いたことはある。	
78	中之郷3	ノマッチガー:聞いた事はある。以前使っていた。	
78	中之郷 4	知らない。	nomakarakkega: _°
78	樫立1	以前は使っていた。	
78	樫立3	いまでも使う。	
78	樫立4	知らない。	
		◆むかしあの人と「飲んだとき」といった意味で、「ノンジ	
79	共通語	トキ (あるいは、ノマッチ トキ、ノマラッチ トキ)」といいま	備考
		すか。	
79	大賀郷 1	知らない。	
79	大賀郷 2	知らない。nomo:toki	
79	大賀郷 3	知らない。nomo:toki を使う。	
79	大賀郷 4	知らない。nomo:toki	
79	三根 1	知らない。	
	+		,
79	三根 3	知らない。	(nomo:toki)

79 =			ı
	末吉1	知らない。	
79 3	末吉 2	知らない。	nomara toki と言う。 (nomaro または nomo: が予測される が、終止形の連体用法?
79	中之郷 1	知らない。	
79	中之郷 2	NR	
79	中之郷3	知らない	
79	中之郷4	知らない。	
79 柞	樫立1	知らない。	
79 柞	樫立3	?	
79 柞	樫立4	知らない。	
		◆あの人はむかし足が「はやかったなあ。」といった意味	
80 =	共通語	で、「ハヤカッチガー (あるいは、ハヤカラッチガー)」とい	備考
		いますか。	
80	大賀郷 1	知らない。	
80	大賀郷 2	知らない。 hajakara:no / hajakaro:dzano:	
80	大賀郷 3	知らない。 hajakarara を使う。	
80	大賀郷 4	知らない。hajakatto:ga / hajakaro:gano:	
80	三根 1	知らない。	
80	三根 3	知らない。	(najakara:no:)
80	三根 4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
80 =	末吉1	知らない。	
80 =	末吉2	(A)いまでも使う。 / (B)以前は使っていた。	(A), (B) は個人の差。
80	中之郷1	知らない。	
80	中之郷 2	聞いたことはある。	
80	中之郷3	聞いた事はある。 (※昔のことば)	
80	中之郷4	聞いたことはある。	
80 柞	樫立1	聞いたことはある。	
80 柞	樫立3	いまでも使う。	
80 柞	樫立4	知らない。 樫立では hajakaro:ga / hajakarara (早かった)	
81	共通語	◆「あっちとき」というのはどんな意味ですか。	備考
81	大賀郷1	知らない。	
81	大賀郷 2	知らない。 wnokorowa / wnotoki	
81	大賀郷 3	知らない。	
81	大賀郷 4	知らない。 umtoki (あの時の意味)	
81	三根 1	知らない。	
81	三根 3	知らない。	
81	三根 4	知らない。三根以外の地域ではないか。	

81	末吉1	知らない。	
81	末吉2	(A)知らない。/ (B)昔,以前	
81	中之郷1	聞いたことはあるがわからない。	
81	中之郷 2	知っている。「あの時」	
81	中之郷3	昔、以前のこと。	意味は分かるが、90 代とかで ないと使わない
81	中之郷4	過ぎた時、昔。	
81	樫立1	以前。	
81	樫立3	あの時。	
81	樫立4	知らない。	
82	共通語	◆あの人、さっきまでここで「飲んでいたけど」どこに行ったかな、といった意味で、「ノンドロガ (あるいは、ノマットロガ、ノマラットロガ)」といいますか。	備考
82	大賀郷 1	知らない。	
82	大賀郷 2	知らない。sakkimade nonde aro:ga dokoge: ittecimatto:.	
82	大賀郷 3	知らない。nondearo:ga を使う。	
82	大賀郷 4	知らない。nomaro:gano:/nondaro:gano:	
82	三根 1	以前は使っていた。	母の時代
82	三根 3	知らない。	cf. nonda:ro:ga madziketa:no: どっか行っちゃった
82	三根 4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
82	末吉1	知らない。	
82	末吉2	知らない。	nondara:ga と言う。
82	中之郷1	知らない。	
82	中之郷 2	知らない。	
82	中之郷 3	ノマットロ:今でも使う。 nomattoroga doki ikoa: (飲んでたけどどこに行ったのか)	
82	中之郷4	知らない。	
82	樫立1	知らない。	
82	樫立3	いまでも使う。	
82	樫立4	知らない。樫立では nonda arowaga	

八丈方言文法項目データ (かな表記)

(.は母音が無声化していることを表す)

		(. は母音が無声化していることを表す)		
1	共通語	おれはきょうはいそがしい	備考	
1	大賀郷1	ワリャ ケーワ イソガシキャ		
1	大賀郷 2	{ワヤ / ワレワ} キョーワ {イソガシ.キャ / イソガシキャヨ		
1	八貝加2	- }		
1	三根1	アラ ケーワ イソガシキャ		
1	三根2	ワイワ ケイワ {イソガシクテー / イソガシキャー}		
1	末吉	アリャー キーワ イソガシケダラー		
1	中之郷1	アラ キーワ イソガシキャ		
1	中之郷2	アラ ケーワ イソガシキャ	後に「今日」をキーといらと訂正	
1	樫立1	ワラ キーワ イソガシ・キャ	※共通語形が出るのが多く、方	
			言形を引き出すのに苦労した	
1	樫立2	ワラ キョーワ イソガシキャヨー		
1	樫立3	ワレワ キョーワ イソガシキャ		
2	共通語	おまえが畑〜行け。	備考	
2	大賀郷1	ナレワ ヤマゲー イケ (ナレは同等以下)		
2	大賀郷2	オマエガ ハタケー {イケ / イケバヨケヂャ}		
2	三根1	ンーガ {ヤマゲー / ヤメー} イケ	ンーガ同等の人	
2	三根2	オメワ ヤマエ {オヂャレー / イケ}	オヂャレーは丁寧な形	
2	末吉	ウンガ ヤメー {イケ / イケバヨケ ヂャ}		
2	中之郷1	オミャ ワ ヤミャー イケ		
2	中之郷2	{ウンガ / ンガ} ヤミャー イケ		
2	樫立1	オミャワ ヤミャ イケバ ヨッケジャ (「行けばいい (命令)」		
2	生元 1	はイケ)		
2	樫立2	オミワ ヤマエ イケ (対目下)/ オミャワ ヤマエ オヂャレ		
	1 1. 4. 4	ョー (対目上)		
2	樫立3	オミガ ヤマエ イケ		
3	共通語	うん、畑へはおれがいく。	備考	
3	大賀郷1	オー ショゲーワ ワガ イクワ		
3	大賀郷 2	ワカララ ソイヂャ ワガ {ハタケ ニ / ハタケー} イコワ /		
	/ \	/ オー ワガ {ハタケ ニ / ハタケー} イコワ		
3	三根 1	ホイジャ アガ ヤメー イコワー		
3	三根 2	{ウン / ンー} {ヤマイェ / ヤマゲー}ワ {ワガ / アガ} イ		
		コワー		
3	末吉	(ウンガ) ヤマゲーワ アガ イコワ		
3	中之郷1	ヤミャー ワ アガ イコワ		
3	中之郷2	オー ヤミャーワ アガ イコワ		
3	樫立1	ワラ ヤミャ イコワヨ		

3	樫立2	オー ワガ ヤマエ イコヂャ	
3	樫立3	オー ヤマエワ ワーガ イコワ	
4	共通語	おれの鍬はどこにある。	備考
4	大賀郷1	ワガ テガワ ドコニ アロ	
4	大賀郷2	{ワガ / アガ} クワワ ドコニ アロ	
4	三根 1	アガ テガワ {ドコン / ドコドー} アロ	アガ テガワ ドコド
4	三根2	{ワガ / アガ} クワワ ドコニ {アルダロー / アロ}	
4	末吉	アガ マガマワ ドコニ アロ	鍬でなく鎌
4	中之郷1	アガ クワワ ドコニ アロド	
4	中之郷2	アガ テガワ ドコニ アロンノ	
4	樫立1	ワガ カワ {ドコダッタロー / ドコニ アルダロー}	
4	樫立2	ワガ クワワ ドコニ アロ	
4	樫立3	ワガ クワワ ドコニ アルカ	
5	共通語	この鎌は太郎のか。	備考
5	大賀郷1	コノ マガマワ タローノガ カ	
5	大賀郷2	コノ {カマ / マガマ} ワ タローノ カ	
5	三根 1	コノ マガマワ タローガ カ	
5	三根 2	コノ マガマワ {センセイガ / センセイノ} ダーヨー	太郎→先生
5	末吉	コノ マガマワ トッチャンガ カ	
5	中之郷1	コノ マガマワ タロオーノ カ	
5	中之郷2	コノ マガマワ タローガ カ	
5	樫立1	コノ マガマワ オミャノガ カ	
5	樫立2	コノ マガマワ タローノガ カ	
5	樫立3	コノ カマワ タローノ カ	
6	共通語	どれがおまえの笠だ	備考
6	大賀郷1	ドレガ ナレガ カサ ドー	
6	大賀郷2	ドレガ オマエノ カサ ドー	
6	三根 1	ドイガ ンーガ カサ ドー	
6	三根2	ドイガ オメノ カサ ドー	
6	末吉	ドレガ ウンガ カサ ダー	
6	中之郷1	ドレガ オミャノ カサ ドー	
6	中之郷2	ドレガ ウンガ カサ ドア	
6	樫立1	ドレガ オミャノ カサ ド	
6	樫立2	ドレゴ オミノ {ミ/ドア / ミ/ドー} (対目下)// オミャノミ	
	1=	ノワドレデ {オヂャロ / オヂャリヤロー}	
6	樫立3	ドレガ オミ ノ カサダ	
7	共通語	その笠がおれのだ。	備考
7	大賀郷1	ソノ カサガ ワガダラ	
7	大賀郷2	ソノ カサワ ワガメ ダラ	

7	三根1	ソノ カサガ ワガドージャー	
7		ソノ カサワ {アガ / ワガ} ダーヨー	
7		ソノ カサガ アガ ダー ヂャー	
7	中之郷1	ソノ カサガ アガ ドワ ヂャ	
		ソノ カサガ アガ ダラ / ソレ ガ アガ カサ ダラ (それが	
7	中之郷2	私の笠だ。)	
7	樫立1	(ソレガ ワガ カサドアジャ) ソノ カサガ ワガドアジャ	
7	樫立2	ソノ ミノワ ワガ ミノダラヨー	
7	樫立3	ソノ カサガ ワレノ ダラ	
8	共通語	このふろしきはおまえのか。	備考
8	大賀郷 1	コノフ.ルシキワ {ナレガカ / ナレガドーカ}	
		コノ フロシキワ オマエノダー (「誰のだ」はダガメドー /	
8	大賀郷2	ダレノドー}	
8	三根 1	コノフルシキャ {ンーガ ダー / ンーガ カー}	
8	三根 2	コノ フロシキワ オメノ {ガカー / カー}	確認する時はオメノダーノー
8	末吉	コノ フロシキワ ウンガ カ	
8	中之郷1	コノ フロシキワ オミャーガ カ	
8	中之郷2	コノ フロシキワ {ウンガ / ンガ} カ	
8	樫立1	コノ フルシキワ オミャノガカ	
0	梅子 2	コノ フルシ.キワ {オミノガカ (対目下)/ オミャノガカ (対	
8	樫立2	目上)}	
8	樫立3	ソノ フロシキワ オミノカ	
9	共通語	それはおとうとのかもしれない。	備考
9	大賀郷1	ソレワ キョーデーノガ カモシレンナカ	「おとうとの」キョーデーノガ, オトトノガでかなり迷う。 結局「太郎の」タローノガで採取
		ソレワ {オトトノ カモ シレンナカヨ (一)(かもしれない)/	(7)]グロー
9	大賀郷2	オトノヂャネーカ (一)(弟のじゃないか) }	
9	三根 1	ソイガ キョーデーノガ ダカモシレンナカヨー	
9		ソレワ オトトノ ダカモ シレンナカノー	
9		ソレ ワ ノー キョーデエ ノ ガ カモ シレンナカー	
9	中之郷1	ソレワ キョーヂャーガ カモ シレンナカ	
9	中之郷2	ソレワ キョーヂャーノ カモ シレンナカ	ノの代わりにガは不可。「キョーヂ ャー」は「キョーデアー」か
9	1		_
	樫立1	ソレワ フミ (人名)ノガカモ シレナイ	
9		ソラ キョーヂャーノガカモ シレナカヨー	
9		•	
_	樫立2 樫立3	ソラ キョーヂャーノガカモ シレナカヨー	備考
9	樫立2 樫立3 共通語	ソラ キョーデャーノガカモ シレナカヨー ソレワ オトトノ カモ シレナキャ	備考
9	樫立2 樫立3	ソラ キョーヂャーノガカモ シレナカヨー ソレワ オトトノ カモ シレナキャ 沖縄には船で行くより飛行機で行ったほうがいい。	備考

	Ι		1
10	大賀郷2	オキナワニワ フネデ イクヨリ ヒ.コーキデ イッタホーガ ヨ ッキャヨー	
10	三根 1	オキナワゲーワ フネデ イコヨリ ヒコーキデ イッタホーガ	
		ヨッキャー	
10	三根 2	オキナワゲー イコ トキワ フネデ イコヨリモ ヒコーキデ	
10	_IX 2	イコホーガ ヨッキャノー	
10	末吉	オキナワ ゲーワ フネ デ イコヨリ モ ヒコーキデ イッタ	
10	小 口	ホーガ ヨッキャー	
10	中之郷1	オキナワニャ フネデ イコヨリカモ ヒコーキデ イッタホー	
10	十之401	ガ {ヨカンノーワ / ヨッキャヨ}	
10	中之郷2	オキナワ ニワ フネデ イコヨリ ヒコーキデ イッタ ホーガ	
10	中之纲2	ヨッキャ	
10	<u> </u>	オキナーニャ フネデ イコヨリモ ヒ.コーキデ イッタ ホー	
10	樫立1	ガ ヨッキャヨ	
		オキナワイェワ フネデ イクヨリカ ヒコーキノホーガ {ヨッ	
10	樫立2	キャヨー (実際に行ったことがある)/ ヨカン ヌア ヨ(想像	
		で言う場合 (と内省))}	
11	共通語	飛行機は一日に一回しかない。	備考
11	大賀郷1	ヒ.コーキワ イチンチニ イッカイシ.カ ナッキャ	
11	大賀郷 2	ヒコーキワイチニチニ イッカイシ.カ ナッキャヨー	
11	三根 1	ヒコーキワイチンチニ イッカイシカ ナッキャー	
		ヒコーキワイチニチニ サンビンシカ ナッキャ {ヨー / /	
11	三根2	- }	一回→三便。
11	末吉	ヒコーキワイチニチニ イッカイシカ ナッキャヨー	
11	中之郷1	ヒコーキワ ヨイチニチニ イッカイシカ ナッキャヨー	
		ヒコーキワイチニチニ イッカイシ.カ {ナッキャ/ キンナ	
11	中之郷2	カ (来ない)}	
11	樫立1	ヒ.コーキワイチンチン サンカイシ.カ ナッキャヨー	
11	樫立2	ヒ.コーキワ イチニチ イッカイシカ ナッカ ヨー	
12	共通語	空港ならこっちの道を行きなさい。	備考
12	大賀郷1	クコーゲー イコダーバ コッチノ ミチョ イケ	C-CHIV
12	八只741		
12	大賀郷2	ガ ヨッキャヨ (一)/ コッチェ イケバ ヨッキャヨー}	
12	三根1	ヒコージョーゲーワ コッチノ ミチョ イケバ ヨッキャー	
		クーコーゲー イコダーバー コッチノ ミチオ {イキヤレー	録音終了後、「空港」はヒコージョ
12	三根2	/ オヂャレー / イケ}	ー と言っていた。行きなさい=
		1/4/18 /1/1	イキヤレー
12	末吉	クーコーナラ コッチ ノミチョー{ イケ / イッタホーガヨ	
12	小 口	クネーカー}	
12	中之郷1	ヒコーヂョーナラ コッチノ ミチョイッタ ホーガ ヨッキャヨ	
	•		

12 中之郷2 ヒコーデョーエワ コッチ / ミデョ イケバ ヨッケンマ 12 椰立 1 ヒコージョーニャ コッチ / ミデョ イケバ ヨッケンマ 13 東通節 道の家人なかをあるいてはいけない。			_	
12 整立2 大震事一工 オデキアバ (目上) / カハパ コッチノミ カホ トーラエ ヨー (対目下) / トーリヤレ ヨー (対目 上) カ 大震郷1 三秋 マンナコーミッチャ ダメダラ ステリ マンナカ (オ) アルイターバ ダボーデャ、コッチノ ニチオ イケ / イッタバ ヨッケヂャー (行ったらいいよ) コ 三根 1 ミチノ マンナカウオ エージャ ダメダラー コ エモ 2 エームナー / エーマズン / エーマズン は「歩かげ"に」という 意味。 ます マンナカウオ エームナー / エーマズン / エーマズン は「歩かげ"に」という 意味。 ます マンナカウオ ヤンザン ヤンザン ヤンザン ヤンザン ヤンザン ヤンザン ヤンデン ヤンザン ヤンザン ヤンデン ヒロキャノー / ドル エース エース	12	中之郷 2	ヒコーヂョーエワ コッチノ ミチオ オヂャリヤレ	
12 標立2 チホ トーラエ 日 (対目下) / トーリヤレ 日 (対目 上) 13 共画語	12	樫立1	ヒ.コージョーニャ コッチノ ミチョ イケバ ヨッケジャ	
上) 13 共通部 道のまんなかをあるいてはいけない。			ヒ.コーヂョーエ {オヂャラバ (目上)/ イカバ} コッチノミ	
13 共通語 道のまんなかをあるいてはいけない。 備考 3 大賀郷1 3 テノ マンナコーミッチャ ダメダラ 3 大賀郷2 ミチノ マンナカ (オ) アルイターバ ダボーデャ、コッチノ ミチオ {イケ バッグパ ヨッケチャー (行ったらいいよ)} 13 三根1 ミチノ マンナカカ エージャ ダメダラー 3 三根2 ミチノ マンナカカ エージャ ダメダラー 3 本吉 ミチノ マンナカカ エーン デャ ダメダラー 3 中之郷1 ミチノ マンナカカ [ヤッデ・マンデックラー] 13 中立郷1 ミチノ マンナカカ [ヤッデ・アンデック ダメグラ] 13 摩立1 ミチノ マンナカオ [ヤッデ・アンデック ダメグラ] 13 摩立2 ミチノ マンナカオ [ヤッデ・アンデック ダメグラ] 14 共通語 道が広い なあ。 備考 14 大賀郷1 ミチガ ヒロキャノー / ドラガ ヒロヤ・ノー ドガ ヒロキャノー / ドラガ ヒロヤ・ノー 14 三根1 ミチガ ヒロヤ・ノー 14 三根1 ミチガ ヒロヤ・ノー 14 三根2 ミチガ ヒロスッー 14 中之郷1 アーミチガ ヒロスッー 14 中之郷1 アーミチガ ヒロスッー 14 神之郷1 ミチガ ヒロスッー 14 摩立1 ミチガ ヒロネャノー 14 摩立1 ミチガ ヒロスッー 15 共通語 あ。雨がふってきた。 備考 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷1 ア・アメガ フッテキター オーア・アメガ フッテキター オーア・アメガ フッテキター 15 三根2 アーアメガ フッテキター 15 末吉 アメガ フッテキター アメガ フッテキター 15 末吉 アメガ フッテキター アメガ フッテキター 15 大倉郷1 ワーアメガ フッテキター 15 中之郷1 ワーアメガ フッテキター 15 中本の ローア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・	12	樫立2	チホ {トーラエ ヨー (対目下)/ トーリヤレ ヨー (対目	
13 大質郷1 ミチノマンナコーミッチャ ダメダラ ミチノマンナカ (オ) アルイターバ ダ パーデャ、コッチノミチオ (イケ / イッタバ ヨッケヂャー (行ったらい いよ) ミチノマンナカオ エージャ ダメダラー ミチノマンナカウオ エージャ ダメダラー エーマズン は「歩かずに」という 定果 2 ミチノマンナカウオ エージャ ダメダラー ごチノマンナカウオ エージャ ダメダラー 意味。 コネ吉 ミチノマンナカー エーン ギャ ダメダラー 意味。 まチノマンナカオ 「ヤッデノヤグダラー まチノマンナカオ 「ヤッデノヤンデとも」 イソテワ ダメ ダラ (コ) 型立 1 ミチノマンナカオトーッチャ ダメダラヨー 北海諸 道が広いなあ。 備考 第一次第1 ミチガ ヒロキャノー / 「ミチガ ヒロキャノー / 「ミチガ ヒロキャノー 上根 1 ミチガ ヒロキャノー / 「ミチガ ヒロンーノー 生根 2 ミチガ ヒロキャノー / 「ヒロト・ナー セン郷 2 ミチガ ヒロキャノー セン郷 1 アーミチガ ヒロスッー 14 中之郷 1 アーミチガ ヒロスッー 14 中之郷 2 ミチガ ヒロキャノー 14 中之郷 2 ミチガ ヒロキャノー 14 中之郷 2 ミチガ ヒロキャノー 15 大賀郷 1 アメガ フッテキタラ アイヤイヤイ アメガ フッテキタラー / オ アメガ フッテキタラー オ 下去 アーアメガ フッテキタラー オ 下去 ア・アメガ フッテキタラー ア・アメガ フッテキタラー 15 末吉 ア・アメガ フッテキタラー ア・アメガ フッテキタラー 15 末吉 ア・アメガ フッテキタラー ア・アメガ フッテキタラー 15 末吉 ア・アメガ フッテキタラー ア・アメガ フッテキター ア・アメガ フッテキター ア・アメガ フッティア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・			上)}	
13 大質郷2 ミチノ マンナカ (オ) アルイターバ ダ ボーヂャ、コッチノ ミチオ {イケ / イッタバ ヨッケヂャー (行ったらい いよ)} コ 三根1 ミチノ マンナカオ エージャ ダ メダラー ミチノ マンナカウォ {エームナー / エーマズン / エーヂャグメダーヨー} ミチノ マンナカウェ {エームナー / エーマズン / エーヂャグメダーヨー} コ 中之郷1 マシボカウョー アリッチャ ダ メダラヨー コ 中之郷2 デチノ マンナカオ {ヤッデ / ヤンデとも} インテワ ダメダラヨー コ 神之郷2 ジチノ マンナカオ トーッチャ ダ メグラヨー コ 極立2 ミチノ マンナカオ トーッチャ ダ メグラヨー ユ 美通語 道が広いであ。 備考 本書記 はずないであ。 作者 大質郷2 ミチガ ヒロキャノー // ミチガ ヒロソーノー コ 一と銀2 ミチガ ヒロキャノー // ミチガ ヒロンーノー コ 十 大 世 一 大 ガ カッテキャー // トーシャ エータ	13	共通語	道のまんなかをあるいてはいけない。	備考
3 大賞郷2 ミチオ {イケ バッタバ ヨッケヂャー (行ったらいいよ)} 13 三根1 ミチノ マンナカオ エージャ ダメダラー ミチノ マンナカウォ {エームナー / エーマズン / エーデ	13	大賀郷 1	ミチノ マンナコー ミッチャ ダメダラ	
13 三根1 三升 マンナカオ エージャ ダメダラー 三根2 三升 マンナカウォ {エームナー エーマズン エーマズン は「歩かずに」という 京井 マンナカウォ {エームナー エーマズン エーマズン は「歩かずに」という 京珠 三根2 マンナカー エーン デャ ダメダラー 三味 三球 三球 三球 三球 三球 三球 三球	10	1.70000	ミチノ マンナカ (オ) アルイターバ ダメドーヂャ. コッチノ	
13 三根2 マナカウォ {エームナー / エーマズン / エーチャグメグーヨー} 京井 マンナカー エーン ギャ ダメダラー 京井 マンナカー エーン ギャ ダメダラー 京井 マンナカオ {ヤッデ / ヤンデとも} インテワ ダメ ダラ (ヨ) 13 韓立1 京チ / マンナカオ ヤッデ / ヤンデとも} インテワ ダメ ダラ (ヨ) 13 韓立2 京チ / マンナカオ トーッチャ ダメダラヨー 14 共通語 道が広い 水あ。 備考 株書 一 大賀郷1 子ガ ヒロキャノー バース ドガ ヒロキャノー ドガ ヒロキャノー 日本 三根1 ミチガ ヒロキャノー ヒロキャノー 七 一 一 七 一 十 一 ビロキャノー 七 一 十 一 七 一 1 七 一 1 七 一 1 七 一 1 七 一 1 七 一 1 七 1 日 1 七 1 日 1 七 1 日 1 七 1 日 1 七 1 日 1 七 1 日 1 日 1 七 1 日 1 日 1 七 1 日 1 日 1 七 1 日 1 日 1 日 1 七 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1	13	大質郷2	ミチオ {イケ /イッタバ ヨッケヂャー (行ったらいいよ)}	
13 末吉 ミチ / マンナカー エーン ヂャ ダメダラー 意味。 意味。 意味。 ま古 ミチ / マンナカオ ヤッデ / ヤンデとも イツテワ ダメ ダラ (ヨ) 日 極立 1 ミチ / マンナカオ ヤッデ / ヤンデとも イツテワ ダメ ダラ (ヨ) 13 極立 1 ミチ / マンナカオ トーッチャ ダメダラヨー 14 共通語 道が広いなあ。 備考 まチガ ヒロキャノー // ミチガ ヒロキャノー イン質郷 2 ミチガ ヒロキャノー ミチガ ヒロキャノー 14 三根 1 ミチガ ヒロスワー 14 早之郷 1 アー ミチガ ヒロスワー 14 中之郷 1 アー ミチガ ヒロスワー 14 押立 1 マチガ ヒロキャ / ア / ノー 14 押立 2 ミチガ ヒロキャノー 15 共通語 あ,雨がふってきた。 6 大賀郷 1 アメガ フッテキタラー オ アメガ フッテキタラー オ アメガ フッテキタラー ま古 アイヤイヤイ アメガ フッテキターー / オ アメガ フッテキタラー 15 三根 2 アー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキタラー 15 中之郷 1 ワー アメガ フッテキター 15 中立 1 ワー アメガ フッテキター 15 中立 1 ワー アメガ フッテキター 15 中立 1 ロー アメガ フッテキター 15 中立 1 ロー アメガ フッテキター 15 中立 1 ロー 1	13	三根 1	ミチノ マンナカオ エージャ ダメダラー	
13 末吉 ミチ / マンナカー エーン ヂャ ダメダラー 意味。 意味。 ま吉 マンナカー エーン ヂャ ダメダラー コ 中之郷1 ミチ / マンナカオ {ヤッデ / ヤンデとも} イソテワ ダメ ダラ (ヨ) コ 樫立1 ミチ / マンナカオ トーッチャ ダメダラヨー コ 樫立2 ミチ / マンナカオ トーッチャ ダメダラヨー コ 樫立2 ミチ / マンナカオ トーッチャ ダメダラヨー コ 大賀郷1 ミチガ ヒロキャノー // ミチガ ヒロソー 14 大賀郷2 ミチガ ヒロキャノー ジチガ ヒロキャノー 14 三根1 ミチガ ヒロキャノー ヒロケヂャー コ 中之郷1 アー ミチガ ヒロスワー コ 中之郷2 ミチガ ヒロキャ / ア ノー セン郷2 ミチガ ヒロキャ / ア ノー センッテ エータッテ オー・ジャ コ アメガ フッテキタラー オ アメガ フッテキタラー オ アメガ フッテキターラー オ アメガ フッテキター オ ド・ジャ コ アメガ フッテキター / オ アメガ フッテキター コ アメガ フッテキター コ マメガ フッテキター / オ アメガ フッテキター コ マメガ フッテキター / オ アメガ フッテキター コ マスガ フッテキター / マスガ マスガ フッテキター コ マスガ フッテキター / マスガ フッテキタラー コ マスガ フッテキター / マスガ フッティー / マスガ フッティー / マスガ フッティー / マスガ フッティー / マスガ フッテキター / マスガ フッティー / マスガ フッティー / マスガ フッティー / マスガ フッテキター / マスガ フッティー / マスガ ファイ / マスガ フッティー / マスガ フッティー / マスガ ファイ / マスガ マスガ マスガ ファイ / マスガ ファイ / マスガ ファイ / マスガ マスガ マスガ / マスガ ファイ / マスガ マスガ マスガ マスガ / マスガ ファイ / マスガ マスガ / マスガ / マスガ	12		ミチノ マンナカウォ {エームナー / エーマズン / エーヂ	エーマズン は「歩かずに」という
13 中之郷1 ミチノマンナクワー アリッチャ ダメダラヨー コ3 中之郷2 ミチノマンナカオ {ヤッデ / ヤンデとも} イソテワ ダメ ダラ (三) コ3 樫立1 ミチノマンナカオ トーッチャ ダメダラヨー. 14 東通語 道が広いなあ。 備考 14 大賀郷1 ミチガ ヒロキャノー // ミチガ ヒロソー 14 大賀郷2 ミチガ ヒロキャノー // ミチガ ヒロウー 14 三根1 ミチガ ヒロキャノー 14 三根2 ミチガ ヒロキャノー 14 末吉 ミチガ ヒロスワー 14 中之郷1 アーミチガ ヒロスワー 14 中之郷2 ミチガ ヒロスワー 14 樫立1 ミチガ ヒロスワー 14 樫立2 ワーミチガ ヒロスワー 14 樫立3 ミチガ ヒロキャノー 15 共通語 カ, 雨がふってきた。 備考 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オアメガ フッテキタラー 15 三根1 アイヤイヤイ アメガ フッテキタラー 15 三根2 アーアメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキタラー デャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキタラー デャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキタラー デャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキタラー アスガ フッテキタラー 15 末吉 アスガ フッテキタラー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー 17 中国 マース ロース アメガ フッテキタラー 17 中国 マース アメガ フッテキター アメガ フッテキター 17 中国 マース アメガ フッテキター アメガ フッテキター 17 中国 マース アメガ フッテキター アメガ フッテキター 17 中国 マース アメガ フッテキター 17 中国 マース アメガ フッテキター 17 中国 マース アメガ フッティ アメガ フッテキター 17 中国 マース アメガ フッティ アメガ フッティ アメガ フッテキター 17 中国 マース アメガ フッティ アメガ ファイス アメガ ファイス アメガ フッティ アメガ ファイス ア	13	二位2	ャダメダーヨー}	意味。
13 中之郷2 キナノマンナカオ (ヤッデ / ヤンデとも) イソテワ ダメ ダラ (ヨ) 13 樫立 1 キナノマンナカオ トーッチャ ダメダラヨー。 14 共通語 道が広いなあ。 備考 14 大賀郷1 キガ ヒロキャノー // ミチガ ヒロンー 14 大賀郷2 キガ ヒロキャノー // ミチガ ヒロンー 14 三根 1 ミチガ ヒロキャノー 14 三根 2 ミチガ ヒロキャノー 14 末吉 ミチガ ヒロスワー 14 中之郷1 アーミチガ ヒロスワー 14 中之郷2 ミチガ ヒロスワー 14 樫立 1 ミチガ ヒロスワー 14 樫立 2 ワーミチガ ヒロキャノー 15 共通語 カ,雨がふってきた。 備考 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オアメガ フッテキタラー オアメガ フッテキタラー 15 三根 2 アーアメガ フッテキタラー 15 三根 2 アーアメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキター・デャー 15 中之郷1 ワーアメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキタラー 15 中之郷1 ワーアメガ フッテキタラー 15 中之郷1 ワーアメガ フッテキタラー 15 中之郷1 ワーアメガ フッテキタラー 15 中之郷1 ワーアメガ フッテキタラー 17 マーアスガ フッテキタラー 17 マーアスガ フッテキタラー 15 中之郷1 ワーアメガ フッテキタラー 17 マーアスガ フッテキター 17 マーアスガ フッティ マーアスガ ファーアスガ フッティ マーアスガ ファース マーアスガ ファース マーアス マーアス マーアス マーアス マーアス マーアス マーアス マー	13	末吉	ミチ ノマンナカー エーン ヂャ ダメダラー	
13 中之郷2 ダラ (三)	13	中之郷1	ミチノ マンナクヮー アリッチャ ダメダラヨー	
13 樫立 1 ミチノ マンナコア ヤッジャ ダメダラヨー 13 樫立 2 ミチノ マンナカオ トーッチャ ダメダラヨー 14 共通語 道が広いなあ。	12	由→郷 2	ミチノ マンナカオ {ヤッデ / ヤンデとも} イツテワ ダメ	
13 樫立2 ミチノ マンナカオ トーッチャ ダメダラヨー. 14 共通語 道が広いなあ。 備考 14 大賀郷1 ミチガ ヒロキャノー // ミチガ ヒロソー 14 大賀郷2 ミチガ ヒロキャノー 14 三根2 ミチガ ヒロキャノー 14 三根2 ミチガ ヒロキャノー 14 中之郷1 アー ミチガ ヒロスワー 14 中之郷1 アー ミチガ ヒロスワー 14 樫立1 ミチガ ヒロメア 14 樫立2 ワー ミチガ ヒロキャ{ノア / ノー} 14 樫立3 ミチガ ヒロキャノー 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテキタラー / オ アメガ フッテキタラー 15 三根2 アー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキター デャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー 17 アメガ フッテキター アファナガ フッテキター アファナガ フッテキタラー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー 17 アスガ フッテキタラー 18 アスガ フッテキタラー 18 アスガ フッテキタラー 19 アスガ フッテキター 19 アスガ フッティ アスガ フッティ 19 アスガ フッティ アスガ フッティ アスガ フッティ 19 アスガ フッティ アスガ フッティ アスガ フッティ アスガ ファスガ ファスガ アスガ アスガ アスガ アスガ アスガ アスガ アスガ アスガ アスガ ア	13	中之郷2	ダラ (ヨ)	
14 共通語 道が広いなあ。 備考 14 大賀郷1 ミチガ ヒロキャノー // ミチガ ヒロソー 14 大賀郷2 ミチガ ヒロキャノー 14 三根1 ミチガ ヒロキャノー 14 三根2 ミチガ ヒロキャノー 14 東之郷1 アー ミチガ ヒロスヮー 14 中之郷1 アー ミチガ ヒロスヮー 14 中之郷2 ミチガ ヒロキャ ンオア 14 樫立1 ミチガ ヒロキャ ンオア 14 樫立2 ワー ミチガ ヒロキャ //ア / ノー} 15 共通語 あ、雨がふってきた。 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテキタラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / まトージャ 15 三根2 アー アメガ フッテキター デャー 15 末吉 アメガ フッテキタラー	13	樫立1	ミチノ マンナコア ヤッジャ ダメダラヨ	
14 大賀郷1 ミチガ ヒロキャノー // ミチガ ヒロソー 14 大賀郷2 ミチガ ヒロキャノー 14 三根1 ミチガ ヒロキャノー 14 三根2 ミチガ ヒロキャノー 14 末吉 ミチガ ヒロキャナー / ヒロケデャー} 14 中之郷1 アーミチガ ヒロスワー 14 中之郷2 ミチガ ヒロキャ ンオア 14 樫立1 ミチガ ヒロキャ ンオア 14 樫立2 ワー ミチガ ヒロキャ{ノア / ノー} 14 樫立3 ミチガ ヒロキャ{ノア / ノー} 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテキター 15 三根1 アイヤイヤイ アメガ フッテキターー / オ アメガ フッテキターー 15 末吉 アメガ フッテキター ギャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー	13	樫立2	ミチノ マンナカオ トーッチャ ダメダラヨー.	
14 大賀郷2 ミチガ ヒロキャノー 14 三根1 ミチガ ヒロソーノー 14 三根2 ミチガ ヒロキャノー 14 末吉 ミチガ ヒロキャナー / ヒロケヂャー} 14 中之郷1 アーミチガ ヒロスワー 14 中之郷2 ミチガ ヒロキャ ンオア 14 樫立1 ミチガ ヒロキャ ノア / ノー} 14 樫立2 ワー ミチガ ヒロキャ / ノア / ノー} 15 共通語 あ、雨がふってきた。 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテキタラ 15 三根1 アイヤイヤイ アメガ フッテキターー / オ アメガ フッテキターー / オ アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキター ヂャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー	14	共通語	道が広いなあ。	備考
14 三根1 ミチガ ヒロキャノー 14 三根2 ミチガ ヒロキャノー 14 末吉 ミチガ ヒロキャナー / ヒロケヂャー} 14 中之郷1 アー ミチガ ヒロスヮー 14 中之郷2 ミチガ ヒロキャ ンオア 14 樫立1 ミチガ ヒロキャ /フ / ノー} 14 樫立2 ワー ミチガ ヒロキャ/ノア / ノー} 15 共通語 あ、雨がふってきた。 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターー 15 三根1 アイヤイヤイ アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキター ヂャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー	14	大賀郷1	ミチガ ヒロキャノー // ミチガ ヒロソー	
14 三根2 ミチガ ヒロキャノー 14 末吉 ミチガ ヒロキャナー / ヒロケヂャー} 14 中之郷1 アー ミチガ ヒロスヮー 14 中之郷2 ミチガ ヒロキャ ンオア 14 樫立1 ミチガ ヒロキャ{ノア / ノー} 14 樫立2 ワー ミチガ ヒロキャ{ノア / ノー} 15 共通語 あ、雨がふってきた。 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターー 15 三根1 アイヤイヤイ アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキター ヂャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー	14	大賀郷2	ミチガ ヒロキャノー	
14 末吉 ミチガ {ヒロキャナー / ヒロケヂャー} 14 中之郷1 アーミチガ ヒロスワー 14 中之郷2 ミチガ ヒロキャ ンオア 14 樫立1 ミチガ ヒロキャ{ノア / ノー} 14 樫立2 ワーミチガ ヒロキャ{ノア / ノー} 14 樫立3 ミチガ ヒロキャ/ー 15 共通語 あ,雨がふってきた。 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキタラー 15 三根2 アー アメガ フッテキター ヂャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー	14	三根 1	ミチガ ヒロソーノー	
14 中之郷1 アーミチガヒロスワー 14 中之郷2 ミチガヒロキャンオア 14 樫立1 ミチガヒロキャ/ア/ノー 14 樫立2 ワーミチガヒロキャ/ー 15 共通語 あ、雨がふってきた。 15 大賀郷1 アメガフッテキタラ 15 大賀郷2 オアメガフッテキターラー/オアメガフッテキターラー/オアメガフッテキターラー/オアメガフッテキターラー/オアメガフッテキターー 15 三根2 アーアメガフッテキターー 15 末吉 アメガフッテキター・デャー 15 中之郷1 ワーアメガフッテキタラー	14	三根2	ミチガ ヒロキャノー	
14 中之郷2 ミチガ ヒロキャ ンオア 14 樫立1 ミチガ ヒロキャ{ノア / ノー} 14 樫立2 ワー ミチガ ヒロキャ{ノア / ノー} 14 樫立3 ミチガ ヒロキャノー 15 共通語 あ、雨がふってきた。 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテ キトーデャ 15 三根1 アイヤイヤイ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターー 15 三根2 アー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキター ヂャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー	14	末吉	ミチガ {ヒロキャナー / ヒロケヂャー}	
14 樫立1 ミチガ ヒロソア 14 樫立2 ワー ミチガ ヒロキャ{ノア / ノー} 14 樫立3 ミチガ ヒロキャノー 15 共通語 あ、雨がふってきた。 備考 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテ キトーデャ 15 三根1 アイヤイヤイ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキタラー 15 三根2 アー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキタラー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー	14	中之郷1	アー ミチガ ヒロスワー	
14 樫立2 ワーミチガ ヒロキャ{ノア / ノー} 14 樫立3 ミチガ ヒロキャノー 15 共通語 あ、雨がふってきた。 備考 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテ キ・トーヂャ 15 三根1 アイヤイヤイ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー 15 末吉 アメガ フッテキター ギャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー	14	中之郷2	ミチガ ヒロキャ ンオア	
14 樫立3 ミチガ ヒロキャノー 15 共通語 あ、雨がふってきた。 備考 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテ キ.トーヂャ 15 三根1 アイヤイヤイ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキタラー 15 三根2 アー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキター ヂャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー	14	樫立1	ミチガ ヒロソア	
15 共通語 あ,雨がふってきた。 備考 15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテ キ・トーデャ 15 三根1 アイヤイヤイ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキタラー 15 三根2 アー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキター デャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー	14	樫立2	ワー ミチガ ヒロキャ{ノア / ノー}	
15 大賀郷1 アメガ フッテキタラ 15 大賀郷2 オ アメガ フッテ キ・トーデャ 15 三根1 アイヤイヤイ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキタラー 15 三根2 アー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキター デャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー	14	樫立3	ミチガ ヒロキャノー	
15 大賀郷2 オ アメガ フッテ キ・トーヂャ 15 三根1 アイヤイヤイ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキタラー 15 三根2 アー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキター ヂャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー	15	共通語	あ,雨がふってきた。	備考
15 三根 1 アイヤイヤイ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキタラー 15 三根 2 アー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキター ギャー 15 中之郷 1 ワー アメガ フッテキタラー	15	大賀郷1	アメガ フッテキタラ	
15 三根 1 15 三根 2 アー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキター ギャー 15 中之郷 1 ワー アメガ フッテキタラー	15	大賀郷2	オ アメガ フッテ キ.トーヂャ	
キトージャ 15 三根2 アー アメガ フッテキタラー 15 末吉 アメガ フッテキター ヂャー 15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー 17 中之郷1 ロー アメガ フッテキタラー 18 中之郷1 ロー アメガ フッテキタラー 19 中之郷1 ロー アメガ フッテキタラー ロー アメガ フッテキター ロー アメガ フッテャクー ロー アメガ フッテャクー ロー アメガ フッテャクー ロー アメガ フッテャクー ロー アメガ フッティクー ロー アメガ ファー ロー アン・アント ロー アント ロー アン	15	二根 1	アイヤイヤイ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテ	
15 末吉 アメガ フッテキター ヂャー 15 中之郷 1 ワー アメガ フッテキタラー	13	11X 1	キトージャ	
15 中之郷1 ワー アメガ フッテキタラー	15	三根2	アー アメガ フッテキタラー	
	15	末吉	アメガ フッテキター ヂャー	
15 中之郷2 アメガ フッテ キタラ	15	中之郷1	ワー アメガ フッテキタラー	
	15	中之郷2	アメガ フッテ キタラ	

15	樫立1	ワー アメガ フ.ッテ キ.トアジャ	
15	樫立2	ワー アメガ フッテキタロー	
15		アメガ {フッテキトーヂャ / フッテ キタラ}	
16		いとこの布団がやねの上にほしてある。	備考
16	大賀郷 1	イトコノ フトンガ ヤネノ ウェニ ホシタアロワ	
16	大賀郷2	イトコノ フトンガ ヤネノ ウエニ ホシ.テ アロヂャ	
16	三根 1	イトコノ フトンガ ヤネノ ウェイニ ホシテアロワー	
16	三根 2	イトコノ フトンガ ヤネノ ウェイニ ホシテアロワー	
1.5		イトコ ノ ノー フトンガ ヤネニ {ホシテアロダーガー /	
16	末吉	ホサレテ アロガー}	
16	中之郷1	ワー イトコノ フトンガ ヤネノ ウェーニ ホシチャル ヂャ	
16	中之郷2	イトコノフ・トンヨ ヤネ ノ ウエニ ホシタ (テ)アロワ (ヨー)	ノの代わりにガは不可
16	樫立1	イトコノ フ.トンガ ヤネノ ウェニ ホシ.テ アロワ	
1.0	樫立2	イトコノ フ.トンガ ヤネニ {ホシテアロワヨー (人に説明す	
16	性立. 2	る時と内省)/ ホシテアロヂャ.(断定する時と内省)}	
17	共通語	きのうは今日より風が強かった。	備考
17	大賀郷1	キネーワ ケーヨリ カゼガ ツヨカララ	
17	大賀郷2	キノーワ キョーヨリ カヅェガ ツヨカララノー	
17	三根 1	キネイワ ケイヨリ カゼガ ツヨカラーノー	
17	三根2	キネイワ ケイヨリワ カゼガ ツョカラノー	
17	末吉	キニイ ワ ノー キイヨリ カヅェガ ツョカララ	
17	中之郷1	キニイワ キイヨリカ カヅェーガ ツヨ カロ ワ ヂャー	
17	中之郷2	{キニー / キネー} ワ キーヨリ カゼガ ツョカッタ ンオ	
1,	1 10/24 2	アー	
17	樫立1	キニーワ キーヨリ カゼガ ツョカララ	
17	樫立2	キニーワ キーヨリ カゼガ ツョカローヂャ	
17	樫立3	キノーワ カゼガ ツョカララノー	
18	共通語	真っ白な鳥が空を飛んでいる。	備考
18	大賀郷1	マッチロドー トリメガ ソロー トンダアロワ	
18	大賀郷2	マシ.シロケ トリガ ソラオ {トンダロヂャ / トンダロワノ	
10	7 (20)	(-)}	
18	三根 1	マシ・シロケ トリメガ ソロー {トンダロジャ / トンデアロジ	
		+}	\
18	三根2	マシ・シロナトリ(メ)ガソラオトンデアロワーヨー	過去形:トンデアララー
18	末吉	マシシロケトリメガ {ソラー / テンニーヨ} {マイテ アロ	
4.0	-1-1-/HP -	デャ / トンデ アロ デャ ヨー}	
18	中之郷1	マシ・シロ ドゥ トリガ ソロゥ トンヂャル ヂャー	
18	, ,	シロケトリメガテンニーオトンダロワ	
18	樫立1	ワ. マッシロドア トリメガ ソロア トンデ アラアヨー.(トッデ	

		とは言わない)	
	Into 1	マシ.シロケ トリメガ ソラオ {トンデ アロワヨ / トッデ ア	
18	樫立2	ライヨー}	
19	共通語	あの山にはいのししがいるそうだ。	備考
19	大賀郷1	ウノ ヤマニワイノシシガ アルテーヤ	
19	大賀郷2	ウノ ヤマ ニワイノシシガイルテーヂャ	
19	三根 1	ウノ ヤマゲーワイノシシガ アルッテイヤー	ウノ ヤマニワ
19	三根2	ウノ ヤマニワイノシシガ アルテイヤノー	
19	末吉	ウノ ノー ヤマ ニワイノシシガ アルチーヤ (一)ヨー	
19	中之郷1	ウノ ヤマニワサイノシシガ アルッテイヤヨオ	
19	中之郷2	ウノ ヤマニワイノシ.シガ アルッテヤヨー	
19	樫立1	オノ ヤマニャイノシシガ アルッチーヤヨ	
19	樫立2	アノ ヤマニャーイノシシガ アルチ (一)ヤヨー	
19	樫立3	イノシシガ {アルチーヤ / アララ}	
20	共通語	あれは学校だ。役場ではない。	備考
20	大賀郷1	ウリャ ガッコダラ. ヤクバジャ ナッキャ	
20		ウレワ {ガッコダ / ガッコデカ アレガ (学校であって)}	
20	大賀郷2	ヤクバ{ヂャ / デワ} ナッキャ	
20	三根 1	ウラ ガッコドージャ ヤクバデワナッキャー	
20	三根2	ウレワ ガッコダーヨー ヤクバ {ヂャ / デワ} ナッキャー	
20	末吉	ウリャー ノー ガッコ デカーレ ヤクバ デワ ナッキャー	
20	中之郷1	ウレワ (ヨ) ガッコダラヨー ヤクバ ヂャ ナッキャヨー	
20	中之郷2	ウレワ ガッコデカレ. ヤクバ デワ ナッキャヨー	
20	樫立1	ウクワ ガッコーデカレ. ヤクバジャ ナッキャ	
20	樫立2	オラ ガッコダッチ (一)ヤ. ヤクバヂャ {ナッキャ/ ナカ	
20	堂立. 2	チーヤヨー}	
20	樫立3	アレワ ガッコダラ. ヤクバ ヂャ ナッキャ	
21	共通語	あれが役場だ。	備考
21	大賀郷1	ウレガ ヤクバドーダラ // ウレガ ヤクバドーダレ	
21	大賀郷2	ウレガ ヤクバデカ アレガ	
21	三根 1	ウイガカ ヤクバダレー	
21	三根2	ウイガ ヤクバ {ダラー / ダーヨー}	
21	末吉	ウレ ガ カ ヤクバ ダンネー	
21	中之郷1	ウレガカ ヤクバダレガ	
21	中之郷2	ウレガ ヤクバ ダラ	
21	樫立1	ウクガカ ヤクバダレ	
21	樫立2	アレガカ ヤクバ{ヂャ / ダ}ニャー	
21	樫立3	アレガ ヤクバ ダラ	
22	共通語	あの目のおおきい,色の白い男はだれだろう。	備考

22	大賀郷1	ウノ メノ ボーケイロノ マシ・シロケ オトコワ ダレダッテ	
22	大賀郷2	ウノメノ {デッカケ / ボーケ}イロガ シロケ オトコワ ダレ ドー	
22	三根 1	' ウノ メンタマノ ボウケイロノ シロケ オトコワ ダイダロウ	
22	三根2	ウノメノ ボウケイロノ シロケ オトコワ ダイダローノー	
22	末吉	ウノメノボーケイロノシロケオトコワダレ {ダカナー/ダロー}	
22	中之郷 1	ウノ メノ ボオケ ヒトデイロノ シロケヒトワ ドコノ ヒト ドア	
22	中之郷2	ウノ マナコノ {ボーケ / デッカケとも}イロノ シロケ オノ コゴワ ダレ ダロー ノー	
22	樫立1	オノメノ ボーケイロノ シローケ オトコワ ダレダロー	
22	樫立2	アノメノ ボーケ オトコワ ダイダロー	補:「色が白い」はイロノ シロケ ヂャ (言い切り)「色の白い男」は 出てこず。 おそらくイロノ シロケ
23	共通語	孫が去年から東京にいる。	備考
23	大賀郷1	マゴワ キョネンカラ クニニ アロワ	
23	大賀郷2	マゴガ キョネン カラ クニニ アロワ (一)(いるよ)	
23	三根 1	マゴガ キョネンカラ クニン アロワ	
23	三根2	マゴガ キョネンカラ クニゲ (一)(スンデ)アロワー	
23	末吉	マゴメ ワ キョネン カラ クニニ アロワ	
23	中之郷1	マゴガ キョネンカラ クニニ アル ヂャ	
23	中之郷2	マゴガ キョネンカラ クニニイッタロ ワア	
23	樫立1	マゴガ キョネンカラ クニニ アロワ	
23	樫立2	マゴガ キョネンカラ クニニ アロヂャ	
23	樫立3	マゴガ キョネンカラ クニー イツテロワ	
24	共通語	孫はいつ東京から帰るか。	備考
24	大賀郷1	マゴワイツ クニカラ {モドルダロー / モドロドー}	
24	大賀郷2	マゴワ イツ クニカラ カエロドー	
24	三根 1	マゴワイツ クニカラ ケーテ クルカノー	
24	三根2	マゴワ イツ クニカラ ケイテ クル カノー	
24	末吉	マゴメ ワ イツ クニ カラ ケーロ	
24	中之郷1	モゴワ イツ クニカラ キャーテ {クルカ ノ / クロドア}	
24	中之郷2	マゴワ イツ クニカラ キャーッテ クロ (一) 🗸	
24	樫立1	マゴワ イツ クニカラ キャーロ	
24	樫立2	マゴワ イツ クニカラ キャールダー	
24	樫立3	マゴワ イツ トーキョーカラ キャールカ	
25	共通語	八月には帰ってくるようだ。	備考
25	大賀郷1	ハチガツニャ モドッテクルノーワ	
25	大賀郷2	ハチガツニワ カエッテ クルンヂャ ネーカ.	

25	三根 1	ハチガツニャ ケーテ クロゴンダーヨー	
25		ハチガツニワ ケーッテクル テイヤー	
25	末吉	ハチガツ ニワ ケエテ クロ ガンダーガイ	
25	中之郷1	ホチガツニワ キャーッテ クルッティーヤ	
25	中之郷2	ハチガツニャー キャーッテ クル ヨーダラヨー	*クロは不可
25	樫立1	ハチガツニワ キャーッテ クルチーヤヨ	× 100 1
25	樫立2	ハチガツニワ キャンヌワヨー	
25	樫立3	ナツヤスミニワ キャーッテ クルヨーダラ	
26		かあさんはあした東京へむすこに会いにいく。	備考
26		ホードノワ アシタ クニゲー ムスコニ アイニ イコワ	VIII V
	7 (20)	カーチャンワ アシタ クニゲ (一) ムスコニ {アイニ イコ	
26	大賀郷2	ダラ / アイニ イコワ }	
26	- 1 +11 1	カーチャンワ アス クニゲー ムスコニ アイニ イクテイヤ	
26	三根1	<u> </u>	
26	□ 拥 2	カーチャンワ アシタ クニゲー コドモニ アイニイツテ ク	
26	三根2	ロワー	
26	-1:-1:	ウラガ イェ ノ カーチャンワ アス クンイェ コドモニ アイ	
26	末吉	ニ イコ ワッテイッタララ	
26	中之郷1	カーチャンワ (サ) アス クニー イツテ コドモニ アッテ ク	
20	T K_7M) I	ロンテ ヨイ	
26	中之郷2	オッカチャンワ アス クニエ コドモニ イク.ッテイヤ	
26	樫立1	オッカチャンワ アス クニエ コドモニ アイニ イコワ	
26	樫立2	ホアワ アス コドモニ アイネ トーキョーニ イコワ	
27	共通語	大阪から東京までの汽車賃はいくらだろうか。	備考
27	大賀郷1	オーサカカラ トーキョーマデノ キシャチンワ イクラグレー	
21	八貝畑口	スルダロー	
27	大賀郷2	オーサカ カラ トーキョーマデノ キシャチンワ {イクラドー	
21	八貝加2	/ イクラ スルドー}	
27	三根 1	オーサカカラ トウキョーマデノ キシャチンワ イクラダロー	
21	IX I	ノー	
27	三根2	オーサカカラ トーキョーマデノ キシャチンワ イクラ ダロ	
	IX 2	ーノー	
27	末吉	オーサカ カラ トキョーマデ ノ デンシャ チン ワ {イクラ	
	/NI	ダロー / イクラダカノー}	
27	中之郷1	オーサカ カラ トーキョー マデ キシャチンワ イクラ ダカ	
	-	ンオアー	
27	中之郷2	オーサカカラ クニマデノ キシャチンワ イクラダカ ノー	
27	樫立1	オーサカカラ トーキョーマデノ キ.シャチンワ イクラダロ	

			<u> </u>
27	樫立2	オーサカラ キシャチンワ {イクラドー / イクラダロー /	
		イクラデオヂャロー (対目上)}	
	共通語	四時まで駅でまっておれ。	備考
28	大賀郷1	ヨジマデ エキデ マチタアレ	
28	大賀郷2	ヨヂマデ エキデ {マッタレヨ / マットヨ}	
28	三根 1	ヨジマデ エキデ マッタレ	
28	三根2	ヨヂマデ エキデ {マッテアレヨー / マチテアレヨー}	
28	末吉	ヨヂ マデ エキデ マッタレー	
28	中之郷1	ヨヂマデ ソコデ マッティァレ ヨー	
28	中之郷2	ヨヂマデ エキデ マッタレヨー	
28	樫立1	ヨジマデ イェキデ {マチロヨイ / マチ.テ アレヨイ}	
20		ヨヂマデ {マチテ ワセ オヂャレー (より丁寧らしい)/	
28	樫立2	マチテワセヨー}	
28	樫立3	ヨヂマデ エキデ マッタレ	
29	共通語	五時までに帰らなくてはならない。	備考
29	大賀郷1	ゴジマデニ モドリンノート ナリンナカ	
	t too too	ゴヂマデニ {カエリンノート ダラ / カエリノート ダメ ダ	
29	大賀郷2	ラ}	
		ゴジマデン {ケーリンナーバダラー / ケーナーバダラ	
29	三根1	-}	
29	三根2	ゴヂマデニ ケーリンナーバ ナリンナカヨー	
20		ゴヂ マデ ニ ケーリン ナート {ダメダーンテ / ダメドラヨ	
29	末吉	- }	
29	中之郷1	ゴチナデニ キャーラズニャ ドワガ	
20	H-4-/407 a	ゴヂマデニ (ワ) キャー{ラナク.テワ / リンナクテワ} ナリ	
29	中之郷2	ンナカ (ヨー / ノー)	
29	樫立1	ゴジマデニ キャーリンノアト ドアダラ	
29	樫立2	ゴヂマデニャ キャーラナキャダラヨー	
30	共通語	次郎,この荷物を家までかついで行ってくれ。	備考
30	大賀郷1	ジロー コノ ニモツー イェマデ カツンデ モッテイケ	
		<i>ずロー コノ ニモツオイエマデ カツイデ {モッテイットヨ /</i>	
30	大賀郷2	モッテットヨ}	
30	三根1	ヂロウ コノ ニモツー エマデ カツンデイツテケロ	
20	⊒ #8.2	ヂロー コノ ニモツオ エマデ カツイデ {イツテケー /イッ	イルコーは何ロッッ・十
30	三根2	h=-}	イットヨーは優しいい方。
20		ヂジロー コノ ノー ニモツーiエ マデ カツイデ イツテ	
30	末吉	ケロー	
	. J. J. J.np ⋅	 チルウ コノ ニモツ ワガヤマデ カツイデ モッテッテ ケ	
30	中之郷1	П	
30	中之郷 2	 デロー コノ ニモツオ イエマデ カツイデ イソテケロ	

30	樫立1	ジロー コノ ニモツ イエマデ カツッデイットー	
30	樫立2	ヂロー コノ ニモツェ {カツイデ タベヨ./ カツイデ タ モーレ (対目上)(「かついでくれ」のみか?)}	補:「行ってくれ」のみでは, ワシ テ タベ (対同等) ワシテ ケロ (対目下, 希) ワシテタモーレ (対目上)
31	共通語	荷物が重かったので、二人でもった。	備考
31	大賀郷1	ニモツガ オモカローデ フ.タリデ モタラ	
31	大賀郷2	ニモツガ オモケンテ フタリデ {モッタラ / モトー ダラ}	
31	三根 1	ニモツガ オモカローテ フタイデ サゲタラ	
31	三根2	ニモツガ オモカローテ フタリデ {モッテイカラー / モタ ラー}	
31	末吉	コノ ノー ニモツガ {オモクテ / オモケデ} フタリ デ カ モターダ {レー / ガー}	
31	中之郷1	ニモツガ オモケデ フタリデ ヤットデ モテイコラ	
31	中之郷2	ニモツガ オモケンテ フタリデ サゲタラ	
31	樫立1	ニモツガ オモク.テ (重くて) フタリデ モタラ	
31	樫立2	ニモツガ オモカローヤニ フタリデ モタラ	
32	共通語	この上着はこのまえ沖縄で二千円で買った。	備考
32	大賀郷1	コノ ウワギワ コノメー オキナワデ ニセン エンデ カワラ	
32	大賀郷2	コノ ウワギワ コノマエ オキナワデ ニセネンデ カワラー	
32	三根 1	コノ ウワギワ コノメー オキナワデ ニセン エンデ {カット ジャ / カッタラー}	「買った」カオードージャ / カオ ージャ
32	三根 2	コノ フクワ コノメー オキナワゲー {イコトキニ / ニセネン デ} {カッテキタラー / カワラー}	
32	末吉	コノ ノー ウワギ ワ コノメー オキナワ デ ニセネンデ カ ワー ヂャ	
32	中之郷1	コノ ウワギ ワ サ コノ ミャー オキナワデ ニセン'エンデ カッテ キトア ヂャ	
32	中之郷2	コノ ヘビラワ コノ ミャー オキナワデ ニセネンデ {カッタ ラ / カッテキタラ}	
32	樫立1	コノ ウワギワ コノミャー オキナワデ ニセンエンデ {カッ タラ / カワラヨー}	
32	樫立2	コノ シャツワ コ/ミャー オキナワデ ニセン イェンデ カ ワラ (ヨ)	
33	共通語	沖縄にはめずらしい菓子がある。	備考
33	大賀郷1	オキナーニャ メズラシケ カシガ アロワ	
33	大賀郷2	オキナワニワ メゾラシケ カシガ {アロワ / アロワノー / アロヂャ}	
33	三根1	オキナワニャ メズラシケ カシガ アロワ	
33	三根2	オキナワニワ メヅラシケ カシガ アロワヨー	

33	末吉	オキナワ ニワ ノー メヅラシケ カシ ガ アロワ	
	-L. L./HZ 4	オキナーニワ メゾラシケ カシガ {イッピャ / シッカリ}	
33	中之郷1	アロワヨ	
33	中之郷2	オキナワニワ メズラシケ カシガ アロ (ワ)(ノー)	
33	樫立1	オキナーニワ メズラシ.ケ カシガ アロジャ	
33	樫立2	オキナワニャー メヅラシケ カシ.ガ アロワヨー	
33	樫立3	メズラシケ カシガ アロワ	
34	共通語	孫はお菓子が好きだ。	備考
34	大賀郷1	マゴワ カシ.ガ ス.キダラ	
34	大賀郷2	マゴワ オカシガ {スキダラ / スキドーダラ}	
34	三根 1	マゴワ カシガ スキダラ	
34	三根 2	マゴワ カシガ スキ {ダーヨー / ダラ}	
34	末吉	マゴメ ワ カシガ スキダー ヂャ	
34	中之郷1	マゴワ カシ.シガ ダイスキ ドゥヂャ	
34	中之郷2	マゴワ カシガ スキダラ	
34	樫立1	マゴワ カショ スキダラヨー	
34	樫立2	マゴワ カシ.ガ スキダラヨー	
34	樫立3	マゴワ オカシガ スキ ダラ	
35	共通語	箱の中にまんじゅうがいくつあるとおもうか。	備考
35	大賀郷1	ハコノ ナカン マンジューガ イクツ アルト オモー	
35	大賀郷2	ハコノ ナカニワ マンヂューガ イクツ アロカ{シッタロカ /	
33	八貝畑2	ショケカ}	
35	三根 1	ハコン ナカニ マンヂューガ イクツ アルト オモーロ	
35	三根2	ハコノナカニ マンヂューガ イクツ アルト オモウカ	
35	末吉	ハコノ ノー ナカニ マン ヂューガ イクツ アルト オモー	
35	中之郷1	ハコノナカニャ (サ) マンヂューガ イクツ アルト オモ	
		ハコノ ナカニ イクツ マンヂューガ アルト オモー / イク	
35	中之郷2	ツ ヒャーッタルト オモー (いくつ入っていると思うか。)	
35	樫立1	ハコン ナカン マンヂューワ イク.ツ アルト オモー	
	Lucy_! -	ハコノナカニ マンヂューガ イク.ツ アロ (いくつある)(「と	
35	樫立2	思うか」は NR)	
36	共通語	孫はまんじゅうを皮だけ食べる。	備考
36	大賀郷1	マゴワ マンジューヨ コーベダケ カムワ	
26	十岁9年	マゴワ マンヂューオ カワダケシカ {カミンナカ / カミンノ	
36	大賀郷2	ーダラ}	
36	三根1	マゴワ マンジューヨ コーベダケ カモワ	
36	三根2	ワガイノ マゴワ マンヂューウォ カワダケ カモワ	
36	末吉	マゴ ワ マンヂューヨ カーベ ダケ カムワ	
			

	I		
36	中之郷1	マゴワ マンヂュウノ クヮーベダキイイ ウマガッテ カモ ヂャー	
36	中之郷2	マゴワ マンヂュー{オ / ノ} コア ダケ カモ ワ	
36	樫立1	マゴワ マンジューヨ コアダケ カモワヨー	
36	樫立2	マゴワ マンヂューヨ コアベダケ カモワ	
37	共通語	じいさんは朝から海へ魚をとりにいった。	備考
37	大賀郷1	ヂーチャン ワ トンメテカラ ウミゲー ヨー トリイ デタラ	
2=		デーチャンワ アサカラ ウミ {ニ / イェ} サカナオ トリニ	
37	大賀郷2	{イカラ / イッタラヨー}	
37	三根 1	デイサンワ トンメテイカラ ウミゲー ヨウトリ イカラ	
27	—±= 2	ワガイノ ヂーチャンワ トンメテカラ ウミゲー ヨートリニ イ	
37	三根2	カラ	
37	末吉	ヂーサンワ ノー トンメテカラ ウミゲー ヨー トリニ・イカラ	
27	→ - - - - - - - - - -	デーチャンワ トンメテカラ ハミャア サカンオア トリ ニ イ	
37	中之郷1	クワヂャ	
37	中之郷2	ヂーサン トンメテカラ ウミエ ヨー トリニ イ(カ)ラ	
27	版字 1	ジーチャンワ トンーメテカラ ウミ サカノア トリー {オヂャ	
37	樫立 1	ッタラ / オヂャララ}	
37	樫立2	ヂーサンワ トンメテカラ ヨーツリ イカラ	
38	共通語	ここは海にちかいので魚がうまい。	備考
38	大賀郷1	ココワ ウミン チカケンテ ヨガ ンーマキャ	
38	大賀郷2	ココワ {ウミニ / ウミゲー} チカケンテ サカナガ {ウマキ	
36	八貝州2	ャ/ンマキャ}ノー	
38	三根 1	ココワ ウミゲー チカケンテ ヨガ ンーマキャー	
38	三根2	ココワ ウミニ チカケンテ ヨガ ンマキャノー	
38	末吉	ココワ ノー ウミニ チカケンテ ヨガ {ウマケダラ / ンマ	
36	八日	ケダラ}	
38	中之郷1	ココワ (サ) ハマニ チカケデ ヨガ ウマキャ ノー	
38	中之郷2	ココワ ウミニ チカケンテ ヨガ ンマキャ	
38	樫立1	ココワ ウミニ チ.カカデ {ヨ / サカナ} ガ ウンマキャ	
38	樫立2	ココワ ウミニ チカケイテ サカナガ ウンマキャ	
39	共通語	魚より肉のほうが高い。	備考
39	大賀郷1	ヨヨリ ニクノ ホーガ タカキャ	
39	大賀郷2	サカナヨリ ニクノ ホーガ タカキャヨー	
39	大賀郷3	{サカナ / ヨ (古)}ヨリ ニクノ ホーガ タカキャノー	タカケヂャ (高い〈独白〉)タカキャ (高い)
39	大賀郷4	{ヨ / サカナ} ヨリ ニクノ ホーガ タカキャ	
39	三根1	イヨヨリ ニクノホーガ タカキャー	
39	三根3	ヨヨリ ニクノ ホーガ タカキャ (ノー)	ノーはやわらげ
39	三根4	ョョリ ニクノ ホーガ タカキャ ノー	
		ı	ı

39	末吉	ヨヨリ ニクノ ホーガ タカキャ	
39	末吉	ヨヨリ ニクノ ホーガ タカキャ	
39	中之郷1	ヨヨリ ニクノ ホオーガ タカキャ ヨー	
39	中之郷 2	ヨヨリ ニクノ ホーガ タカキャ	
39	中之郷3	ココリ ニクノ ホーガ タカキャノー	
39	中之郷4	{サカナ / ヨ} {ヨリ / ヨリワ / ヨリカ / ヨリカワ} {ニクガ / ニクノ ホウガ} タカキャ	ョリワをヨリャと言うのは古い言い 方。オウは弱い二重母音で[オ ー]にも (以下同じ)。
39	樫立1	ヨヨリ ニクノ ホーガ タ.カキャノー	
39	樫立4	ヨヨリ ニクガホー タカキャーヨー	
40	共通語	おれは蛸のさしみが食べたい。	備考
40	大賀郷1	ワリャ タコメノ サシミョ カミタキャ	
40	大賀郷2	ワヤ タコノ サシミガ {カミタキャ / タベタキャ}ノー	
40	大賀郷3	ワヤー タコノ サシミガ クイタキャ (ノー)	
40	大賀郷4	ワレワ タコノ サシミガ タベタキャノー	
40	三根 1	ワイワ タコノ サスミガ カミタキャ	
40	三根3	ワラ タコノ サシミガ {カミタキャー / タベタキャー}	サは[ス]にも聞こえる。
40	三根	アラ タコノ サシミガ カミタキャ ノー	
40	末吉	アラ ノー タコメノ サシミガ カミタキャ	
40	末吉	アリャ タコ (メ)ノ サシミョ カミタキャ	
40	中之郷1	ワラ タコメノ サスミョ カミタキャ	
40	中之郷2	アラ タコメノ サシミガ タベタキャ	サシミオ も可
40	中之郷3	アラ (一) タコノ サシミガ {カミタキャノー / カミタキャヨ ー}	
40	中之郷4	{ワラ / アラ} {タコノ / タコメノ} サシミョ {タベタキャ / カミタキャ (古)}	タコメ は最近は言わない。「俺」 はワレ / アレ
40	樫立1	ワラ タ.コメノ サシミョ カミタキャ	
40	樫立3	ワレワ タコノ サシミガ {タベタキャ / カミタキャ}	
40	樫立4	ワラ タ.コノ サシミョ カミタキャ	
41	共通語	おまえはこの魚の名まえを知っているか。	備考
41	大賀郷1	ナリャ コノ ヨノ ナメーヨ ショケカ	
41	大賀郷2	オマエワ コノ サカナノ ナマエオ {ショケカ / シッタロカ}	
41	大賀郷3	オマエワ コノ サカナノ ナマエオ ショケカ	オメ (〈目下に対して〉おまえ)ウ ンヌ (相手を軽んじたとき)
41	三根 1	ウニャ コノ ヨノ ナメーオ シ.ヨケカ	
41	三根3	オメワ コノ ヨノ ナメーオ シッタロカー	オメは今は目上目下どちらにも使 う。 昔は目上へはオンミー
41	三根4	オメワ コノヨノナマエオ {ショコーヂャロカー (対目上)/ショケカー (対同等)}	

41	末吉	ウニャー コノ ヨノ ナメエ ヨ ショケカ.	
41	末吉	オマイワ コノ ヨノ ナメーヨ ショケカ	オメは年輩の人に使う。オミはさらに丁寧。
41	中之郷1	オミャワ コノヨノ ナミャーヨ ショケノア	
41	中之郷2	ウナ コノ ヨノ ナミャ (一)オ ショケカ	
41	中之郷3	オミャワ コノ ヨノ ナミャーウォ ショケカ	
41	中之郷4	ウナ コノ ヨノ ナミャーヨ ショケカ (イ)	「お前が」はウンガ。「お前を」は ウヌー。
41	樫立1	オミャワ コノ ヨノ ナミャーヨ オビータ (ショケカとは言わない)	
41	樫立4	オミワ コノ サカナノ ナミャーヨ オビートアカ	
42	共通語	これはかつおだろう。	備考
41	大賀郷4	オマエワ コノ{ヨ / サカナ}ノ {ナマエ / ナメー}オ ショ ケカ	
42	大賀郷1	コリャ カツー ダンノージャ	
42	大賀郷2	コヤ {カツオ ダラ (ノー)/ カツオデ ネーカ}	
42	大賀郷3	コレワ {カツオ / カツー (古)} ダロー	
42	大賀郷4	コレワ カツオ ダラ ヨー	
42	三根1	コラー カッツウ ダロー	
42	三根3	コリャ カツ ダロー	
42	三根4	コラ カツオ {ドーヂャロア ノー (対目上)/ ダーノー (対同等)}	
42	末吉	コリャー カツー {ダン ノーヂャ / ダロー}	
42	末吉	コリャ カツーダロー	
42	中之郷1	コラ カツウ ドア ヂャ	
42	中之郷2	コラ カツオ ダロー	
42	中之郷3	コラ カツオ ダロ	
42	中之郷4	コラ {カツオ / カツー} {ダンノージャ / ダロウ}	カツーは漁師の言葉。
42	樫立1	コリャー カ.ツ ダロー	
42	樫立4	コラ カツ {ダロー / ドアヂャ (断定的ないい方)}	
43	共通語	酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう?	備考
43	大賀郷1	サケーワ アダンシテ ツクルカ ナレワ ショカンノージャ	
43	大賀郷2	サケワ ドガン{シテ / ヤッテ} ツクルカ オマエワ {シッタ ロカ / ショケカ}	
43	大賀郷3	サケワ アダンシ・テ ツクルカ オアメワ ショケカ	
43	大賀郷4	コノ サケワ ドゴン ヤッテ ツクッタルカ オマエワ {ショイ ダロー / ショケカ}	
43	三根 1	サケイワ {ドゴン ヤッテ / アダンシテ} ツクルカ オメワ ショケカ	
43	三根3	サケーワ {ドガンヤッテ / ドガンシテ} ツクロカ オメワ シ	

		ッタ「ルー	
		サケワ アダン・ヤッテ ツクルダローノー オメワ {シット	
43	三根4	デャロカ / ショコーデャロカー }	
43	末吉	サキーワ アダンシ・テ ツクルカ オマイワ シーダロー	イは良く無声化するがウは無声 化しにくい。
43	中之郷1	サキーワ アダン シテ ツクルカ オミャワ ショケカ	
43	中之郷3	サケワ アダンシテ ツクルカ オミャワ {ショケカ / シーダ ロー (誘導)}	シーダローの方が良い。
43	中之郷4	サキーワ {ドガン / アダン}シ.テ {ツ.クロカ / ツ.クルカ (新?)} ウナ {ショカンノージャ (古) / シーダロー (新)}	
43	樫立1	サ.ケワ アダンシ.テ ツ.クルカ オビータロー	
43	樫立3	サケワ ドーヤッテ ツクルカ {オミワ / オミャワ} オビート ーカ	
43	樫立4	サキーワ アダンシテ ツクロカ オミワ オビータロー	
44	共通語	酒は米からつくる。	備考
44	大賀郷1	サケワ コメカラ ツクロワ	
44	大賀郷2	{サケワ / サケイワ} コメカラ {ツクル / ツクル ダンノー ヂャ}	
44	大賀郷3	サケワ コメカラ {ツクロワ (つくるよ)/ ツクロヂャ (つくる< 断定>)/ ツクロドーヂャ (つくるんだよ)}	
44	大賀郷4	サケワ コメカラ {ツクロ (一)ヂャ / ツクッタロワ (ツクッタロチャ 作っているだろう の意)}	
44	三根 1	サケワ コメカラ ツクローワ	
44	三根3	サケーワ コメカラ ツクロワ	
44	三根4	サケワ コメカラ ツ.クロワノー	
44	末吉	サキーワ コメカラ ツ.クル	
44	中之郷1	サキーワ コメカラ ツクル ドア ヂャ	
44	中之郷3	サケワ コメカラ ツクロヂャー	
44	中之郷4	サキーワ コメカラ {ツ.ロジャ / ツ.クロワ}	{ツクッタロジャ / ツクッタロワ} 「作っているよ」。
44	樫立1	サケワ コメカラ ツクル ノージャ	
44	樫立3	サケワ コメ カラ ツクロワ	
44	樫立4	サキーワ コメカラ ツクロヂャ	
45	共通語	酒さえあればなにもいらぬ。	備考
45	大賀郷1	サケセー アレバ アンニモ イリンナッキャ	
45	大賀郷2	サケセー アレバ ア (一)ンニモ イリンナカ	
45	大賀郷3	サケ{ガ / ガセー } アレバ アンニモ { イリンナカ (いらない)/ イリンナッキャ (強い表現)}	
45	大賀郷4	サケガ アレバ (ノー) アンニモ ナクテ ヨケヂャ.	
45	三根1	サケセー アレバ アンニモ ヨッキャー	
	1		

45	三根3	サケセー アレバ アンニモ イリンナカ (一)	
45	三根4	サケセー アレバ アンニモ イリンナカノー	
45	末吉	サケセー アレバ アンニモ イリンナカ	
45	中之郷1	サケ シャ アレバ アンニモ ヨッキャ	
		サケサエ アレバ アンニモ {ヨッキャ / イリンナカ (誘	
45	中之郷3	導)}	イリンナカ の方が良い。
45	中之郷4	サケダケ アレバ アンニモ {イリナコジャ / イリンナカ}	セーは使わない。
45	樫立1	サケ.シャー アレバ アンニモ ヨッキャ	
45	樫立3	サケ サエ アレバ アンニモ イリンナカ	
45	樫立4	サケシャー アリャー {アンニモ インナカ / ヨッキャー}	
46	共通語	うちのじいさんは酒もたばこものまない。	備考
46	大賀郷1	ワガイノ ヂーチャンワ サケーモ タバコーモ ノミンナカ	
46	大賀郷2	ワゲーノ ヂーチャンワ サケモ タバコモ アンニモ ノミン	
40	八貝州 2	ナカ	
46	大賀郷3	ワガ エノ ヂーサンワ サケモ タバコモ {ノミンナカ (飲ま	(古)オーサマ (じいさん)
40	八貝畑3	ない)/ アガリンナカ (召し上がらない一敬語)}	
46	大賀郷4	ワガエノ ヂーチャンワ サケモ タバコモ アンニモ {ノミ	
40	八貝和4	ナカ / バンノーヂャ}	
46	三根1	ワガエノ ヂイサンワ サケイモ タバコウモ ノミンナカー	
46	三根3	ワゲーノ ヂーサンワ サケーモ タバコーモ パンナカ	
46	三根 4	ワゲーノ ヂーチャンワ サケーモ タバコーモ ノミンナカノ	
40		<u></u>	
46	末吉	ワガイノ ヂーサンワ サキーモ タバコーモ バンナカ.	
46	中之郷1	ワガエーノ ヂーサンワ サキーモ タバコーモ ノミンナカ	
46	中之郷3	ワガイノ ヂーチャンワ サケモ タバコモ ノミンナカ	
		ワガ イェ ヂーチャンワ サキーモ タバコウモ {ノミンナカ	「おじいさん」はトトーとも言うか。
46	中之郷4	/ /ミナコジャ}	「飲まない」の丁寧な言い方。ミ
		7 / 2 ()	ャーリンナカ。
46	樫立1	ワギーノ ジーチャンワ サキーモ タバコーモ アガリンナ	
	1-1	カ (敬語)	
46	樫立3	ワガヤノ ヂーチャンワ サケモ タバコモ ノミナカ	
46	樫立4	ワギーノ オヂチャンワ サキーモ タバコーモ ノミンナカ	
47	共通語	その水はのむな。のむならこの水をのめ。	備考
47	大賀郷1	ソノミズワ ノムナ. ノモダーバ コノ ミズー ノメ	
47	大賀郷2	ソノ ミヅワ {ノメンナカ / ダメダラ} ノモダーバ コノ ミヅ	
		オ {ノメ / ノメバ ヨカヂャ}	
47	大賀郷3	ソノ ミズワ ノムナヨ. ノモラーバ コノ ミズオ ノメヨ (一)	
47	大賀郷4	ソノ ミズワ ノムナヨー {ノムトキャー / ノムンダッタラ} コ	
		ノ ミズオ <i>ノメ</i> ヨー	
47	三根 1	ソノ ミズーワ ノムナ. ノムダーバ コノ ミズー ノメ	

	三根3	ソノミズーワ ノムナヨ {ノモダラ (バ)/ ノムンダラ / ノモ	
47		ダーバヨ} コッチノ ミズー {ノメ (目下へ)/ ノミヤレ (目上	
		^}	
47	三根 4	ソノ ミズワ ノミンナカヨー. ノモダーバ {コノ / コッチノ}	
.,		ミズー /ミヤレヨー	
47	末吉	ソノ ミズーワ ノムナ. ノモダラバ コノ ミズー ノメ	ダラバは[ダーバ]にも。
47	中之郷1	ソノ ミズワ ノムナヨー ノモダラバ コッチノ ミズウ ノメ	
47	中之郷3	ソノ ミヅワ ノムナ. {ノムナラ / ノモダラバ} コノ ミヅオ ノ	
47	1 × 2/14/2 J	*	
47	中之郷4	ソノ ミズーワ ノミナヨー. ノモダラバ コノ ミズー {ノメ /	{ノミヤレ / アガリヤレ}は丁寧な
47	↑ 	/ミヤレ / アガリヤレ}	言い方。
47	樫立1	ソノ ミズーワ ノミナ. ノマバ コッチノ ミズー ノメ	
47	樫立3	ソノ ミズワ ノムナヨ. ノムナラ コノ ミズオ ノメ	
47	樫立4	ソノ ミヅワ ノムナ. ノミタカラバ コノ ミヅ ノメ	
48	共通語	なぜおまえはたべないのか。	備考
48	大賀郷1	アンデ ナレワ {カミンノー / カミンノードー}	
48	大賀郷2	アンデ オマエワ カミンノー	
48	大賀郷3	アンデ オマエワ カミンノー	
48	大賀郷4	アンデ オマエワ {タベンノーカ / カミンノー (カ)}	
48	三根 1	アンデ ウニャ カミンノードー	
48	三根3	アンデ (×アッデ) オメワ {カミン「ノー / カミンノー「カ}	目上へはアガリンノーカー
40	→±= ,	アンデ オメワ {アガリンノー / アガリヤラナイノー (丁	
48		寧)}	
40		アンデ オマイワ {カミンナーニ / カミンナーダ /(目下に)	
48	末吉	カミンナー /(目上に) メーリンナーミ}.	
48	中之郷1	アンデ オミャワ カミンナコドゥ	
48	中之郷3	アンデ オミャワ {カミナイ / カミナコカ}	
		{アンデ / アッデ (古)} ウナ {タベナコ (一)(イ)/ カミナ	「お前」はウヌ。「 (自分が)食べな
48	中之郷4	コ (一)(イ)(古)}	い」はカミナカ。
48	樫立1	アッデ オミャワ カミンノア	
	Inter 1	アッデ {オミワ / オミャワ (目上の人)} {カミンノアカー /	
48	樫立4	アガンノーカ / アガン ノアカー}	
49	共通語	おれはさつまいもなんか食べないぞ。	備考
49	大賀郷 1	ワリャ カンモンセー カミンナカ	
		ワヤ サツマイモンセー {カミンナイヅォー / カミンナカヨ	
49	大賀郷2	- }	
49	大賀郷3	ワヤ カンモンセーワ カミンナカ	
49	大賀郷4	ワイワ ノー カンモ ワ(ア) カミンナカヨー	
49	三根1	ワイワ カンモンセー カミンナカヨー	
49	三根3	ワラ カンモンセーヨワ {タベンナカー / カミンナカー}	タベンナカー は新しい言い方
47	IX J	2/ WA CA C 3/ (2. A) W W/A) W . }	/ Y / M (4枚)(CK, 旦 K, 7)

49 末吉 アリャ サツマンチェー (ヨ)ワ カシネー (ゾ) 49 中之郷 1 ワラ サツマンシャー カシナカ日 49 中之郷 2 アラ サツマンシャー カシナカ日 49 中之郷 4 (アラ / ワラ) {サツマンシャーヨワ / カンモンシャーヨワ } 49 標立 1 ワラ サツモアワ カシナカ カジナカ 49 標立 1 ワラ サツモアワ カシナカ カジナカ 49 標立 4 ワワー (カンモシャーワ / カンモリ } 50 共産部 5 う食 ペシは な言は 方) 50 大震郷 1 ハヤ カメロモ / ワ センブ カマラ 50 大震郷 3 ハヤ カメロモ / ワ センブ カマラ 50 大震郷 4 マーカモ / フ・ア・フ・カンモ / フ・ア・カメロモ / ワ センブ カマラ 50 大震郷 4 マーカ ナーフ・シナ・カンデ (シマッタラー / カッテ シャララー) 50 三根 1 ハーカメロモ / ワ センブ カンテ シモウララ 50 三根 1 ハーカメロモ / ワ センブ カンテ シモウララ 50 三根 4 モーカン ・ モノ ワ シンナ・カエア チャー 50 中之郷 1 (カム / カエ モノワ ハラ シナ・カモア チャー 50 中之郷 1 (カム / カエ モノワ ハラ シナ・カモア チャー 50 中之郷 4 ハラ カメロ モノーワ センブ (カンタ) 50 中之郷 4 ハラ カメロ モノーワ センブ (カンタ) 50 中之郷 5 (カマラ) 50 中之郷 7 アッカメロ モノーワ センブ (カンタ) 50 東道 1 ハラ カメロ モノーワ センブ (カンタ) 51 大震郷 1 ハラ カメロ モノーワ センブ (カンラ) 52 大震郷 1 ハラ カメロ モノーワ センブ (カンラ) 53 大震郷 1 ハラ カメロ モノーワ センブ (カンタ) 54 大震郷 1 ハラ カメロ モノーワ センブ (カンタ) 55 大震郷 1 ハラ カメロ モノーワ マンナ カマラ 56 大震郷 1 ハラ カメロ モノーワ ヤンブ (カンタ) 57 大震郷 2 カンデ ネルダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナンドージャー・デャー カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナンドージャー・デャー カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナンド ・デャー コメト (インショ オンナブ) ドーチャー コメト (インショ オンナブ) ドーチャー コンド ハンディルダケケーバ イヌメヤ ネッコメトオンナンド フッパ ハンディ (ハラ ア) ネロダケケ メーバ イヌメヤ ネッコメトオンナンドクラ カンディ (ハラ ア) ネロダケケーバ イヌメヤ ネッコメトオンナンドクラ カンディ にカンディ (ハラア) ネロダケケーバ イヌメヤ ネッコメトオンナンドクラ カンディ (ハラア) ネロダケケーバ イヌメヤ ネッコメトオンナンドクラ カンディ (ハラア) ネロダケゲーバ イヌメヤ ネッコメトオンナンドクラ カンディ (ハラア) ネロダケゲーバ イヌメヤ ネッコメトオンナンドクラ カンディ (ハラア) ネロダケゲーバ イヌメヤ ネッコメトオンナンドクラ カンディ (ハラア) インメイン・ア・ディー	49	三根4	アラ カモーワ {カミンナッカー / カミンナカ}	
49 中之郷3 アラ サツマンシャー カミナカヨ 中之郷4 (アラ / ワラ) {サツマンシャーヨワ / カンモンシャーヨワ } (タベナキャ / カミナキャ) クロットカンモンシャーヨワ } (タベナキャ / カミナキャ) クロットカンモンシャーヨワ } (タグナキャ / カミナキ) グラー (カンモンシャーヨワ / カンモンシャーヨワ / カンモワ / カントカ / カントカン・ ナンデ シャックラー / カン カント モノワ センブ カマラ / カンド シャックラ / カンタ / フラ / カント シャックラ / カンタ / ロー) シャーララー カンチ (アー) シャーカー / カントカント (アー) シャーカー / カンタ (アー) シャーカー / カンタ (アー) カンタ (アー) カンタ (アー) カンタ (アー) カンタ (アー) カンタ (アー) カント (アー) カンタ (アー) カンタ (アー) カンタ (アー) カンタ (アー) カンタ (アー) カンタ (アー) カント カモア デー / カンタ (アー) カント モノワ ゼンブ カマラ / カンチ (アー) カンタ (アー) カンタ (アー) カント カモア デー / カンタ (アー) カント モノワ ゼンブ カマラ / カンタ (アー) カント モノワ ゼンブ カマラ / カント・カー / カンタ / カント・カー・カンタ (アー) カント・カー・カンタ カンド・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カー・カント・カント・カント・カント・カント・カント・カント・カント・カント・カント	49			
49 中之郷4 (アラ / ワラ ドウ アンシャーヨワ / カンモンシャーヨワ (タベナキャ / カミナキャ) 49 樫立 1 ワラ サツモアワ (カミナカ / カミナカ) 49 樫立 3 ワレワ サツマ ナンカ カミナカ カンモシャーワ / カンモリ (カミナカ / クイン ナカ (ぞんざいな言い方)) 50 共通部 らう食べれるものは全部食べた。	49	中之郷 1	ワラ サツマンシャーワ カミンナカヨ	
49 甲立郷 4	49	中之郷3	アラ サツマンシャー カミナカヨ	
49 標立1 ワラ サツモアワ (カシナカ / カミナカ) 49 標立3 ワレフ サツマ ナンカ かミナカ 49 軽立4 サラー (おンモシャーワ / カンモリ) (カミナカ / クインンナカ (ぞんざいな言い方)) 50 共通語 もう食べられるものは全部食べた。 備考 50 大質郷1 ハヤ カメロモノワ ゼンブ カマラ 50 大質郷3 ハヤ カメロモノワ ゼンブ カマラ ハウ カメロモノワ ゼンブ カマラ 50 大質郷4 モー ウモ (一)モノワ ミンナ カンデ シマウララ 50 三根1 ハウ カメロモノワ ゼンブ カマラ 50 三根1 ハウ カメロモノウ ゼンブ カマラ 50 三根2 ハラ カメロモノウワ ゼンブ カンデ シモウララ 50 三根3 ハラ カメロモノウワ ゼンブ カマラ 50 三根4 モー カメル モノワ センブ カマラ 50 中之郷1 (カメロ / カギー モノワ ジンナ カマラ 50 中之郷3 カンデ メークリ ジンナ カモア ザャー 50 中之郷3 カンデ ネリカレ モノウワ ジンナ カマラ 50 中之郷4 ハラ カメロ モノーワ ゼンブ カマラ 50 中之郷4 ハラ カメロ モノーワ ゼンブ カマラ 51 大質郷3 カンデ ネルダケダーバ イヌメヤ ネッコ外オンナンドージャー 51 大質郷3 カンデ ネルダケダーバ イヌメヤ ネッコ外オンナンド・デャー 51 大質郷3 カンデ ネルダケダーバ イヌメヤ ネッコ外オンナンド・ブッコ メト (インショ パナンナジ ドーチャー 51 大質郷3 カンデ ネロダケナラ / ネテシマエバ) イヌメト ネッコ外オンナンジラ 51 上番3 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコ外オンナンジラ 51 上番3 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコ外オンナンジラ 51 上番3 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコトオンナンジラ 51 上番3 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコトオンナンジラ 51 ト質郷4 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコトオンナンジラ 51 ト質の 51 トグの 52 トグの 53 トグの 54 トグの 55 トグの 56 トグの 57 トグの 58 トグの 59 トグの 50 トグの 50 トグの 50 トグの 50 トグの 51 トグの 52 トグの 53 トグの 54 トグの 55 トグの 56 トグの 5		I I I I I I	{アラ / ワラ} {サツマンシャーヨワ / カンモンシャーヨワ}	
49 極立 3	49	中之郷4	{タベナキャ / カミナキャ}	
# 2 4	49	樫立1	ワラ サツモアワ {カミンナカ / カミナカ}	
#2	49	樫立3	ワレワ サツマ ナンカ カミナカ	
サカ (ぞんざいな言い方) 50	40	LETT_L	ワラー {カンモシャーワ / カンモワ} {カミナカ / クインン	
50 大賀郷1 ハヤ カメルモノワ ゼンブ カマラ 50 大賀郷3 ハヤ カメロモノワ ゼンブ カマラヨ. 50 大賀郷3 ハヤ カメロモノワ ゼンブ カマラヨ. 50 大賀郷4 モー カモ (ー)モノワ ミンナ カンデ (シマッタラ / シマッタ タ (ヨー) / シモーララー] 50 三根1 ハー カメロモノウワ ゼンブ カンデ シモウララ 50 三根2 モー カメル モノーワ ミンナ カマラー 50 三根3 ハラ カメロ モノーワ ミンナ カマラー 50 三根4 モー カメル (新) モノーワ メンナ (カマラー) 50 中之郷1 (カメロ / カモ] モノワ ハラミンナ カモア デャー 50 中之郷3 ハラ カメル モノワ ゼンブ (カンダ) / カモワーデャ / カマラ] 50 中之郷3 ハラ カメロ モノーワ ゼンブ カマラ 50 整立1 ハラ カメロ モノーワ ゼンブ カマラ 50 整立1 ハラ カメロ モノーワ ジンナ カマラ 50 整立1 ハラ カメロ モノーワ ジンナ カマラ 51 共通語 食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。 備考 51 大賀郷1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコ外オンナジドーデャー 51 大賀郷3 カンデ ネロダケダーバ イヌネロネンナンドーデャー 51 大賀郷4 カンドッテ ネルダケナラ / ネテシマエバ) イヌメト ネッコ外オンナジドーデャー 51 大賀郷4 カンドッテ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコ外オンナジグラ 51 大賀郷4 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコ外オンナジグラ 51 大賀郷4 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコ外オンナジグラ	49	樫立4	ナカ (ぞんざいな言い方)}	
大質郷2	50	共通語	もう食べられるものは全部食べた。	備考
50 大賀郷2 マララ / カンデ シマララ カンデ シマララ カンデ シマララ カンデ シマララ シマッタラ シマックラ シャーカル モノーワ ジンナ カマラ ション カンル モノーワ ジンナ カマラ カンダ (新) モー カメル モノーワ ジンナ カモア ギャー カンダ (新) モン郷3 ハラ カメル モノワ ゼンブ (カンダゾ / カモワーギャ / カマラ カンド カルル モノーワ ゼンブ (カンダゾ / カモリーチャ / カマラ カンド カルル モノーワ ゼンブ カマラ タベラレルをタベラレロに近くも 発音。	50	大賀郷1	ハヤ カメロモノワ ゼンブ カマラ	
マララ / カンデ シマララ ママララ / カンデ シマララ ファックラ / カンデ シマララ ファックラ / カンデ シマックラ / シマックタ (ヨー) / シモーララー ファックラ / シマックタ (ヨー) / シモーララー ファックラ / シマックタ (ヨー) / シモーララー ファックラ / シャワ センブ カンデ シモウララ ファック カンド モノーワ シンナ カマラ ファック (新) モー カメル モノーワ ジンナ カマラ カンダ (新) モー カメル (新) モノーワ メンナ (カマラ / カンダ (新) カンダ (新) エノーワ ゼンブ (カンダ / カモワーデャ / カマラ カンド エノワ ゼンブ (カンダ / カモワーデャ / カマラ カンラ カメロ モノーワ ゼンブ カマラ タベラレルをタベラレロに近くも 発音。		1 70/07 2	ハヤ カメル モノワ ミンナ {カモーテ シマッタラー / カ	
50 大賀郷4	50	大質郷2	マララ / カンデ シマララ}	
50 大賞郷4 夕 (ヨー) / シモーララー } 50 三根1 ハーカタロモノウワ ゼンブ カンデ シモウララ 50 三根3 ハラカメロ モノーワ ミンナ カマラ 50 三根4 モーカメル モノワ ゼンブ カマラー 50 末吉 ハリャ {カメル / 新入! (新)} モノーワ メンナ {カマラ / カンダ (新)} 50 中之郷1 (カメロ / カモ) モノワ ゼンブ (カンダノ / カモワーデャ / カマラ) 50 中之郷3 ハラ カメル モノワ ゼンブ (カンダノ / カモワーデャ / カマラ) 50 中之郷4 ハラ タベラレル モノウワ ミンナ タベタラ 50 樫立1 ハラ カメロ モノーワ ゼンブ カマラ 50 樫立4 ハラ カメロ モノーワ ミンナ カマラ 51 共通語 食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。 51 大賞郷1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコ外オンナジドージャカンデ ネロダケダーバ イヌスマースフトナンドーデャカンディーチャカンディーチャカンディー・ファンマーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドーチャカンドッテ (ネルダケナラ / ネテシマエバ) イヌメトネッコメト インショ /オンナジ /ドーチャー 51 大賞郷4 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコ外オンナジグラカンデ (メカッデ)ネロダケダ・バ イヌメヤ ネッコ外オンナジグラカンデ (メカッデ)ネロダケダ・バ イヌメヤ ネッコ外オンナジグラカンデ (メカッデ)ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコ外オンナジグラカンデ (メカッデ)ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコ・カーアングラ (カンデ) イマメヤ ネーター・ファー・ファン・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー	50	大賀郷3	ハヤ カメロモノワ ゼンブ カマラヨ.	
50 三根 1	50		モー カモ (一)モノワ ミンナ カンデ {シマッタラ / シマッ	
50 三根3 ハラ カメロ モノーワ ミンナ カマラ 50 三根4 モー カメル モノワ ゼンブ カマラー 50 末吉 ハリャ {カメロ / カメル (新)} モノーワ メンナ {カマラ / カンダ (新)} 50 中之郷1 {カメロ / カモ} モノワ ハラ ミンナ カモア ヂャー 50 中之郷3 ハラ カメル モノワ ゼンブ {カンダゾ / カモワーヂャ / カマラ} 50 中之郷4 ハラ タベラレル モノウワ ミンナ タベタラ 50 樫立 1 ハラ カメロ モノーワ ゼンブ カマラ 50 樫立 4 ハラ カメロ モノーワ ゼンブ カマラ 51 共通語 食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。 51 大賀郷1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドージャ 51 大賀郷3 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドーヂャ 51 大賀郷4 カンデ ネロダケゲーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドーチャ 51 大賀郷4 カンデ ネロダケゲーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドラ ドーヂャー 51 三根1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジグラ 51 三根3 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジグラ	50	大質鄉 4	タ (ヨー)/ シモーララー}	
50 三根4 モーカメル モノワ ゼンブ カマラー 50 末吉 ハリャ (カメロ / カメル (新)) モノーワ メンナ (カマラ / カンダ (新)) 50 中之郷1 {カメロ / カモ} モノワ ハラ ミンナ カモア ヂャー 50 中之郷3 カラ カメル モノワ ゼンブ {カンダゾ / カモワーヂャ / カマラ} 50 中之郷4 ハラ タベラレル モノウワ ミンナ タベタラ 50 樫立1 ハラ カメロ モノーワ ゼンブ カマラ 50 樫立4 ハラ カメロ モノーワ ジンナ カマラ 51 共通語 食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。 51 大賀郷1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドージャ 51 大賀郷3 カンデ ネロダケ ダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドーヂャ 51 大賀郷4 カンドッテ {ネルダケナラ / ネテシマエバ} イヌメト ネッコメトオンナジドーチャ 51 三根1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジグラ 51 三根1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジグラ 51 三根3	50	三根 1	ハー カメロモノウワ ゼンブ カンデ シモウララ	
大切 大切 大切 大切 大切 大切 大切 大切	50	三根3	ハラ カメロ モノーワ ミンナ カマラ	
カンダ (新)	50	三根4	モー カメル モノワ ゼンブ カマラー	
カンタ (新) 50 中之郷1 (カメロ / カモ モノワ ハラ ミンナ カモア ヂャー	50	-1:-1:	ハリャ {カメロ / カメル (新)} モノーワ メンナ {カマラ /	
50 中之郷3	50	木百	カンダ (新)}	
50 中之郷3 カマラ カマラ カマラ カマラ タベラレルをタベラレロに近くも 発音。	50	中之郷1	{カメロ / カモ} モノワ ハラ ミンナ カモア ヂャー	
カマラ	50	由少卿 2	ハラ カメル モノワ ゼンブ {カンダゾ/カモワーヂャ/	
50 中之郷4 ハラ タベラレル モノウワミンナ タベタラ 50 樫立1 ハラ カメロ モノーワ ゼンブ カマラ 50 樫立4 ハラ カメロ モノーワミンナ カマラ 51 共通語 食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。 備考 51 大賀郷1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドージャヤ 51 大賀郷3 カンデ ネロダケ ダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドーデャー 51 大賀郷4 カンドッテ {ネルダケナラ / ネテシマエバ} イヌメト ネッコメト {イシ・ショ /オンナジ }ドーデャー 51 三根1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジダラ 51 三根3 カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネ	30	中心卿 3	カマラ}	
Public Parish	50	由→郷4	ハラ タベラレル エ カロ シノナ タベタラ	タベラレルをタベラレロに近くも
50 樫立4 ハラ カメロ モノーワミンナ カマラ 51 共通語 食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。 備考 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドージャ	30	T < ⅓ 4		発音。
51 共通語 食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。 備考 51 大賀郷1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドージャクシーバ イヌネコトオンナシドーギャクシー・カンデ ネロダケ ダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドーギャクシー・カンドッテ {ネルダケナラ / ネテシマエバ} イヌメト ネッコメト ネッカンドッテ {ネルダケナラ / ネテシマエバ} イヌメト ネッカスト ネッカスト イン・ショ /オンナジ }ドーギャクシー・カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジダラクシー・カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネッカスト オスメヤ ネッカストカンナジター・カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネッカストカンナジター・カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネータストカー・カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネータストカー・カンデー・カンデー・カンデー・カンデー・カンデー・カンデー・カンデー・カン	50	樫立1	ハラ カメロ モノーワ ゼンブ カマラ	
51 大賀郷1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドージャ 51 大賀郷2 カンデ ネルダケダーバ イヌネコトオンナジドーデャ 51 大賀郷3 カンデ ネロダケ ダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドーデャー 51 大賀郷4 カンドッテ {ネルダケナラ / ネテシマエバ} イヌメト ネッコメト オンナジ }ドーデャー 51 三根1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジダラ 51 三根3	50	樫立4	ハラ カメロ モノーワ ミンナ カマラ	
51 大賀郷1 ヤ 51 大賀郷2 カンデ ネルダケダーバ イヌネコトオンナシドーヂャ 51 大賀郷3 カンデ ネロダケ ダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドーヂャ 51 大賀郷4 カンドッテ {ネルダケナラ / ネテシマエバ} イヌメト ネッコメト ネッコメト {イシ・ショ /オンナジ }ドーヂャー 51 三根1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジダラ 51 三根3 カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネ	51	共通語	食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。	備考
51 大賀郷2 カンデ ネルダケダーバ イヌネコトオンナシドーヂャ 51 大賀郷3 カンデ ネロダケ ダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドーヂャ 51 大賀郷4 カンドッテ {ネルダケナラ / ネテシマエバ} イヌメト ネッコメト {イシ・ショ /オンナジ }ドーヂャー 51 三根1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジダラ 51 三根3 カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネ	51	七空郷 1	カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジドージ	
51 大賀郷3 カンデ ネロダケ ダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジド ーヂャ 51 大賀郷4 カンドッテ {ネルダケナラ / ネテシマエバ} イヌメト ネッコメト イン・ショ /オンナジ }ドーヂャー 51 三根1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジダラ 51 三根3	31	八貝加1	ヤ	
51 大賀郷3 ーヂャ 51 大賀郷4 カンドッテ {ネルダケナラ / ネテシマエバ} イヌメト ネッコメト {イシ・ショ /オンナジ }ドーヂャー 51 三根1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジダラ 51 三根3 カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネ	51	大賀郷2	カンデ ネルダケダーバ イヌネコトオンナシドーヂャ	
チャ 51 大賀郷4 カンドッテ {ネルダケナラ / ネテシマエバ} イヌメト ネッコメト {イシ.ショ /オンナジ }ドーヂャー 51 三根 1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジダラ 51 三根 3 カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネ	51	士智郷3	カンデ ネロダケ ダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジド	
51 大賀郷4 コメト {イシ.ショ /オンナジ }ドーヂャー 51 三根 1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジダラ 51 三根 3 カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネ	31	八貝加り	ーデャ	
コメト {イシ.ショ /オンナシ }ドーチャー 51 三根 1 カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナジダラ 51 三根 3 カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネ	51	士智郷 4	カンドッテ {ネルダケナラ / ネテシマエバ} イヌメト ネッ	
51 三根 3 カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネ	31	八貝和4	コメト {イシ.ショ /オンナジ }ドーヂャー	
51 一根 3	51	三根1		
ッコ外オンナギ {ダラー / ドーギャー}	51	三根3	カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネ	
	31	<u>一川</u> 以 J	ッコメトオンナヂ {ダラー / ドーヂャー}	

51	三根4	カーンデ ネロダケナラ イヌメヤ {ネッコメ / ネコメ} トオ ンナヂダラー	
51	末吉	{カンデ / カンドッチ} ネロダケダラバ イヌメヤ ネ ッコメ ト {オンナジダージャ /オンナジダラ}	カンドッチ「食べてから」。
51	中之郷1	カンデ ネロダケ ダラバ イヌ外 ネッコ外オンナ ヂドア	
51	中之郷3	カンデ ネルダケ ダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナヂ ダ ラョ	
51	中之郷4	タベテ ネロダケダラバ イヌメヤ ネッコメト {オンナジドア ジャ /オンナジダラ}	
51	樫立1	カッデ ネロダケダラバ イヌメヤ ネコメトオンナジダラ	
51	樫立4	カッデ ネロダケダラバ {イヌネコト / イヌメ ヤ ネッコメト} {オンナヂドアヂャー /オンナシドアヂャー}	
52	共通語	さとうはあまい。くすりはあまくない。	備考
52	大賀郷1	サトーワ アマケニ クスリワ アマクナッキャ	
52	大賀郷2	サトーワ アマケガ クスリワ {アマク ナッキャノー / ニガキャノー}	
52	大賀郷3	サトーワ アマケヂャ. コノカシワ アマクナッケヂャ. (この 菓子は あまくない。)	
52	大賀郷4	サトーワ {アマケガ ノー / アマケヂャー} クスリワ {ア マクナッケヂャ / アマクナッケダラー / アマクナッキャ}	
52	三根1	サトウワ アマケガ クスリワ アマクナッキャー	
52	三根3	サトーワ アマキャー クスリワ アマク ナッキャノー	
52	三根4	サトーワ アマキャノー クスリワ アマクナッキャノー	
52	末吉	サトーワ アマキャ. {クスリワ / クスリャ (古)} アマクナッキャ	ンマキャ「おいしい」。
52	中之郷1	サトーワ アマケガ クスリワ アマクナッキャ ノー	
52	中之郷3	サトーワ アマキャヨー クスリワ アマクナッキャ	
52	中之郷4	サトウワ アマキャ クスリワ アマクナッキャ	◇「薬はいらない。」クスリョワ イリナカ ◇「ウまくない」ウンマクナッキャ ◇「ウまいなあ。」ウンマキャノ ◇「甘い菓子」アマケカシ ◇「この薬は苦い。」コノクスリワ ニガケダラ ◇「この菓子はおいしい。」コノカシワウンマキャンノ ◇「この菓子はおいしい。」コノカシワ(アマキャノ/アマケジャ)
52	樫立1	サトーワ アマキャ. クスリワ アマク ナッキャ	
52	樫立3	サトーワ アマキャ. クスリワ アマクワ ナッキャ	
	-		

52	樫立4	サトーワ アマキャ クスリワ アマクナッキャ	
53	共通語	去年いとこが中学の先生になった。	備考
53	大賀郷1	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナララ	
53	大賀郷2	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナララ	
53	大賀郷3	キョネン イトコガ チューガッコーノ センセーニ {ナロー	
33	八貝畑 3	デャ / ナララヨー }	
53	大賀郷4	キョネン (ノー) イトコガ ツーガッコーノ センセーニ (ノ	
33	八貝和4	一) {ナララ / ナララー}	
53	三根 1	キョネン イトコガ ツーガッコウノ センセーニ ナラッテイヤ	「なった」ナットウジャ
33			
53	三根3	キョネン イトコガ チューガコーノ センセーニ ナララー	
53	三根4	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナララー	
53	末吉	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナララ	
53	中之郷1	キョネン イトコガ ツーガ コノ センシーニ ナロワ ヂャン	
	1,0,4,1	オア	
53	中之郷3	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ {ナララー / ナ	
		ロワーヂャ}	
53	中之郷4	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ {ナララ / ナロ	
		アデャ}	
53	樫立1	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナララ	
53	樫立3	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナッタラ	
53	樫立4	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナッタ	
54	共通語	いとこは英語の本が読める。	備考
54	大賀郷1	イトコワ エーゴノ {ホンヨ / ホンガ} ヨメロワ	
54	大賀郷2	イトコワ エイゴノ ホンガ ヨメロワ	
54	大賀郷3	イトコワ エーゴノ ホンガ ヨメロワヨー	
54	大賀郷4	イトコワノー エーゴノホンガ ヨメロヂャ	
54	三根 1	イトコワ エイゴノ ホンガ ヨメロワ	
54	三根3	イトコワ エーゴノ ホンニャ ヨメロワ	
54	三根4	イトコワ エーゴノ ホンガ ヨメロヂャ (一)	
54	末吉	イトコワ エーゴノ ホンガ ヨメロワ	
54	中之郷1	イトコワ イーゴノ ホンガ ヨメルッチイ ヤ	
54	中之郷3	イトコワ エイゴノ ホンガ ヨメロワ	
54	中之郷4	イトコワ イーゴノ ホンガ {ヨメロワ / ヨメロヂャ}.	
54	樫立1	イトコワ イェーゴノ ホニョ ヨメロワヨ	
54	樫立3	イトコワ エーゴノ ホンガ ヨメロワ	
54	樫立4	イトコワ エーゴノ ホンガ ヨメロア (ワ)	
55	共通語	あの人こそほんとうの金持ちだ。	備考
55	大賀郷1	{ウノ ヒトコン / ウノ ヒト ガー} ホントーノ カネモチダラ	

			1
55	大賀郷2	ウノ ヒ.トコソ カネモチダラ // ウノ ヒトガカ カネモチ デ カレガ	
55	大賀郷3	ウノ ヒト{ガ / ガカ (係り助詞あり)} ホントーノ カネモチ {ダラ / ダレ (結び)}	
55	大賀郷4	ウノ ヒトガノー ホントーノ カネモチ {ドーヂャー / ドーダ ラー}	
55	三根 1	ウノ ヒトワ ホントノ カネモチダーノー // ウノ ヒトガカ ホントノ カネモチダレ	
55	三根3	ウノ ヒトガ ヤッパリ カネモチ ダラー // ウノ ヒトガカ ヤッパリ カネモチ ダレー (係り結び)	
55	三根 4	ウノ ヒトワ ホントーノ カネモチダーノー	
	_IX 1	{ウノ /(B) アノ (?)} {ヒ.トコソ ホントーノ カネモチダラ //	
55	末吉	しょう しょっ しょっ	
55	中之郷1	ウヌヒトコソ ホントーノ カネモチ ダンニャー	
55		ウノ ヒトコソ ホントーノ カネモチ ダンノーヂャ	
	, ,	ウノ {ヒ.トガ ホントーノ {カネモチダラ / カネモチドアヂ	
55	中之郷4	ャ}// ウノヒトガカ ホントーノ カメモチダレ	
	版	オノ ヒ.ティワ ホントーノ カネモチダラ // オノヒ	
55	樫立1	トガカ ホントーノ カネモチダレ	
55	樫立3	アノ ヒトコソ ホントーノ カネモチ ダラ	
55	樫立4	オノ ヒトガカ ホントーノ カネモチ ダレ	
55 56		オノ ヒトガカ ホントーノ カネモチ ダレ その話は妻にだけ聞かせた。	備考
	共通語		備考
56 56	共通語 大賀郷1	その話は妻にだけ聞かせた。	備考
56	共通語 大賀郷1	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ	備考
56 56 56	共通語 大賀郷1	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ	備考
56 56 56 56	共通語大賀郷1大賀郷2大賀郷3	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ (新)}ニダケ キ.カセタラ ソノ ハナシワ ヨメニダケワ キカセテオカラヨ コノ ハナシワ ワガエノ ニョーボーニダケ {ユオーヂャ /	備考
56 56 56 56 56	共通語大賀郷1大賀郷2大賀郷3大賀郷4	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ (新)}ニダケ キ.カセタラ ソノ ハナシワ ヨメニダケワ キカセテオカラヨ コノ ハナシワ ワガエノ ニョーボーニダケ {ユオーヂャ / ハナシトーダラー / ハナシタラー}	備考
56 56 56 56 56	共通語大賀郷1大賀郷2大賀郷3	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ (新)}ニダケ キ.カセタラ ソノ ハナシワ ヨメニダケワ キカセテオカラヨ コノ ハナシワ ワガエノ ニョーボーニダケ {ユオーヂャ / ハナシトーダラー / ハナシタラー} ソノ ハナショワ ヨメンダケ キカセタラ	備考
56 56 56 56 56	共通語大賀郷1大賀郷2大賀郷3大賀郷4三根1	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ (新)}ニダケ キ.カセタラ ソノ ハナシワ ヨメニダケワ キカセテオカラヨ コノ ハナシワ ワガエノ ニョーボーニダケ {ユオーヂャ / ハナシトーダラー / ハナシタラー} ソノ ハナショワ ヨメンダケ キカセタラ {ソガンドー / ソノ} ハナシワヨー {①ヨメニダケ / ②ヨメ	備考
56 56 56 56 56 56	共通語大賀郷1大賀郷2大賀郷3大賀郷4三根1三根3	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ (新)}ニダケ キ.カセタラ ソノ ハナシワ ヨメニダケワ キカセテオカラヨ コノ ハナシワ ワガエノ ニョーボーニダケ {ユオーヂャ / ハナシトーダラー / ハナシタラー} ソノ ハナショワ ヨメンダケ キカセタラ {ソガンドー / ソノ} ハナシワヨー {①ヨメニダケ / ②ヨメニダケカ} {①キカセタラー / ②ハナシタレー (係り結び)}	備考
56 56 56 56 56	共通語大賀郷1大賀郷2大賀郷3大賀郷4三根1三根3	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ (新)}ニダケ キ.カセタラ ソノ ハナシワ ヨメニダケワ キカセテオカラヨ コノ ハナシワ ワガエノ ニョーボーニダケ {ユオーヂャ / ハナシトーダラー / ハナシタラー} ソノ ハナショワ ヨメンダケ キカセタラ {ソガンドー / ソノ} ハナシワヨー {①ヨメニダケ / ②ヨメ	
56 56 56 56 56 56	共通語大賀郷1大賀郷2大賀郷3大賀郷4三根1三根3三根4	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ (新)}ニダケ キ.カセタラ ソノ ハナシワ ヨメニダケワ キカセテオカラヨ コノ ハナシワ ワガエノ ニョーボーニダケ {ユオーヂャ / ハナシトーダラー / ハナシタラー} ソノ ハナショワ ヨメンダケ キカセタラ {ソガンドー / ソノ} ハナシワヨー {①ヨメニダケ / ②ヨメニダケカ} {①キカセタラー / ②ハナシタレー (係り結び)}	備考
56 56 56 56 56 56 56	共通語大賀郷1大賀郷2大賀郷3大賀郷4三根1三根3三根4末吉	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ (新)}ニダケ キ.カセタラ ソノ ハナシワ ヨメニダケワ キカセテオカラヨ コノ ハナシワ ワガエノ ニョーボーニダケ {ユオーヂャ / ハナシトーダラー / ハナシタラー} ソノ ハナショワ ヨメンダケ キカセタラ {ソガンドー / ソノ} ハナシワヨー {①ヨメニダケ / ②ヨメニダケカ} {①キカセタラー / ②ハナシタレー (係り結び)} ソノ ハナショワ ツマニダケ キカセタラー	キカセタラ の イ は無声化せ
56 56 56 56 56 56 56	共通語大賀郷1大賀郷2大賀郷3大賀郷4三根1三根3三根4末吉中之郷1	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ (新)}ニダケ キ.カセタラ ソノ ハナシワ ヨメニダケワ キカセテオカラヨ コノ ハナシワ ワガエノ ニョーボーニダケ {ユオーヂャ / ハナシトーダラー / ハナシタラー} ソノ ハナショワ ヨメンダケ キカセタラ {ソガンドー / ソノ} ハナシワヨー {①ヨメニダケ / ②ヨメニダケカ} {①キカセタラー / ②ハナシタレー (係り結び)} ソノ ハナショワ ツマニダケ キカセタラー ソノ {ハナショワ / (新)ハナシワ} ヨメニダケ キカセタラ	キカセタラ の イ は無声化せ
56 56 56 56 56 56 56 56	共通語大賀郷1大賀郷3大賀郷4三根1三根4末吉中之郷3	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ (新)}ニダケ キ.カセタラ ソノ ハナシワ ヨメニダケワ キカセテオカラヨ コノ ハナシワ ワガエノ ニョーボーニダケ {ユオーヂャ / ハナシトーダラー / ハナシタラー} ソノ ハナショワ ヨメンダケ キカセタラ {ソガンドー / ソノ} ハナシワヨー {①ヨメニダケ / ②ヨメニダケカ} {①キカセタラー / ②ハナシタレー (係り結び)} ソノ ハナショワ ツマニダケ キカセタラー ソノ {ハナショワ /(新)ハナシワ} ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナショワ (世) ヨメニ ダケカ キカセ タレガ	キカセタラ の イ は無声化せ
56 56 56 56 56 56 56 56 56	共通語大賀郷1大賀郷3大賀郷4三根1三根4末吉中之郷1中之郷3中之郷4	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ (新)}ニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ ヨメニダケワ キカセテオカラヨ コノ ハナシワ ワガエノ ニョーボーニダケ {ユオーヂャ / ハナシトーダラー / ハナシタラー} ソノ ハナショワ ヨメンダケ キカセタラ {ソガンドー / ソノ} ハナシワヨー {①ヨメニダケ / ②ヨメニダケカ} {①キカセタラー / ②ハナシタレー (係り結び)} ソノ ハナショワ ツマニダケ キカセタラー ソノ {ハナショワ /(新)ハナシワ} ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワヨー ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワコー ヨメニダケ キカセタラ	キカセタラ の イ は無声化せ
56 56 56 56 56 56 56 56 56	共通語大賀郷1大賀郷3大賀郷4三根1三根4末吉中之郷3中之郷4樫立1	その話は妻にだけ聞かせた。 ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ (新)}ニダケ キ.カセタラ ソノ ハナシワ ヨメニダケワ キカセテオカラヨ コノ ハナシワ ワガエノ ニョーボーニダケ {ユオーヂャ / ハナシトーダラー / ハナシタラー} ソノ ハナショワ ヨメンダケ キカセタラ {ソガンドー / ソノ} ハナシワヨー {①ヨメニダケ / ②ヨメニダケカ} {①キカセタラー / ②ハナシタレー (係り結び)} ソノ ハナショワ ツマニダケ キカセタラー ソノ {ハナショワ /(新)ハナシワ} ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワコー ヨメニダケ キカセタラ ソノ ハナシワコー ヨメニダケ キカセタラ ソノ {ハナシワンオア/ ハナショワノア} ヨメニダケ キカセ	キカセタラ の イ は無声化せ

57	共通語	妻に夕飯を作らせる。	備考
57	大賀郷1	ヨメニ ヨーメショ ツ.クラセタラ	
57	大賀郷2	{ワゲーノ / ワガイノ} ニ ヨーメシオ {コセーサセロワ (古) / ツクラセル (新)}	
57	大賀郷3	ワガエノニ ユーメシオ ツクラセロワ.	
57	大賀郷4	ワガエノ ニョーボニ ヨーメシ ツクラセロダラ.	
57	三根 1	ヨメニ ヨウメショ ツクラセロワ	
57	三根3	ヨメニ {ヨウメショ / ヨウケー (古)} {ツクラセロワ (ノー) (新) / シマツサセロワ (ノー)}	
57	三根4	ヨメニ ヨーメシ.イ (オ) ツクラセロワ	
57	末吉	ヨメニ ヨーメショ ツクラセロワ	
57	中之郷1	カーチャンニ ユメショワ ツクラセタロ{ ヂャー / ワー}	
57	中之郷3	ヨメニ ヨーケオ コシャーサセル	
57	中之郷4	ヨメニ ユーメショ {ツクラ / シマツサ}セ{ロヂャ / ロワ}	
57	樫立1	(名前)ニ イョーメショ ツ.クラセロジャ	
57	樫立4	ヨメニ ヨーメショ トウクラセトアヂャー	
58	共通語	夫は竹でかごをつくった。	備考
58	大賀郷1	ワゲーノ ヒトワ タケデ カゴー ツクララ	
58	大賀郷2	ワゲーノワ タケデ カゴー コセーララ (古)	
58	大賀郷3	ワガエノ ヒトワ タケデ カゴー {ツクララ. / ツクロ (ー)ヂ ャ}	
58	大賀郷4	ワガエノ ダンナワ (ノー) タケデノー カゴ 6 {ツクララ / ツ クッタロダラ (作っている)/ ツクッタラ (作った)/ ツクッタロ ワ (作っている)}	
58	三根 1	ダンナワ タケデ コゴウ ツクララ	
58	三根3	ワゲーノ ダンナワ タケデ カゴー {ツクララ / ツクローヂ ャ}	
58	三根4	{ワゲー/ ヒト / オット}ワ タケデ カゴオ {ツクラー / ツクララ}ヨ	
58	末吉	ワガ (イ)エノ {ヒ.トワ / ダンナワ} タケデ カゴー ツクララ	
58	中之郷1	ワギーノ ヒトワ タケデ カゴウォ ツクロワ ヂャ	
58	中之郷3	オトチャン ワ タケデ カゴー {コシャータヨ / コシャータ ラ}	
58	中之郷4	ワガエノ ヒトワ タケデ カゴウ{ツ.クララ / ツ.クロアヂャ}.	
58	樫立1	ワギーノ シ.トワ タ.ケデ カゴー ツ.クロジャ	
58	樫立3	ウチノ ヒトワ タケデ カゴー{ ツクララ / ツクッタラ}	
58	樫立4	ワギーノヒトワ タケデ カゴー コシャータ (ラ)	
59	共通語	次郎はおとうとの三郎とけんかした。	備考
59	大賀郷1	<i>ヂョーワ オトトノ サボート ケンコシ.タラ</i>	
59	大賀郷2	 デローワ オトトノ サブロート ケンカ シタラ	

60	樫立1	サブローワ アンチャンニ ボーデ ブンナグラレタラ. サブローワ ヂローニ ボーデ {ブンナグラレタラ / ブタレ タラ}	人に話す時はタラを使う
	樫立1	サブローワ アンチャンニ ボーデ ブンナグラレタラ.	
00			
60	中之郷4	サブロウワ ヂロウニ ボウデ {ブタレタラ (ヨー)/ ブタレト アヂャ}	
60	中之郷3	サブローワ ヂローニ ボーデ {ブタレタ / ブタレタラ (誘導)}	
60	中之郷1	サブロ (狭)ーワヂルウニ ボオーデ ブタレタラ	
60	末吉	サボーワ ヂョーニ ボーデ {ブタレタラ / ブンナグラレタ ラ}	
60	三根4	サブローワ ヂローニ ボーデ ブンナグラレター ヨ	
60	三根3	サブローワ ヂローニ ボーデ ブンナグラレタラー	
60	三根1	サブロウワ ヂロウニ ボウデ ブンナグラレタ	「なぐられた」ブタレタラ
60	大賀郷4	サブローワ ヂローニ ボーデ ブンナグラレタラ	
60	大賀郷3	サブローワ ヂローニ ボーデ ブンナグラレ {タラ / トー ヂャ}	
60	大賀郷2	サブローワ ヂローニ ボーデ {ブンナグラレタラ / ブン ナグラレララ}	
60	大賀郷1	サボーワ ヂョーニ ボーデ ブンナグラレタラ	
60	共通語	三郎は次郎に棒でなぐられた。	備考
59	樫立4	<i>ギローワ キョーヂャーノ サブロート ケンコア シ.タ (ラ)</i>	
59	樫立1	ジローワ キョージャーノ サブロート ケンコア シ.タラ	
59	中之郷4	ヂロウワ サブロウト ケンコア {シ.トアヂャ / シ.タラ / シ. タララ / シ.タラヨ / シ.タララヨー}	「弟の」があると不自然とのことで 訳にナシ。
59	中之郷3	ヂローワ オトトノ サブロート {ケンカシタ / ケンカシタラ ヨー}	
59	中之郷1	デルート オトト サブロオ ト ケンコア シトア ヂャ	
59	末吉	{ ヂローワ / ヂョーワ} オトトノ { サブロート / サボート} ケンカ シ.タラ	ヂョー「次男」, サボー「三男」。
59	三根4	ヂローワ オトトノ サブロート ケンカシタ	
59	三根3	ヂローワ オトトノ サブロート {ケンコ (ケンカを)/ ケンカ} シタラー	
59	三根1	ヂロウワ キョーデーノ サブロウト ケンコ シタ	
59	大賀郷4	ヂローワ ノー オトトノ サブロート ケンコ {シトーダラー / シトーヂャー / シタッテヂャー}	
59	大賀郷3	デャ }	
	上カロイロア 2	ヂローワ オトトノ サブロート ケンコ (ー) {シタラ / シトー	

61	大賀郷3	 デローワ	
		 デローワ	
61	大賀郷4	ラ}	
<i>C</i> 1	→ _{48 1}	ヂロウワ ヂイサンニ {ワイキューラレタ / ワイキューレタ	
61	三根1	ラ}	
61	三根3	ヂローワ ヂーチャンニ {シカラレタラー (新しい言い方)/	
01		ヨミンナッタ}	
61	三根4	 デローワ デーチャンニ ワイキュラレターヨ	
61	末吉	<i>ヂョーワ ヂーサンニ イヂメラレタラ</i>	
61	中之郷1	デルーワヂーサンニ イヂメラレタラヨ	
61	中之郷3	ヂローワ ヂーチャンニ {イヂメラレタ / イヂメラレタラ (誘	
	1 10/71	導)}	
61	中之郷4	デロウワ {トトウニ / オヂーサンニ} {イヂメラレタラ (ヨー)	
		/ イヂメラレトアヂャ}	
61	樫立1	ジローワ ジーチャンニ イジメラレタラ	
61	樫立4	ヂローワ ヂーサンニ { ソアガレタ / ソアガレッチャ (伝	人に話す時はタラを使う
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	聞「~ってよ」)}	7 (1 - HI) 1 (100) C (200)
62	共通語	おれはきのうは新聞をよまなかった。	備考
62	大賀郷1	ワリャ キネーワ シンブンヨ ヨミンジャララ	
62	大賀郷2	ワヤ キノーワ シンブンウォ ヨミンナカラ	
62	大賀郷3	ワヤ キノーワ シンブンノ ヨミン ナカララ	
62	大賀郷4	ワレワ キノー シンブン オ {ヨミンナ(ッ)キャ / ヨミンナケ	
02	八兵州中	ダラ / ヨミンナカララ}	
62	三根1	アラ キネイワ シンブンワ ヨミンナララ	
62	三根3	ワラ キネーワ シンブンヨ{ホミンナララー / ヨミンナッタ}	
62	三根4	アラ キネー (キネイ) ワ シンブン オ ヨミンナラーヨ	
62	末吉	アリャ キニーワ シンブニョ ヨミンヂャララ	
62	中之郷1	ワラ キニーワ シンブンヨ {ヨミンヂャララ / ヨミンナカラ	
02	中心和 1	ラ}	
62	中之郷3	アラ キニーワ シンブンワ ヨミナカララヨ	
62	中之郷4	アラ キニーワ シンブニョ {ヨミナカララ / ヨミナカロアヂ	
02	丁仁加4	ヤ}.	
62	樫立1	ワラ キニーワ シンブニョ {ヨミンナカッタラ / ヨミンジャラ	
02	1主业 1	ラ}	
62	樫立3	ワレワ キノー シンブン {ヨミンヂャララ / ヨミンナカララ /	
02	1主4.3	ヨマナキャ}	
62	樫立4	ワラー キニーワ シンブンオ {ヨミンナカララ / ヨミナカッ	
02	1±.4.4	タ}	
63	共通語	その新聞はきょうのだ。きのうのはこれだ。	備考
	,		

3 大賀郷2 ソノシンアンフキューノダラキーハフコレダラ 1 大賀郷3 ソノシンアンフキューノダラ・ト・ハフコレダラ ソノシンアンフキューノダラ・リター 1 ター・シンプンフキューノダラ・リター 1 ター・シンプンフ ケイノダラ・キネー/フコレダラ ター・シンプンフ ケイ/グラ・キネー/フコレダラ ター・コー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファ		I	T	<u></u>
大賀郷4	63	大賀郷2	ソノ シンブンワ キョーノダラ キノーノワ コレダラ	
3 大俣郷4 レ ダラー 1 シンプンワ ケイ/グラ、キネイ/ワ コイドージャ 1 シノ シンプンワ ケイ/グラ、キネー/ワ コイグラ フ/ シンプンワ ケイ/グラ、キネー/ワ コイグラ フ/ シンプンワ ケイ/グラ・キュー/ガワ コレグラ フ/ シンプンワ ケイ/ガダーコ、キネイ/ガワ コレ ダーコ フ/ シンプンワ キー/ガダラ、キュー/ガワ コレグラ フ/ シンプンワ キー/ガダラ、キュー/ガワ コレグラ フ/ シンプンワ キー/ガダラ、キュー/ガワ コレドカレ ガコ 中之郷3 カノ シンプンワ キー/ガダラ、キュー/ガワ コレグララ コレドブギャ / コレデカル 1 カコ センボ カコ センボ カコ カコ センボ カコ カコ カコ カコ カコ カコ カコ カ	63	大賀郷3	ソノ シンブンワ キョーノ ダラヨー. キネーノワ コレダラ	
63 三根 3 [ソノ/ コノ] シンブンワ ケーノグラ、キネー/ワ コイグラ 63 三根 4	63	大賀郷4		
1	63	三根 1	ソノ シンブンワ ケイノダラ. キネイノワ コイドージャ	
1 日本 1 日本	63	三根3	{ソノ / コノ} シンブンワ ケーノダラ. キネーノワ コイダラ	
63 末吉 (ラ) コレダーチャ	63	三根4		
63 中之郷3	63	末吉		
63 中之郷4	63	中之郷1		
63 中之郷4 コレドアチャ / コレデカレ} 63 樫立1 ソノシンプンワキーノダラ、キニーノワコレダラ 63 樫立4 ソノシンプンワキーノダラ・キーノワコイダラ 64 共通語 雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり見ている。 備考 64 大賀郷1 アメノフロヒニャ バーチャンワイエデ テレビバッカリミタアロワ インカリスクロワーク・アメノヒニャー・バーサンワイエデ テレビ バッカリミタロワ バーチャンワイエデ テレビバッカリミタアロワーク・ジターロワーク・デンターロア・デングスカリ(新) ((A):ダーロア・デンターにエー・デンターロア・デンターロア・デンターロア・デンターロア・デンターロア・デンターロア・デンターロア・デンターロア・デンターにエー・デンターロア・デンターにエー・デンターロア・デンターロア・デンターロア・デンターにエー・デンターロア・デンターにエー・デンターロア・デンターにエー・デンターロア・デンターにエー・デンタ	63	中之郷3	ソノ シンブンワ キーヌダ キニーノワ コレドアー ヂャ	
63 樫立3 コノシンブンワキョー/グラー、キノー/ワコレグラ 64 捜通語 雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり見ている。 備考 64 大賀郷1 アメノフ・ロヒーヤ バーチャンワイエデ テレビバッカリミタアロワ イ大賀郷2 「アメガ フルトキワ / アメノ ヒニャ」バーサンワイエデ テレビ バッカリミタロワ 64 大賀郷3 「アメノフ・ロヒニワ バーサンワイエデ テレビ バッカリミタロワ / ミタロワ / ミテアロワ」 マメノ フ・ロヒニワ バーチャンワウチデ テレビバッカリミテアロワ / ミターロワー 64 大賀郷4 アメノ フロヒニヤ バンマワエデ テレビバッカリミタアロワ / ミターロワー アメガ フロヒワ バーチャンワイエデ テレビバッカリミターロワー 64 三根1 アメガ フロヒロア バーチャンワイエデ テレビバッカリミターロワー 64 三根4 アメガ フロヒニヤ バーサンワイエデ (テレビョバッカリ / テレビバッカリ(新) ((A)・メターロフ / (B)・メターロフ / (B)・メターロワ / (B)・メターロフ	63	中之郷4	· ·	
63 樫立4 ソノシンブンワキー/グラキニー/ワコイダラ 64 共通語 雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり見ている。 備考 64 大賀郷1 アメノフロヒニャ バーチャンワ イエデ テレビバッカリミタアロワ 64 大賀郷2 (アメガ フルトキワ / アメノヒニャ) バーサンワ イエデテレビ バッカリミタロワ / 天賀郷3 アメノフロヒニワ バーサンワ イェデテレビ バッカリ {ミタロワ / ミテアロワ} 64 大賀郷4 アメノフロヒニワ バーサンワ イェデ テレビバッカリ {ミテアロワ / ミターロワ} 64 三根1 アメノフロヒニャ バンマワ エデ テレビバッカリョミタアロワ アメノフロヒニャ バンマワ エデ テレビバッカリョミタアロワ アメガ フロヒニャ バンマワ イェデ テレビバッカリミターロワー 64 三根4 アメノフル ヒニワ バーチャンワ イェデ テレビバッカリ / テレビバッカリ (新) {(A)ミターロワ / (B)ミタロワ} 64 中之郷1 アメノフロヒニャ テレビ バッカシミチャロワ 64 中之郷3 アメノフルヒワ バーチャンワ エデ テレビバッカリ {ミタロワョ / ミテアロワ} 64 中之郷3 アメノフルヒワ バーチャンワ エデ テレビバッカリ {ミタロワョ / ミテアロワ} 64 中之郷3 アメノフルヒワ バーチャンワ エデ テレビバッカリ {ミタロワョ / ミテアロワ}	63	樫立1	ソノ シンブンワ キーノダラ. キニーノワ コレダラ	
64 共通語 雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり見ている。 備考 64 大賀郷1 アメノフ・ロヒニャ バーチャンワ イエデ テレビバッカリミ タアロワ 64 大賀郷2 (アメガ フル トキワ / アメノ ヒニャ) バーサンワ イエデ テレビ バッカリ ミタロワ / アメノ フ・ロヒニワ バーサンワ イェデ テレビ バッカリ (ミタロワ / ミテアロワ) 64 大賀郷4 アメノ フロヒニワ バーサンワ ウチデ テレビバッカリ (ミテアロワ / ミターロワ) 64 三根1 アメノ フロヒニャ バンマワ エデ テレビバッカリョミタアロワ アメノ フロヒニャ バンマワ エデ テレビバッカリョミタアロワ アメノ フロヒニャ バンマワ イェデ テレビバッカリ ミターロワー 64 三根4 アメノ フル ヒニワ バーチャンワ イェデ テレビバッカリ (ミターロワー) 64 末吉 アメガ フロ ヒニャ バーサンワ イェデ (テレビョバッカリ / テレビバッカリ (新) {(A):ターロワ / (B):タロワ} 64 中之郷1 アメノ フルヒニヤ テレビ バッカシミチャロワ アメノ フルヒロ バーチャンワ エデ テレビバッカリ (ミタロワョ / ミテアロワ) 64 中之郷3 アメガ フロ {ヒニワ / ヒニヤ バーチャンワ イェデ テレ	63	樫立3	コノ シンブンワ キョーノダラー. キノーノワ コレ ダラ	
64 大賀郷1 アメノフロヒニャ バーチャンワ イエデ テレビバッカリミタアロワ 64 大賀郷2 (アメガ フルトキワ/アメノヒニャ) バーサンワ イェデ テレビ バッカリミタロワ 64 大賀郷3 アメノフロヒニワ バーサンワ イェデ テレビ バッカリミタロワ / ミテアロワ / ミテアロワ アメノ フロヒニャ バンマワ エデ テレビバッカリミタアロワ / ミターロワ / ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	63	樫立4	ソノ シンブンワ キーノダラ キニーノワ コイダラ	
64 大賀郷1 タアロワ 64 大賀郷2 {アメガ フルトキワ / アメノ ヒニャ} バーサンワ イェデテレビ バッカリミタロワ 64 大賀郷3 {アメノ フ.ロヒニワ パーサンワ イェデ テレビ バッカリ {ミタロワ / ミテアロワ} アメノ ヒーキャンワ ウチデ テレビバッカリ {ミテアロ ワ / ミターロワ} 64 大賀郷4 アメノ フロヒニャ バンマワ エデ テレビバッカリョミタアロワ アメガ フロ ヒコ・バーチャンワ イェデ テレビバッカリョミタアロワアメガ フロ ヒコ バーチャンワ イェデ テレビバッカリミターロワー 64 三根 1 アメノ フル ヒニワ バーチャンワ イェデ テレビバッカリ {ミターロワー / ミターロワー } 64 末吉 アメガ フロ ヒニャ バーサンワ イェデ (テレビョバッカリ / テレビバッカリ (新) {(A)、(B)は個人の差。 64 中之郷 1 アメノ フロヒニャ テレビ バッカン ミチャロワアメノ フルヒ ワ バーチャンワ エデ テレビバッカリ {ミタロワョ / ミテアロワ} 64 中之郷 3 アメガ フロ {ヒニワ / ヒニャ} バーチャンワ イェデ テレ	64	共通語	雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり見ている。	備考
 大質郷2 テレビ バッカリミタロワ 大賀郷3 アメノフ・ロヒニワ バーサンワ イェデ テレビ バッカリミタロワ / ミテアロワ トラテアロワ アメノ ヒワ バーチャンワ ウチデ テレビバッカリミラアロワ ワ / ミターロワ アメノ フロヒニャ バンマワ エデ テレビバッカリョミタアロワ アメガ フロ ヒワ バーチャンワ イェデ テレビバッカリミターロワー 三根1 アメガ フロ ヒワ バーチャンワ イェデ テレビバッカリミターロワー 三根4 アメノフル ヒニワ バーチャンワ イェデ テレビバッカリ ミターロワー アメガ フロ ヒニャ バーサンワ イェデ (テレビョバッカリ / テレビバッカリ (新) {(A)ミターロワ / (B)ミタロワ } 中之郷1 アメノフルヒ ワ バーチャンワ エデ テレビバッカリ (ミタロワョ / ミアロワ / (エーマーアメーローア・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン	64	大賀郷1		
64 大賀郷3 {ミタロワ / ミテアロワ} (ミタロワ / ミテアロワ) (ミタロワ / ミテアロワ) (ミタロワ / ミテアロワ) (ミタロワ / ミターロワ) (ローロロー) (ローロロロー) (ローロロロー) (ローロロロー) (ローロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロ	64	大賀郷2		
64 大賀郷4 ワ/ミターロワ} 64 三根1 アメノフロヒニャ バンマワ エデ テレビバッカリョミタアロ ワ 64 三根3 アメガ フロ ヒワ バーチャンワ イェデ テレビバッカリミターロワー 64 三根4 アメノフル ヒニワ バーチャンワ イェデ テレビバッカリ (ミターロワー) アメガ フロ ヒニャ バーサンワ イェデ (テレビョバッカリ / テレビバッカリ (新)) {(A)ミターロワ / (B)ミタロワ} 64 中之郷1 アメノフロヒニャ テレビ バッカシミチャロワ アメノフルヒ ワ バーチャンワ エデ テレビバッカリ (ミタロワョ / ミタロワョ / ミアロワ (B)ミタロワ (B)ミタロワ (B)ミタロワ (B)ミタロワ (CA) (B)は個人の差。 64 中之郷3 アメノフルヒ ワ バーチャンワ エデ テレビバッカリ (ミタロワョ / ミテアロワ) アメガ フロ {ヒニワ / ヒニャ } バーチャンワ イェデ テレ	64	大賀郷3		
64 三根 1 ワ 64 三根 3 アメガ フロ ヒワ バーチャンワ イェデ テレビバッカリミターロワー 64 三根 4 アメノ フル ヒニワ バーチャンワ イェデ テレビバッカリ (ミターロワヨ / ミターロワー) 64 末吉 アメガ フロ ヒニャ バーサンワ イェデ (テレビョバッカリ / テレビバッカリ (新)) {(A)ミターロワ / (B)ミタロワ} (A), (B)は個人の差。 64 中之郷 1 アメノ フロヒニャ テレビ バッカシ ミチャロワ 64 中之郷 3 アメノ フルヒ ワ バーチャンワ エデ テレビバッカリ (ミタロワョ / ミテアロワ) 64 中之郷 4 アメガ フロ {ヒニワ / ヒニャ } バーチャンワ イェデ テレ	64	大賀郷4		
64 三根3 ーロワー 64 三根4 アメノフル ヒニワ バーチャンワ イェデ テレビバッカリ {ミターロワヨ / ミターロワー} 64 末吉 アメガ フロ ヒニャ バーサンワ イェデ {テレビョバッカリ / テレビバッカリ (新)} {(A)ミターロワ / (B)ミタロワ} (A), (B)は個人の差。 64 中之郷1 アメノ フロヒニャ テレビ バッカシ ミチャロワ 64 中之郷3 アメノ フルヒ ワ バーチャンワ エデ テレビバッカリ {ミタロワョ / ミテアロワ} 64 中之郷4 アメガ フロ {ヒニワ / ヒニヤ} バーチャンワ イェデ テレ	64	三根 1		
64 三根4 {ミターロワヨ / ミターロワー} (A), (B)は個人の差。 64 末吉 アメガ フロ ヒニャ バーサンワ イェデ {テレビョバッカリ / テレビバッカリ (新)} {(A)ミターロワ / (B)ミタロワ} (A), (B)は個人の差。 64 中之郷1 アメノ フロヒニャ テレビ バッカシ ミチャロワ 64 中之郷3 アメノ フルヒ ワ バーチャンワ エデ テレビバッカリ {ミタロワョ / ミテアロワ} 64 中之郷4 アメガ フロ {ヒニワ / ヒニャ} バーチャンワ イェデ テレ	64	三根3		
64 末吉 テレビバッカリ (新)} {(A)ミターロワ / (B)ミタロワ} (A), (B)は個人の差。 64 中之郷1 アメノ フロヒニャ テレビ バッカシ ミチャロワ 64 中之郷3 アメノ フルヒ ワ バーチャンワ エデ テレビバッカリ {ミタロワョ / ミテアロワ} 64 中之郷4 アメガ フロ {ヒニワ / ヒニャ} バーチャンワ イェデ テレ	64	三根4		
64 中之郷3 アメノ フルヒ ワ バーチャンワ エデ テレビバッカリ {ミタロワヨ / ミテアロワ} 64 中之郷4 アメガ フロ {ヒニワ / ヒニャ} バーチャンワ イェデ テレ	64	末吉	·	(A), (B)は個人の差。
64 中之郷3 ロワヨ / ミテアロワ	64	中之郷1	アメノ フロヒニャ テレビ バッカシ ミチャロワ	
64 中之郷4	64	中之郷3		
	64	中之郷4	· ·	

64	樫立1	アメノ フロ ヒニャ バーチャンワ イエデ テレビバッカリ ミ テ オヂャロワ (敬語)	
		アメノフルヒニャ バーサンワ イェデ テレビョバッカリ { ミ	ゴーヂャ~は目上の人に対する
64	樫立4	タロア / ゴーヂャロワ / ゴーヂャッテ オヂャロワ}	言葉
65	共通語	お祝いのときにはばあさんまでおどった。	備考
65	大賀郷 1	ユウェーノ トキニワ バーチャンマデ オドララ	
65	大賀郷2	イワイニャ バーサンマデ オドララ	
65	大賀郷3	ユщエーノ トキニャ バーサンマデガ {オドララ / オドローヂャ}	
65	大賀郷4	ユワイノ {トキワノ / トキー} バーチャンマデ {オドララ / オドッタ (一)ロワ}	
65	三根 1	ユウェーノ トキニャ バンママデ {オドッタラ / オドララ}	
65	三根3	ユウェーノ トキャ バーチャンマデ (ガ) オドララー	
65	三根4	{イウェー / ユウェー} ノトキニワ バーチャンマデ {オドラーヨ / オドララ}	
65	末吉	{イウェー / ユウェー}ノ {トキニワ / トキニャ} バーサンマデ オドララ	
65	中之郷1	ユウィアーノトキニャ バーチャン マデガ オドラルヮ ヂャ	
65	中之郷3	イワイノ トキワ バーチャンマデ オドララヨ	
65	中之郷4	{ イウィアー / ユウィアー} / トキニャ (ノア) {オバーチャンマデ / オバーチャンモ} {オドララ / オドロアヂャ / オドッテ ケタラ // オドッテ {ケタレヨ / タモーララ / タモーロアヂャ}}	
65	樫立1	ユヤーノトキワ バーチャンマデ オドララ.	
65	樫立4	ユヤーノ トキニャー オバーチャンマデ {オドララ / オド ッタ}	
66	共通語	花子はきのうから病気でねている。	備考
66	大賀郷 1	ハナコワ キネーカラ ヤンデ ネタアロワ	
66	大賀郷2	ハナコワ キノーカラ ビョーキデ ネタロワ	
66	大賀郷3	ハナコワ キネーカラ {ヤンデ / ビョーキデ} ネタロワ	
66	大賀郷4	ハナコワ キノーカラ (ノー) ビョーキデ ネターロワ.	
66	三根1	ハナコワ キネイカラ ヤンデ ネテアロワ	
66	三根3	ハナコワ キネーカラ ヤンデ (xヤッデ) ネターロワ	
66	三根4	ハナコワ キネイカラ ツラクテ ネターロワヨ	
66	末吉	ハナコワ キニーカラ {ヤンデ / ヤッデ (古)} {(A)ネターロワ /(B)ネタロワ}	(A), (B) は個人の差。
66	中之郷1	ハナチャンワ キニイカラ {ビョーキデ / ヤンデ} ネテア ロ (ティー) ヂャ	
66	中之郷3	ハナコワ キニーカラ ヤンデ{ ネターロワ / ネタロワヨ}	

66	中之郷4	ハナコワ キニーカラ {ヤンデ / ヤッデ (古)} ネタロワ	
66		ハナコワ キニーカラ ヤッデ ネテアロワ	
66	樫立4	ハナコワ キニーカラ ヤンデ ネタアロワ	
67	共通語	花子はかあさんにごはんをたべさせてもらった。	備考
67	大賀郷1	ハナコワ ホードノニ メショ カマセテ ムローララ	V. anv
07	八貝畑1	ハナコワ カーチャンニ メシオ カマセテ {モラーラ / モ	
67	大賀郷2	ラッタ}	
67	大賀郷3	ハナコワ カーチャンニ メショ カワセテ モラワラ.	
67	大賀郷4	ハナコワ カーチャンニ ゴハン オ {カマセテ / タベサシ	
	→1m 4	テ} モラッタロワ	
67		ハナコワ カーチャンニ メショ カマセテ ムローララ	
67	三根3	ハナコワ カーチャンニ メショ カマセテ モローララー	
67	三根4	ハナコワ カーチャンニ {メシオ / メショ} カマセテ {モラ ワーョ / モラワラ}	
		ハナコワ {カカーニ / カーチャンニ (新)} メショ カマセ	
67	末吉	テ {モラーラ / ムラーラ}	
	L (./BZ 4	ハナコワ カーチャンニ メショ カマセテ {ムラッティアロ	
67	中之郷1	(三人称)/ ムロワララ / ムロワロワ ヂャ}	
67	中之郷3	ハナコワ カーチャンニ メショ カマセテ モラッタロワ	
	I I fair	ハナコワ カーチャンニ メショ ホウメテ {モロアラ / モロ	順に, 完成非過去, 継続過去, 継
67	中之郷4	アヂャ / モラッタララ (新?)/ モラッタロワ (新?)}	続非過去か。
	lucy la d	ハナコワ カーチャンニ メショ カマセテ {ムロアラ / ムロ	
67	樫立1	アララ}	
	E77 4	ハナコワ オカチャンニ メショ {カマセテ / ホーメテ} モ	ホーメテーは手で食べさせてもら
67	樫立4	ラッタ	うような感じ
68	共通語	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。	備考
68	大賀郷1	イシャガ ケトー クスリョ ノメバ ナオルノーワ	
68	大賀郷2	イシャガ ケトー クスリオ ノメバ ナオル ノーワ	
	1.70000	イシャガ ケタ クスリー ノメバ {ナオルダロー / ナオロ	
68	大賀郷3	<i>チャ</i> }	
	1.707.007.4	イシャガ ケトー クスリ オ ノメバ {ナオルドーヂャー / ナ	
68	大賀郷4	オルノーワ}	
68	三根1	イシャガ ケトー クスリョ ノメバ ナオルノーワ	
68	三根3	イシャガ ケトー クスリョ ノメバ ナオロダラー	
68	三根4	イシャガ ケトー ク.スリオ ノメバ ナオルダロー	
68	末吉	イシャガ ケター クスリョ ノメバ ナオルダロー.	
68	中之郷1	ビョーインデ ムロワル クスリョ ノメバ ナオロドア ヂャ	
68	中之郷3	イシャガ ケタ クスリオ ノメバ ナオルンノーワ	
		オイシャサンガ {ケタ / ケトア} クスリョ ノメバ {ナオルダ	
68	中之郷4	ロー / ナオロアンオア / ナオロドアヂャ / ナオリータソ	
<u> </u>			

		ワ }	
68	樫立1	イシャカラ ムロア クスリョ {ノメバ / ノマバ} ナオルヌー ワ	
68	樫立4	イシャガ {ケタ / ケトア} クスリオ ノメバ ナオルヌーヂャ	
69	共通語	かあさんは市場へ買物に行った。	備考
69	大賀郷1	ホードノワ ミセゲ カイモン イカラ	
69	大賀郷2	カーチャンワ {イチバニ / イチバエ} {カイモノニ / カイ モノゲー} イカララ	
69	大賀郷3	カーチャンワ ミセ{ゲ / エ} カイモンニ {イカラ / イカラ ラ}	
69	大賀郷4	カーチャン ワ ミセゲー カイモノニ {イットヂャー / イッタ ラー / イカラー / イッタヂャー}	
69	三根 1	カーチャンワ ミセゲー カイモノニ イカラ	
69	三根3	カーチャンワ {ミセゲー / ミセイェ (新しい表現)} カイモ ノニ イカラー	
69	三根4	カーチャンワ イチバゲー {カイモノニ / オツカイニ} イカラー	
69	末吉	カーチャンワ ミシェー カイモノニ イカラ.	
69	中之郷 1	カーチャンワ ミセエ (狭) カイモノニ イカラ	
69	中之郷3	カーチャンワ イチバエ カイモノニ {デタンノーワヨ / デ タラ}	
69	中之郷4	カーチャンワ イチビャー カイモノニ {イコアヂャ / イカラ ラ}	イコドアヂャ「 (これから)行くよ」
69	樫立1	カーチャンワ {ミシー / ミセー} カイモノニ イカラ.	
69	樫立3	オッカチャンワ ミセニ カイモノニ {イカラ / イッタラ}	
69	樫立4	オカチャンワ イチビャ (一) カイモノニ イカラー	
70	共通語	道で学校の先生に会った。	備考
70	大賀郷1	ミチデ ガッコノ センセーニ アワラ	
70	大賀郷2	ミチデ ガッコノ センセーニ アワララ	
70	大賀郷3	ミッチデ ガッコノ センセーニ アワラヨ	
70	大賀郷4	ミチデ (ノー) ガッコノ センセーニ {アッタラー / アワラー / アオーヂャ}	
70	三根1	ミチデ ガッコノ センセーニ イキオーララ	
70	三根3	トーリデ ガッコノ センセーニ {アワララ (何日か前に)/ アワラ (ついさっき)}	
70	三根4	ミチデ ガッコノ センセーニ アワラー	
70	末吉	ミチデ ガッコノ センセーニ アワラ.	
70	中之郷1	ミチデ ガッコノ センシイニ アオワ ヂャ	
70	中之郷3	ミチデ ガッコノ センセーニ {イキアラ / イキアララ / イキ	
	1	<u>-</u>	<u> </u>

		ャーララ	
70	中之郷4	ミチデ ガッコウノ {センセーニ / センシーニ (古)} {アウ オアヂャ / アワラ / アワララ / アイータシ.タラ}	(古)センシーを[センシー]とも。 アワララの方がアワラより前を指 す?
70	樫立1	ミチデ ガッコーノ {センセー / センシー} ニ アワラ	
70	樫立3	ミチデ ガッコノ センセーニ {アワラ / アッタラ}	
70	樫立4	ミチデ ガッコノ センセーニ {ブツクヮッテ / ブツクヮッタ ラ}	
71	共通語	なにを買おうか。	備考
71	大賀郷1	アニョ カウダローカ	
71	大賀郷2	アニ カウダロー	
71	大賀郷3	アニョ カオーカノー./ アニョカ カオーカ (ノー)	
71	大賀郷4	アニョ カオーカノー // アニ カオーカノー	
71	三根 1	アニョ カオウカノー	
71	三根3	アニョ カオーカノー	
71	三根4	アニョ カオーカノー / アニョ カオー	
71	末吉	アニョ カオーカナ	
71	中之郷 1	キーワ アニョ カウォッカ ノアア	
71	中之郷3	アニョー カオーカノー	
71	中之郷4	アニョ カオーカンオア	
71	樫立1	アニョ カオーカ	
71	樫立3	アニョー カオ (一)カ	
71	樫立4	アニョ カオーカノー	
72	共通語	和子のとおなじげたを花子にもかってやろう。	備考
72	大賀郷 1	カズコ/トオンナジ ゲトー ハナコニモ カッテケロゴン	
72	大賀郷2	カヅコ トオンナヂ ゲター ハナコニモ カッテケルカノー	
72	大賀郷3	カズコ{ガ / ノ}トオンナジ ゲトー ハナコニモ {カッテヤロー / カッテケローカノー / カッテヤロドーヂャ}	備考一カズコガトとカズコノトでニュアンスに差があるようである。 ガを用いると「差をつけていない」ということが強調されるようである。
72	大賀郷4	カズコ トオンナヂ ゲタオ ハナコニモ カッテヤロゴン.	
72	三根1	カズコノガトオンナジ ゲトー ハナコンモ カッテケロー	
72	三根3	カズコガトオンナヂ ゲトー ハナコンモ カッテ ケロヂャー	
72	三根4	カズコ/トオンナヂ{ゲタオ / ゲター}ハナコニモ カオゴン ノー	ゲター は末吉的な感じ
72	末吉	カズコガトオンナジ ゲター ハナコニモ カッテケロー	
72	中之郷1	カヅコトオンナヂ ゲトア ハナコニモ カッテヤロダラ	
72	中之郷3	カヅコトオンナヂ ゲタオ ハナコニモ カッテ ケロガン	
72	中之郷4	カズコガトオンナジ ゲトア ハナコニモ カッテケロガン	

72	樫立1	カズコガトオンナジ ゲトア ハナコニモ カッテ ヤロワ	
72	樫立4	カズコトオンナヂ ゲトア ハナコンモ カッテ ケロヂャ	
73	共通語	和子と花子は友だちだ。	備考
73	大賀郷1	カズコト ハナコワ ホーベーダラ	
73	大賀郷2	カゾコト ハナコワ トモダチ ダーノ	
73	大賀郷3	カズコト ハナコワ トモダチ ダラ	
73	大賀郷4	カズコト ハナコワ {トモダチダラー / トモダチダッテワ}	
73	三根 1	カズコト ハナコワ ホウベーダラ	
73	三根3	カズコト ハナコワ ホーベー {ダラ (ヨー)/ドーヂャー}	
73	三根4	カズコト ハナコワ ホーベーダラー	
73	末吉	カズコト ハナコワ ホーベーダラ	
73	中之郷1	カズコト ハナコワ ホービャー {ドア ヂャ / ダッティー ヂャ}	
73	中之郷3	カゾコト ハナコワ ホービャー {ドアヂャ / ドーヂャ}	
73	中之郷4	カズコト ハナコワ ホービャーダラ	ホービャーを数回[ホービョア]と も言っているが言い間違いと判 断。あるいは[アー]が[オア]となる ことの類推か。
73	樫立1	カズコト ハナコワ ホーベィア ダラヨ	
73	樫立3	カズコト ハナコワ ホーバイ ダラ	
73	樫立4	カゾコト ハナコワ ホービャードアヂャ	
74	共通語	花子は顔がかあさんによく似ている。	備考
74	大賀郷1	ハナコワ カオガ ホードノニ ヨク ニタアロワ	
74	大賀郷2	ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク {ニタロワノー (似て	
1 1		いるね)/ ニタロワ}	
74	大賀郷3	いるね)/ ニタロワ} ハナコワ カオダチガ カーサンニ ヨク {ニトーヂャ/ニ テイロヂャ/ニテアロワ}	
74 74		ハナコワ カオダチガ カーサンニ ヨク {ニトーヂャ/ニ	
	大賀郷3	ハナコワ カオダチガ カーサンニ ヨク {ニトーヂャ/ニ テイロヂャ/ニテアロワ}	
74	大賀郷3	ハナコワ カオダチガ カーサンニ ヨク {ニトーヂャ/ニ テイロヂャ/ニテアロワ} ハナコワ (ノー) カオガ カーチャンニ ソックリダラー	
74 74	大賀郷3 大賀郷4 三根1	ハナコワ カオダチガ カーサンニ ヨク {ニトーヂャ/ニテイロヂャ/ニテアロワ} ハナコワ (ノー) カオガ カーチャンニ ソックリダラー ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニタアロワ	
74 74 74	大賀郷3 大賀郷4 三根1 三根3	ハナコワ カオダチガ カーサンニ ヨク {ニトーヂャ/ニテイロヂャ/ニテアロワ} ハナコワ (ノー) カオガ カーチャンニ ソックリダラー ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニタアロワ ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニターロワノー	(A), (B) は個人の差。
74 74 74 74	大賀郷3 大賀郷4 三根1 三根3 三根4	ハナコワ カオダチガ カーサンニ ヨク {ニトーヂャ/ニテイロヂャ/ニテアロワ} ハナコワ (ノー) カオガ カーチャンニ ソックリダラー ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニタアロワ ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニターロワノー ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニターロワノー ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク {ニターロワ(A)//	(A), (B) は個人の差。
74 74 74 74 74	大賀郷3 大賀郷4 三根1 三根3 三根4 末吉	ハナコワ カオダチガ カーサンニ ヨク {ニトーヂャ/ニテイロヂャ/ニテアロワ} ハナコワ (ノー) カオガ カーチャンニ ソックリダラー ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニタアロワ ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニターロワノー ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク (ニターロワノー ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク {ニターロワ(A) //ニタロワ (B)}. ソックリダラ	(A), (B) は個人の差。
74 74 74 74 74 74	大賀郷3 大賀郷4 三根1 三根3 三根4 末吉	ハナコワ カオダチガ カーサンニ ヨク {ニトーヂャ/ニティロヂャ/ニテアロワ} ハナコワ (ノー) カオガ カーチャンニ ソックリダラー ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニタアロワ ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニターロワノー ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク (ニターロワノー ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク (ニターロワ(A)//ニタロワ (B)}. ソックリダラ ハナチャン オミャアワ カオーガ カーチャンニ {ニタ.アロ ヂャ/ソックリドア ヂャ} ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク {ニタロアノー/ニタ	(A), (B) は個人の差。

		ハナコワ カオガ カーチャンニ {ヨクニタラー / ニタロア	
74	樫立4	ヂャ (意外性や驚きが強い)/ ニタロアノ}	
		◆たぶんあの人は「飲まないだろうな〜飲まないと思う	
75	共通語	よ。」といった意味で、「ノミンジャンノウワ(中之郷一ノミン	備考
13	六世中	ジャンノーワ)」といいますか。	VĦ ² ¬
75	大賀郷1	いまでも使う。	「来ないだろう」キンジャンノウワ
75	大賀郷2	今でも使う。ノミンナカンノーワを使う。)
75	大賀郷3	いまでも使う? ノミンナカンノーワ	
70	7 (3 (7) (6)	今でも使う。ノミンナカー / イキンヂャンノーワ / イキンナ	
75	大賀郷4	ンノーワ	
75	三根1	いまでも使う。	
75	三根3	いまでも使う。	バンナン ノーワ
75	三根4	知らない。	
75	末吉1	知らない。	
75	末吉2	いまでも使う。	ノミンナンノーワとも言う。
75	中之郷 1	知らない。	
75	中之郷 2	聞いたことはある。	
75	中之郷3	知らない。 (※これは大賀郷の言葉)	
75	中之郷4	聞いたことはある。	
75	樫立1	今でも使う。	
75	樫立3	いまでも使う。	
75	樫立4	知らない。樫立では ノミンナカヌーワ / ノミンヂャララ	
70	共通語	◆きのウはだれも「飲まなかったよ。」といった意味で、「ノミ	備考
76	共地苗	ンジャララ」といいますか。	加持
76	大賀郷1	いまでも使う。	「しないだろう」シンナカンノウワ
76	大賀郷2	今でも使う。/ 聞いたことはある。(人によっては使う) /ミンナカララ	
76	大賀郷3	いまでも使う。 ノミンナララ.	
76	大賀郷4	今でも使う。ノミンヂャララ / ノミンナッキャ	
76	三根1	いまでも使う。	
76	三根3	いまでも使う。	ノミンナララ
76	三根4	聞いたことはある。(上の世代が使用)	
76	末吉1	知らない。	
76	末吉2	いまでも使う。	ノミンナララとも言う。
76	中之郷1	知らない。	
76	中之郷2	聞いたことはある。	
76	中之郷3	知らない (※これは大賀郷の言葉)	中之郷では ノミンナカララ
76	中之郷4	聞いたことはある。	<i>ノ</i> ミンナカララ。
76 76	中之郷 4 樫立 1	聞いたことはある。 今でも使う。	<i>、</i> ドンナカララ。

76	樫立3	いまでも使う。	
76	樫立4	今でも使う。ノミンヂャララも	
77	共通語	◆ (上記 76 の質問で「知らない」と答えた人以外に対する 質問。)「来なかった,見なかった」は,キンジャララ,ミンジャララですか。	備考
77	大賀郷1	キンジャララ,ミンジャララ	「見ないだろう」ミンナカンノウワ / ミンジャンノーワ (言うかもしれな いが使わない)
77	大賀郷2	キンナカララ	
77	大賀郷4	キンジャララ、ミンジャララ	
77	三根 1	キンジャララ, ミンジャララですか。Yes (キンナララも)	
77	三根3	キンジャララ、ミンジャララですか。	
77	三根4	キンジャララ・ミンジャララ。上の世代 (祖母一当時 100 才, 現在なら 130 才)が使用。	
77	末吉1	キンジャララ、ミンジャララですか。	
77	中之郷2	キンジャララ, ミンジャララですか。OK, OK	
77	中之郷3	キンナカッタ / キンナカラレ / ミンナカララ	
77	樫立1	キンジャララ,ミンジャララ	
77	樫立3	キンジャララ,ミンジャララ	
78	共通語	◆むかしよくあの人と「飲んだっけなあ。」といった意味で、「ノンジガー (あるいはノマッチガー, ノマラッチガー)」といいますか。	備考
78	大賀郷1	知らない。	
78	大賀郷2	知らない。ノマローガノー	
78	大賀郷3	知らない。ノマララヨーを使う。	
78	大賀郷4	知らない。ノマローガノー	
78	三根 1	知らない。	
78	三根3	いまでも使う。	(ノンデローガノー) ノマラッテガ ー
78	三根4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
78	末吉1	知らない。	
78	末吉2	(A)いまでも使う。/ (B)以前は使っていた。	(A), (B) は個人の差。
78	中之郷1	知らない。	
78	中之郷2	聞いたことはある。	
78	中之郷3	ノマッチガー:聞いた事はある。以前使っていた。	
78	中之郷4	知らない。	ノマカラッケガー。
78	樫立1	以前は使っていた。	
78	樫立3	いまでも使う。	
78	樫立4	知らない。	

		◆むかしあの人と「飲んだとき」といった意味で、「ノンジト	
79	共通語	キ (あるいは、ノマッチ トキ、ノマラッチ トキ)」といいます	備考
		カ。	
79	大賀郷1	知らない。	
79	大賀郷2	知らない。ノモートキ	
79	大賀郷3	知らない。ノモートキを使う。	
79	大賀郷4	知らない。ノモートキ	
79	三根 1	知らない。	
79	三根3	知らない	(ノモートキ)
79	三根4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
79	末吉1	知らない。	
79	末吉2	知らない。	ノマラトキ と言う。(ノマロ または ノモー が予測されるが,終止
			形の連体用法?
79	中之郷1	知らない。	
79	中之郷2	NR	
79	中之郷3	知らない。	
79	中之郷4	知らない。	
79	樫立1	知らない。	
79	樫立3	?	
79	樫立4	知らない。	
		◆あの人はむかし足が「はやかったなあ。」といった意味	
80	共通語	で,「ハヤカッチガー (あるいは, ハヤカラッチガー)」とい	備考
		いますか。	
80	大賀郷1	知らない。	
80	大賀郷2	知らない。ハヤカラーノ / ハヤカローヂャノー	
80	大賀郷3	知らない。ハヤカララを使う。	
80	大賀郷4	知らない。ハヤカットガ / ハヤカローガノー	
80	三根 1	知らない。	
80	三根3	知らない。	(ナヤカラーノー)
80	三根4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
80	末吉1	知らない。	
80	末吉2	(A)いまでも使う。/(B)以前は使っていた。	(A), (B) は個人の差。
80	中之郷1	知らない。	
80	中之郷2	聞いたことはある。	
80	中之郷3	聞いた事はある (※昔のことば)	
80	中之郷4	聞いたことはある。	
80	樫立1	聞いたことはある。	
80	樫立3	いまでも使う。	

	Inter I	知らない。樫立ではハヤカローガ / ハヤカララ (早かっ	
80	樫立4	た)	
81	共通語	◆「あっちとき」というのはどんな意味ですか。	備考
81	大賀郷1	知らない。	
81	大賀郷2	知らない。ウノコロワ / ウノトキ	
81	大賀郷3	知らない。	
81	大賀郷4	知らない。ウントキ (あの時の意味)	
81	三根 1	知らない。	
81	三根3	知らない。	
81	三根4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
81	末吉1	知らない。	
81	末吉2	(A)知らない。/ (B)昔,以前	
81	中之郷1	聞いたことはあるがわからない。	
81	中之郷2	知っている。「あの時」	
81	中之郷3	昔,以前のこと。	意味は分かるが, 90 代とかでな いと使わない
81	中之郷4	過ぎた時、昔。	
81	樫立1	以前。	
81	樫立3	あの時	
81	樫立4	知らない。	
		◆あの人,さっきまでここで「飲んでいたけど」どこに行った	
82	共通語	かな, といった意味で, 「ノンドロガ (あるいは, ノマットロ	備考
		ガ, ノマラットロガ)」といいますか。	
82	大賀郷1	知らない。	
82	大賀郷2	知らない。 サッキマデ ノンデ アロガ ドコゲー イツテシマ	
		ット	
82	大賀郷3	知らない。ノンデアロガを使う。	
82	大賀郷4	知らない。 ノマローガノー / ノンダローガノー	
82	三根 1	以前は使っていた。	母の時代
82	三根3	知らない。	cf. ノンダーローガ マヂケターノ
			ー どっか行っちゃった
82	三根4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
82	末吉1	知らない。	, , , , , , ,
82	末吉2	知らない。	ノンダラーガ と言う。
82	中之郷1	知らない。	
82	中之郷2	知らない。	
82	中之郷3	ノマットロー今でも使う。 ノマットロガ ドキ イコアー (飲ん	
-		でたけどどこに行ったのか)	
82	中之郷4	知らない。	

82	樫立1	知らない。
82	樫立3	いまでも使う。
82	樫立4	知らない。樫立ではノンダアロワガ

八丈方言基礎語彙 共通語索引

<u></u> あ		=	石 (いし)	天地	227
あおさ	植物	123	板(いた)	住	348
垢(あか)	人体	66	苺 (いちご)	植物	110
明かり	天地	211	V10	不定詞	513
あくび	人体	58	五つ	数詞	496
顎(あご)	人体	17	一昨日(いっさくじつ)	時間	258
朝(あさ)	時間	271	一昨年(いっさくねん)	時間	264
浅瀬(あさせ)	天地	215	糸(いと)	道具	407
朝食(あさめし)	食	333	井戸(いど)	住	357
足(あし)	人体	40	従兄弟(いとこ)	人間	466
味(あじ)	食	329	稲光(いなびかり)	天地	208
汗 (あせ)	人体	65	犬 (いぬ)	動物	151
畦道(あぜ)	天地	230	稲 (いね)	植物	84
あそこ	指示	525	命 (いのち)	人体	73
暖かい	形容詞	548	今 (いま)	時間	267
頭(あたま)	人体	1	芋 (いも)	植物	94
跡(あと)	空間	245	妹(いもうと)	人間	455
穴(あな)	住	350	イルカ	動物	141
あなた	人間	480	刺青(いれずみ)	もの	539
あなたたち	人間	481	色 (いろ)	もの	281
兄, おにいさん	人間	452	いろり	住	346
姉, おねえさん	人間	453	_		=
油 (あぶら)	食	325	<u>خ</u>		=
甘い	食	312	上(うえ)	空間	247
網(あみ)(魚を獲るあみ)	道具	414	魚(さかな) ウサギ	動物 動物	135 153
雨(あめ)	天地	205	サッキ 牛 (うし)	動物	133
綾,模様 (あや)	衣	298	蛆(うじ)	虫	165
アリ	虫	156	後ろ (うしろ)	空間	244
あれ	五 指示	522	臼(うす)	至 _同 道具	386
栗(あわ)	植物	92	ウズラ	鳥	180
泡 (あわ)	天地	222	嘘(うそ)	もの	541
112 (0)42))\\\`	222	歌(うた)	もの	531
			内 (うち)	空間	251
		=	腕(うで)	人体	33
L1		=	ウナギ	動物	137
家 (いえ)	食	339	ウニ	動物	129
イカ	動物	126	ウニの身	動物	130
息 (いき)	人体	55	馬(うま)	動物	146
いくつ	不定詞	519	海(うみ)	天地	218
いくら	数詞	512	梅(うめ)	植物	115

裏(うら)	衣	297	櫂(舟のカイ)	道具	413
瓜 (うり)	植物	103	蚕 (かいこ)	虫	170
漆(うるし)	道具	397	カエル	虫	162
うろこ	動物	136	顔(かお)	人体	20
			踵(かかと)	人体	47
え		=	鏡 (かがみ)	道具	398
	道具	= 377	垣(かき)	住	355
枝 (えだ)	植物	76	蔭(かげ)	天地	190
エビ	動物	128	崖(がけ)	天地	234
襟 (えり)	衣	285	篭(かご)	道具	423
			笠・傘 (かさ)	道具	405
お		=	粕(かす)	食	314
緒(お)	衣	204	風(カンぜ)	天地	206
猫(ね) 甥(おい)	人間	294 464	家族(かぞく)	人間	468
お祝い	人間		肩(かた)	人体	22
大きい	八间 形容詞	486 543	型(かた)	もの	535
丘(おか)	万名 码 天地		形(かたち)	もの	536
		197	カタツムリ	虫	161
奥 (おく)	空間	253	刀(かたな)	道具	383
桶(おけ)	道具	373	カツオ	動物	139
水桶(みずおけ)	道具	374	角(かど)	空間	254
叔父(おじ)	人間	462	カニ	動物	133
夫(おっと)	人間	459	金(かね)(金属・お金)	道具	409
おでき	人体	63	黴(かび)	植物	111
音(おと)	もの 1 ==	282	かぼちゃ	植物	102
弟(おとうと)	人間	454	釜 (かま)	道具	378
男(おとこ)	人間	470	鎌 (かま)	道具	419
踊り(おどり)	もの 形容割	532	カマキリ	虫	171
同じ	形容詞	545	竈 (かまど)	住	345
鬼 (おに)	もの	527	紙(かみ)	道具	394
斧(おの)	道具	388	雷 (かみなり)	天地	212
叔母 (おば) # (おば)	人間	463	髪の毛	人体	2
帯(おび)	衣	288	カメ	動物	132
お前	人間	482	瓶 (かめ)	道具	371
お前たちました。	人間	483	水瓶(みずがめ)	道具	372
表(おもて)	衣	296	茅(かや	植物	91
母屋(おもや)	住	340	粥(かゆ)	食	304
親(おや)	人間	429	カラス	鳥	179
親子(おやこ)	人間	448	体(からだ)	人体	48
女(おんな)	人間	471	皮 (かわ)	人体	51
,		=	川 (かわ)	天地	195
か		=	瓦(かわら)	住	353
蚊 (か)	虫	157			
貝(かい)	動物	131			

き			毛 (け)	人体	= 19
木 (き)	植物	74	怪我(けが)	人体	67
きくらげ	植物	106	結婚(けっこん)	行事	487
傷 (きず)	人体	70	煙 (けむり)	天地	214
煙管(きせる)	道具	408	喧嘩(けんか)	行事	489
北(きた)	天地	238			=
杵 (きね)	道具	387	げ		=
茸 (きのこ)	植物	105	下駄(げた)	衣	292
肝(きも)	人体	27			_
着物(きもの)	もの	284			
灸 (きゅう)	人体	72	粉 (こ・こな)		= 319
急須・鉄瓶(きゅうす)	道具	380	子 (こ)	人間	430
休息	もの	537	麹(こうじ)	植物	111
九男	人間	439	麹(こうじ)	食	316
きゅうり	植物	97	肛門(こうもん)	人体	31
今日(きょう)	空間	256	声 (こえ)	人体	54
兄弟(きょうだい,しまい)	人間	456	小刀(こがたな)	道具	384
霧 (きり)	天地	203	22	指示	523
錐 (きり)	道具	391	九つ	数詞	500
		_	心 (こころ)	もの	528
<			腰(こし)	人体	29
茎 (くき)	植物	122	梢(こずえ)	植物	77
釘(くぎ)	住	352	今年(ことし)	時間	262
草 (くさ)	植物	80	言葉 (ことば)	もの	530
鎖(くさり)	道具	362	ご飯	食	331
櫛(くし)	道具	399	拳 (こぶし)	人体	36
クジラ	動物	138	米 (こめ)	植物	86
薬(くすり)	人体	71	暦(こよみ)	時間	279
糞 (くそ)	人体	61	これ	不定詞	520
果物(くだもの)	食	324			
口 (くち)	人体	12	Ĩ		
唇 (くちびる)	人体	13	 脱穀用ゴザ	道具	= 418
九人	数詞	510	五女	人間	445
首(くび)	人体	21	五男	人間	435
蜘蛛(くも)	虫	158	五人	数詞	506
雲 (くも)	天地	202	胡麻(ごま)	植物	109
クモの巣	虫	159			
くるぶし	人体	44			
桑(くわ)	植物	117	学 (さお)		= 403
鍬(くわ)	道具	416	坂(さか)	天地	235
クワズイモ	食	322	昨日(さくじつ)	時間	257
			昨年(さくねん)	時間	263
け			" (C\\4\\\\)	7 l⊞1	203

海(チュナ)	A	215			=
酒(さけ)	食	315	巣 (す)	鳥	183
甘藷(さつまいも)	植物	95	末っ子	人間	447
砂糖(さとう)	食	311	鋤(牛にひかすすき)	道具	417
砂糖黍(さとうきび)	食	313	鋤(すき)	道具	420
寒い	形容詞	549	筋(すじ)	人体	37
皿 (さら)	道具	366	煤 (すす)	住	359
再来年(さらいねん)	時間	266	すすき	植物	119
珊瑚礁	天地	225	雀 (すずめ)	鳥	177
三女	人間	443	裾(すそ)	衣	287
三男	人間	433	砂 (すな)	天地	226
三人	数詞	504	脛 (すね)	人体	45
		_	相撲(すもう)	行事	491
ざ	学 日	=	I.L.		_
笊(ざる)	道具	422	また (けいわり)	, BB	=
1		_	青年(せいねん)	人間	474
L		_	咳(せき)	人体	56
潮(しお)	天地	213	背丈(せたけ)	人体	49
塩(しお)	食	309	背中(せなか)	人体	26
塩辛い	食	310			_
舌(した)	人体	14	ぜ		_
下(した)	空間	248	膳(ぜん)	食	336
七男	人間	437			
七人	数詞	508	-		
二男	人間	432			=
島(しま)	天地	223	相互扶助(農作業など)	行事	490
三味線(しゃみせん)	道具	410	底 (そこ)	空間	250
しゃもじ	道具	379	そこ	指示	524
食事(しょくじ)	食	332	袖(そで)	衣	286
白髪(しらが)	人体	5	ソテツ	植物	112
シラミ	虫	168	外 (そと)	空間	252
尻(しり)	人体	30	傍 (そば)	空間	255
汁 (しる)	食	308	祖父(そふ)	人間	457
印(しるし)	道具	396	祖母(そぼ)	人間	458
親戚(しんせき)	人間	469	空 (そら)	天地	186
	y 41.4	_	それ	指示	521
じ					_
地震(じしん)	天地	209	ぞ		_
二女	人間	442	雑炊(ぞうすい)	食	306
十男	人間	440	草履(ぞうり)	衣	293
十人	数詞	511			_
+		_	<i>t</i> =		=
र्		=	田 (た)	天地	229

太陽(たいよう)	天地	188	綱 (つな)	道具	363
鷹(たか)	鳥	181	角 (つの)	動物	149
宝(たから)	もの	534	唾 (つば)	人体	57
薪(たきぎ)	道具	427	粒 (つぶ)	食	317
竹(たけ)	植物	114	壷 (つぼ)	道具	369
タコ	動物	127	妻 (つま)	人間	460
竜巻(たつまき)	天地	207	つむじ	人体	3
棚(たな)	住	344	爪(つめ)	人体	39
種 (たね)	植物	82	冷たい	形容詞	550
足袋(たび)	衣	290	露 (つゆ)	天地	204
食べ物	食	338			
食べる	食	337			
卵(たまご)	鳥	182			=
魂(たましい)	もの	538	て		_
盥(たらい)	道具	375	手 (て)	人体	32
俵(たわら)	道具	425	手ぬぐい、タオル	衣	299
たんこぶ	人体	64	天井(てんじょう)	住	342
72/02/5	/ CIT-	01	天ぷら	· 食	326
			,		
だ			٢		=
大工(だいく)	人間	= 475	戸 (と)	住	347
大根(だいこん)	植物	100	とうがらし	植物	107
台所(だいどころ)	住	341	冬瓜(とうがん)	植物	101
だれ	不定詞	514	動物	動物	185
			十 (とお)	数詞	501
ち			遠浅(とおあさ)	天地	216
血 (ち)	 人体	= 69	時 (とき)	時間	277
小さい	大体もの	542	とさか	動物	150
カ (ちから)	人体	35	とさか	鳥	176
カ (ちから) 乳 (ちち)	人体		年(とし)	時間	278
孔 (99) 父(ちち), おとうさん	人間	24	トビウオ	動物	140
茶(ちゃ)	食	450 302	友だち	人間	476
茶碗(ちゃわん)			鳥 (とり)	鳥	174
	道具	368	トンボ	虫	172
頂上(ちょうじょう)	天地	236			
長女	人間	441	Ĕ		=
蝶々(ちょうちょ)	虫	160		T lib	217
長男	人間	431	洞窟(どうくつ)	天地	217
		_	EL.	不定詞	515
<u>っ</u>		=	どれ	不定詞	516
杖 (つえ)	道具	404	4.		=
月 (つき)	天地	201	な		=
土·地面	天地	199	菜 (な)	植物	99
鼓 (つづみ)	もの	533	名 (な)	人間	485

					_
苗(なえ)	植物	83	歯 (は)	人体	15
中(なか)	空間	249	葉 (は)	植物	75
情け(なさけ)	もの	529	灰(はい)	食	327
なぜ	不定詞	517	蝿(はえ)	虫	164
夏 (なつ)	時間	269	墓(はか)	住	358
七つ	数詞	498	袴(はかま)	衣	291
なに	不定詞	518	歯茎(はぐき)	人体	16
ナマコ	動物	142	箱(はこ)	道具	392
波(なみ)	天地	221	鋏(はさみ)	道具	395
涙(なみだ)	人体	53	橋(はし)	天地	196
縄 (なわ)	住	361	箸(はし)	道具	381
		=	柱(はしら)	住	351
IC			畑(はたけ)	天地	231
荷 (に)	道具	= 365	蜂 (はち)	虫	163
匂い (におい)	食	328	鉢 (はち)	道具	370
にがうり	植物	108	八男	人間	438
肉(にく)	食	323	八人	数詞	509
西(にし)	天地	239	鳩(はと)	鳥	178
虹(にじ)	天地	210	鼻(はな)	人体	9
尿(にょう)	人体	62	花 (はな)	植物	81
韮(にら)	植物	104	鼻血(はなぢ)	人体	10
庭 (にわ)	住	356	羽 (はね)	鳥	184
ニワトリ	鳥	175	母, おかあさん	人間	451
にんにく	食	320	浜(はま)	天地	224
			腹(はら)	人体	25
ය න			針 (はり)	道具	406
糠(ぬか)		= 318			=
布 (ぬの)	衣	295	ば		
(0.27.2)			バッタ	虫	173
ね		-			=
根 (ね)	植物	79	٥ 		=
猫(ねこ)	動物	152	日 (ひ)	天地	187
ネズミ	動物	154	火 (ひ)	天地	192
		_	稗(ひえ)	植物	93
の			東(ひがし)	天地	237
野 (の)	天地	232	光 (ひかり)	天地	189
鋸(のこ)	道具	389	低い	形容詞	544
蚤 (のみ)	虫	166	髭 (ひげ)	人体	18
鑿 (のみ)	道具	390	膝 (ひざ)	人体	43
	~	570	肘 (ひじ)	人体	34
			ひしゃく	道具	376
		=	ひしゃく 額 (ひたい)	道具 人体	376 8

人 (ひと)	道具	428	箒(ほうき)	道具	402
一つ	行事	492	包丁(ほうちょう)	道具	382
ヒトデ	動物	143	ほくろ	人体	52
一人	数詞	502	埃(ほこり)	住	360
暇(ひま)	時間	276	星(ほし)	天地	200
紐(ひも)	衣	289	全(ほね)	人体	50
病気	人体	68	H (1949)	/\r	30
昼(ひる)	時間	272	<u></u> ま		=
昼食(ひるめし)	食	334			=
三人(000)0)		331	前(まえ)	空間	243
び		=	巻き貝(まきがい)	動物	134
	Llade	_	枕(まくら)	道具	401
びろう樹	植物	120	孫(まご)	人間	449
		_	股(また)	人体	42
స్			松(まつ)	植物	113
夫婦(ふうふ)	人間	461	まな板	道具	385
ふくら脛	人体	46	真似(まね)	もの	540
袋(ふくろ)	道具	364	まぶしい	天地	191
ふけ	人体	4	豆(まめ)	植物	96
節(ふし)	住	349	眉(まゆ)	人体	7
二つ	数詞	493	丸い	形容詞	547
二人	数詞	503			_
筆 (ふで)	道具	393	み		
布団(ふとん)	道具	400	実 (み)	植物	- 78
船 (ふね)	道具	411	ミカン	植物	121
冬 (ふゆ)	時間	270	右(みぎ)	分類	241
篩 (ふるい)	道具	424	短い	形容詞	546
			水 (みず)	天地	193
			水溜り、池	天地	219
<u></u>		_	味噌(みそ)	食	307
	-51 4.L.		溝(みぞ)	天地	228
豚(ぶた)	動物	148	道 (みち)	天地	233
		=	三つ	数詞	494
^		=	皆(みな)	人間	484
屁 (~)	人体	60	港(みなと)	天地	220
臍 (へそ)	人体	28	南(みなみ)	天地	240
箆 (へら)	道具	421	養 (みの)	衣	300
		<u> </u>	耳 (みみ)	人体	11
べ		-	キ (0,505) ミミズ	虫	167
便所(べんじょ)	 住	354	明後日(みょうごにち)	時間	260
\(\rangle\) \(\rangle\)	<u> </u>	334	明日(みょうにち)	時間	259
 ほ		_			
	L++ d.L.		明明後日(みょうみょうごにち)	時間	261
穂 (ほ)	植物	85			_
帆 (ほ)	道具	412			_

む		=	指 (ゆび)	人体	3
昔(むかし)	 時間	269	夢 (ゆめ)	もの	28
日 (むかし) ムカデ	虫虫	268 169			
麦 (むぎ)	植物	88	よ		
麦わら	道具	90	横(よこ)	空間	24
婿(むこ)	人間	467	涎(よだれ)	人体	5
虫(むし)	虫	155	四つ	数詞	49
筵(むしろ)	道具	426	一 夜中	時間	27
若い娘	人間	477	四人	数詞	50
六つ	数詞	497	蓬 (よもぎ)	植物	9
胸(むね)	人体	23	夜 (よる)	時間	27
7.7 (3.4-1)	7 (11		四女	人間	44
め			四男	人間	43
目 (め)	人体	6			
芽 (め)	食	321	6		_
姪 (めい)	人間	465	来年(らいねん)	時間	 26
目上 (の男)	人間	472	714 1 (2 · 4-4 c)	. 4 114	_0
飯(めし)	食	303	IJ		
目下(弟、妹)	人間	473		→ tul.	
			陸地(りくち)	天地	19
ŧ			料理(りょうり)	食	33
藻(も)	植物	125	7		_
モズク	植物	124	3	, нн	_
餅(もち)	食	305	六女	人間	44
物 (もの)	時間	280	六男	人間	43
籾 (もみ)	植物	87	六人	数詞	50
腿 (もも)	人体	41	1		
桃 (もも)	植物	116	わ ・・・・・・・		
			技•仕事	指示	52
や			私(わたし)	人間	47
ヤギ	動物	147	私たち	人間	47
八つ	数詞	499	藁 (わら)	植物	8
ヤドカリ	動物	144	椀(わん)	道具	36
山(やま)	天地	194			
槍 (やり)	道具	415			
<u></u>		_			
ゆ					
湯 (ゆ)	衣	301			
結納(ゆいのう)	行事	488			
夕方(ゆうがた)	時間	273			
夕食(ゆうめし)	食	335			
床(ゆか)	住	343			

八丈方言文法項目 一覧

1	おれはきょうはいそがしい
2	おまえが畑へ行け。
3	うん,畑へはおれがいく。
4	おれの鍬はどこにある。
5	この鎌は太郎のか。
6	どれがおまえの笠だ
7	その笠がおれのだ。
8	このふろしきはおまえのか。
9	それはおとうとのかもしれない。
10	沖縄には船で行くより飛行機で行ったほうが
	いい。
11	飛行機は一日に一回しかない。
12	空港ならこっちの道を行きなさい。
13	道のまんなかをあるいてはいけない。
14	道が広いなあ。
15	あ,雨がふってきた。
16	いとこの布団がやねの上にほしてある。
17	きのうは今日より風が強かった。
18	真っ白な鳥が空を飛んでいる。
19	あの山にはいのししがいるそうだ。
20	あれは学校だ。役場ではない。
21	あれが役場だ。
22	あの目のおおきい,色の白い男はだれだろ
	う。
23	孫が去年から東京にいる。
24	孫はいつ東京から帰るか。
25	八月には帰ってくるようだ。
26	かあさんはあした東京へむすこに会いにい
	<。

27	大阪から東京までの汽車賃はいくらだろう
	か。
28	四時まで駅でまっておれ。
29	五時までに帰らなくてはならない。
30	次郎,この荷物を家までかついで行ってく
	れ。
31	荷物が重かったので,二人でもった。
32	この上着はこのまえ沖縄で二千円で買った。
33	沖縄にはめずらしい菓子がある。
34	孫はお菓子が好きだ。
35	箱の中にまんじゅうがいくつあるとおもうか。
36	孫はまんじゅうを皮だけ食べる。
37	じいさんは朝から海へ魚をとりにいった。
38	ここは海にちかいので魚がうまい。
39	魚より肉のほうが高い。
40	おれは蛸のさしみが食べたい。
41	おまえはこの魚の名まえを知っているか。
42	これはかつおだろう。
43	酒はどうやってつくるかおまえは知っている
	だろう?
44	酒は米からつくる。
45	酒さえあればなにもいらぬ。
46	うちのじいさんは酒もたばこものまない。
47	その水はのむな。のむならこの水をのめ。
48	なぜおまえはたべないのか。
49	おれはさつまいもなんか食べないぞ。
50	もう食べられるものは全部食べた。
51	食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。
52	さとうはあまい。くすりはあまくない。

: :	
53	去年いとこが中学の先生になった。
54	いとこは英語の本が読める。
55	あの人こそほんとうの金持ちだ。
56	その話は妻にだけ聞かせた。
57	妻に夕飯を作らせる。
58	夫は竹でかごをつくった。
59	次郎はおとうとの三郎とけんかした。
60	三郎は次郎に棒でなぐられた。
61	次郎はじいさんにしかられた。
62	おれはきのうは新聞をよまなかった。
63	その新聞はきょうのだ。きのうのはこれだ。
64	雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり
	見ている。
65	お祝いのときにはばあさんまでおどった。
66	花子はきのうから病気でねている。
67	花子はかあさんにごはんをたべさせてもらっ
	た。
68	た。 医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。
68 69	
	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。
69	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。 かあさんは市場へ買物に行った。
69 70	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。 かあさんは市場へ買物に行った。 道で学校の先生に会った。
69 70 71	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。 かあさんは市場へ買物に行った。 道で学校の先生に会った。 なにを買おうか。
69 70 71	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。 かあさんは市場へ買物に行った。 道で学校の先生に会った。 なにを買おうか。 和子のとおなじげたを花子にもかってやろ
69 70 71 72	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。 かあさんは市場へ買物に行った。 道で学校の先生に会った。 なにを買おうか。 和子のとおなじげたを花子にもかってやろう。
6970717273	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。 かあさんは市場へ買物に行った。 道で学校の先生に会った。 なにを買おうか。 和子のとおなじげたを花子にもかってやろう。
697071727374	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。 かあさんは市場へ買物に行った。 道で学校の先生に会った。 なにを買おうか。 和子のとおなじげたを花子にもかってやろう。 和子と花子は友だちだ。 花子は顔がかあさんによく似ている。
697071727374	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。 かあさんは市場へ買物に行った。 道で学校の先生に会った。 なにを買おうか。 和子のとおなじげたを花子にもかってやろう。 和子と花子は友だちだ。 花子は顔がかあさんによく似ている。 ◆たぶんあの人は「飲まないだろうな〜飲ま
697071727374	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。 かあさんは市場へ買物に行った。 道で学校の先生に会った。 なにを買おうか。 和子のとおなじげたを花子にもかってやろう。 和子と花子は友だちだ。 花子は顔がかあさんによく似ている。 ◆たぶんあの人は「飲まないだろうな〜飲まないと思うよ。」といった意味で、「ノミンジャン
697071727374	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。 かあさんは市場へ買物に行った。 道で学校の先生に会った。 なにを買おうか。 和子のとおなじげたを花子にもかってやろう。 和子と花子は友だちだ。 花子は顔がかあさんによく似ている。 ◆たぶんあの人は「飲まないだろうな〜飲まないと思うよ。」といった意味で、「ノミンジャンノウワ(中之郷:ノミンジャンノーワ)」といいま
70 71 72 73 74 75	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。 かあさんは市場へ買物に行った。 道で学校の先生に会った。 なにを買おうか。 和子のとおなじげたを花子にもかってやろう。 和子と花子は友だちだ。 花子は顔がかあさんによく似ている。 ◆たぶんあの人は「飲まないだろうな〜飲まないと思うよ。」といった意味で、「ノミンジャンノウワ(中之郷:ノミンジャンノーワ)」といいますか。
70 71 72 73 74 75	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。 かあさんは市場へ買物に行った。 道で学校の先生に会った。 なにを買おうか。 和子のとおなじげたを花子にもかってやろう。 和子と花子は友だちだ。 花子は顔がかあさんによく似ている。 ◆たぶんあの人は「飲まないだろうな〜飲まないと思うよ。」といった意味で、「ノミンジャンノウワ(中之郷:ノミンジャンノーワ)」といいますか。 ◆きのうはだれも「飲まなかったよ。」といった

外に対する質問。)「来なかった,見なかった」
は、キンジャララ、ミンジャララですか。
◆むかしよくあの人と「飲んだっけなあ。」とい
った意味で,「ノンジガー(あるいはノマッチガ
ー, ノマラッチガー)」といいますか。
◆むかしあの人と「飲んだとき」といった意味
で,「ノンジ トキ(あるいは, ノマッチ トキ, ノ
マラッチ トキ)」といいますか。
◆あの人はむかし足が「はやかったなあ。」と
いった意味で, 「ハヤカッチガー(あるいは,
ハヤカラッチガー)」といいますか。
◆「あっちとき」というのはどんな意味ですか。
◆あの人,さっきまでここで「飲んでいたけど」
どこに行ったかな,といった意味で,「ノンドロ
ガ(あるいは, ノマットロガ, ノマラットロガ)」と
いいますか。

「八丈・島ことば調査のつどい」講演記録

調査の最終日に島の方々へ向けて「八丈・島ことば調査のつどい」を開催した。そのときの ポスターを次にあげる。



国立国語研究所セミナー(第6回八丈方言講座)

八丈・島ことば調査のつどい

<プログラム>

- 1. 開会のことば
- 2. 教育長あいさつ
- 3. 国語研究所あいさつ
- 4. 八丈語の紹介(島ことばカルタ)
- •••••休憩••••••
- 5. 八丈方言調査の報告「八丈のことば」

講演「八丈方言の文法」

金田章宏(千葉大学教授)

「八丈方言の発音」

トマ・ペラール(フランス国立科学研究所常勤研究員)

「八丈方言と古代日本語」

平子達也(京都大学大学院博士後期課程/学振研究員)

パネルディスカッション

司会 木部暢子(国立国語研究所)

6. 閉会のことば

日時:平成24年9月9日(日)

13:30~16:00

場所:八丈町保健福祉センター



主催:国立国語研究所·八丈町教育委員会

プログラムの前半は「島ことばかるた」を使った5集落のことばの紹介,後半は八丈語に関する講演とパネルディスカッションである。後半の講演とディスカッションの記録を以下にあげておく。

(木部) それでは、第2部を始めたいと思います。第2部では、私たちが勉強したことを、ここで発表したいと思います。最初に千葉大学の金田先生、よろしくお願いします。(拍手)

(金田) 千葉大学の金田です。よろしくお願いします。私の方でご用意したのは、ホチキスで留めてある両面 2 枚のものです。私は以前から南海タイムスに書かせていただいたり、こちらに来ていろいろ話をさせていただいたりする中で、この八丈の方言というのは非常に古いんだと。あ、今日はですね、八丈方言ではなくて八丈語というのを使わせていただきます。今、危機「言語」の調査ということでやっていますので、八丈の言葉も八丈語というふうに呼びたいと思います。今までいろいろ、古いんだ、古いんだということを申し上げてきましたが、万葉集との関係でどういうところが八丈の言葉と共通しているかというのを、覚えていらっしゃる人はいますか。今日また新鮮な気持ちで聞いていただけますか。ということで、最初に少しおさらいをしたいと思います。

万葉集には奈良時代に詠まれた歌が 4,500 ぐらい入っていて、全部で 20 巻ありますけれど も、14 巻目と 20 巻目に、当時の関東周辺に住んでいた人たちが詠んだ歌がたくさん集められていて、第 14 巻が東歌、第 20 巻が防人歌という名前で呼ばれています。その東歌、防人歌と八丈語とで共通するところが、主につぎの 4 点です。

まず、動詞の「~する~」というときの形を連体形と言いますが、八丈だったら、「降る雨」と言わずに、「フロ雨」、あるいは「行くとき」と言わずに「イコとき」、あるいは「飲む酒」と言わずに「ノモ酒」、これは旧 5 カ村共通ですよね。その言い方は、この万葉集の 14 巻と 20 巻の中にそのままたくさん出てきます。2 つだけ例を挙げておきました。

原文はもちろん,万葉集ですから漢字でぜんぶ書かれています。ふつうは意味が分かりやすいように,漢字と仮名を混ぜて書いて読んでいるんですけれども,今日は文庫本になっている万葉集の原文,これを白文といいますけれども,漢字だけのものを持ってきていますので,もしご覧になりたいかたがいらっしゃいましたら,あとでご覧になってください。

それを見ると、最初の歌ですけれども、「降ろ(布路)雪」というふうにありまして、布と道路の路を書いて、フロというふうに読ませています。ふろ雪(よき)。この「雪(よき)」というのも、この当時の関東周辺の人たちの方言的な、簡単に言うとなまりですね。方言的な音の違いです。

^{ょき} 上 野 伊香保の嶺ろに降ろ(布路)雪の - 行き過ぎかてぬ妹が家のあたり(14: 3423)

次の「行く先」というのも、「行こ(由古)先」というふうに、ちゃんと音が分かるように漢字で書かれています。万葉集の場合は、こういうふうに1音1文字で書かれている歌がたくさ

んありますが、そうではない、漢字の意味を使って短く書いた歌というのもたくさんあります。 ですけれども、とくに東歌、防人歌というのは、中央の発音と違うものですから、1文字1音 という、元の音が分かりやすい書き方で書かれています。

<u>行こ</u>(由古) 先に波なとゑらひ 後方には子をと妻をと置きてとも来ぬ (20: 4385)

1つ目がこの動詞の連体形ですね。「フロ雨」、「イコ時」、「ノモ酒」。もう1つが形容詞の連体形です。八丈語だったら「アカケ花」、「タカケ山」。これが万葉集だと、「悩ましけ人妻」、これは浮気の歌らしいんですけどね。あるいは2つ目の歌、「かなしけ(可奈師家)児ら」。島で今でも、「カナシイ」というのを「かわいい」という意味で使いますね。「カナシゴ」というので「かわいい子ども」というのをむかしは使っていたようなんですね。今の標準語の「悲しい」と違うんですね。で、万葉の時代の「かなしけ」というのも、もちろんその古い意味で使われているわけです。形も中央だったら「かなしき」になるところが、「かなしけ」というふうに八丈と同じ形で出てきます。

悩ましけ (奈夜麻思家) 人妻かもよ 漕ぐ舟の忘れはせなな いや思ひ増すに (14: 3557)

かみっけのくろほ 上毛野久路保の嶺ろの葛葉がた かなしけ (可奈師家) 児らにいや離り来も (14: 3412)

もう1つ,八丈語だと「飲んだ」というときに「ノマラ」,「行った」というときに「イカラ」, 字を「書いた」というのは「カカラ」という言い方がありますけれども、これが非常に古い形でして、中学とか高校で、「つ・ぬ・たり・り」なんていうのをやったのを覚えていらっしゃいます? 「つ・ぬ・たり・り」, 意味は忘れていても、その音の連続だけは覚えていらっしゃるかもしれません。問題は「たり・り」の「り」の形です。その「たり・り」の「たり」の形の「飲みたり」というのが現代語の「飲んだ」に変わるんですが、この「たり・り」の「り」のほう、「飲む」だと「飲めり」というのが奈良時代まではあったんですが、平安時代以降になるとなくなるんです。それが、八丈ではいまもそのまま使われています。

で、万葉集の例だと、「夕占にも今夜と告らろ(乃良路)」、この「のる」は占いをするという意味で、占いの結果が出るんですね。思っている人が今夜来ると占いに出たのに、なぜか来ないのかという、この「告らろ」というところがその形です。この「告らろ」のうしろに「ノモワ」の「ワ」をくっつけると、「飲む」だと「ノマロ」に「ワ」をくっつけると融合して「飲んだ」の意味の「ノマラ」になる、これと同じ形ですね。これがそのまま残っています。

 ゆよけ
 こよひ
 の

 夕占にも今夜と告らろ(乃良路)
 我が背なは
 あぜそも今夜よしろ来まさぬ(14:3469)

次のが「青柳のはらろ(波良路)川門」。これは柳の芽が膨らんでいるという「張る」、「膨らむ」。これも「膨らんでいる」という意味で、この「はらろ」という形が出てきています。こういう、「つ・ぬ・たり・り」の「り」の系列が残っているというのは、本当に非常に古い文法現

象なんですね。

最後が、「何々だろう」に当たる推量の言い方で、これは三根の発音だと「飲むノウワ」。さっき、音を伸ばすとか伸ばさないとか、ありましたけれども、これが大賀郷だと「飲むノーワ」になります。樫立、中之郷だと「飲むヌーワ」になりますかね、「ヌ」に近いような。新しい発音だと「飲むノーワ」になるんですけれども、かなり古い発音だと「飲むヌーワ」のような発音がありました。

この「ノウ」のところ、「ノウ」だけ見るとよく分からないんですが、これをさかのぼっていくと、万葉集の最初の例だと「我をか待つなも」、「私を持っているんだろうか」という、この「なも」のところなんですね。この「だろう」に当たる「なも」の音が変化して、八丈語では「ノウワ」とか「ノウジャ」とかいう形で出てきているということです。最後の例もおなじように、「児らは逢はなも」が「逢うだろう」。

比多潟の磯のわかめの立ち乱え 我をか待つなも(麻都那毛) 昨夜も今夜も(14:3563)

奈良時代の奈良というのは当時の中央なわけですけれども、当時の関東周辺というのは、いわゆる田舎。今でもそうですけれども、中央よりは周辺のほうに古い言葉が残っています。当時もやはり奈良中央よりも周辺のほうに古い言葉が残っている。奈良時代の言葉の使い方がちゃんと分かっているのは、中央以外では関東周辺の言葉だけなんですね。つまり万葉集の東歌とか防人歌というふうな形で残されていたから、それがわかるわけです。まさに今、八丈語を使える皆さんというのは、その奈良時代の関東周辺の人たちの言葉をかなりの程度に受け継いでいる、非常に文化財的な方がたなわけですね。

以上が八丈語の非常に重要な文法的な特徴なんですが、こういうことというのは、別に私が 1 人で勝手に言っているわけではなくて、かなり以前から、八丈語の特徴というのは非常に注 目されてきています。今日は、これまでどういうふうに注目されてきたか、いつごろから注目 されてきたかというのを、簡単に見ていただきたいと思います。

最初にご紹介するのが、120 年以上前の外国人なんですね。アーネスト・サトウ、この人は非常に有名な人ですけれども、この人とディケンズという人が八丈に来ました。言葉についても記録していますが、植物とか自然関係のものについても英語で論文を書いています。(1878: Dikins and Satow: "NOTES OF A VISIT TO HACHIJO IN 1878.")

で、言葉のところの、とくにその形容詞の「~け」という、その部分だけ原文を用意しました(省略)。このころから、八丈語と万葉集との関係というのがいろいろ指摘をされてきた。面白いのが、近藤富蔵の『八丈実記』なんですけれども、2ページ目の上のところですね。『やた

けの寝覚め草』の中に「ういでいわい」というのがあったんですね。ですが、今出版されている、簡単に見られる形になっている『やたけの寝覚め草』には「ういでいわい」はありません。 近藤富蔵の『八丈実記』の中に載っているんですけれども、このあたり、どういうことなのか というのはちょっと分からないんですが。

近藤富蔵とアーネスト・サトウたちというのは、一度島で会っています。おそらくそのときに、この「ういでいわい」というのを近藤富蔵が自分でどうも、読んできかせたか、話してきかせたかしているんじゃないかと思うんですね。それは、近藤富蔵の実記に入っている仮名漢字で書かれた「ういでいわい」の話よりも、アーネスト・サトウたちが書いたものの方が、発音が自然なんです。耳で聞いたものをたぶん書いたんじゃないかなと。それで、より方言的な表記で残されているんじゃないかと思います。

下の補足(省略)のところは、誤訳のせいで、サトウと富蔵が会ったのが1年ずれているというのをちょっと書いておきました。1977年ではなくて1978年に2人は会っています。

この時代,120 年以上前ですけれども,明治の初めのころというのは,ヨーロッパのほうからたくさん外国人の方が来まして,沖縄の方言を記録したチェンバレンはあれ何年ぐらいですか。チェンバレンという方も,琉球の方言を記録しているんですね。本格的な記録というのはその人が最初。で,私,高校が米沢なんですけれども,米沢にも外国人教師のダラスという人が行ってまして,米沢の方言を記録しています。このころは日本の各地で,そういう形で外国人が日本のいろいろな方言に注目していた,そういう時代だったと思います。

次にあらわれる重要な論文(「八丈島方言」『言語学雑誌』) というのが 1900 年ちょうど、保 科孝一という人ですが、実際に八丈に来まして、2~3 週間ぐらいですかね、八丈に来て論文を 書いています。実はこの保科孝一という人は米沢の私の高校の大先輩だった、というのを後で 知りました。

で、いろいろ細かいことを書いているんですけれども、非常に大事なのが、当時の大衆小説、 クニの方で出た本だと思うんですけれども、それを八丈語に訳しているんです。小説ですから 当然会話もたくさん出てきます。非常に面白いです。明治のころの、当時の八丈の言葉使いと いうのがよく分かります。非常に興味深いです。

このあと論文が何件かありまして、そのあと非常に大事なのが 1948 年の北条忠雄さんという方の論文 (「八丈島方言の研究―特に上代性の遺存についてー」『日本の言葉』、ほか)。この方は八丈には来ていないんですけれども、いろいろな文献を調べて、万葉集との関係とか、今言われている八丈語の特徴というものをだいたい指摘しています。このころにはだいたい様子が見えてきたかなという感じです。

で、次が1950年の国語研究所の、先ほど紹介のありました、『八丈島の言語調査』ですね。 ただこれは、単語とか音声、音韻というのが中心ですので、文法については、なくはないんで すけれども、ほとんどありません。ただデータの量は非常に豊富ですので、そういう点では参 考になると思います。

次の2つ、星印を付けてありますけれども、これは八丈語の評価という点で非常に大事な論文ですので、後でコメントします。次の1959年の飯豊毅一さんの「八丈島方言の語法」(『国立国語研究所論集1ことばの研究』)、これは1950年に出された国語研究所の報告書が、主に音声、音韻中心だとすると、こちらは、その調査をしたときの同じデータをもとにした、文法、語法についての論文なんですね。これは八丈語の基本的な語形とか、その意味とかを非常にた

くさん載せています。もうこの段階で八丈語の文法に関する限り、基本的なところはかなり分かってきている、そういう段階です。ですから、1949年の国語研究所の調査というのは、そういう点でも非常に大事だったということが言えると思います。

次にまた星印2つありますけれども、これも非常に大事な論文でして、前の2つと一緒に後でお話しします。

最後のページ,このあたりになってやっと私が八丈に来始めまして,1990年のこれは一番最初に雑誌に載せた論文(「八丈島三根方言 動詞の形態論 アスペクトをめぐって」『国文学解釈と鑑賞』)です。このあといろいろあるんですけれども、これはいちばん最初なので、これだけ挙げておきました。奥山熊雄さん、昨日ホームに行ってお会いしてきましたけれども、お元気でした。ちょうど夕飯の直前で食堂にいらっしゃって、前よりも何だかお元気そうで安心しました。

これのあとは 2000 年の工藤真由美先生の論文 (「八丈方言のアスペクト・テンス・ムード」 『阪大日本語研究』12) とかですね。

で、熊雄さんから聞いた話をいろいろと整理して出したのが2001年の私の本(『八丈方言動詞の基礎研究』)で、この本は自力で立てるぐらいの厚さにやっとなりました。値段が高いので、お買いになる必要はまったくありません。

最後に、八丈語の評価ということですけれども、非常に大事だということが、今までどんな形で言われてきたか。まず 1955 年の金田一春彦さん (「日本語」『世界言語概説』下巻)、もう亡くなられたかたですけれども、「八丈島の方言は、語法に著しい特色を有し、特色の幾つかは、全国の他のすべての方言に対して対立する」、ということをおっしゃっています。

その3年後の平山輝男さん(「青ヶ島方言の所属」『国学院雑誌』)。この方は音のほうが中心のかたですが、八丈語を、東部、西部、九州とならぶ、4 本柱の1 区画として位置付けた。現地調査を行った研究者による区画であることに大きな意味があります。

で、この10年後ですね、服部四郎さん(「八丈島方言について」『ことばの宇宙』11)。このかたが非常に興味深いことを言っていらっしゃいます。東歌とか防人歌のことをさす東国方言、万葉集に出てくるものですね。東国方言が非日本祖語的な特徴を保存しているという可能性です。非日本祖語的な特徴ということは、日本語の古いものと別の系統です。このあたりを私は、もしかしたら縄文系では、というふうに言っているんですが、まあ、それはちょっと言い過ぎかもしれませんけれども。そういう可能性に以前から注目していて、「残存的特徴を含む非日本祖語的特徴を、少なくとも現代の東日本の諸方言に見出すことが、長い間私の関心事の1つであった」といいます。その土台にあるのは、「東歌・防人歌の東国方言と日本祖語との分岐の年代は、現在の近畿方言と琉球方言の分岐年代よりも古い、という仮説」です。まあ、一般に琉球方言は一番古いといわれているんですけれども、それよりも前に分かれたんじゃないか、という仮説なんですね。

服部さんはこの年に八丈島にいらっしゃって、「予想通り「八丈島方言は東歌東国方言の系統をひく非日本祖語的方言が現在の(日本祖語系の)本州東部方言の同化的影響を著しく受けつつ成立したもので、まだいくたの非日本語的特徴を保存している」という仮説を支持すると見做し得る資料が得られた」と書いています。形容詞の「け」とか、動詞の「お」とかですね、これは非常に古いんだということを言っているわけです。この「非日本祖語的特徴」、非常に興味深い表現だと思います。

その後 1971 年になって、上村幸雄先生(「なぜ方言を研究するか」『教育国語』26)、私もお世話になっている先生なんですが、八丈語の重要性を強調しています。「八丈島の方言は、奈良時代の奈良の日本語よりもさらにふるいかもしれない要素をもちつづけてきた可能性があって、方言学的にみてたいへんに貴重な方言だといえるのである」と。この上村先生は、この時期にも国語研究所の調査があったんですね、前のよりは規模が小さいんですが。で、この調査を元にして、会話を文字にしたものを論文に発表していらっしゃいます。このときの国語研究所の調査に刺激されて、のちに方言集を出された大賀郷の浅沼良次先生が、あちこちの人の録音をたくさん取りました。それを私が全部いただいているんですけれども、非常に貴重な記録になっています。そういうものの分析が進めば、今の皆さん方の八丈語と、何十年か前のとの比較ができるわけですね。ですから、これからどんどんいろいろなことがもっと分かってくると思います。

ということで、八丈語というのが、中の人から見るとなかなか、何がそんなに大事なんだみたいな、あまりにも普通すぎて、見えてないというのがあるのかもしれないんですけれども、我々のようなよそから来たものにとっては、たいへん魅力的で興味深い、で、重要なものである、それが八丈語であるということが言えます。これからも、私なんかにできることというのは大してないんですけれども、できる限り、精いっぱい、あんまり言っちゃうとだめなんですけどね、頑張りたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いします。(拍手)

(木部) どうもありがとうございました。では、2番目のお話。今回一番遠くから参加しています、フランス国立科学研究所のトマ・ペラール先生です。よろしくお願いします。(拍手)

(ペラール) はい、皆さんこんにちは。今回の調査に協力していただいて、また、今日はお忙しい中、ここに来てくださって本当にありがとうございます。僕は、金田先生から先ほど話があったように、八丈島だけではなく、いろいろな方言、日本語の古い特徴、八丈島の言葉がどれぐらい古いのかとか、そういう問題に興味があって、言葉の歴史を専門として研究しています。日本語がいつごろ日本列島に入ってきて、どういうふうに列島全体、本土、八丈、あと琉球列島に広まっていったかが僕の関心の、興味のあるところです。

今までは主に、琉球列島の言葉の研究をやってきました。なぜかというと、先ほど金田先生がおっしゃったように、琉球の言葉には大変古い特徴が残されているからです。八丈島の言葉にもそういう古い特徴があるというのが以前から知られていて、それで、八丈島の方言にも大変興味があって、今回まいりました。

僕は、先生の資料にあったような万葉集の東歌とか防人歌の研究も少しやっています。そのときに八丈島の言葉にも同じようなものが残っていることを知りました。調査をしていてよく聞かれることは、――琉球でも、また今回八丈島でも、時々聞かれたんですけれども――何でここの言葉はこんなに違うのか。明らかに共通語と違いますよね。単語の面でも発音の面でも文法の面でも、いろいろ違うんですけれども、なぜ、そんなに違うのかという問題があって。で、まあ、やっぱり島というのが大きいですね。昔は飛行機もなかったし、船も遅くて頻繁に人が来ることもなかったので、島で、何か言葉が新しい言葉がはやると、それが島の外に広がることがありません。あとは人口も少ないので、だいたいみんな身内で、知り合いなので、新しい言葉が使われ始めると、それが全員に広がっていくんです。

逆に本土で起こった変化は、島にはなかなか届かないですね。あまり交流がないので。本土の人との交流も少なく、そういう新しいものがなかなか入ってこない時代がずっと、まあ、現代今まで続いてきたと思います。

島の言葉ももちろん、昔から少しずつ変わってきています。それと同時に本土でもいろいろ変化が起こっていますが、交流がないので、それぞれ別の変化が起こったりして、だんだん分岐して姿が変わってきます。そういうことがあって、八丈島、琉球もそうですが、非常に本土の言葉とは異なる状態になってきたかと思います。

今回の調査で、いくつか面白いことに気が付きました。先ほど言ったように、ぼくはずっと 琉球の言葉の研究をやってきましたが、八丈のことばには琉球の言葉と似ているところがたく さんあります。まずは、やはり島という環境が、同じ「黒潮文化圏」といわれて、環境が非常 に似ているんですけれども、言葉も共通点がいくつかあって、それが非常に面白かったんです。

じゃあ,なぜ八丈島の言葉と琉球の言葉に共通点があるのか,何で似ているのかというのを 考えると,理由は場合によって,3つの説明が考えられると思います。

まず、1 つ目は、後で実際の例をいくつか見ていきますが、偶然、ただの偶然、たまたま似ているだけ、そういう例も、少しはあります。2番目は、借用。どっちかがもう片方の言葉を借りたというような場合。それはしかし、八丈島と琉球の島の間には交流があんまりなかったんじゃないかなと思いますので、その可能性は低いかと思います。3つ目は、それが古い形だという説明です。本土ではなくなったが、八丈と琉球には残っているということです。

まず、ただの偶然の類似を紹介していきます。今回の調査では「庭」のことを八丈島のことばで「にゃー」と言うことがわかりました。この「にゃー」という語形は、琉球でもあちこちの島に見られます。でもよく考えてみたら、「にわ」から「にゃー」に変わるのはそんなに難しいことじゃなくて、わりと自然な変化だと思います。言語の変化には、変わりやすいもの、自然な変化というものがあって、あちこちで同じ変化が起こったりします。この場合も「にわ」が「にゃー」になるのは、非常に自然な変化ですから、ただの偶然だと思います。

同じように、「皮」のこと、「縄」のことを「かわ」とか「なわ」じゃなくて「こう」とか「のう」とか言います。母音[a]のところが[o]になっている単語がいくつかあったんですけれども、例えば、奄美の言葉にも同じような語形があります。「皮」を「こう」とか、「縄」を「のう」とかいうのが。 [awa] という連続が [oo] になることはごく自然な変化で、たまたま、奄美でも八丈でも同じ変化が起こっただけだと考えています。

次は、「きょう(今日)」のことを、集落によって違うそうですが、「きぃ」というところもあるそうです。僕が長い間、研究してきた宮古の大神島(おおがみじま)という方言でも、まったく同じく、「今日」のことを「きぃ」と言います。発音がまったく同じなんですけれども、両方ともやはり「きょう」という発音が元で、たまたま同じ発音に変わっただけかと思います。

偶然の例の最後に、「涙」のことをこちらでは「めなだ」と言うそうですが、沖縄、奄美でも「涙」のことを「なだ」、または「みぃなだ」といいます。「めのなみだ(目の涙)」というのが語源だと思うんですけれども、「なみだ」から「なだ」になるのは母音が落ちて、涙が「なんだ」になって、それが「なだ」に短くなっただけかと思います。これもそんなに起こりにくい変化ではないので、たまたま2つの遠く離れている地域で変化が起こっただけだと思います。

次に,本土ではなくなったが,八丈と琉球には残っている例,現代の共通語などにはないが, 非常に古い文献,さっきの話の万葉集とか古事記とか,そういう古い文献には出ているものの 例をいくつか紹介していきます。

まずは、「地面」のことをこちらでは「みじゃ」と言います。琉球でも似たような言葉があって、「にちゃ」とか「んちゃ」とか「んた」とか言います。島によって発音が異なるんですけれども、もともと同じ言葉だと思います。これはおそらく、文献にもたぶん出ていません。奈良時代の文献にも出ていないし、現代の本土のどの方言にも、どうもなさそうです。じゃあ、なぜ八丈島と琉球にあるのか、考えてみましょう。

この場合, たまたま「にちゃ」という言葉が生まれて, たまたまそれが土を指す言葉になったというのは, なかなか考えにくいですね。やっぱり, もともと非常に古い言葉だったのですが, 本土からなくなり, 八丈と琉球には残ったというふうに考えられるかと思います。

それから、本土の言葉で「この・その・あの」というのがありますが、こちらでは、「この・その・うぬ」ですよね。「う」で始まる単語が出てきて、彼のことも「うれ」と言ったりしますよね。これはもちろん、本土にはないんですけれども、琉球にはあります。意味が若干ずれていて、遠くにあるものを指すんじゃなくて、だいたい、相手の方を指すんですけれども、「うり」とか「うぬ」とかと言います。古代語にも現代語にもないですが、非常に古いと思います。

それから、「頭」のことを八丈島では「つぶり」と言いますが、琉球でもあちこちで、「つぶり」といいます。現代語の「あたま」というのは、実は新しい言葉で、もっと古い平安時代の文献には、頭のことを「つむり」という人がいるというふうに書いてあります。共通語でも、普段は「あたま」と言うんですけれども、例えば「おつむ」と言ったりして、それは同じ言葉で、やっぱり頭を指す非常に古い言葉でしょう。

さらに、自分のことを「あれ」とか「あい」、「あが」と言いますよね、八丈島では。琉球でも自分のことを「ああ」、「あぬ」とか「あが」と言います。これは現代語では使いませんけれども、古代語では自分のことを「あれ」とか「あ」と言っていました。やはりこれも、現代語、本土の方言ではなくなった言い方ですが、八丈と琉球には残っています。

さらにいくつか例を取り上げてみますと、そうですね、物を数えるときは、現代語では、例えば「ひとつ」で、人を数えるときは「ひとり」、どちらの場合でも、「ひとつ」、「ひとり」で、最初のところが同じ「ひと」ですが、八丈島では、1人は「とり」、なのに1つの場合は「とつ」じゃなくて、「てつ」ですよね。母音が違っているのが非常に興味深いです。琉球でも、いろいろ変化しているんですけれども、もともとは、なぜか「つ」の前だけば「ひと」じゃなくて「ひて」に当たる発音だったというふうに考えられています。実は、平安時代の文献にも、そうですね、地方だったかな、俗に「ひとつ」じゃなくて「ひてつ」という人もいるというふうに書いてあります。これもやはり、もともとそういう、ちょっと変わった言い方、なぜか「つ」の前だけでは「ひと」じゃなくて「ひて」だった、というのが非常に古い特徴だというふうに考えています。

そのほかに、「ミミズ」のことを「メメズ」または「メメズメ」と言いますが、琉球でも「メ メズ」。「ミミ」じゃなくて。母音が [e] になっています。これは、八丈島や琉球で「ミミズ」 が「メメズ」に変わったのではなくて、もともと「メメズ」だったのが、本土で「ミミズ」に なったというのが適切かと思います。要するに、八丈島の言葉がなまったのではなくて、共通 語の方がなまっています。

同じく、「魚」のことを「よ」と言いますが、琉球でもだいたい「ゆー」とか「いゆ」とか、 そういう発音です。これも、日本語の「うお」、「飛び魚」「太刀魚」の「うお」に対応する言葉 ですが、現代では「うお」ですが、もともとは「いよ」、古代語では「いを」という発音です。 それが、八丈島ではちょっと短くなって「よ」になったんです。これも本土の方が大きく変わって「いを」から「うお」になった。これも、本土の方がなまっています。

八丈島の言葉と琉球の言葉に共通する部分には、奈良時代よりも古い日本語の特徴を保っているところがたくさんあります。ただ、八丈島の言葉の全部が古いというわけではなく、やはり、八丈の言葉もいろいろ変化していて、おそらく、江戸時代からいろいろな言葉が入ってきたかと思います。例えば、「だれ」という言い方、「誰ですか」の「誰」ですけれども、この「誰」というのは、古代語では「たれ」と濁ってなかったんですけれども、濁るようになったのが平安時代以降で、それは新しい特徴です。または、「どこ」という、場所を聞く言葉もわりと新しい言い方です。相手のことを「お前」とか「おみ」という言葉も、それは新しい言い方なのではないかと思います。そういうふうに考えてみますと、非常に古い特徴があると同時に、古代語にはなく、後の時代に発達してきた特徴も重なっているというのが非常に面白くて……。

僕が考えている仮説としては、もともと古い、非常に古い言葉、まさに金田先生が話したような、奈良時代以前の古い言葉が八丈島に入ってきて、それで非常に古い特徴が今でも残っているんですけれども、その後、江戸時代になって、たくさんの人が流されてきて、その人たちが自分の言葉を持ってきた。その中にやはり身分の高い人もいたので、八丈島の人は、身分の高い人の言葉をまねて、自分たちの言葉に江戸の人の言葉を取り入れた。さらに、現代では本土の共通語も入ってきて、それがさらに上に重なって、今の八丈島の言葉ができたのではないかというふうに思っております。以上、ありがとうございました。(拍手)

(木部) どうもありがとうございました。はい、では3人目です。我々のグループでは若きホープ、京都大学大学院博士後期課程の平子さん、お願いします。

(平子) あんまりはじっこでしゃべっても何なので、ここで話させていただきます。京都から来ました平子といいます。皆さんこんにちは。どうぞよろしくお願いします。(拍手)

じゃあ、ちょっと座らせていただきます。僕は、もともと、大学院に進んだときには京都の 方言をうつしたと思われる、平安時代とか奈良時代の文献資料を使って、古い日本語の姿を研究していました。その後、研究を進めていく中で、いろいろな方言の中に古代の日本語と共通しているところが少し見られる。特に前々から、八丈の言葉には興味を持っていました。金田先生の話にもありましたように、八丈とか琉球には、万葉集との共通点、万葉集の東歌との共通点とか、トマさんからありましたけれども、平安時代の文献に載っていて、本土、いわゆる共通語では使われてない言葉とかがいろいろあるわけです。

僕は文献をやっていたときから、アクセントというものに興味を持ってやっていました。八 丈にはいろいろな報告があるんですけれども、アクセントで単語を区別することがない、例え ば、「お箸」の「はし」と、川にかかっている「はし」と、「端っこ」の「はし」とをアクセン トによってあんまり区別をしないというふうにいわれています。

けれども、先ほどカルタを読んでいるのを聞いていたりですとか、今回の調査で聞いてみたりして、集落によってイントネーションというんですか、何かこう、抑揚というのはだいぶん違うんだなというふうに感じました。で、どういうふうに違うのかというのは、これからの僕たちにとっての課題なのだと思います。

その話は今回はできませんが、古代日本語と八丈語ということでお題をいただいたので、それでお話をさせていただきたいと思います。今回のカルタの中に、もう何個かそういう単語が出てきました。例えば、今日いただいたA3の紙の「え」のところに、「エビズルは 昔は よく食べたもんだよ」という共通語があります。その最初に出てきます「えべず」という形です。おそらく「エビズル」とかそういう形から変化をしてきたんだと思います。古代の辞書とか、そういう文献を見てみますと、「エビ」という形で「ブドウ」を指すというふうに書かれています。

この「エビズル」とか、植物に対して「エビ」のような単語を使うというのは、それなりに古い言葉が残っているんだろうなというふうに思いました。例えば、三根では「えべずは むかしは よく かもうもんだら」というふうに、「食べる」というのを「かむ」と言いますね。本土の方で「かむ」というのを使って「食べる」ということを意味することはありません。これも古代の、例えば『源氏物語』とか、そういう文献には、「かむ」というので食べるというのを意味します。これも、八丈語に残っている古代の言葉の一つだと思います。

その次に、お茶碗のことを「ごき(御器)」ということがあると思います。現代の言葉に「ごき」、共通語に「ごき」そのものが残っているわけではありませんけれども、このカルタにあります「ごきぶり」の「ごき」というのは、お茶碗のことを指しています。「ごきぶり」の語源は「ごきかぶり」、「お茶碗をかぶる」に当たります。昔、百科事典を書いた人が、「ごきかぶり」と書くべきところを、「ごきぶり」と間違えて書いてしまって、それが今、共通語で広まって「ごきぶり」と呼ばれているわけです。

今の八丈の方言では、「ごきぶり」のことを「かきじゃるめ」とか「かきじゃりめ」というふうに言うんですよね。「ごき」という言葉は、ものすごく古い文献ですと出てきますけれども、今では「ごきぶり」という単語の中に、痕跡的に残っているに過ぎません。例えば「ごき」は、平安時代の文献に、『讃岐典侍日記』という日記の中に「ごきなくて」というふうにあります。

平安時代よりもう少し古い文献と八丈の言葉で共通するなと思って報告を聞いてみてみますと、まあ、ちょっと汚い話になるかもしれませんけど、「にっとうまる」という言い方、「まる」とかいう言い方があります。これはあの、大便とか便をすることですよね。これは、実は『古事記』の中に「くそまりちらしき」というふうな形、「まり」という形で出てきます。もしかしたら、琉球とか、そっちの方にも出てきたりするのかもしれません。ものすごく古い言葉ですよね。ちょっととりとめのない話になってきましたけれども……。

また、カルタの、「朝早く畑に行ったんだけど」という中で「とんめて」とか「とんめてい」とかいう単語が出てきました。これは、皆さんよくご存じの『枕草子』の中に出てきます。「春はあけぼの」という中で、その同じ段のところで「冬はつとめて」。「冬は早朝がいい」というふうな言い方で出てきます。この「つとめて」という単語が変化したのがカルタの中に出てくる「とんめて」とか「とんめてい」という形になります。琉球の方にもあるんですかね。ちょっと僕は琉球の方は分かりませんので、トマさんに……。

(ペラール) ありまーす。

(平子) はい,あるそうです。こんなふうに,古代の文献,八丈,そして琉球と,共通している単語というのがまあまあ見られます。

ほかにも、「めならべ」という言葉、一般に女の人のことですかね、女の子ですかね、若い人ですかね、僕が調査したときには、25歳までぐらいしか言わないというふうに、言われたんですけれども、これも『源氏物語』の中で、「めのわらわべ」とか、「めのわらべ」というふうな形で出てきます。琉球の方に同じような単語があります。「めら」とかいう単語、「めえらび」というような言葉で出てきます。非常に古い言葉の1つだと思います。

僕が1つ非常に気になったのは、「しょけ」という単語です。「何か知っているか」というときに、「しょけか」というふうに聞きますよね。これは、古代の「しろし」とか「しるし」という単語にさかのぼるんだと思います。「し」に「ら、り、る、れ、ろ」が続いたときに、「しょ」とか「しゃ」というように音が変化します。例えば、「シラミ」のことを「しゃんめ」と言いますよね。「し」の後に「ら」が続いて「しゃ」になる。他に、「白髪」のことを「しゃが」と言います。これも「し」の後に「ら」が続いていて、それが「しゃ」になった。「しろし」の場合は「しょ」になる。これは同じ音の変化の仕方をしていて、もともと「しろし」だったんだなということが分かる単語です。「しろし」は万葉集にも出てくる単語です。

今日、僕の前にお話をしてくださった金田先生とトマさんと一緒に調査したときに、この「しょけか」という形が出てきました。ちょっと複雑な話になるかもしれませんけれども、「しょけ」というのは形容詞で、動詞ではないんです。「赤い」とかいう語と同じ系列になります。標準語では「知っている」というのは動詞ですが、八丈では形容詞です。それなのに、「うにや このよのなめよ しょけか (お前はこの魚の名前を知ってるか)」の「なめよ (名前を)」のように、その前に標準語の「を」に当たる形が出てきます。「赤い」「赤きゃ」とかの前に「よ」というのはあんまり来ないですよね。「このリンゴよ赤きゃ」とかいうふうな言い方をしないと思うんです。ですから、「しょけか」という単語は八丈特有の使い方をしているのかなというふうに思いました。

あともう1つ、古代語の特徴をしっかり残しているんだなと思ったのは、「人がいる」ということを「人がある」と言うことです。「孫が去年から国にあるじゃ」という文が調査の中に出てきて、「孫がある」という言い方をします。共通語では、生きているものに対しては「いる」ではなくて「ある」を使います。生きているものに対して「いる」を使うようになるのは、非常に新しく、文献で調べる限りでは18世紀、19世紀ぐらいのことです。八丈はそれ以前の形を残して使っているわけです。

こんなふうに、古い言葉が残っていて、僕ら、古代の文献を使って日本語の歴史を勉強している人間にとって、こういう経験はとても大事です。例えば、僕がこの調査に参加せずに、今回調査されたものを読んで、「ああ、こういう言葉が八丈にもあるのか」と単に感じているだけではだめです。文献をやっている人間も、生で方言に接しますと、本当に「ああ、生きた言葉として昔もたぶん使われていたんだろうな」というのが非常に実感できます。

例えば、先ほどの金田先生の話にあった、形容詞の連体形の形ですとかも、報告書では知っていたけれども、今回ここに来て初めて、本当に話しているのに接して、文献で書かれていた言葉も本当にこうやって使われていたんだなと、ひしひしと感じることができました。

単に、古い言葉が残っていて、珍しいとかそういうことで終わらせるのは本当にもったいないことだと思います。それを記録して、研究をして、例えば今、トマさんが話されたみたいに、 人丈語というのがどういうふうな成立のしかたをしてきたのか、それがひいては日本語、日本 全体の言葉の成り立ちとか関係の研究につながっていくと思いますし、できれば、いろいろな 方にそういうことを少しでもいいので、興味を持っていただきたいというふうな考えでいます。 僕は八丈の言葉を今回初めて聞いて、非常に興味深く聞きました。いろいろなところに方言 調査に行っていますけれども、またここにもやってきたいなというふうに思います。ちょっと 早いですけれども、これで終わりたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

- (木部) ありがとうございました。あと少し時間が少しありますので、何かご質問があれば、この機会ですから、ぜひお聞きください。はい、じゃあ、そこの方。
- (Q1) 八丈島に来てからですね、地名の読み方なんですけれども、普通は、今こっちでは 大賀郷(おおかごう)というところを、本土の人の読み方だったら「おおがごう」って言いま す。また、樫立のことを「かしだて」って、つい読んでしまいます。八丈島は内地で濁音で言 うような地名が濁音になってない読み方をするところが多いんですけれども、それは何か理由 があるんでしょうか。
- (木部) 私も金田先生に叱られました。「かしだて」と言ったら,違うと。濁音と正音は,非常に難しくて,地域によっても違います。例えば,八丈の地名に護神(ごしん)というのがありますね。「ごじん」じゃなくて「ごしん」。私は九州の出身ですが,「神社」を「じんしゃ」という地域が九州には広く広がっています。「じんじゃ」と濁らないんですね。それから,食べ物のオクラ。八丈のオクラは非常に立派ですね。八丈語でオクラは何て言うんでしたっけ。

(会場から) ネリ。

- (木部) ネリ。あの、ネリのことを九州ではオグラと言うんです、鹿児島では。あっ、これは濁りますから逆ですね。濁ると澄むは、なかなか難しいところがあるんです。八丈は、澄むのが多い。まあ、それがなぜかはちょっと今後の課題にさせていただきたいと思います。じゃあ、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。
- (Q2) ここ最近なんですが、韓国の時代劇とかに興味がありまして、古代朝鮮時代に七支刀というのがあって、おそらく奈良、平安の時代かと思うんですが、一時期、日本と仲の良い時代があったようです。そのとき交流があったとすると、まあ、韓国というか日本から見たら外国の言葉の影響もあったかと思うんですけれども。自分のおふくろが樫立出身で、自分は今、大賀郷で三根出身になるんですけれども、その樫立の言葉を聞いたときに、韓国のその、意思表示というか、感嘆符というか、それに似ていると感じました。島ことばで言うと「あいこいがの まったく」といったようなときの表現が大変似ているように感じるんですが。そういったほかの国からの影響とか、その、言葉とか言語とか、そういうものは何かあるんでしょうか。それとも、その、今日のお話にあったような、八丈語のルーツというか、そういったものがあって、それによって今の八丈のことばができているととらえられるでしょうか。その点、いかがでしょうか。
 - (金田) えー、非常に難しい問題でして、実際にはそういうふうな、日本の古い方言と、ほ

かの近いところの言語との関係がどうだったかというのは、まさにこれから研究されていくんだと思います。今までは、八丈語がどういうものだったかというのも、よく分からなかったわけですね。何十年か前までは所属不明の方言だというふうにも言われていたわけです。当時は研究者がそういうふうに、もうお手上げの状態だったわけです。

ですから、日本語の中のいろいろな言語、マイナー言語がだんだん分かってくれば、かつ近隣の、例えば韓国だったら韓国のいろいろ方言ですね、特に南の方。そういうところの方言の実態が分かってくれば、比べることができるようになる。同じ程度に詳しく分かっていれば、同じ程度の比較ができる。日本の中だけでなくて、韓国など近いところと比較するというのはこれからの大きな課題だと思います。

(木部) はい, ありがとうございます。もうお一方ぐらい時間がありそうですが, いかがでしょう。あっ, はい。

(Q3) すみません。あの、方言と言いますけれども、要するに男女とありますよね。住む場所も違っている男と女が結婚して、その中でまあ、お互いにしゃべることばも違うことがありますよね。そうすると、方言がどんどん途絶えていくということが考えられるんですが。要するに混じり、混じり合ってしまうわけですね。その辺は、これから先の研究では、どういうふうに考えられるんでしょう。

(金田) 混ざるのはしょうがないですよね。三根の人と樫立の人が結婚して、話をするなというわけにいかないですから。それはそういうふうに、混ざったものとして、客観的にとらえるしかないと思います。しょうがないです。

(木部) 昔と違って、人の交流が非常に盛んになりましたから。また、遠くの人とも交流したり、お嫁さんが遠くから来たり、こちらからもお嫁に行ったり。時代の流れでこれは仕方のないことですね。ですから、方言も今までの話であったように、古いまま化石的にずっと変わらないわけではなくて、時代の流れの中で変わりながら、外からの影響も受けながら、今の方言がある、今の八丈語があるわけです。琉球の言葉もそうですし、どこも同じです。だから、

方言が変わるというの は当たり前のことだとの でも、そのでも、そのでも、そっても とがある。そことがある。 ととだとれる。 ととなる。 ととなる。 といいます。 とお考えいたないは、 だといいます。 とうございました。 (拍手)



執筆者紹介

松浦 年男 (まつうら としお, 北星学園大学)

金田 章宏(かねだ あきひろ,千葉大学)

木部 暢子(きべ のぶこ,国立国語研究所)

平子 達也(ひらこ たつや,京都大学大学院生)

Thomas Pellard (トマ・ペラール, フランス国立科学研究所)

Wayne Lawrence (ウエイン・ローレンス,オークランド大学)

茂手木 清(もてぎ きよし,八丈町教育委員会)

林 薫(はやし かおる,八丈町教育委員会)

国立国語研究所共同研究 消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 八丈方言調査報告書

2013年10月30日発行

編集 木部暢子 (国立国語研究所時空間変異研究系)

発行 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

Tel.042-540-4538 (木部研究室)

http://www.ninjal.ac.jp/

©国立国語研究所

